

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2016 経営学部 業  
計 画  
経 営 学 科

經 營 学 部

(学部略号：I)

Faculty of Business Administration

經營学科

(学科略号：D)

Department of Business Administration

## **経営学部 教育目標**

社会や組織で活躍できる経営に関する知的専門職業人としての能力を身につけるとともに、幅広い教養と実践力をあわせ持ち、物事を科学的に考え行動できる人材を養成する。

## **経営学部 経営学科 教育目標**

経営学部経営学科は、経営に関する知識や理論を身につけるとともに、幅広い経営視野を備え、主体的に企業経営の一翼を担うことのできる人材を養成することを目的とする。



# 授 業 計 画



科目名	担当者	ページ
<b>ア</b>		
I C T 概論	北 村 浩	11
朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	荻 田 喜代一	297
<b>イ</b>		
インターンシップ基礎	安 久 典 宏	423
<b>エ</b>		
英語 I a	鈴 木 大 介	181
英語 I a	グラント パーミンハム	182
英語 I a	ジョン カール	183
英語 I a	スコット ライリー	184
英語 I a	ブルース ライリー	186
英語 I a	山 本 尚 子	187
英語 I b	スミザース 理恵	188
英語 I b	ジェーン パーメンター	189
英語 I b	ジェフリー ベル	190
英語 I b	ダニエル マリンズ	191
英語 I b	リチャード ダイアース	194
英語 I b	平 尾 秀 実	195
英語 I d	スミザース 理恵	196
英語 I d	ジェーン パーメンター	197
英語 I d	ジェフリー ベル	198
英語 I d	ダニエル マリンズ	199
英語 I d	リチャード ダイアース	202
英語 I d	平 尾 秀 実	203
英語 II a	湊 由 妃 子	204
英語 II a	鈴 木 三 千 代	205
英語 II a	山 本 尚 子	207
英語 II a	大 江 麻 里 子	208
英語 II a	ジョセフ シウンシ	209
英語 II b	鈴 木 大 介	210
英語 II b	天 野 貴 史	211
英語 II b	表 谷 純 子	212
英語 II b	岩 橋 一 樹	214
英語 II b	田 村 康 子	216
英語 II c	湊 由 妃 子	217
英語 II c	鈴 木 三 千 代	218
英語 II c	山 本 尚 子	220
英語 II c	大 江 麻 里 子	221
英語 II c	ジョセフ シウンシ	222
英語 II d	鈴 木 大 介	223
英語 II d	天 野 貴 史	224
英語 II d	表 谷 純 子	225
英語 II d	岩 橋 一 樹	227
英語 II d	田 村 康 子	229
英語 I c	鈴 木 大 介	230
英語 I c	グラント パーミンハム	231
英語 I c	ジョン カール	232
英語 I c	スコット ライリー	233
英語 I c	ブルース ライリー	235

科目名	担当者	ページ
英語 I c	山 本 尚 子	236
英語コミュニケーション I	瀧 川 宏 樹	237
英語コミュニケーション II	瀧 川 宏 樹	238
N P O 論	相 川 康 子	13
演習 I	佐 藤 正 志	15
演習 I	槇 谷 正 人	16
演習 I	庭 本 佳 子	17
演習 I	杉 本 篤 信	18
演習 I	高 尾 裕 二	19
演習 I	佐 井 英 子	20
演習 I	岩 坪 加 紋	21
演習 I	三 木 僚 祐	22
演習 II	庭 本 佳 子	23
演習 II	佐 井 英 子	24
演習 II	佐 藤 正 志	25
演習 II	槇 谷 正 人	26
演習 II	杉 本 篤 信	27
演習 II	福 田 市 朗	28
演習 II	高 尾 裕 二	29
演習 II	岩 坪 加 紋	30
演習 II	三 木 僚 祐	31
エンプロイメントデザイン I	水 野 武	425
エンプロイメントデザイン II	水 野 武	427
<b>オ</b>		
応用簿記	竹 内 淳	32
<b>カ</b>		
海外語学研修	齋 藤 安以子	239
海外ビジネスインターンシップ	佐 井 英 子	463
会計学入門	佐 井 英 子	33
会計情報論	佐 井 英 子	34
会計情報論 I	佐 井 英 子	35
会社法 I	高 田 尚 彦	36
会社法 II	高 田 尚 彦	37
科学技術教養 I ~ IV ( A 1 )	柳 沢 学	298
科学技術教養 I ~ IV ( A 2 )	柳 沢 学	299
科学技術教養 I ~ IV ( C 1 )	頭 井 洋	300
科学技術教養 I ~ IV ( C 2 )	頭 井 洋	301
科学技術教養 I ~ IV ( E 1 )	鹿 間 信 介	302
科学技術教養 I ~ IV ( E 2 )	鹿 間 信 介	303
科学技術教養 I ~ IV ( M 1 )	諏 訪 晴 彦	305
科学技術教養 I ~ IV ( M 2 )	岸 本 直 子	306
科学技術教養 I ~ IV ( R 1 )	森 山 正 和	308
科学技術教養 I ~ IV ( R 2 )	森 山 正 和	310
科学技術教養 I ~ IV ( T 1 )	長 島 健	312
科学技術教養 I ~ IV ( T 2 )	島 田 伸 一	314
科学技術教養 I ~ IV ( V 1 )	西 村 仁	315
科学技術教養 I ~ IV ( V 2 )	青 笹 治	317
環境と経営	井 上 尚 之	38
環境マネジメントシステム	井 上 尚 之	39
環境マネジメントシステム I	井 上 尚 之	41

科目名	担当者	ページ
環境マネジメントシステムⅡ	井上尚之	42
監査論	仲秀樹	43
管理会計論Ⅰ	三木僚祐	44
管理会計論Ⅱ	三木僚祐	45

## キ

企業金融論	岩坪加紋	46
企業分析（経営戦略ケース分析）	榎谷正人	47
企業分析（経営組織ケース分析）	福田市朗	48
企業分析（コーポレートガバナンス）	大田住吉	50
企業分析（財務戦略ケース分析）	高尾裕二	52
企業簿記	三木僚祐	54
企業簿記	三木博人	55
企業論	大田住吉	56
基礎演習	庭本佳子	57
基礎演習	杉本篤信	58
基礎演習	岩坪加紋	59
基礎演習	榎谷正人	60
基礎演習	黒澤敏朗	61
基礎演習	樋口友紀	62
基礎演習	北村浩	63
基礎演習	大田住吉	64
基礎演習	畠山俊宏	65
基礎演習	西之坊穂	66
基礎演習	畠山俊宏	67
基礎演習	西之坊穂	68
北河内を知る	尾山廣	319
キャリアデザイン	安久典宏	429
キャリアプラン	水野武	431
教育課程論	大野順子	466
教育経営論	朝日素明	468
教育原理	小山裕樹	470
教育実習Ⅰ	吉田佐治子	458
教育実習Ⅱ	朝日素明	472
教育実習Ⅲ	朝日素明	473
教育社会学	大野順子	474
教育心理学	吉田佐治子	476
教育相談	吉田佐治子	477
教育方法論	林茂樹	478
教職実践演習（中・高）	吉田佐治子	480
教師論	朝日素明	482
近代文学から学ぶ	橋本正俊	320
金融商品取引法	牛丸與志夫	69
金融論	岩坪加紋	71

## ク

くらしと経済	岩坪加紋	321
グローバル世界の倫理	濱良祐	322

## ケ

経営学	畠山俊宏	72
経営学Ⅰ	庭本佳子	74

科目名	担当者	ページ
経営学Ⅱ	畠山俊宏	75
経営学特講Ⅴ	仲秀樹	76
経営管理論	西之坊穂	77
経営財務論Ⅰ	高尾裕二	79
経営財務論Ⅱ	高尾裕二	81
経営史	佐藤正志	83
経営史Ⅰ	佐藤正志	84
経営史Ⅱ	佐藤正志	85
経営戦略論	榎谷正人	86
経営組織論Ⅰ	榎谷正人	87
経営組織論Ⅱ	榎谷正人	89
経営統計学	杉本篤信	91
経営統計学	星山幸子	92
経営と人間行動	福田市朗	93
経営とマーケティング	鶴坂貴恵	95
経営分析論	高尾裕二	97
経営分析論Ⅰ	高尾裕二	99
経営倫理Ⅰ	大田住吉	101
経営倫理Ⅱ	大田住吉	103
経営労務論Ⅰ	庭本佳子	105
経済学入門	岩坪加紋	106
芸術の理解	中川馨	324
原価計算論Ⅰ	三木僚祐	107
原価計算論Ⅱ	三木僚祐	108
健康科学	藤林真美	325
現代社会論	有馬善一	109
現代日本経営史	佐藤正志	111

## コ

国際会計論	浅野信博	112
国際会計論Ⅰ	浅野信博	113
古典文学から学ぶ	橋本正俊	327
コミュニケーション能力開発	津村忠	433

## サ

財務会計論Ⅰ	佐井英子	114
財務会計論Ⅱ	佐井英子	115
財務諸表論入門	佐井英子	116

## シ

市場調査入門	牧野幸志	117
自然科学Ⅰ	松浦哲郎	328
自然科学Ⅱ	竹内健治	329
社会科・公民科教育法Ⅰ	大野順子	451
社会科・公民科教育法Ⅱ	大野順子	453
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井上正英	455
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井上正英	457
社会学Ⅰ	山本圭三	330
社会学Ⅱ	山本圭三	331
就職実践基礎	亀田峻宣	332
就職実践基礎	永見誠二	333
就職実践基礎	津村忠	334



科目名	担当者	ページ
就職実践基礎	亀田峻宣	335
生涯スポーツ実習	横山喬之	240
生涯スポーツ実習	近藤潤	241
商業科教育法	河合隆廣	459
情報と職業	北尾隆夫	118
職業指導Ⅰ	水野武	461
職業指導Ⅱ	水野武	462
職業能力開発	福田市朗	120
人的資源管理論Ⅰ	庭本佳子	121
人的資源管理論Ⅱ	庭本佳子	122
心理学Ⅰ	毛新華	336
心理学Ⅱ	毛新華	338

## ス

数学基礎Ⅰ	小泉耕蔵	242
数学基礎Ⅰ	早味俊夫	243
数学基礎Ⅰ	妻鳥淳彦	244
数学基礎Ⅰ	畑中美帆	245
数学基礎Ⅱ	小泉耕蔵	246
数学基礎Ⅱ	早味俊夫	247
数学基礎Ⅱ	妻鳥淳彦	248
数学基礎Ⅱ	畑中美帆	249
数的能力開発	亀田峻宣	434
数的能力開発	山岡亮太	435
数的能力開発	橋本朗子	436
数的能力開発	津村忠	437
スポーツ科学実習Ⅰ	近藤潤	250
スポーツ科学実習Ⅱ	近藤潤	251
住まいとデザイン	大高和香	340

## セ

政治学概論Ⅰ	森康一	341
政治学概論Ⅱ	森康一	342
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野英一	343
生徒指導論	朝日素明	484
税務会計論Ⅰ	中塚賢	123
税務会計論Ⅱ	中塚賢	124
生命科学入門	大塚正人	344
世界の歴史	村上司樹	346
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本正治	347
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本正治	348
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田裕子	349
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田裕子	350
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野英一	351
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野英一	352
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保貞也	353
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	久保貞也	354
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂貴恵	355
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鶴坂貴恵	357
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色美博	359
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	一色美博	360
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	田中賢太郎	361

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	田中賢太郎	362
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鳥居祐介	363
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鳥居祐介	364
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	天野貴史	365
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	天野貴史	366
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木紀哉	367
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	栢木紀哉	368
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	安久典宏	369
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	安久典宏	370
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井信輝	371
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石井信輝	372
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	内田昭彦	373
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	内田昭彦	374
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林真美	375
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	藤林真美	376
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	荻田喜代一	377
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	荻田喜代一	378
専門基礎演習	庭本佳子	125
専門基礎演習	杉本篤信	126
専門基礎演習	岩坪加紋	127
専門基礎演習	横谷正人	128
専門基礎演習	黒澤敏朗	129
専門基礎演習	樋口友紀	130
専門基礎演習	北村浩	131
専門基礎演習	大田住吉	132
専門基礎演習	畠山俊宏	133
専門基礎演習	西之坊穂	134
専門基礎演習	安久典宏	135
専門基礎演習	福田市朗	136
専門日本語FⅠ	中岡樹里	252
専門日本語FⅡ	中岡樹里	253
専門日本語R	中岡樹里	254

## ソ

ソーシャル・イノベーション実務総論	石井三恵	379
卒業研究	福田市朗	137
卒業研究	鶴坂貴恵	138
卒業研究	佐藤正志	139
卒業研究	杉本篤信	140
卒業研究	横谷正人	141
卒業研究	庭本佳子	142
卒業研究	高尾裕二	143
卒業研究	佐井英子	144
卒業研究	岩坪加紋	145
卒業研究	三木僚祐	146
卒業研究	安久典宏	147

## タ

ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	381
-------------------	------	-----

## チ

地域社会と経営	相川康子	148
---------	------	-----

科目名	担当者	ページ
地域と私	鶴坂 貴恵	383
地域連携教育活動 I	浅野 英一	385
地域連携教育活動 II	浅野 英一	386
チームビルディング	水野 武	387
地誌学	今野 泰三	388
地方自治論	田井 義人	150
地理学 I	笠原 俊則	390
地理学 II	笠原 俊則	391

## テ

哲学 I	安部 彰	393
哲学 II	濱 良祐	395

## ト

道徳教育の研究	小山 裕樹	485
特別活動の理論と方法	林 茂樹	487

## ニ

日常の謎を解く心理学	牧野 幸志	397
日本語会話 F I	高井 美穂	255
日本語会話 F II	高井 美穂	256
日本語会話 R	高井 美穂	257
日本国憲法	大仲 淳介	398
日本語上級会話 F I	高井 美穂	258
日本語上級会話 F II	高井 美穂	259
日本語上級作文 F I	中岡 樹里	260
日本語上級作文 F II	中岡 樹里	261
日本語上級読解 F I	古川 由理子	262
日本語上級読解 F II	古川 由理子	263
日本語総合 F I	古川 由理子	264
日本語総合 F II	古川 由理子	265
日本語総合 R	古川 由理子	266
日本語読解 F I	中岡 樹里	267
日本語読解 F II	中岡 樹里	268
日本語読解 R	中岡 樹里	269
日本語能力開発 I	上島 誠司	438
日本語能力開発 I	高嶋 藍	439
日本語能力開発 I	大石 真由香	440
日本語能力開発 II	澤野 加奈	441
日本語能力開発 II	高嶋 藍	442
日本語能力開発 II	大石 真由香	443
日本語表現作文 F I	中岡 樹里	270
日本語表現作文 F II	中岡 樹里	271
日本語表現作文 R	中岡 樹里	272
日本語表現法 I	上島 誠司	273
日本語表現法 I	高嶋 藍	274
日本語表現法 I	大石 真由香	275
日本語表現法 II	澤野 加奈	276
日本語表現法 II	高嶋 藍	277
日本語表現法 II	大石 真由香	278
日本語文法 F I	中岡 樹里	279
日本語文法 F II	中岡 樹里	280

科目名	担当者	ページ
日本語文法 R	中岡 樹里	281
日本事情 F I	門脇 薫	282
日本事情 F II	門脇 薫	283
日本事情 R I	門脇 薫	284
日本事情 R II	門脇 薫	285
日本の歴史	佐伯 智広	400

## ハ

犯罪被害者の支援と法的救済	小野 晃正	401
---------------	-------	-----

## ヒ

ビジネスイングリッシュ I	有本 好一郎	286
ビジネスイングリッシュ II	有本 好一郎	287
ビジネスインターンシップ I	安久 典宏	151
ビジネスインターンシップ II	安久 典宏	153
ビジネスゲーミング	福田 市朗	155
ビジネス情報処理 I	橋本 はる美	157
ビジネス情報処理 I	星山 幸子	158
ビジネス情報処理 II	橋本 はる美	159
ビジネス情報処理 II	星山 幸子	160
ビジネス中国語基礎 a	欒 玉璽	288
ビジネス中国語基礎 a	瀬戸 宏	289
ビジネス中国語基礎 b	曹 櫻	290
ビジネス中国語基礎 c	欒 玉璽	291
ビジネス中国語基礎 d	曹 櫻	292
ビジネスプラン	萩原 貞幸	161
ビジネスマナー	仁平 章子	464
ビジネスマナー I	仁平 章子	444
ビジネスマナー II	石井 三恵	446

## フ

ファイナンシャル・プランニング	植杉 大	162
武道論	横山 喬之	403
プレゼンテーション論	石井 三恵	404
文化人類学	西垣 有	406

## ヘ

ベンチャービジネス論	安久 典宏	163
------------	-------	-----

## ホ

法学入門	小島 俊朗	407
簿記入門	三木 僚祐	165
簿記入門	三木 博人	166
保健論	内部 昭彦	293

## マ

マーケティング概論	武居 奈緒子	167
マーケティングと歴史	武居 奈緒子	408
マクロ経済学	杉本 篤信	168

## ミ

ミクロ経済学	岩坪 加紋	169
--------	-------	-----

科目名	担当者	ページ
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	409
民法Ⅰ	大 川 謙 蔵	170
民法Ⅱ	大 川 謙 蔵	171

## モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	411
ものづくりインターンシップ基礎	川 野 常 夫	413
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	414
ものづくり海外インターンシップ	川 野 常 夫	416
ものづくりと経営	黒 澤 敏 朗	173

## ヤ

役立つ金融知力	陸 川 富 盛	417
---------	---------	-----

## ラ

ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	419
-------------	---------	-----

## ロ

労働法Ⅰ	前 田 剛 志	174
労働法Ⅱ	前 田 剛 志	176



# 專 門 科 目



科目名	I C T概論	科目名 (英文)	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩

授業概要・目的	インターネットやソーシャルネットの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT（情報通信技術）がどんな社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICTの効果的な適用により、企業の経営、公的機関の事業が、いかに変化し、どんな価値創造が可能になるのかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援するICTの位置づけを理解する。インターネットを中心とするICTの利活用について、自主学習を進める視点を発見すること、今後の「専門基礎演習」等において、ICTの役割について、自分の気づきが発信できることを目指す。
授業方法と留意点	レジュメを中心にテキストで基礎的なテーマを解説する講義形式で授業を進める。適宜、最新テーマを新聞等を参考にする。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やWebが提供するICTの関連テーマの記事の骨格を理解することができる。</li> <li>・大学OB/OG等の社会人と意見交換を図るための素養を身につけることができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス</li> <li>・『ICT』とは何か</li> <li>・事例 社会課題とICTの誕生</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
2	ICT小史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット小史</li> <li>・コンピュータ小史</li> <li>・現代企業の経営課題とICTの役割</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
3	経営と情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源『情報』の利活用</li> <li>・課題解決手段としてのICT</li> <li>・事例 2020年東京オリンピックに向けた情報化施策</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
4	グローバル経営課題とICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国・地域を超えて</li> <li>・グローバル企業の経営とICT</li> <li>・事例 グローバル取引ネットワーク</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
5	地域課題とICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の解決を支援するICT</li> <li>・スマートシティ政策と情報化構想</li> <li>・事例 都市活性化、地方創成</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
6	企業の情報化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営と情報化戦略・施策</li> <li>・意思決定・活動サイクルと情報</li> <li>・事例 インターネット適用先進企業</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
7	情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の企画・実施の方法論</li> <li>・考慮点 技術標準、利用者視点</li> <li>・事例 米国・日本（企業、官公庁）</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
8	経営資源『モノ』支援のICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モノづくりの課題</li> <li>・設計・生産支援のICT</li> <li>・事例 パソコン日米亜サプライチェーン</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
9	経営資源『カネ』支援のICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融取引の課題</li> <li>・商取引・決済支援のICT</li> <li>・事例 銀行・証券取引の24時間化</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
10	経営資源『ヒト』支援のICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス業の課題</li> <li>・人間系活動支援のICT</li> <li>・事例 情報行動の多商流（ヒト、電話、Web）化</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
11	経営資源『情報』支援のICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通業の課題</li> <li>・商取引・調達支援のICT</li> <li>・事例 販売・調達のWebサービス</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
12	個人の情報の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の活動と情報リテラシー</li> <li>・意思決定支援</li> <li>・事例 World Wide Web</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
13	コミュニティの情報の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ活動と情報リテラシー</li> <li>・コミュニケーション支援</li> <li>・事例 Social Network Services</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
14	Internet of Things（モノのインターネット）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ／オープンデータ／パーソナルデータの利活用</li> <li>・事例 日米の自動走行プロジェクト</li> </ul>	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習
15	まとめ	総括	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Webニュース）の予習・復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営情報論 新版補訂	遠山 暁	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営情報システム教科書	武藤明則	同文館
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題レポートの提出（50%）、定期試験（50%）による総合評価を行う。
----------	-------------------------------------

学生への メッセージ	どのように ICT の利活用を図るかは、組織や個人に共通する課題です。既成概念を超えて、新しい使い方を利用者の視点を発見することは、諸活動の価値を提案することを導きます。本授業をとおして、経営における効果的な ICT 適用法を身につけるよう、学習の機会を共有したいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（北村教授室）
備考	



科目名	NPO論	科目名(英文)	Non Profit Organization
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	相川 康子

授業概要・目的	NPO(民間非営利団体)とは、市民の有志が集まり、行政や企業とは異なる手法で、社会の課題を解決しようとする組織です。そのような市民活動は古くからありましたが、1998年に「特定非営利活動促進法(通称NPO法)」が制定されて以降、法人格を取得し、事務所や有給スタッフを抱えて幅広く活動を展開する団体が増えてきました。本講義では、そのようなNPOについて▽歴史的経緯や社会経済情勢の変化の中で捉えることで、今日的な意義を考察し▽実際にどんなNPOの活動があるのかを概観し▽営利企業とは異なるマネジメントの手法を学ぶことを目的とします。
到達目標	到達目標は、学生の皆さんが、今後、社会の担い手としてますます重要になるNPOに対して、▽存在意義(とくに行政や営利企業との違いについて)と多様なあり方▽どんな活動があるのか、どの程度社会に広がっているのか▽経営手法の特徴一などの概要を理解することです。それによって、将来、学生の皆さんが、なんらかのNPO活動を始めようとする際の基礎知識の習得を目指します。また、NPO論を学ぶことで、一般の営利企業や行政組織の経営、地域社会のあり方についても、多角的に分析できるようになります。
授業方法と留意点	授業はレジュメをもとに講義形式で行います。NPOに関する記事等を読んだのディスカッションなど、講師と学生あるいは学生間による対話を重視します。毎回コメントペーパーを書いてもらい、また随時、ワークシートを用いての考察を行います。学期の中盤に、理解度を深める小テストを行うほか、2回程度、ミニレポートを書いてもらいます。
科目学習の効果(資格)	地域や社会の問題点を見つけ、課題を分析して、自ら解決する力が身に付きます。また、非営利組織の経営を学ぶことで、将来の選択(NPOでの就労、社会起業家など)を広げることができます。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義全体の狙い、進め方、評価法の説明/導入として「NPO」のイメージや疑問点を出し合う。	事後に、全体スケジュールを確認し、「NPO」という言葉や概念について自分なりに調べてみる。
2	NPOの定義、領域、多様性	広義・狭義の定義や諸形態を解説し、NPO・行政・企業のセクター論の中で位置づけや役割を解説する。	事前に、インターネットや書籍でNPOの定義や実態を調べておく。 事後に、ベストの三角形モデルについて、実例をあてはめながら理解を深めておく。	
3	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その1(4回シリーズ)	どのような時代(経済・社会状況)に、NPOなどの市民活動が活発になるかを考え、年表や統計資料をもとに、近代ボランティア以降の変遷を探る。(以降4回シリーズ)	事前に、これまでに習った近代以降の日本史・世界史の主な出来事をさらしておく。 事後に、経済成長や人口、世帯など日本の変化が分かる長期の統計資料を調べてみる。	
4	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その2	戦中・戦後の市民活動の様相、戦後憲法に記された「公私社会福祉分離の原則」の解釈などを解説する。	事後に、戦時下の生活(思想統制や勤労奉仕の実態)および戦後に整えられた社会福祉の制度について、自分なりに調べてみる。	
5	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その3	行政によるボランティアの「育成」がいつごろから始まったか。さらに「有償ボランティア」が登場した背景について、統計資料などをもとに考える。	事後に「有償ボランティア」が出てきた時代背景について調べ、当時の資料などから、今日にもつながる論争のポイントを理解しておく。(レポート準備)	
6	NPO/市民活動と社会・経済とのかかわり その4	活動分野の広がりや阪神・淡路大震災(1995)のインパクトについて考察する。	事前・事後に、阪神・淡路大震災についてWEBや本で調べ、1995年がなぜ「ボランティア元年」と呼ばれたか考えておく。	
7	特定非営利活動促進法について	議員立法で制定された法制度の特徴を解説し、認証・認定NPOの実態を学ぶ。	事前に、許認可制(以前の公益法人等)と準則主義(会社設立の際など)の違いについて調べておく。 事後に、法制度の特徴と改正のポイントについて復習しておく。	
8	公益法人改革<小テスト>	「公益」を行う主体の変遷について法制度面から考察する。 講義後半で、これまでの内容の理解度を問う小テストを行う。	事後に「公益法人改革」の現在の進行状況について調べてみる。 小テストで分からなかった箇所を復習する。	
9	今後のNPOの活動領域を考える	少子化・高齢化や格差の拡大、地方の衰退など現代社会の所諸課題に有効な非営利のプロジェクトについて、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスも含めて紹介する。	事後に、地域課題をビジネス手法で解決する手段について、考察する(レポート準備)	
10	非営利組織のマネジメント その1(4回シリーズ)	マネジメントシリーズ(4回)のはじめに、営利企業と非営利組織の比較を行う。	事前・事後に、これまで経営学部で学んできた営利企業のマネジメントについて復習しておく。	
11	非営利組織のマネジメント その2	組織運営、人材管理、情報共有などの面からNPOの特性を探る。	事後に、NPOのボランティアマネジメントの特性(営利企業の従業員マネジメントとの相違点)についてまとめておく	
12	非営利組織のマネジメント その3	NPO活動にかかる経費の積算(管理費・事業費)と、その資金を調達する方法について考える。	事前に、NPOには、どんな資金調達法があるか考えておく。 事後に、何らかのNPO活動を想定し、必要な経費や調達方法をシミュレーションしてみる。	
13	非営利組織のマネジメント その4	NPOのマルチ・ステイクホルダーの特性に注目した連携について考え、賛同者を増やすための広報や、アドボカシーについて考える。	事後に対象を絞ったNPOの広報戦略について考えてみる	
14	NPOを支える仕組み	NPOセンターなど中間支援団体の機能、実態/CSR/寄付文化を根付かせる取り組みなどについて学ぶ。	事前に、自分が考えるプロジェクトだったら、どんな支援が必要か考えてみる。 事後に、地元行政や企業のCSRによるNPO支援の取り組みについて調べてみる	
15	まとめにかえて	講義全体の振り返りと、今後のNPOへの期待や課題に関する話し合い。	事後に、NPOの歴史や特徴、マネジメントなどを復習し、期末テストに備えること。	

関連科目	経営学、公共経営論、地域経営論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	非営利組織の経営	P.H. ドラッカー 著、上田惇生・田代正美 訳	ダイヤモンド社
	2	ボランティア・NPOの組織論～非営利の経営を考える	田尾雅夫・川野祐二 編著	学陽書房
	3	日本のNPO史	今田忠 著	ぎょうせい
評価方法 (基準)	定期試験 50%、学期中に行うミニテスト 10%、学期中に課すレポート 20%、平常点（講義への参画度、コメントペーパーの内容等）20%を目安に、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	NPOの経営は「儲けない」ことではなく、儲けを関係者間で配分しない（課題解決の資金源とする）ことで、営利企業の経営より難しい場面もあります。現在、企業もCSRに力を入れており、NPOについて学ぶことは将来の皆さんの視野を広げ、職業選択の幅を広げることとなるでしょう。			
担当者の 研究室等	11号館6階の非常勤講師控室			
備考				

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	<p>テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史）」 各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的發展過程・現状についての研究を行います。加えて、経営史研究分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。</p>																		
到達目標	<p>経営事象の本質を歴史的視点から捉える能力を培うことを目標とします。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b> 2年次には教科書をもとに、その報告と質疑を行いながら、日本経営史の基礎知識を身につけていきます。 第1回 本演習のオリエンテーション (前期) 近代経営の発展・展開（明治後期～昭和初期）と経営者 (後期) 企業経営の変容・大企業体制の成立と経営者 情報・消費社会のなかでの経営者活動</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>日本を代表する企業家の経営活動を分析します。基本的には事前学習が大切です。まずは、教科書を読んでおいてください。また、事後学習は、より詳しく、専門書などにあたり、深く研究していきます。 加えて、経営学分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>企業家に学ぶ 日本経営史</td> <td>宇田川勝・生島淳編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	企業家に学ぶ 日本経営史	宇田川勝・生島淳編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	企業家に学ぶ 日本経営史	宇田川勝・生島淳編	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>研究発表の内容・方法（50%）、ゼミ活動への積極的参加態度（50%）。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b> 楽しく充実したゼミにするには、ひとえにゼミ生の意気込みにかかってます。積極的に活動計画や企画を出すなどして、ゼミ活動に主体的に参加してください。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	横谷 正人

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b>          テーマ「カイシャのマネジメント研究」          皆さんが社会で起きている現象に興味関心を持ち、特に身の回りの商品やサービスを提供するカイシャの活動について解説します。</p> <p><b>【目的】</b>          カイシャのマネジメントを研究することで、皆さんが社会で活躍できるよう、自らの視点で問題を解決する基礎能力を鍛えます。</p>																
到達目標	<p><b>【到達目標】</b>          経営学における戦略と組織のマネジメントを研究し、日本のカイシャが直面する課題を実証研究します。そのうえで、4年次には卒業論文を完成させます。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b>          カイシャの課題を解決するために必要なマネジメント（戦略を立てる・組織をつくる・人を動かす）を研究（文献・現場・卒業論文）します。</p> <p><b>【授業方法と留意点】</b>          2年次では、課題図書の要約と問題提起を行います。そのため毎回チーム学習で、プレゼンテーション、ディスカッションなど相互学習を行います。          3年次では、ロジカルシンキングと情報分析方法について理解を深めます。          4年次では卒業論文を完成させます。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【テーマ】</b> カイシャのマネジメント研究          皆さんにとって身近な商品やサービスについて学びます。そのため、それらを創り出しているカイシャのとりくみを研究します。たとえば、グローバル経営を展開する自動車・電機・通信・情報などの産業を始め、流通・小売業・外食などの産業に至るまで、広く皆さんが興味関心を寄せているカイシャを対象にします。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          「読み・書き・話す」能力のトレーニングを図るため、「課題図書の選定、要約、プレゼンテーション」を毎回行います。また、毎回各自発表を行うため、A4×1枚、あるいはパワーポイント8枚の資料を作成してもらいます。主な研究方法は、書籍などの文献調査を中心に、新聞、インターネット、現場での観察、聞き取り調査などです。</p> <p><b>【研究倫理の指導・教育】</b>          経営学（経営戦略、経営組織、経営管理、人的資源管理、マーケティングなど）に関連する文献調査やアンケート調査においても、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>レポート・論文の書き方入門（第3版）</td> <td>河野哲也</td> <td>慶應義塾大学出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	レポート・論文の書き方入門（第3版）	河野哲也	慶應義塾大学出版会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	レポート・論文の書き方入門（第3版）	河野哲也	慶應義塾大学出版会														
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>1. プロセスの評価：出席は必須とし、調査・報告・ディスカッションなど、貢献の量</p> <p>2. 結果の評価：卒業論文のテーマの独自性と内容など、成果の質</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	本ゼミでは4年生までに頭を柔軟に鍛える習慣を身に着けます。そのためには、夢に向かって失敗を恐れず挑戦し続けることが必要です。																

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 企業組織のマネジメントについて広く研究します。</p> <p><b>【目的】</b> 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な企業組織に関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。</p>																
到達目標	<p><b>【到達目標】</b></p> <p>①現実の経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論から知識を習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。</p> <p>演習 I の終わりには、4年次に提出する卒業論文に向けてそれぞれの研究テーマを設定していきます。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業方法】</b> グループでプレゼンを行います。その後、ディスカッション、解説を行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 「企業組織のマネジメントに関する基本的考察」</p> <p><b>【授業内容】</b> 現代の企業組織のマネジメントに関する理解を深めていきます。</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b> 報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジュメにまとめておきます。報告当日は、用意したレジュメをもとにプレゼンを行います。 報告者以外の人は、当日のディスカッションに参加できるように資料を読み、質問事項を考えておきます。</p> <p>なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。</p>																
関連科目	人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p><b>【評価方法】</b> 出席、提出物、当日の報告・ディスカッションの総合評価</p>																
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加を期待しています。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	<p>テーマ 経済データの利用</p> <p>日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。  (2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。  (3) 論理的な思考をする。  (4) 自分の考えを、口頭で発表する。  (5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。</p>																		
到達目標	<p>自分で問題を設定できる。  その問題を分析するための情報を収集できる。  情報、データを有効に活用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b>  <b>[授業内容]</b>  データの意味、利用の仕方。経済の現状の把握。  <b>[授業方法と留意点]</b>  テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。  上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高校生からの経済データ入門</td> <td>吉本佳生</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点、授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b>  上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	3年間の演習（ゼミナール）を通して、財務会計を学ぶ。現在では、企業社会における会計情報の役割を、資本市場における投資者の証券投資意思決定に資することと捉える「情報提供機能」を中核に会計基準が設計されていることから、会計情報の意義・役割・目的に関連する範囲で、コーポレート・ファイナンス分野にも、かなりの程度、関心の目を向ける。 演習 I では、今後3年間の基礎ステップとして、主に①各自のレベルに応じた日商簿記検定の合格に向けた学習を行う予定である。併せて、②財務会計の基本概念を理解するうえで重要なテーマを、順次取り上げ、議論する予定である。																		
到達目標	①については、各自のレベルに応じた日商簿記検定の合格。 ②については、財務会計の根幹をなす基礎概念・二つの利益計算の基本的枠組みの体得。																		
授業方法と留意点	①については、各自のレベルに応じたテクニカルな簿記問題への取り組みとわからない箇所についての質問と理解。②については文献の輪読・説明・討議。いずれの場合についても、現時点での知識レベルを前提として、積極的に質問し、また質疑応答に前向きに参加すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマは、簿記・財務会計とコーポレート・ファイナンスの基礎的知識の習得である。そのため、①の簿記の学習については、演習時間中に、課題に取り組み、正解と照合し、間違った箇所を納得した後、次の課題へ進むといった形で着実に前進することをモットーとする。②の財務会計・コーポレート・ファイナンスの基礎的知識の習得については、取り上げた重要な論点についての報告用レジュメの作成と報告を課す。また特に②については、関心に応じて関連する文献・資料を提示するので、これらの提示された文献・資料にも積極的に取り組み、将来の卒業論文のテーマ選択につなげることを期待する。加えて、会計/ファイナンス分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。																		
関連科目	企業簿記、会計学入門、財務会計、管理会計、経営財務論、経営分析論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に指定しない																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	出席状況（50%）と課題への取り組み姿勢・態度（50%）にもとづいて評価する。																		
学生へのメッセージ	毎回のゼミにおいて、少なくとも一つ、新たな知識の習得・理解あるいは何がしかの会計/ファイナンスに関する発見があるといった形で、一歩一歩、自身が前進するよう努力してほしい。																		
担当者の研究室等	高尾研究室（11号館8階）																		
備考																			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	英語、パソコン、会計（国際）が現代の「三種の神器」である、といわれるがこの三者に共通していることは、どれもグローバルなコミュニケーション手段であるということです。会計は企業活動を計数的に写像したものであり、企業経営そのものを指し示している。経営者による裁量的な会計行動による不祥事が次々と発覚し、近年、会計の重要性が再認識されつつある。本演習では、会計情報を利用する立場から会計の基礎知識の修得に努める。また、レポート作成時など不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。</li> <li>・会計の基本的ルール、財務諸表作成のルール、会計基準等を理解する。</li> <li>・研究倫理について理解し、実践する姿勢を身につける。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	基本的知識を習得するために、入門書を輪読し、各自内容をまとめ発表する。また簿記、工業簿記の基本も習得する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計と経営、経済社会の関わりについて学び、会計の基本的な枠組み、知識を習得する。ゼミでは、毎回、各自の発言を求め、質疑、応答形式で進めていく。また、グループでの研究、調査を行い、協同してプレゼン等を行う・</li> <li>・事前学習は、配布資料等で分からない用語等事前に調べ、自分なりに理解してゼミに参加すること。ただし、内容がどうしても分からないところは、ゼミで必ず質問し、理解するようにする。事後学習は、毎回のゼミで、レポート、さらに調べることなどの課題をその都度、指示する。</li> </ul>																		
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営学、																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習への参加（出席、レポートの提出、発表等）																		
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。																		
担当者の研究室等	11号館8階																		
備考																			



科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	<p>2008年の金融危機は米国のサブプライムローンという住宅ローンに端を発している。巨大国家米国とはいえ、住宅ローンの一部に過ぎないサブプライムローン問題が、世界のあらゆる国の経済に損失をもたらした。この問題を通して我々はいかに金融が身近な存在であるのかを改めて痛感させられた。</p> <p>本演習では主として金融問題を扱い、学生諸君自身がこれらを解き明かす、“探求する”ことを目的とする。扱うテーマは、例えば資金の借り手としての企業や貸し手としての銀行、また証券会社、格付け機関といった金融市場のプレイヤーから、株式・債券市場といったマクロ的な金融市場を取り上げて良い。また、金融政策やプルーデンス政策など政策的観点からテーマを選んでも良い。</p> <p>ただし、本演習の論文作成においては、論理・理論に基づくことは言うまでもないが、さらにそれらを支えるデータや統計学的手法、同時にパソコンを駆使する傾向が強くなる。したがって本演習を希望する学生には、入門水準で良いので、できる限りこれらの知識を習得しておいて欲しい。そして何より、やる気や積極性が重要である。テーマ選定や演習の運営については学生諸君に任せるという意味で自由だがその反面、積極的な参加姿勢が求められるとっておいて欲しい。</p>			
到達目標	金融を中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること			
授業方法と留意点	基本的に学生による発表・質疑応答形式で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。遅刻や欠席は望ましくないが、もしもそうなったら事後でも良いのであるべく早く連絡するように心がけること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、所定の書籍をもとに発表・質疑応答形式で進める。発表者が発表準備をするのは当然だが、聞き手学生は本の発表箇所を事前に読んでおくこと。また、レポートも課す。なお、加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学習態度、プレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	昨今の就職状況を鑑み、本演習では卒業論文の作成を前倒しで行う。したがって、演習の進捗状況は通常よりも早く、少々、キツイかもしれない。その点、覚悟願う。			
担当者の研究室等備考	11号館8階 (岩坪教授室)			

科目名	演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的	本演習では、管理会計について学んでいく。管理会計とは、企業内部の各階層の経営管理者に、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計である。管理会計は、経営管理を有効に行うために不可欠な手段であり、管理会計を学ぶことは今後社会に出るにあたって、大変意義のあることであると考えられる。		
到達目標	管理会計とは何かや、予算管理、標準原価計算といった伝統的な管理会計技法の意義・手続きについて理解する。伝統的な管理会計に関する理解を踏まえて、伝統的な管理会計の課題について理解する。		
授業方法と留意点	管理会計の基礎的な教科書を用いて授業を行なう。毎回当番を決めて、事前に演習参加者に教科書の内容についてまとめた資料を作成してもらおう。その資料を授業中に発表してもらい、発表後は、その内容について議論を行う。活発な議論を期待する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	管理会計に関する基礎的な教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書1章分。前期は、管理会計を理解する上で欠かすことのできない原価計算の基礎的な事項について学ぶ。後期は、予算管理や標準原価計算など伝統的な管理会計技法について学んでいく。授業での発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業態度、授業中の発言などを考慮して評価する。		
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。		
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)		
備考	教科書については第1回目の授業の際に指示する。		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 卒業論文のテーマを設定し、問題意識と論文の方向性を具体化させます。また、テーマに関する文献レビューを行っていきます。</p> <p><b>【目的】</b> 卒業論文のテーマに対する思索を深めます。</p>																
到達目標	<p><b>【到達目標】</b> 卒業論文のテーマ、節立てを確定し、文献・資料の収集と分析を進めます。 論文の書き方を理解します。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業方法】</b> 数名ずつ、各人のテーマに関して調べた文献や資料の要約と考察、今後の課題を発表します。適宜、論文の書き方や文献の収集・検討・考察の仕方についての解説を行っていきます。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 企業組織のマネジメントに関する考察</p> <p><b>【内容】</b> 企業の戦略、経営資源とその管理、組織構造、ビジネスモデル、リーダーシップ</p> <p><b>【学習課題】</b> 発表準備として、発表する論点をまとめたレジュメを提出します。</p> <p>なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物、出席、ディスカッションを総合評価します。																
学生へのメッセージ	自分の研究テーマはもちろんですが、他のメンバーの研究テーマにも関心を持ってゼミに積極的に参加するようにしてください。																
担当者の研究室等	11号館8階 庭本研究室																
備考	欠席する場合には、事前または事後に欠席の旨とその理由を連絡するようにしてください。																

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	経営的な視点と社会人基礎力を身に付けるための課題解決型授業です。グループ討論やプレゼンテーションの機会を多く取り入れています。																		
到達目標	①経営的視点の育成と課題の発見・解決力およびプレゼンテーション能力の習得。 ②社会人基礎力の育成。																		
授業方法と留意点	①個人やチームで課題に取り組み、自ら主体となって発表や質問を積極的に行うこと。 ②近年、深刻な研究不正が相次いで発覚し対応が求められるなか、演習においても研究倫理の重要性について日頃から意識し行動すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 経営的視点の育成と課題解決（発見・分析）力・プレゼンテーション能力を身に付けるための理論と技法を一人一人が主体的に学ぶこと。</p> <p>&lt;授業内容、方法&gt; ①各自が新聞や専門誌から経営に関する動きを事前学習し、発表や報告をします。 ②問題解決技法（「新QC七つ道具」）各自が学んだことをまとめ報告します。 ③会計・財務の知識・スキルを効果的に修得するために、マネージメントゲームを活用します。 ④人的側面を中心とした組織診断の基礎について学びます。 ⑤卒業論文についてテーマの探索方法や研究の進め方、論文の書き方について学びます。 ⑥ゼミ合宿を通じて、コミュニケーションやリーダーシップについて実践的学習を行います。</p> <p>&lt;事前、事後学習課題&gt; その都度、指定します。</p>																		
関連科目	経営学、企業簿記、人的資源管理論Ⅰ、Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	発表、レポート、授業における積極的な参加態度などを総合的に評価します。レポート5割、その他5割。ただし、レポート未提出の場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	ゼミの授業は、専門知識や技法の習得と学生が調べてきたことをまとめ発表（報告）する時間です。自ら課題を発見し探究する力を他のゼミ生と一緒に培っていきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館8階安久研究室																		
備考	教科書および参考書は、適宜紹介していきます。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	<p>テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史）」 各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的発展・現状についての研究をおこなうゼミです。 加えて、経営史研究分野に関する不正防止のための研究倫理についても、引き続き指導・教育します。</p>		
到達目標	<p>経営事象の本質を歴史的視点から捉える能力を培うことを目標とします。</p>		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】 （前期）2年次に続いて、テキストを講読しますが、課外学習（ゼミ旅行）やホームページ作成、コンパなど、盛りだくさんの行事・活動が予定されています。 （後期）卒論の研究テーマを各自が決めていきながら、個別に資料収集についての方法論を学んでいきます。また、就職活動についてゼミの先輩からの体験談を聞いたり、交流する会を開きます。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>企業家の経営活動が彼らが経営した企業の発展過程といかに関わったのか分析します。基本的には事前学習が大切です。まずは、教科書を読んでおいてください。また、事後学習は、より詳しく、専門書などにあたり、深く研究して、卒論のテーマや内容について考えていきます。加えて、経営学分野に関する不正防止のための研究倫理についても、引き続き指導します。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	企業家に学ぶ 日本経営史	宇田川勝・生島淳編
	2		
	3		
評価方法（基準）	<p>研究発表の内容・方法（50%）、ゼミ活動への積極的参加（50%）。無断欠席は避けて下さい。</p>		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	<p>【学生へのメッセージ】 楽しく充実したゼミにするには、ひとえにゼミ生の意気込みにかかっています。積極的に活動計画、企画を出すなどして、ゼミ活動に主体的に参加してください。</p>		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	横谷 正人

授業概要・目的	<p>【テーマ】 企業の戦略と組織の研究</p> <p>【授業概要】 卒業論文のテーマと参考文献のレビューを行います。</p> <p>【目的】 参考文献を10冊選定し、「テキスト批評」を行います。問題意識やテーマ設定能力を養うためであり、他の人が興味深いと思うような卒業論文のタイトルを見つけるためでもあります。尚、卒業論文を書くために一番難しいことは、テーマ設定です。</p>																		
到達目標	参考文献のテキスト批評を10冊行い、Power Pointでプレゼンテーションをする。各回の相互コメントなどから、毎回、A4(1,600字)×1枚以上Wordで、先行研究として要約と課題を提出します。																		
授業方法と留意点	3年次では、ロジカルシンキングと情報分析方法について理解を深めます。また、卒業論文のテーマに該当しそうな本や論文を集めることから始めてください。テーマが決まらないようであれば、チーム学習によるディスカッションとプレゼンテーションによる相互コメントで、焦点を絞っていきます。 参考文献や論文を読んで、テキスト批評を自分でしておくと、それ自体が卒業論文用のノートや準備メモとなります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業内容】 企業が環境変化に適応し克服すべき課題を解決するため、必要なマネジメント（戦略を立てる・組織をつくる・人を動かす）について解説します。例えば、企業の「イノベーション」「マーケティング」活動に着目し、事例企業の文献調査を行います。</p> <p>【事前事後課題】 参考文献のテキスト批評10札について、それぞれのまとめ（1200字程度）と、Power Point資料作成（5枚程度）が求められます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>論文の教室ーレポートから卒業まで</td> <td>戸田山和久</td> <td>日本放送出版協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大学で学ぶ議論の技法</td> <td>T.W.クルーシアス、C.E.チャンネル・杉野俊子他訳</td> <td>慶應義塾大学出版会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	論文の教室ーレポートから卒業まで	戸田山和久	日本放送出版協会	2	大学で学ぶ議論の技法	T.W.クルーシアス、C.E.チャンネル・杉野俊子他訳	慶應義塾大学出版会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	論文の教室ーレポートから卒業まで	戸田山和久	日本放送出版協会																
2	大学で学ぶ議論の技法	T.W.クルーシアス、C.E.チャンネル・杉野俊子他訳	慶應義塾大学出版会																
3																			
評価方法(基準)	<p>1. プロセスの評価：出席は必須とし、調査・報告・ディスカッションなど、貢献の量</p> <p>2. 結果の評価：卒業論文のテーマの独自性と内容など、成果の質</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究について演習Ⅱ前期から取り組みます。																		
担当者の研究室等	11号館7階 横谷研究室																		
備考	本ゼミでは4年生までに頭を柔軟に鍛える習慣を身に着けます。そのためには、夢に向かって失敗を恐れず挑戦し続けることが必要です。																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	<p>テーマ 日本経済の分析</p> <p>日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的な経済理論を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。</p> <p>(2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。</p> <p>(3) 論理的な思考をする。</p> <p>(4) 自分の考えを、口頭で発表する。</p> <p>(5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。</p>																		
到達目標	<p>自分で問題を設定できる。</p> <p>その問題を分析するための情報を収集できる。</p> <p>情報、データを有効に活用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b></p> <p>[授業内容]</p> <p>経済理論の理解。経済の現状の把握。各自の研究のテーマに関する発表。これらは踏まえて卒業研究の主要部分を仕上げる。</p> <p>[授業方法と留意点]</p> <p>個人発表と討論。出席と授業中の発言などが、最も重視される。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>日本の企業、経済、社会に関する問題をとりあげ、検討していく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。前期に卒業研究のテーマを決定し、後期には論文の作成に取り掛かります。なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>平常点、授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b></p> <p>上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																		

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】思考力を高め、意思決定力の向上を図る 私たちの意思決定を左右する様々な要因を理解し、正しい意思決定を下すための合理性・論理性・倫理性について理解を深める。 【概要】行為の決定に関わる知性と感情の役割を知る。ビジネスに必要な利害対立の正しい解決方法をゲーム理論に基づいて考える。</p>																		
到達目標	<p>1. 意思決定に関わる心の働きを知る 2. 社会生活およびビジネスにおける様々な対立に関する理解を深める 3. ゲーム理論の基礎を理解し、その応用力を身につける 4. 目標達成と課題解決の思考技法を学び、卒研の進め方&lt;研究計画&gt;を立てる</p>																		
授業方法と留意点	<p>課題あるいは目標をよく考えて明確にすること、また、思考の流れを具体的に図解化し文章化すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【前期】</p> <p>1. 意思決定における思考の重要性を理解する。 正しい合理的な決定とは何かを考える。思考の論理力を高める 2. 多様な対立を分析する力をつける。 対立の中心的な課題を発見する力をつける。利害対立を数量化し図解化して本質を捉える。 3. ゲーム理論の基礎と理解する。 ゼロ和ゲームと非ゼロ和ゲームを学ぶ。合理的な利害対立の解決法を知る。</p> <p>【後期】</p> <p>1. 複雑な課題を解決するための思考方法を学び、研究の進め方を知る 2. 卒研テーマを確定する KJ法などの活用し、研究テーマを設定し、研究計画を立てる。 3. 資料の整理と資料の考察を集団で実施する。 プレゼンテーションの方法を学び、説得力のある発表を心がける。</p>																		
関連科目	<p>職業能力開発、ビジネスゲーミングの講義は必ず受講すること。意思決定支援や組織管理論も関係が深い科目である。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に指定しない																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>出席状況(50%)と課題への取り組み姿勢・態度(50%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>全体討議を行いながらゼミを進めるので、必ず出席すること。また、発表者は事前に配布資料等を提出すること。 資料作成やパワーポイントの作成のために研究室を開放するので、利用すること。</p>																		
担当者の研究室等	<p>福田研究室(11号館7階)</p>																		
備考	<p>研究室が開放される時間を事前に確認すること</p>																		



科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	<p>財務会計の基礎知識を習得するため、財務会計に関する定番のテキストを輪読する。予め各章について報告者を決め、報告者は、パワーポイントを用いてプレゼンを行い、報告者以外の者は疑問点などについて適宜質問等を行う。報告者と質問者の討論等を通じて、順次、財務会計の理解を深める。</p> <p>後期の半ばから、卒業論文作成に向けて、テーマの選定を指導し、自ら選定したテーマのもとで、順次、試行的にプレゼンを行い、テーマに関する理解を深めるとともに必要な文献・資料の収集も同時並行的に実施する。</p> <p>また、研究における不正防止のための研究倫理についても、指導・教育する。</p>																
到達目標	<p>財務会計の基礎知識を習得する。</p> <p>有価証券報告書を読む力を修得する。</p> <p>必要な文献・資料の入手方法を知る。</p> <p>理解したことを、わかりやすくプレゼンする能力を身につける。</p> <p>他人の報告を聞き、質問・コメントする能力を身につける。</p> <p>財務会計領域における自身の関心・興味のあるテーマを見い出す。</p> <p>論文作成における研究倫理を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>割り当てられた文献箇所について、分かりやすく明解なプレゼン資料を作成すること。</p> <p>報告者のプレゼンについて、質問するなど、必ず発言すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>財務会計の定番のテキストを輪読することにより、財務会計の基礎知識を習得する。</p> <p>テキストの各章について予め決められた担当者が、報告資料を作成し、報告する。</p> <p>報告者以外の者は、報告者の報告について、質問等を行う。</p> <p>報告者と質問といった討論を通じて、報告内容の理解を深める。</p> <p>次回、取り上げる章について、事前学習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。</p> <p>事後学習としては、取り上げた各章ごとに、重要な論点について整理のための簡単な確認テストを実施し、理解の程度を確認する。</p>																
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営財務論、経営分析論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	演習の参加状況(出席、報告・質問、確認テストの結果)																
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席し、積極的に議論に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてのゼミを考えています。																
担当者の研究室等	高尾研究室(11号館8階)																
備考																	

科目名	演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	<p>2008年の金融危機は米国のサブプライムローンという住宅ローンに端を発している。巨大国家米国とはいえ、住宅ローンの一部に過ぎないサブプライムローン問題が、世界のあらゆる国の経済に損失をもたらした。この問題を通して我々はいかに金融が身近な存在であるのかを改めて痛感させられた。</p> <p>本演習では主として金融問題を扱い、学生諸君自身がこれらを解き明かす、“探求する”ことを目的とする。扱うテーマは、例えば資金の借り手としての企業や貸し手としての銀行、また証券会社、格付け機関といった金融市場のプレイヤーから、株式・債券市場といったマクロ的な金融市場を取り上げて良い。また、金融政策やプルーデンス政策など政策的観点からテーマを選んでも良い。</p> <p>ただし、本演習の論文作成においては、論理・理論に基づくことは言うまでもないが、さらにそれらを支えるデータや統計学的手法、同時にパソコンを駆使する傾向が強くなる。したがって本演習を希望する学生には、入門水準で良いので、できうる限りこれらの知識を習得しておいて欲しい。そして何より、ヤル気や積極性が重要である。テーマ選定や演習の運営については学生諸君に任せるという意味で自由だがその反面、積極的な参加姿勢が求められるとっておいて欲しい。</p>																
到達目標	金融を中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること																
授業方法と留意点	学生による発表・質疑応答形式で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。易きに流されれば、そのツケは必ず自分に跳ね返ってくる肝に銘じること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、各自の問題意識に基づき、発表・質疑応答形式で卒論作成を進める。4月から6月にかけてテーマを選定し、順次作成する。12月末までに80%の完成を目指す。なお、加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。																
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、企業金融論等々																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学習態度やプレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。																
学生へのメッセージ	昨今の就職状況を鑑み、本演習では卒業論文の作成を前倒しで行う。したがって、演習の進捗状況は通常よりも早く、少々、キツイかもしれない。その点、覚悟願う。																
担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)																
備考																	

科目名	演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的	本演習では、管理会計について学んでいく。管理会計とは、企業内部の各階層の経営管理者に、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計である。管理会計は、経営管理を有効に行うために不可欠な手段であり、管理会計を学ぶことは今後社会に出るにあたって、大変意義のあることであると考えられる。		
到達目標	演習 I で学んだことを踏まえて、さらに高度な管理会計の理論および、管理会計が実務の世界でどのように活用されているのかについて理解をする。また、授業を通じて卒業研究論文のテーマを設定する。		
授業方法と留意点	演習 I と同様に、毎回当番を決めて、教科書の内容についてまとめた資料を作成した上で、それを発表してもらう。また、その発表内容について議論を行う。 授業の合間に卒業研究論文作成の準備のため、論文の書き方、研究テーマの探し方、資料の収集の仕方などについても説明を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	管理会計に対する理解を深めるため、上級の管理会計の教科書を使って授業を行う。また、理論と実務のつながりを理解するため、管理会計に関する企業事例も補足資料として用いる。毎回の授業進度は教科書 1 章分。 本授業で扱う項目としては、「ABC/ABM」、「バランス・スコアカード」、「原価企画」、「ライフサイクル・コストニング」、「品質原価計算」といった戦略管理会計と呼ばれる新しい管理会計領域に関するものを中心とする予定である。発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと。 加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業態度、授業中の発言などを考慮して評価する。		
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにししましょう。		
担当者の研究室等	11 号館 7 階 (三木准教授室)		
備考	教科書については第 1 回目の授業の際に指示する。		

科目名	応用簿記	科目名 (英文)	Applied Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内 淳

授業概要・目的	本講義では、実務的な事例を例にとり「わかりやすい講義」をモットーとします。
到達目標	簿記の目的は、一定時における財政状態を示すために資産、負債、資本の変動を秩序正しく計算すること、；一会計期間の正しい経営成績を計算してその原因と結果を明らかにすることの2点に要約されます。本講義では、これらの目的をしっかりと理解して、実務に役立つ知識を修得することを目標とします。
授業方法と留意点	テーマごとに説明を行った後、演習問題の時間を設け、その後解説を行います。受講者は必ず電卓を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	簿記検定2級の商業簿記について、合格水準までの実力をつける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	簿記の基本	簿記一巡の手続き	テキストで予習・授業での小テストを再考
	2	特殊商品売買	予約・試用・割賦・未着・委託・受託品販売	テキストで予習・授業での小テストを再考
	3	商品の評価	商品の期末評価	テキストで予習・授業での小テストを再考
	4	固定資産Ⅰ	固定資産の売却・買換え・廃棄・除却時の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
	5	固定資産Ⅱ	減価償却・資本的支出と収益的支出等	テキストで予習・授業での小テストを再考
	6	資金調達と利益処分	株式・社債発行時および利益処分時にかかる諸々の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
	7	当座預金と有価証券	当座預金と有価証券にかかる諸々の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
	8	引当金	貸倒・退職給与・修繕・商品保証引当金	テキストで予習・授業での小テストを再考
	9	手形	裏書・割引手形	テキストで予習・授業での小テストを再考
	10	保険と税金	保険金の請求時と受領時の処理、法人税等の引当処理と消費税の処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
	11	帳簿等の締切	伝票・帳簿組織の集計、帳簿の締切と合計転記	テキストで予習・授業での小テストを再考
	12	決算処理	決算整理事項、財務諸表の作成	テキストで予習・授業での小テストを再考
	13	本支店会計	支店開設時の処理、本支店間取引、本支店会計の決算処理	テキストで予習・授業での小テストを再考
	14	総合問題	総合問題の解説	テキストで予習・授業での小テストを再考
	15	総合問題	総合問題の解説	テキストで予習・授業での小テストを再考

関連科目	企業簿記、財務会計論、原価計算論等
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布プリント		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験の結果を60%、講義中の小テストの結果を40%としこれを基準に評価する。
学生へのメッセージ	できるだけ簿記の基本を理解してから受講してください。実務に密着した「わかりやすい講義」を行うつもりです。
担当者の研究室等	11号館6階 (経営学部事務室)
備考	授業時間外の質問は、講師控室のメールボックスで対応します。

科目名	会計学入門	科目名 (英文)	Intoroduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	<p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々へのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計の目的、役割を理解する。</li> <li>・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。</li> <li>・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。</li> <li>・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料を配布して講義形式で行うが、基本的に毎回、練習問題の解答やレポート課題が課されることに留意する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。</li> <li>・組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。</li> <li>・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。</li> <li>・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	配布資料 練習問題①
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	配布資料 練習問題②
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	配布資料 練習問題③
5	会計情報の内容 (1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	配布資料 練習問題④
6	会計情報の内容 (1)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑤
7	会計情報の内容 (2)	貸借対照表 資産と負債・純資産について	配布資料 練習問題⑥
8	まとめと確認テスト	確認テストと解説	今までの復讐
9	会計情報の内容 (3)	損益計算書 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑦
10	会計情報の内容 (4)	損益計算書 収益と費用の認識と測定	配布資料 練習問題⑧
11	会計情報の内容 (5)	キャッシュフロー計算書 資金の範囲、キャッシュフロー計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑨
12	会計情報の内容 (6)	キャッシュフロー計算書 営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー	配布資料 練習問題⑩
13	会計情報の内容 (7)	株主資本等変動計算書 株主資本とは、株主変動計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑪
14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	配布資料 練習問題⑫
15	まとめ	講義の復讐とまとめ	配布資料

関連科目	経営学、企業簿記
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ガイダンス企業会計入門	山浦・広本	白桃書房
	2	財務会計の基本を学ぶ	八田進二	同文館出版
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加と課題の提出 (30%)、確認テスト (20%)、定期テスト (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回授業に出席して下さい。
-----------	---------------

担当者の研究室等	佐井研究室 (11号館8階)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	会計情報論	科目名(英文)	Accounting and Information System
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	会計情報とは、企業の経済活動という現実の事象を、会計ルールに従って加工ないし写像したものである。ゆえに会計情報を解釈し、その背後にある現実の事象を正しく把握するには、会計ルールすなわち会計固有の用語とその仕組みに関する知識が不可欠である。特に近年、企業活動の多様化、グローバル化に伴い会計ルールは、さまざまな形で新設、変更された。本講義では、連結会計情報、連結株主資本等変動計算書、企業結合会計等について解説する。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結財務諸表作成の基本的ルールを理解する。</li> <li>・子会社、関連会社、関係会社等グループ経営について理解する。</li> <li>・持分法に関する手続きを理解する。</li> <li>・株主資本等変動計算書作成の基本的ルールを理解する。</li> <li>・企業結合会計について理解する。</li> <li>・公表されている会計情報を、自ら利用できるようになる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義及び事例研究をおこなう。講義内容の理解を深めるために練習問題を解く。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公認会計士試験、税理士試験、証券アナリスト試験等の会計資格取得に有用である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>連結財務諸表の作成①</td> <td>連結財務諸表とは、連結主体論、連結範囲</td> <td>練習問題1 (講義後に配布)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連結財務諸表の作成②</td> <td>少数株主持分、のれんの処理、</td> <td>練習問題2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>連結財務諸表の作成③</td> <td>連結貸借対照表の作成</td> <td>練習問題3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連結財務諸表の作成④</td> <td>連結損益計算書の作成</td> <td>練習問題4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>連結財務諸表の作成⑤</td> <td>持分法の適用</td> <td>練習問題5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>セグメント情報</td> <td>事業別セグメント、地域別セグメント</td> <td>練習問題6</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>株主資本等変動計算書</td> <td>株主資本等変動計算書の意義と目的、表示区分と作成方法</td> <td>練習問題7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>外貨換算会計①</td> <td>換算会計の意義と換算方法</td> <td>練習問題8</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>外貨換算会計②</td> <td>外貨建取引、金銭債権、優待証券</td> <td>練習問題9</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>外貨換算会計③</td> <td>在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算</td> <td>練習問題10</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>企業結合会計①</td> <td>企業結合会計基準取得と持分の結合</td> <td>練習問題11</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>企業結合会計②</td> <td>取得の会計処理とのれんの会計</td> <td>練習問題12</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>企業価値とディスクロージャー①</td> <td>企業価値とは、なぜディスクロージャーが必要とされるのか</td> <td>練習問題13</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>企業価値とディスクロージャー②</td> <td>資本コストと企業価値、自発的開示とIR</td> <td>練習問題14</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td>配布した資料、練習問題の復讐</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	連結財務諸表の作成①	連結財務諸表とは、連結主体論、連結範囲	練習問題1 (講義後に配布)	2	連結財務諸表の作成②	少数株主持分、のれんの処理、	練習問題2	3	連結財務諸表の作成③	連結貸借対照表の作成	練習問題3	4	連結財務諸表の作成④	連結損益計算書の作成	練習問題4	5	連結財務諸表の作成⑤	持分法の適用	練習問題5	6	セグメント情報	事業別セグメント、地域別セグメント	練習問題6	7	株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書の意義と目的、表示区分と作成方法	練習問題7	8	外貨換算会計①	換算会計の意義と換算方法	練習問題8	9	外貨換算会計②	外貨建取引、金銭債権、優待証券	練習問題9	10	外貨換算会計③	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	練習問題10	11	企業結合会計①	企業結合会計基準取得と持分の結合	練習問題11	12	企業結合会計②	取得の会計処理とのれんの会計	練習問題12	13	企業価値とディスクロージャー①	企業価値とは、なぜディスクロージャーが必要とされるのか	練習問題13	14	企業価値とディスクロージャー②	資本コストと企業価値、自発的開示とIR	練習問題14	15	まとめ		配布した資料、練習問題の復讐
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	連結財務諸表の作成①	連結財務諸表とは、連結主体論、連結範囲	練習問題1 (講義後に配布)																																																																
2	連結財務諸表の作成②	少数株主持分、のれんの処理、	練習問題2																																																																
3	連結財務諸表の作成③	連結貸借対照表の作成	練習問題3																																																																
4	連結財務諸表の作成④	連結損益計算書の作成	練習問題4																																																																
5	連結財務諸表の作成⑤	持分法の適用	練習問題5																																																																
6	セグメント情報	事業別セグメント、地域別セグメント	練習問題6																																																																
7	株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書の意義と目的、表示区分と作成方法	練習問題7																																																																
8	外貨換算会計①	換算会計の意義と換算方法	練習問題8																																																																
9	外貨換算会計②	外貨建取引、金銭債権、優待証券	練習問題9																																																																
10	外貨換算会計③	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	練習問題10																																																																
11	企業結合会計①	企業結合会計基準取得と持分の結合	練習問題11																																																																
12	企業結合会計②	取得の会計処理とのれんの会計	練習問題12																																																																
13	企業価値とディスクロージャー①	企業価値とは、なぜディスクロージャーが必要とされるのか	練習問題13																																																																
14	企業価値とディスクロージャー②	資本コストと企業価値、自発的開示とIR	練習問題14																																																																
15	まとめ		配布した資料、練習問題の復讐																																																																
関連科目	企業簿記システム、財務会計論、管理会計論、経営分析論、国際会計論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会計情報分析</td> <td>鳥邊、東原</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会計情報分析	鳥邊、東原	中央経済社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	会計情報分析	鳥邊、東原	中央経済社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	課題提出(40%)と、定期テスト(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	会計情報を分析し、活用するためには、会計ルール(基準)やその作成プロセスを理解することが必要です。企業活動の多様化、グローバルに伴い、会計ルールも複雑化しています。本講義では、連結財務諸表や外貨換算会計、企業結合会計などより高度な会計情報について学びます。																																																																		
担当者の研究室等	11号館8階(佐井教授室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	会計情報論 I	科目名 (英文)	Accounting and Information Systems I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	会計情報とは、企業の経済活動という現実の事象を、会計ルールに従って加工ないし写像したものである。ゆえに会計情報を解釈し、その背後にある現実の事象を正しく把握するには、会計ルールすなわち会計固有の用語とその仕組みに関する知識が不可欠である。特に近年、企業活動の多様化、グローバル化に伴い会計ルールは、さまざまな形で新設、変更された。本講義では、連結会計情報、連結株主資本等変動計算書、企業結合会計等について解説する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結財務諸表作成の基本的ルールを理解する。</li> <li>・子会社、関連会社、関係会社等グループ経営について理解する。</li> <li>・持分法に関する手続きを理解する。</li> <li>・株主資本等変動計算書作成の基本的ルールを理解する。</li> <li>・企業結合会計について理解する。</li> <li>・公表されている会計情報を、自ら利用できるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	配布資料を用いた講義及び事例研究をおこなう。講義内容の理解を深めるために練習問題を解く。
科目学習の効果 (資格)	公認会計士試験、税理士試験、証券アナリスト試験等の会計資格取得に有用である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	連結財務諸表の作成①	連結財務諸表とは、連結主体論、連結範囲	練習問題 1 (講義後に配布)
	2	連結財務諸表の作成②	少数株主持分、のれんの処理、	練習問題 2
	3	連結財務諸表の作成③	連結貸借対照表の作成	練習問題 3
	4	連結財務諸表の作成④	連結損益計算書の作成	練習問題 4
	5	連結財務諸表の作成⑤	持分法の適用	練習問題 5
	6	セグメント情報	事業別セグメント、地域別セグメント	練習問題 6
	7	株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書の意義と目的、表示区分と作成方法	練習問題 7
	8	外貨換算会計①	換算会計の意義と換算方法	練習問題 8
	9	外貨換算会計②	外貨建取引、金銭債権、優待証券	練習問題 9
	10	外貨換算会計③	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	練習問題 10
	11	企業結合会計①	企業結合会計基準取得と持分の結合	練習問題 11
	12	企業結合会計②	取得の会計処理とのれんの会計	練習問題 12
	13	企業価値とディスクロージャー①	企業価値とは、なぜディスクロージャーが必要とされるのか	練習問題 13
	14	企業価値とディスクロージャー②	資本コストと企業価値、自発的開示と I R	練習問題 14
	15	まとめ		配布した資料、練習問題の復讐

関連科目 企業簿記システム、財務会計論、管理会計論、経営分析論、国際会計論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会計情報分析	鳥邊、東原	中央経済社

評価方法 (基準)	課題提出 (40%) と、定期テスト (60%)
学生へのメッセージ	会計情報を分析し、活用するためには、会計ルール (基準) やその作成プロセスを理解することが必要です。企業活動の多様化、グローバルに伴い、会計ルールも複雑化しています。本講義では、連結財務諸表や外貨換算会計、企業結合会計などより高度な会計情報について学びます。
担当者の研究室等備考	11号館 8階 (佐井教授室)

科目名	会社法 I	科目名 (英文)	Corporate Law I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦

授業概要・目的	会社法 I では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験 (法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など) の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	会社法総論	会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 5～p. 19 を読んでおくこと。
3	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 36 を読んでおくこと。
4	株式 (1)	株式総説、株主名簿。	教科書 p. 37～p. 45 を読んでおくこと。
5	株式 (2)	株式の譲渡、自己株式。	教科書 p. 45～p. 52 を読んでおくこと。
6	株式 (3)	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 52～p. 60 を読んでおくこと。
7	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 66 を読んでおくこと。
8	株式会社の機関 (1)	株式会社の機関総説。	教科書 p. 66～p. 69 を読んでおくこと。
9	株式会社の機関 (2)	株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 69～p. 83 を読んでおくこと。
10	株式会社の機関 (3)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会。	教科書 p. 83～p. 106 を読んでおくこと。
11	株式会社の機関 (4)	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 106～p. 114 を読んでおくこと。
12	株式会社の機関 (5)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p. 114～p. 127 を読んでおくこと。
13	株式会社の機関 (6)	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書第 p. 127～p. 146 を読んでおくこと。
14	計算、定款の変更	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更。	教科書 p. 147～p. 160 を読んでおくこと。
15	解散、清算、会社法 I まとめ	解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算、会社法 I 総括。	教科書 p. 160～p. 164 を読んでおくこと。

関連科目	会社法 II、民法、企業論、企業簿記。
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する (80%)。 その他講義中の発言も加味する (20%)。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。



科目名	会社法Ⅱ	科目名(英文)	Corporate Law II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦

授業概要・目的	会社法Ⅱでは、会社法Ⅰで習得した知識をもとに、組織再編を中心に会社法の講義を行います。株式会社の合併・分割・事業譲渡について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	株式会社の機関についての理解を前提として、具体的な会社再編の方法・手続・問題点などを理解する。 そのうえで、実際の会社再編事例を分析・検討し、理解する。 その際には、必ず、条文を参照すること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。会社法の概要。	教科書 p. 1～p. 5 を読んでおくこと。
	2	会社法Ⅰまとめ(1)	会社法総論、株式会社の設立について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 5～p. 36 を読んでおくこと。
	3	会社法Ⅰまとめ(2)	株式、新株予約権について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 37～p. 66 を読んでおくこと。
	4	会社法Ⅰまとめ(3)	株式会社の機関、計算について、会社法Ⅰのまとめ。	教科書 p. 66～p. 164 を読んでおくこと。
	5	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 165～p. 183 を読んでおくこと。
	6	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 184～p. 194 を読んでおくこと。
	7	組織再編(1)	組織再編総説	事前に配布する補足資料を読んでおくこと。
	8	組織再編(2)	合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化。	教科書 p. 195～p. 206 を読んでおくこと。
	9	組織再編(3)	会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 207～p. 213 を読んでおくこと。
	10	組織再編(4)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え。	教科書 p. 213～p. 216 を読んでおくこと。
	11	組織再編(5)	株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え。	前回の授業の復習をしておくこと。
	12	組織再編(6)	事業譲渡・事業の譲受け	教科書 p. 216～p. 219 を読んでおくこと。
	13	組織再編(7)	組織変更の意義、株式会社から持分会社への組織変更、持分会社から株式会社への組織変更。	教科書 p. 219～p. 221 を読んでおくこと。
	14	外国会社・雑則	外国会社、会社の解散命令、公告。	教科書 p. 222～p. 230 を読んでおくこと。
	15	会社法Ⅱまとめ	会社法Ⅱ総括	会社法Ⅱで学習したことを見直しておくこと。

関連科目	会社法Ⅰ、民法、企業論、企業簿記。
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹、相原隆、伊勢田道仁編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(80%)。 その他講義中の発言も加味する(20%)。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	環境と経営	科目名(英文)	Environmental Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之

**授業概要・目的**  
 本講義は、経営学の一分野である、環境経営について学習する。環境経営とは「事業活動に投入される資源・エネルギー・化学物質などの使用から生ずる環境負荷を低減して環境保全を意識的に行いながら、経済価値の創造を同時に追求する経営活動」のことである。これは換言すればCSR（企業の社会的責任）でもある。この環境経営について具体例を交えながら分かり易く解説する。

**到達目標**  
 環境経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。

**授業方法と留意点**  
 授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。

**科目学習の効果(資格)**  
 環境経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業のCSR部門における必須知識の獲得を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			予習	復習
1	第1回 経済学では環境をどうとらえてきたか?	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
2	第2回 ハーマン・デイリーの法則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
3	第3回 ファクター10	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
4	第4回 環境クズネット曲線	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
5	第5回 時代はCSRからCSVへーマイケル・ポーターの考え方	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
6	第6回 3Rそして4Rへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
7	第7回 ゼロエミッション	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
8	第8回 グリーン購入・グリーン調達	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
9	第9回 エコデザイン	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
10	第10回 ライフサイクル・アセスメント(LCA)	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
11	第11回 環境会計	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
12	第12回 環境効率	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
13	第13回 環境イノベーション	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
14	第14回 エコファンダ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。
15	第15回 排出量取引制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習：その日の講義の授業範囲の教科書を読む。	復習：その日の講義の板書を整理する。

**関連科目**  
 環境マネジメントシステムⅠ、環境マネジメントシステムⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境経営入門ー理論と実践ー	金原達夫	創成社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法(基準)**  
 積極的授業参加と発表が45%、定期試験が55%

**学生へのメッセージ**  
 環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。

**担当者の研究室等備考**

科目名	環境マネジメントシステム	科目名(英文)	Environmental Management System
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	井上 尚之

授業概要・目的	日本の主要企業の4万社が国際環境マネジメント規格のISO14001を認証取得している。この数は中国の7万社に次ぐ世界第2位である。本講義ではこのISO14001の内容を具体例を多用しながら学習する。阪神間でISO14001を認証取得している大学は現在1大学のみであるが、この大学の『環境マニュアルを作成したのが、本講義の講師である。この『環境マニュアル』を読み解きながら講義を進める。また後期は、この規格の重要項目である内部監査を学習する。
到達目標	環境マネジメントとは何かを知り、ISO14001をプレゼンできる能力を養う。 また、企業に入った時に環境内部監査ができるスキルを持つことを目指す。
授業方法と留意点	教科書を読ませ、意見を聞きながら双方向の授業を目指す。
科目学習の効果(資格)	企業における環境管理部に配属されても対応できる効果が期待できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ISOの歴史	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
2	ISOの構成・認証登録	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
3	ISOの「環境方針」「大学の環境方針の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
4	ISOの「環境側面」「大学の環境側面の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
5	ISO14001の「法的及びその他の要求事項」「大学の法的及びその他の要求事項の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
6	ISO14001の「目標及び実施計画」「大学の目標及び実施計画の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
7	ISO14001の「資源・役割・責任及び権限」「大学の資源・役割・責任及び権限の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
8	ISOの14001の「力量、教育訓練及び自覚」「大学の力量、教育訓練及び自覚の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
9	ISO14001の「コミュニケーション、文書類、文書管理」大学の「コミュニケーション、文書類、文書管理例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
10	ISO14001の「運用管理」「大学の運用管理の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
11	ISO14001の「緊急事態への準備及び対応」「大学の緊急事態への準備及び対応の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
12	ISO14001の「監視及び測定、順守評価」「大学の監視及び測定、順守評価の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
13	ISO14001の「不適合並びに是正処置及び予防処置」「大学の不適合並びに是正処置及び予防処置の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
14	ISO14001の「内部監査」「大学の内部監査の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
15	ISO14001の「マネジメントレビュー」「大学のマネジメントレビューの例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
16	ISO14001のPDCAサイクルの復習	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
17	ISO14001の「不適合並びに是正処置及び予防処置」の復習	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
18	ISO14001の「内部監査」の復習	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
19	環境内部監査のチェックリストの作成①	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
20	環境内部監査のチェックリストの作成②	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
21	環境内部監査のチェッ	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。

		クリストの作成③	業	復習：その日の授業の板書を整理する。
	22	環境内部監査のチェックリストの作成④	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	23	環境内部監査の計画書の作成①	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	24	環境内部監査の計画書の作成②	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	25	模擬環境内部監査①	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	26	模擬環境内部監査②	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	27	環境内部監査実施報告書①	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	28	環境内部監査実施報告書②	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	29	是正処置報告書/回答書の作成①	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
	30	是正処置報告書/回答書の作成②	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
関連科目	地域と環境法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境学－歴史・技術・マネジメント－	井上尚之	関西学院大学出版会
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
評価方法 (基準)	積極的授業参加・発表 45%、試験 55%			
学生への メッセージ	国際環境マネジメント規格 ISO14001 は今や世界の常識です。この規格のポイントである PDCA サイクルは全ての学習に有用な方法ですので確実にマスターしてください。また、内部監査で培った知識は就職先で役立ちます。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	環境マネジメントシステム I	科目名 (英文)	Environmental Management System
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 尚之

授業概要・目的	日本の主要企業の4万社が国際環境マネジメント規格 ISO14001 を認証取得している。この数は中国の7万社に次ぐ世界第2位である。本講義では、この ISO14001 の内容を具体例を多用しながら学習する。阪神間で ISO14001 を認証取得している大学は現在1大学のみであるが、この大学の『環境マニュアル』を作成したのが、本講義の講師である。 この『環境マニュアル』を読み解きながら講義を進める。
到達目標	環境マネジメントは何かを知り、ISO14001 の概要をプレゼンできる能力を養う。
授業方法と留意点	学生に教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業を目指す。
科目学習の効果 (資格)	企業における環境管理部に配属されても対応できる効果が期待できる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ISO14001 の歴史	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	予習：その日の授業範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業における板書を整理する。
	2	ISO14001 の構成・認証登録	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	3	ISO14001 の「環境方針」「大学の環境方針の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	4	ISO14001 の「環境側面」「大学の環境側面の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	5	ISO14001 の「法的及びその他の要求事項」「大学の法的及びその他の要求事項の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	6	ISO14001 の「目標及び実施計画」「大学の目標及び実施計画の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	7	ISO14001 の「資源・役割・責任及び権限」「大学の資源・役割・責任及び権限の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	8	ISO14001 の「力量、教育訓練及び自覚」「大学の力量、教育訓練及び自覚の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	9	ISO14001 の「コミュニケーション、文書類、文書管理」「大学のコミュニケーション、文書類、文書管理の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	10	ISO14001 の「運用管理」「大学の運用管理の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	11	ISO14001 の「緊急事態への準備及び対応」「大学の緊急事態及び対応の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	12	ISO14001 の「監視及び測定、順守評価」「大学の監視及び測定、順守評価の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	13	ISO14001 の「不適合並びに是正処置及び予防処置、記録の管理」「大学の不適合並びに是正処置及び予防処置、記録の管理の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	14	ISO14001 の「内部監査」「大学の内部監査の例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業
	15	ISO14001 の「マネジメントレビュー」「大学のマネジメントレビューの例」	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業	教科書を読ませ、意見を聞く双方向の授業

関連科目	地域と環境法
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境学－歴史・技術・マネジメント－	井上尚之	関西学院大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	積極的授業参加度・発表45%、試験55%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	国際環境マネジメント規格 ISO14001 はもはや世界の常識です。この規格のポイントである PDCA サイクルは全ての学習に有用な方法ですので確実にマスターしてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	環境マネジメントシステムⅡ	科目名(英文)	Environmental Management System
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 尚之

授業概要・目的	前期で学習した「環境マネジメントⅠ」で得た知識をベースに環境内部監査の方法を学習する。
到達目標	企業における環境内部監査に参加できるレベルのスキルを身に付ける。
授業方法と留意点	学生に教科書を読ませ、意見を聞きながら双方向の授業を進める。
科目学習の効果(資格)	企業における環境内部監査に参加できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ISO14001のPDCAサイクルの総復習	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
2	ISO14001の「不適合並びに是正処置及び予防処置」の復習	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
3	ISO14001の「内部監査」の復習	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
4	環境内部監査のチェックリストの作成①	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
5	環境内部監査のチェックリストの作成②	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
6	環境内部監査のチェックリストの作成③	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
7	環境内部監査のチェックリストの作成④	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
8	環境内部監査の計画書の作成①	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
9	環境内部監査の計画書の作成②	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
10	模擬環境内部監査①	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
11	模擬環境内部監査②	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
12	環境内部監査実施報告書の作成①	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
13	環境内部監査実施報告書の作成②	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
14	是正処置報告書/回答書の作成①	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。
15	是正処置報告書/回答書の作成②	教科書を読ませ、意見を言わせる双方向の授業	予習：その日の授業の範囲の教科書を熟読する。 復習：その日の授業の板書を整理する。

関連科目	環境マネジメントシステムⅠ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境学－歴史・技術・マネジメント－	井上尚之	関西学院大学出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	積極的授業参加・発表45%、試験55%
----------	---------------------

学生へのメッセージ	内部監査で培った知識は就職先で役に立ちます。環境マネジメントシステムⅡは、環境マネジメントシステムⅠの履修を前提にして授業を進めるので、環境マネジメントシステムⅠを履修しておいてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	監査論	科目名(英文)	Auditing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲 秀樹

**授業概要・目的**  
当授業では、監査の中でも企業会計の監査である財務諸表監査を中心に講義する。監査の本質を理解するために、監査の意義・種類について解説し、監査の基本的概念について検討したい。また実際の財務諸表監査とは、いかなる証拠を収集し、評価するのかなど、監査人の具体的な手続についても見ていくことにする。

**到達目標**  
財務諸表監査の限界と有用性を理解し、受講生が将来、財務諸表を活用するときの勘所を獲得することを目標とする。

**授業方法と留意点**  
教科書にもとづいた講義方式。監査について受講生はイメージを描きにくいと思われるので、具体例を交えながら平易な講義を心がけたい。

**科目学習の効果(資格)**  
監査論の基礎知識を得ることにより、公認会計士試験の初歩的な知識を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	監査のフレームワーク(1)	監査とは何か。監査がなぜ必要とされるのか。その意義について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
2	監査のフレームワーク(2)	監査の生成要因と監査の種類について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
3	監査のフレームワーク(3)	財務諸表監査の特質と監査の経済的機能について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
4	監査制度のフレームワーク	アメリカにおける監査基準の生成と展開を概説し、わが国の商法監査制度および証券取引法監査制度について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
5	監査規範の意義とわが国の監査基準(1)	監査規範の意義と体系について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
6	監査規範の意義とわが国の監査基準(2)	監査基準の生成と展開について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
7	監査規範の意義とわが国の監査基準(3)	監査基準における一般基準、実施基準、報告基準について概説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
8	監査意見形成のプロセス(1)	監査意見形成のプロセスはどのような論理に支えられているか、を説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
9	監査意見形成のプロセス(2)	財務諸表監査における経営者の主張と監査要点について考える。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
10	監査意見形成のプロセス(3)	監査手続と監査技術の関係、および監査技術の詳細につき講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
11	リスク・アプローチと監査戦略	リスク・アプローチの意義と監査リスクの構成要素について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
12	リスク評価、実証手続および監査の完了	固有リスクの評価や統制リスクの評価について講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
13	監査報告書と情報提供機能	監査業務の最終成果物である監査報告書について、その意義と機能、利害関係者にとっての意味や監査報告書の利用方法について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
14	総論	現在の会計監査の重要性とその将来性について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
15	おわりに	講義のまとめ	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する

**関連科目**  
会計関連科目、とくに財務会計論を履修していることが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシック監査論(七訂版)	伊豫田隆俊、松本祥尚、林隆敏	同文館出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
評価方法は定期試験が80%、レポートが20%として評価する。

**学生へのメッセージ**  
講義中の私語は厳禁。質問は大歓迎です。学生の講義の理解度に応じて講義内容を変更する場合があります。

**担当者の研究室等**  
11号館6階(経営学部事務室)

**備考**

科目名	管理会計論 I	科目名 (英文)	Management Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的  
 管理会計は、企業内部の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計とは何かについて学んだ上で、予算管理や標準原価計算など伝統的な管理会計の諸技法について学んでいく。

到達目標  
 ① 管理会計の役割・意義について理解する。  
 ② 標準原価計算や予算管理などの管理会計の諸技法について理解する。

授業方法と留意点  
 講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、毎回小テストを行う予定である。

科目学習の効果 (資格)  
 日商簿記検定 2 級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	—————
2	管理会計の意義 (1)	企業会計とは何か、財務会計と管理会計の相違	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
3	管理会計の意義 (2)	管理会計の体系 (業績管理会計と意思決定会計)	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
4	標準原価計算 (1)	原価管理の意味、標準原価計算の意義と目的、原価標準の設定	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
5	標準原価計算 (2)	原価差異の分析 (直接材料費、直接労務費)	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
6	標準原価計算 (3)	原価差異の分析 (製造間接費)	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
7	損益分岐点分析	損益分岐点分析の意義、損益分岐点の計算方法、原価の固定分解	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
8	直接原価計算	直接原価計算の意義、直接原価計算の計算構造、直接原価計算と経営管理	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
9	予算管理 (1)	利益管理の意義、予算管理の意義、予算管理の機能	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
10	予算管理 (2)	予算の種類と体系、予算の編成、参加的予算管理	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
11	予算管理 (3)	予算統制、予算管理の新しい展開	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
12	意思決定会計 (1)	経営意思決定の意義と分類、経営意思決定のプロセス	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
13	意思決定会計 (2)	業務執行的意思決定と差額原価収益分析	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
14	意思決定会計 (3)	戦略的意思決定の必要性、設備投資の経済性計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
15	まとめ	授業全体のまとめ	今まで学んできた内容を復習しておくこと。

関連科目  
 原価計算論、財務会計論など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代 原価・管理会計の基礎	山田庫平、吉村聡	東京経済情報出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
 定期試験の点数 (70 点) と毎回の授業で行う小テストの合計点数 (30 点) に基づいて評価する。

学生へのメッセージ  
 授業中の私語は周りの受講生の迷惑になりますので慎んで下さい。また、講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。

担当者の研究室等  
 11 号館 7 階 (三木准教授室)

備考



科目名	管理会計論Ⅱ	科目名(英文)	Management AccountingⅡ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計の基礎的事項を理解していることを前提にして、1980年代後半から登場してきた戦略管理会計と呼ばれる新しい管理会計の領域について学習していく。
到達目標	① 標準原価計算など伝統的な管理会計技法の限界について理解する。 ② 経営戦略の策定や実行のための管理会計技法について理解する。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、毎回小テストを行う予定である。
科目学習の効果(資格)	日商簿記検定1級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等の説明	_____
	2	原価企画(1)	原価企画生成の背景	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	3	原価企画(2)	原価企画の目的と特徴	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	4	原価企画(3)	原価企画の手続、目標原価の設定方法	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	5	原価企画(4)	VEによる原価低減	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	6	原価企画(5)	原価企画の海外移転	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	7	ABC(1)	ABC生成の背景、ABCの意義	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	8	ABC(2)	ABCの基礎概念、ABCの計算構造	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	9	ABC(3)	ABMの意義、活動分析、原価作用因分析、業績分析	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	10	ABC(4)	ABBの意義、ABBにおける予算編成プロセス	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	11	BSC(1)	BSCの意義、BSCの基本構造	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	12	BSC(2)	因果連鎖、戦略マップ	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	13	BSC(3)	BSCによる戦略のコントロール	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	14	BSC(4)	BSCの導入事例	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	15	まとめ	授業全体のまとめ	今まで学んできた内容を復習しておくこと。

関連科目	原価計算論、財務会計論など
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代 原価・管理会計の基礎	山田庫平、吉村聡	東京経済情報出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の点数(70点)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30点)に基づいて評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になりますので慎んで下さい。また、講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	企業金融論	科目名 (英文)	Corporate Finance
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	本講義では、ファイナンスの基礎概念について説明する。まず、インベストメント（投資）の基礎を重点的に説明し、その後、企業の金融活動について説明する。これらの知識はミクロ的な金融に関するものであり、企業家として活動するにしても、投資家として活動するにしても必須である。
到達目標	ミクロ的な金融に関する基礎知識を修得する。
授業方法と留意点	教科書ならびに配布資料をもとに、講義の後に演習というスタイルで授業を進める。本科目は特に積み重ねが肝要なので、遅刻したり、休んだりした場合には、しっかりとキャッチアップしておくこと。
科目学習の効果（資格）	ファイナンシャル・プランナーの資格取得や金融事象について適格に判断し対応できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	本講義の目標を説明する。また講義の進め方や評価方法等について説明する。	教科書は使用しないが、復習のこと。
2	基礎知識（1）	Excelの使い方について演習を行う。	Excelは頻繁に用いるので使えるようにしておくこと。
3	基礎知識（2）	最低限必要な知識であるキャッシュフロー、金利、現在価値、将来価値、裁定について理解する。	第1章1節について読んでおくこと。また復習も行うこと。
4	金利と債券	債券とは何か、また債券価格の決定、金利と価格の関係、ならびに債券価格に影響を与える要因について理解する。	第1章1節について読んでおくこと。また復習も行うこと。
5	株式	株式とはなにか、また株価の決定、株価に影響を与える要因について理解する。	第1章1節について読んでおくこと。また復習も行うこと。
6	リスク（1）	不確実性とリスク、期待収益、効用、期待効用について理解する。	配布プリントを中心とするため予習は難しいが、復習をしっかりと行うこと。
7	リスク（2）	リスクの代償であるリスクプレミアム、ならびに最適ポートフォリオ導出の際に必要な無差別曲線について理解する。	配布プリントを中心とするため予習は難しいが、復習をしっかりと行うこと。
8	リスクの具体化	リスクを数値化する際に必要となる諸概念について理解する。	第1章2節を読んでおくこと。また復習も行うこと。
9	最適なポートフォリオの選択（1）	分散投資の原理について説明する。その上で2危険資産による効率的フロンティア、さらに安全資産を含めた資本市場線について理解する。	第1章2節を読んでおくこと。また復習も行うこと。
10	最適なポートフォリオの選択（2）	最適ポートフォリオを理解する。	第1章2節を読んでおくこと。また復習も行うこと。
11	資産価格の決定	資産の評価モデルCAPMについて理解する。	第2章1節を読んでおくこと。また復習も行うこと。
12	金融派生商品	金融派生商品を概観し、オプション料決定の原理について理解する。	第2章2節を読んでおくこと。また復習も行うこと。
13	企業の金融活動（1）	投資政策。企業の投資の是非を決する判断基準について理解する。	第3章を読んでおくこと。また復習も行うこと。
14	企業の金融活動（2）	資金調達。企業の資金源や負債による資金調達の長所・短所について説明する。さらにある条件下で成立するMM定理について理解する。	第4章を読んでおくこと。また復習も行うこと。
15	企業の金融活動（3）	資金調達。負債と株式の最適な構成について理解する。	第4章を読んでおくこと。また復習も行うこと。

関連科目	金融論、経営財務論
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい企業金融	米澤康博・小西大・芹田敏夫	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	期末試験（70%）とレポート（30%）をもとに総合的に評価する。詳しくは初回講義開始時に述べる。
学生へのメッセージ	周知のように就職環境は依然厳しく、企業は即戦力を求めている。単位を稼ぐための受動的な受講ではなく、学ぶための能動的な受講姿勢を希望する。
担当者の研究室等	11号館8階（岩坪教授室）
備考	

科目名	企業分析（経営戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	槇谷 正人

授業概要・目的	本科目の到達目標は、経営戦略の理論であるポジショニング・アプローチと資源ベース・アプローチを基礎として、現代企業の経営戦略のケースを分析し競争優位の持続要因を説明できることである。 テーマは、企業のグローバル経営戦略を考察対象として、トップマネジメントの意思決定と経営戦略の実行段階における組織活動を研究する。
到達目標	経営目的としての経営理念と経営手段としての経営戦略との運動に着目し、トップマネジメントとグローバル人材の相互作用に焦点を合わせてケースを比較分析する。
授業方法と留意点	授業方法：各回の授業で、講義・理解促進テスト・討議・発表を行う。 留意点 1. 業種別に代表的企業における経営戦略のケースを提示する。 2. 日米欧企業におけるグローバル経営戦略のケースを比較研究する。 3. 比較研究の方法としてゲーム理論を適用する。 4. 授業期間中、新聞やインターネットで最新の経営戦略ケースの情報収集と分析を行う。
科目学習の効果（資格）	企業研究、企業分析、経営コンサルティング、販売士、中小企業診断士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	経営理念と経営戦略	企業分析の進め方を解説	前期受講科目「経営戦略論」の要点を復習してください。
	2	競争戦略とゲーム理論	ケーススタディの方法複数の比較研究	チーム分けを行い、分業によって事前調査を行います。
	3	競争優位の持続要因	ケーススタディ：戦略と組織の共進化	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	4	持続的成長と価値創造	ケーススタディ：顧客価値創造	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	5	事業ドメインと多角化	ケーススタディ：本業重視多角化戦略	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	6	活動領域の再構成	ケーススタディ：成長ベクトル分析 チーム発表（1）	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	7	全社戦略と組織間関係	ケーススタディ：組織の合理性と創造性 チーム発表（2）	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	8	全社戦略とM&A	ケーススタディ：M&A（合併・買収）の有効性	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	9	ビジネスモデルの変革	ケーススタディ：ビジネス（事業）システム	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	10	経営戦略と戦略マネジメント	ケーススタディ：変革型リーダーシップ	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	11	経営戦略とイノベーション	ケーススタディ：組織変革	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	12	ダイナミック・ケイパビリティの形成	ケーススタディ：組織能力	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	13	グローバル競争戦略と組織形態	ケーススタディ：組織学習	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	14	グローバル戦略と組織文化	ケーススタディ：組織文化	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析
	15	経営戦略の社会的実現性	ケーススタディ：戦略マネジメント	文献調査、有価証券報告書、新聞、雑誌、Web、などの情報収集と分析

関連科目 経営戦略論、経営組織論Ⅰ 経営組織論Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	企業の持続性と組織変革	槇谷正人	文真堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 学年末試験 80%、毎回のディスカッション 10%、課題レポート 10%とする。

学生へのメッセージ  
・事前・事後学習課題は個人研究が必須になりますので注意してください。  
・授業ではケーススタディを通してディスカッション、発表が中心になりますので、チーム学習での主体的なコミットメントが求められます。  
・受講期間中、新聞から情報収集し企業のケーススタディを作成することも事後課題の一つになります。

担当者の研究室等 11号館7階(槇谷研究室)

備考

科目名	企業分析（経営組織ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Organizational Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】 企業の経済的・社会的な役割を認識し、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの内部資源を活用し、組織が社会に与える影響を多面的に分析し、社会の発展に貢献する企業の全体像を理解する。</p> <p>【概要】 本講義は、これまで学んできた専門的な知識を再確認し、かつ、実際の企業活動の実態に触れることによって、より深く企業＜会社＞について理解できるように、実務家の方々をお招きして行われるリレー式の講義である。教室は職場であり、また、学生は職業人であると想定している。従って、遅刻や居眠りが厳禁であることは言うまでもない。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営理念、経営者（トップリーダー）の使命と役割を知る</li> <li>2. 組織管理、組織設計と組織管理・運営の理念と実態を知る</li> <li>3. 組織運営、リーダーシップとマネジメント、組織文化、モラルについて知る</li> <li>4. 組織改革、組織診断の技法とその導入法を知る</li> <li>5. 企業の存在価値、企業の社会的責任、顧客満足と従業員満足について知る</li> </ol>
授業方法と留意点	本講義は、企業経営に携わっている経営者、企業経営のコンサルティングを仕事とされている実務家をお招きし、具体的な事例を通して、企業分析のための実践的な知識を得ることを目的としたリレー式の講義である。学外から来られた先生方に失礼とならないよう、心掛けてください。また、授業担当者の都合によって講義内容の順序に変更がある。
科目学習の効果（資格）	組織の管理と運営に関する具体的な課題と企業の抱える現実的問題を学ぶことができ、就活の良き手引きになると期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業の経営理念（1）：経営理念と経営者の役割	優秀企業を紹介し、企業経営における理念の重要性を学ぶとともに、経営者の役割を理解する。（掛谷）	『経営者の条件』小倉昌男著 『夢を力に』本田宗一郎著
3	企業の経営理念（2）：トップマネジメントとリーダーシップ	経営者の思想や行動様式を理解し、トップリーダーの取るべき役割と組織管理について学ぶ。（掛谷）	『経営はロマンだ』小倉昌男著
4	企業の組織管理（1）：組織設計と組織戦略	会社の仕組みを知るために、組織設計と組織戦略の理論と現実を考える。（福田）	新聞をよく読み、時代の変化に対する企業の在り方を考える。
5	企業の組織管理（2）：組織の機能と効率、指揮と命令	産業能率の観点から、組織の機能と労働効率を理解する。併せて組織における指揮と命令の仕組みを学ぶ。（福田）	新聞をよく読み、今日の企業が抱えている労働問題を取り上げて考えてみよう。
6	企業の組織管理（3）：権限委譲と行動規範	組織における権限委譲と組織行動の関係を学び、組織行動の意味について考える。（河内弘茂：河内経営技術コンサルティング代表）	組織の抱える問題を明らかにし、解決するための方法について考えてみよう。
7	企業の組織運営（1）：組織の原理と原則	組織の原理・原則を具体的に解説し、組織運営に関する課題について考える。（河内）	会社はどのように動いているのか、会社における人的側面について考えてみよう。
8	企業の組織運営（2）：マネジメントとリーダーシップ	組織におけるリーダーシップ機能とリーダーの資質について考える。併せて現代企業のマネジメント理論を理解する。（河内）	組織集団を機能的に動かすためのリーダーの役割について考えてみよう。
9	企業の組織運営（3）：組織文化と人材育成	組織の公式的側面と非公式的側面を理解する。特に、組織文化の役割と企業の人材育成の方法を学ぶ。（福田）	企業文化の必要性について考えてみよう。
10	企業の組織診断（1）：機能組織体、企業経営と付加価値	企業組織の捉え方を理解し、企業の存在意義について学ぶ。（根岸紘一：根岸経営支援事務所）	会社はどのように利益を生み出しているのか。“付加価値創造”の意味を考える。
11	企業の組織診断（2）：組織診断の理論と方法	組織を診断する4つの要素と企業診断の可視化について学ぶ。組織構造・組織管理・従業員属性の診断法を理解する（根岸）	企業分析を多面的に行う技法の有効性を考える。
12	企業の組織診断（3）：運命共同体的組織の目的と課題	組織の健全性を診断するための診断技法の全体像を理解する。具体的な組織診断技法を学ぶ。（根岸）	優秀企業と言われる理由を考えてみよう。
13	企業の組織改善（1）：コーポレート・ガバナンス	企業は誰のものか、企業を動かす力は何かなど、企業統治におけるコーポレート・ガバナンスの理念と課題について理解する。（掛谷）	時代とともに変化する企業のあり方について考えてみよう。
14	企業の組織改善（2）：従業員満足、顧客満足と社会的責任	企業が公器であるという認識のもと、社会のニーズに応え、社会の維持と発展に貢献する企業とは何かについて考える。（掛谷）	社会に貢献する企業のイノベーションについて考えてみよう。
15	授業のまとめ	企業で働くための心構えについて、講師の先生方と意見交換する。（掛谷・河内・根岸・福田）	企業研究の方法や企業訪問における心構えなどを修得する。

関連科目 企業経営コースのすべての科目と関係する。特に、組織論や人的資源管理論との関係は深い。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は指定しない。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義の中で随時紹介する。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	リレー式の講義であり、毎回小レポート課題が課せられます。レポート評価点を合計して、成績を判定します。したがって、期末試験は実施しません。14回のレポートは各8点満点で評価し、その総合点を100として成績評価します。欠席は8点のマイナスとなります。			
学生への メッセージ	講師の先生は実務家です。ビジネスでは遅刻や私語は厳禁。また、中途の入室退室も厳禁。居眠りは失礼である。公私を弁えて、マナーに反しないように心掛けてください。出席管理システムのデータは成績評価に用いないが、必ず学生証でチェックすること。			
担当者の 研究室等	11号館7階(福田研究室)および6階経営学部事務室			
備考	授業時間外の質問や相談は授業担当の一人である福田が受け付けます。遠慮せず、福田研究室(11号館7階)まで。			

科目名	企業分析（コーポレートガバナンス）	科目名（英文）	Analysis of Corporate Governance
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶのは、ビジネスにおける「潮流」です。2015年6月、全ての上場企業に対し、コーポレートガバナンス（企業統治）・コードが適用されました。そもそもコーポレートガバナンスとは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</li> <li>・主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①いま、なぜコーポレートガバナンスが必要なのか？ 現在、それは社会的にどのような「潮流」になっているのか？</li> <li>②コーポレートガバナンス・コードとは何か？ なぜそれが生まれたのか？</li> <li>③コーポレートガバナンス、コンプライアンス、内部統制、リスクマネジメント、企業倫理、CSR・・・、それぞれ何が違い、また何が同じなのか？</li> <li>④コーポレートガバナンスを企業の成長に結び付けるためには、どうすれば良いのか？</li> </ol> </li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・コーポレートガバナンスにおける現在の「潮流」事例について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① コーポレートガバナンスにおける現在の「潮流」について、毎回ショートケーススタディ（仮想企業による事例分析）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返す、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方の違いを体感します。</li> </ol> </li> <li>・前期の授業において、経営倫理Ⅰを履修していることをお薦めします。</li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;予習&gt; テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。</li> <li>&lt;復習&gt; 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるように。</li> </ul>
	2	コーポレートガバナンス・コードの5つの基本原則①	ケーススタディ① ～株主の権利・平等性の確保～	同上
	3	同上②	ケーススタディ② ～株主以外のステークホルダーとの適切な協働～	同上
	4	同上③	ケーススタディ③ ～適切な情報開示と透明性の確保～	同上
	5	同上④	ケーススタディ④ ～取締役会等の責務～	同上
	6	同上⑤	ケーススタディ⑤ ～株主との対話～	同上
	7	ケーススタディで考えるコーポレートガバナンス①	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード① ～コーポレートガバナンス・コード～	同上
	8	同上②	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード② ～ステュワードシップ・コード～	同上
	9	同上③	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード③ ～エンゲージメント～	同上
	10	同上④	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード④ ～政策保有株式～	同上
	11	同上⑤	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑤ ～ROE～	同上
	12	同上⑥	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑥ ～モニタリング・モデル～	同上
	13	同上⑦	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑦ ～独立社外取締役～	同上
	14	同上⑧	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑧ ～監査等委員会設置会社～	同上
	15	同上⑨	コーポレートガバナンスの「潮流」を理解するキーワード⑨ ～グループ内部統制～	同上

関連科目	経営倫理Ⅰ、経営倫理Ⅱなど
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	すべて教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	変わるコーポレートガバナンス	森・濱田松本法律事務所編	日本経済新聞出版社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①グループ討議への参加意欲・発言内容 (40%)、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (20%)、 ③プレゼン力および質疑応答対応力 (20%) ④定期試験 (論述式) (20%) による総合評価。 ただし、①～③は、毎回の授業の都度採点し、集計します。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室			
備考				

科目名	企業分析（財務戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Financial Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	経営分析論（ないし経営分析論Ⅰ）の基本的な知識を前提に、上場企業の財務データに経営分析や企業評価に向けた各種の分析手法を実際に適用することによって、主に財務的な観点から、対象企業の強み・弱みを把握することによって、企業の経営戦略を評価し、企業価値評価に向けた手がかりを与える。
到達目標	大規模上場企業が開示する実際の有価証券報告書、特にそこに含まれる連結財務諸表を読み理解したうえで、経営分析論における各種の分的手法を適用することができる。 分析手法を適用してえた結果を自ら解釈し、企業の現実の戦略を評価する実践的な能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	配布する講義資料に沿って講義を進める。主な作業は、①経営分析・企業評価の各種分析手法を正確に理解し具体的に適用するという側面と②それらの手法を適用して得られた結果を受講生自ら適切に解釈・評価するという側面の二つから構成される。経営分析論（ないし経営分析論Ⅰ）とは異なり、本科目では、後者に重点がおかれることに留意する。テーマごとに演習問題に取り組み、財務比率を算定し、得られた数値を自ら解釈し評価する時間を可能な限り与えたいと考えている。また、各自の評価について討論することも考えている。 配布資料は、本講義のテキストである。配布のつどファイルし、必ず講義に持参すること。また計算機器を毎回携帯すること。 私語を慎み、真面目な受講態度で講義に臨むこと。
科目学習の効果（資格）	企業への就職希望者、専門的職業人（とくに中小企業診断士、証券アナリストなど）の資格取得に関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	上場企業の（連結）財務諸表	分析の対象となる財務データの中核である企業の（連結）財務諸表を読み、利用するに際して注意すべきポイントを連結財務諸表固有の項目を中心に解説する。近時、作成が強制された包括利益計算書についても合わせて説明する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
3	企業の総合力を財務情報から把握する（1）	企業の総合力を表す代表的な財務指標である総資本事業利益率（ROA）と自己資本利益率（ROE）およびこれらの指標の分解の意義を改めて説明する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
4	企業の総合力を財務情報から把握する（2）	実際の上場企業の財務データを用いて、ROA・ROE およびその構成要素の数値を算定し、得られた結果をライバル企業と比較するなどして、当該企業の全体としての強み・弱みを評価する方法を学ぶ。また見出された弱点についての改善策を模索する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
5	企業の総合力を非財務情報から把握する	企業の総合力を知るためには、財務情報に加えて、有価証券報告書・企業のHPなどから得られる非財務情報を分析することが不可欠である。企業の総合力把握に向けて、分析すべき重要な非財務情報にはどのようなものがあるのか、またそれらの非財務情報をどのように分析するのかを検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
6	企業の収益力をみる（1）	企業の狭義の収益性の指標である各種の「売上高利益率」を財務データから求め、タイムシリーズ分析・クロスセクション分析を実施し、評価対象である上場企業の収益力を評価する方法を学ぶ。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
7	企業の収益力をみる（2）	実際の財務諸表データのみでは用いることが困難な分析手法であるものの、企業の収益力の分析には欠かせない分析手法である「損益分岐点分析」を取り上げ説明する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
8	整理と復習（1）	前半のこれまでの講義の主要な論点を改めて整理し、復習する（講義の進捗に応じて前後することがある）。	これまで配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について事前に整理しておくこと。質問を受ける。
9	企業の効率性をみる	企業が効率的に資産（・資本）を利用することは、一方で企業の収益性を高め、また他方では企業の安全性を高める。資産（・資本）利用の効率性を表す各種の「資本回転率」の分析の仕方・得られた結果の評価の仕方を学ぶ。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
10	企業の安全性をみる（1）	支払能力を意味する企業の財務的安全性に関する分析手法と評価方法を説明する。今回は、とくに短期の財務安全性（流動性ともよばれる）に焦点をあて、企業の営業活動に注目する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。
11	企業の安全性をみる（2）	前回に引き続き、安全性という視点から、上場企業の財務データを用いて取り上げた企業とライバル企業とを比較する。今回は、特に、「長期安全性」に焦点をあて、企業の資金調達行動の特徴をとらえる。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。



	12	企業の成長性をみる	今後、企業が成長すると投資者が予測すれば株価は上昇する。投資者の最大の関心事は株価であり、それゆえ株価形成を大きく左右する企業の成長性予測は重要である。今回は、企業の成長性を分析するための各種の手法を取り上げ、得られた結果をどのように評価するのかを学ぶ。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。																
	13	企業の生産性をみる	実際の財務諸表データのみでは算定が困難であるが、生産性分析のキー概念である付加価値の意義・算定方法を説明し、収益性分析との関係を念頭において、生産性に関する関係比率の意味を検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。																
	14	企業業績と株価の関係	上場企業の財務データを用いて、これまでの講義の中心であった企業業績に関する各種の経営分析結果と資本市場における投資者の評価を照らし合わせ、経営者の経営戦略のあり方と投資者の企業評価の関係および自社の株価上昇に向けて経営者がなすべきことは何か、などを実際の財務データ・株価データを用いて検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に再読し、不明な点は翌週の講義の際に必ず質問し理解を確かなものにする。																
	15	整理と復習（2）	これまでの講義全体（とりわけ後半の講義）で取り上げた論点について、改めて整理し、復習する。	これまでの講義全体（特に後半の講義）において配布したすべての講義資料・演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について事前に整理しておくこと。質問を受ける。																
関連科目	経営分析論、財務会計論、管理会計論、経営財務論、企業金融論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	特に指定しない																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>財務諸表の見方（日経文庫）</td> <td>日本経済新聞社</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ビジネスゼミナール 決算書の読み方</td> <td>岩田康成・脇田良一</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ビジネスゼミナール 経営分析入門</td> <td>森田松太郎</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	財務諸表の見方（日経文庫）	日本経済新聞社	日本経済新聞出版社	2	ビジネスゼミナール 決算書の読み方	岩田康成・脇田良一	日本経済新聞出版社	3	ビジネスゼミナール 経営分析入門	森田松太郎	日本経済新聞出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	財務諸表の見方（日経文庫）	日本経済新聞社	日本経済新聞出版社																	
2	ビジネスゼミナール 決算書の読み方	岩田康成・脇田良一	日本経済新聞出版社																	
3	ビジネスゼミナール 経営分析入門	森田松太郎	日本経済新聞出版社																	
評価方法（基準）	定期試験の結果 95%、1回の演習問題の提出（提出の場合は事前に通知する） 5%。																			
学生へのメッセージ	<p>本科目の重要な作業は、現実の企業の財務データを分析し、受講生自らの手で企業を評価してみることである。そえゆえ、「財務諸表や経営分析に関する基礎的な知識を有している」という前提のもとで講義が開始されることに留意すること。もとより本科目においても経営分析の重要な手法などについて改めて時間を割いて説明するが、財務会計論・経営分析論を履修済みであることが望ましい。</p> <p>熱心かつ真面目な態度で授業に臨み、演習問題に関する討論にも積極的に参加すること。</p> <p>私語は他の受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。質問は大いに歓迎する。</p>																			
担当者の研究室等	11号館8階（高尾研究室）																			
備考	講義内容が前後するなど若干の変更等が必要となる場合がある。																			

科目名	企業簿記	科目名(英文)	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的  
簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きにまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。

到達目標  
簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。

授業方法と留意点  
最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。

科目学習の効果(資格)  
日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	教科書の該当箇所参照
2	簿記の基礎②	取引と勘定	教科書の該当箇所参照
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	教科書の該当箇所参照
4	簿記の基礎④	試算表	教科書の該当箇所参照
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	教科書の該当箇所参照
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	教科書の該当箇所参照
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
8	現金・預金①	現金・現金過不足	教科書の該当箇所参照
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	教科書の該当箇所参照
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	教科書の該当箇所参照
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	教科書の該当箇所参照
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	教科書の該当箇所参照
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	教科書の該当箇所参照
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	教科書の該当箇所参照
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	教科書の該当箇所参照

関連科目  
財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式 日商簿記検定問題集3級改訂版	渡辺正直	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業簿記	紙博文	大学教育出版
2			
3			

評価方法(基準)  
学期末試験の結果により評価する。

学生へのメッセージ  
簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。

担当者の研究室等  
11号館7階(三木准教授室)

備考

科目名	企業簿記	科目名(英文)	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F G H J K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 博人

授業概要・目的  
簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きにまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。

到達目標  
簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。

授業方法と留意点  
最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。

科目学習の効果(資格)  
日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	教科書の該当箇所参照
2	簿記の基礎②	取引と勘定	教科書の該当箇所参照
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	教科書の該当箇所参照
4	簿記の基礎④	試算表	教科書の該当箇所参照
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	教科書の該当箇所参照
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	教科書の該当箇所参照
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
8	現金・預金①	現金・現金過不足	教科書の該当箇所参照
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	教科書の該当箇所参照
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	教科書の該当箇所参照
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	教科書の該当箇所参照
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	教科書の該当箇所参照
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	教科書の該当箇所参照
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	教科書の該当箇所参照
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	教科書の該当箇所参照

関連科目  
財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式 日商簿記検定問題集3級改訂版	渡辺正直	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業簿記	紙博文	大学教育出版
2			
3			

評価方法(基準)  
学期末試験の結果により評価する。

学生へのメッセージ  
簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。

担当者の研究室等  
11号館6階(非常勤講師室)

備考

科目名	企業論	科目名(英文)	Theory of Corporate Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶのは、「戦略」です。企業とは何か？ 経営学部の学生にとって、企業の何を学ぶべきなのか？</li> <li>・主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①学生の目線で、企業をどの視点から、どう捉えるのか？</li> <li>②企業の様々な「戦略」は、なぜ生まれるのか？ 何が目的なのか？</li> <li>③激動の時代変遷の中で、企業は今後どうあるべきなのか？</li> </ul> </li> </ul>
---------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・企業のしくみ・社会的役割や将来像について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> </ul>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 企業を取り巻く様々なテーマについて、毎回ショートケーススタディ（仮想企業による事例分析）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③ グループメンバー、役割分担は定期的交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</li> </ul> </li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
----------	--

科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。 <復習> 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるように。
	2	なぜ、企業は生まれるのか？	個人経営、組合、NPO法人等との違い そのメリット・デメリット	同上
	3	どうやって、企業はつくるのか？	企業設立登記、定款、資本金 開業準備と資金調達	同上
	4	なぜ、株式会社が最も多いのか？	企業の様々な種類、 経営と所有の分離	同上
	5	なぜ、企業は上場するのか？	株式上場のメリット・デメリット	同上
	6	なぜ、株主総会が必要なのか？	株主総会の役割、 株主の権利と責任	同上
	7	企業では、誰が意思決定し、 誰がチェックするのか？	取締役会、監査役会、委員会、会計監査人	同上
	8	大企業と中小企業では、何が違うのか？	中小企業の定義と経営戦略	同上
	9	なぜ、企業は提携するのか？	競争と連携、多角化経営	同上
	10	なぜ、企業は国際化を目指すのか？	グローバル経営、 国際化のメリット・デメリット	同上
	11	なぜ、ファブレス経営なのか？	ファブレス経営、 アウトソーシング	同上
	12	なぜ、企業は失敗するのか？	コンプライアンスと内部統制	同上
	13	なぜ、企業はリストラするのか？	労働者の雇用関係、 変動費と固定費	同上
	14	なぜ、企業は倒産するのか？	企業倒産の原因・種類とその社会的影響	同上
	15	企業の社会的責任とは何か？	リスクマネジメントとCSR経営	同上

関連科目	経営学、経営戦略論、中小企業論など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	すべて教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社のしくみ	坂田 岳史	日本実業出版社
	2	よくわかる企業論	佐久間 信夫	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グループ討議への参加意欲・発言内容(40%)、</li> <li>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力(20%)、</li> <li>③プレゼン力および質疑応答対応力(20%)</li> <li>④定期試験(論述式)(20%)</li> </ul> による総合評価。ただし、①～③は、毎回の授業の都度採点し、集計します。
----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館7階 大田住吉研究室
------------	----------------

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	横谷 正人

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		



科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。																
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。																
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。		
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかりと身につけた自立した大学生となる。		
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山 俊宏

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジユメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山 俊宏

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業 (reference studies) です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生と情報して身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。			
到達目標	大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる。			
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子 (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心を持ち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある学生生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。			



科目名	金融商品取引法	科目名 (英文)	Financial Instrument and Exchange Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫

授業概要・目的	金融商品取引法は、大衆投資家を保護する法律であるとともに、実質的に大企業に対する国家による規制を行うものである。第二次大戦後、アメリカ合衆国の1933年証券法および1934年証券取引所法を参考にして、導入されたものである。証券市場で株式が取引される大企業を規制するものであり、会社法を補完する重要な商事特別法である。大企業や金融商品取引業者に就職する予定の者は、受講が望ましい。
到達目標	金融商品取引法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	金融商品取引法は、金融商品取引特有のテクニカル・タームが多く、また、条文が長く、難解である。できるだけ解りやすく説明するので、忍耐強く、勉強してください。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	上場会社や金融商品取引業者に就職する者にとって必須の講義である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	有価証券の取引方法	有価証券の上場 有価証券取引の仕組み 金融商品取引所	教科書25ページ～39ページ
3	企業内容の開示規制 (1)	開示規制の内容 有価証券を発行する際の開示発行開 示制度	教科書40ページ～62ページ
4	企業内容の開示規制 (2)	上場会社等が行う定期的な開示継続 開示制度 財務情報の正確性を確保するための制 度 虚偽の情報開示を行った者はどのよ うな責任を負うか	教科書62ページ～87ページ
5	金融商品取引業者の規制 (1)	金融商品取引業の意義 開業の規制と登録制度 金融機関と金融商品取引業務 金融商品仲介業制度	教科書88ページ～104ページ
6	金融商品取引業者の規制 (2)	外務員の規制 金融商品取引業者の誠実公正義務 顧客に対する情報提供に関する規制 特定投資家への適用除外	教科書105ページ～115ページ
7	企業支配に関する開示制度 (1)	公開買付 (TOB)	教科書116ページ～133ページ
8	企業支配に関する開示制度 (2)	株券委等を大量に保有する者の開示義 務とは一五パーセントルール 委任状勧誘規制	教科書133ページ～152ページ
9	投資信託および集団投資ス キーム (1)	投資信託および集団投資スキームの経 済的意義 投資信託の仕組みと規制 投資法人の仕組みと規制	教科書153ページ～161ページ
10	投資信託および集団投資ス キーム (2)	投資助言と投資一任 集団投資スキーム持分の規制	教科書161ページ～164ページ
11	不正な取引の規制 (1)	詐欺的行為を禁止する157条 インサイダー取引 (内部者取引) の規制	教科書165ページ～185ページ
12	不正な取引の規制 (2)	相場操縦の規制	教科書185ページ～194ページ
13	不正な取引の規制 (3)	金融商品取引業者による不正取引	教科書194ページ～206ページ
14	法の実現	罰則と課徴金	教科書207ページ～209ページ
15	デリバティブ取引	デリバティブ取引とは デリバティブ取引の例 金融商品取引法上のデリバティブ取引 の定義とは 市場デリバティブ取引、店頭デリバティ ブ取引、外国デリバティブ取引とは	教科書210ページ～217ページ

関連科目	会社法
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる金融商品取引法 (第3版)	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・ 釜田薫子	弘文堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
-----------	--------------------------

学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。ポケットい六法を授業中は携帯してください。金融商品取引法は、法律の条文ばかりではなく、政令・省令・金融商品取引所の規制も重要ですので、忍耐強く勉強してください。
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室
備考	

科目名	金融論	科目名(英文)	Theory of Money and Banking
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	本講義の目的は、金融知識の重要性を認識するとともに、その基礎知識や応用力を修得することにある。私たちの暮らしでは、サラリーマンとして、経営者として、主婦・主夫として等々、どのような立場にあっても金融的事象が付きまとう。これは暮らしを支える経済が金融と密接な関係にあるからである。本講義では、ライフイベントごとの金融の重要性を認識してもらうことから始め、貨幣や金利といった金融の基礎概念、さらに銀行や保険会社、証券会社といった金融システムの解説を行う。
到達目標	新聞やTV、インターネットを通じた、さらに言えば身の回りにも潜む金融的事象を整理・理解するために、金融の基礎的知識とその応用力の修得を目標とする。
授業方法と留意点	授業は教科書とともに配布資料を用いながら講義形式で進める。できる限り学生との対話を重視しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに参加して欲しい。
科目学習の効果(資格)	金融的事象について適格に判断し対応できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに	金融論で学ぶこと	教科書第1章について予習し、配布プリントを用い復習のこと	
2	金融の重要性を知る	ライフイベントにおける金融の重要性を解説する	配布プリントにて復習のこと	
3	貨幣	貨幣の機能、貨幣の機能を定義すると貨幣の範疇が格段に広がること、貨幣と物価の関係等を解説する	第2章について予習し、配布プリントを用い復習のこと	
4	金利(1)	単利と複利、実質利率と名目利率、債券の残存期間と金利の関係等を解説する	第3章について予習し、配布プリントを用い復習のこと	
5	金利(2)	債券価格の決定と金利の関係等を解説する	第3章について予習し、配布プリントを用い復習のこと	
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認、マーケットデータを読む際の注意点	教科書第3、13章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特徴を解説する	教科書第11、12章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
8	金融システムの役割と日本の金融システムの特徴	金融システムの役割、日本の金融システムについて解説する	教科書第7章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
9	金融政策	日本銀行、金融政策の長期効果について解説する	教科書第4章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
10	日本の金融サービス業(1)	保険会社の機能や実態について解説する	教科書第9章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
11	日本の金融サービス業(2)	銀行の機能や実態について解説する	教科書第8、9章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
12	日本の金融サービス業(3)	証券会社、証券取引所、格付け機関等、有価証券を取り扱う機関について解説する	教科書第9章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
13	日本の金融サービス業(4)	公的金融機関と財政投融资について解説する	教科書第9章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
14	金融システムの安定化のための政策	主としてプルーデンス政策を解説する	教科書第10章を予習し、配布プリントを用い復習のこと	
15	まとめ	講義内容のまとめを行い、期末試験について解説する	これまでに配布したプリントを持参のこと、ならびに復習のこと	

関連科目: くらしと経済、ミクロ経済学、マクロ経済学、企業金融論、経営財務論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶ金融のしくみ 第4版	家森信善	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準): 期末試験(100%)を基に評価する。詳しくは初回講義時に述べる。

学生へのメッセージ: 周知のように就職環境は厳しく、企業は即戦力を求めている。単位を稼ぐための受動的な受講ではなく、学ぶための能動的な受講姿勢を希望する。

担当者の研究室等備考: 11号館8階(岩坪教授室)

科目名	経営学	科目名(英文)	Business Administration
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	庭本 佳子, 畠山 俊宏

授業概要・目的	<p>[前期] 【授業概要】 本講義では、はじめて経営学に接する学生を対象に、企業経営の仕組みとその運営の仕方について基礎から説明していきます。企業を経営するとは、どういったことをいうのでしょうか。また、企業の経営には何が必要で、企業はどのような仕組みで動いているのでしょうか。こうした問いについて、私たちの日頃の生活とリンクさせつつ経営学領域の色々な側面から考察します。 経営学の基礎的な概念や理論に触れ、経営学に関する基本的な知識を蓄積していきます。</p> <p>【目的】 はじめて経営学を学ぶ学生が、経営学とは何かについてイメージし経営学を学習する機会を提供することを目的としています。</p> <p>[後期] 経営学には様々な分野や理論があります。それらを理解するためには、実際の企業の行動から学ぶことが必要です。本講義では、企業のケースを用いて経営学の基本的な概念を理解することを目標とします。</p>																																																																																						
到達目標	<p>[前期] 【到達目標】 ①経営学の基本的な概念や用語を理解すること ②具体的な企業の経営現象について、学んだ概念や用語によって説明できるようになること</p> <p>[後期] 実際の企業を事例に経営学の基本的な概念を説明できる。</p>																																																																																						
授業方法と留意点	<p>[前期] 教科書を中心とした講義を行います。講義の理解を促進するために、数回の中間テストを講義の中で行います。</p> <p>[後期] 講義形式で授業を進めます。理解を深めるために適宜、小テストを実施します。</p>																																																																																						
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、販売士、公認会計士																																																																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業についてのガイダンスを行います。</td> <td>事前にシラバスを読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>企業経営入門(1)</td> <td>企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>企業経営入門(2)</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>企業と社会</td> <td>社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>企業形態</td> <td>企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コーポレート・ガバナンス</td> <td>所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経営理念</td> <td>企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>企業戦略</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>競争戦略</td> <td>企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>経営資源</td> <td>企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>マーケティング</td> <td>企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>組織形態</td> <td>企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本企業の組織形態</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>組織間関係</td> <td>企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義内容をまとめます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>ガイダンス</td> <td>本講義のガイダンスを行います。</td> <td>シラバスを事前に読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>企業を起こす</td> <td>ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。</td> <td>教科書の第1章を読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>現代企業の発生</td> <td>ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。</td> <td>教科書の第3章を読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>環境・戦略・組織</td> <td>フォードとGMを事例に経営戦略と経営組織の発展について解説します。</td> <td>教科書の第4章を読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>新しい事業の創造</td> <td>ヤマト運輸を事例に新たな事業を創造する方法について解説します。</td> <td>教科書の第5章を読んでおくこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。	2	企業経営入門(1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習	3	企業経営入門(2)	前回の続き	今回のノートの復習	4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習	5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習	6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習	7	経営理念	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習	8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習	9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習	10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習	11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習	12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習	13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習	14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習	16	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと	17	企業を起こす	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと	18	現代企業の発生	ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと	19	環境・戦略・組織	フォードとGMを事例に経営戦略と経営組織の発展について解説します。	教科書の第4章を読んでおくこと	20	新しい事業の創造	ヤマト運輸を事例に新たな事業を創造する方法について解説します。	教科書の第5章を読んでおくこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																																				
1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。																																																																																				
2	企業経営入門(1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習																																																																																				
3	企業経営入門(2)	前回の続き	今回のノートの復習																																																																																				
4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習																																																																																				
5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習																																																																																				
6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習																																																																																				
7	経営理念	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習																																																																																				
8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習																																																																																				
9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																																				
10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																																				
11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習																																																																																				
12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習																																																																																				
13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習																																																																																				
14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習																																																																																				
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習																																																																																				
16	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと																																																																																				
17	企業を起こす	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと																																																																																				
18	現代企業の発生	ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと																																																																																				
19	環境・戦略・組織	フォードとGMを事例に経営戦略と経営組織の発展について解説します。	教科書の第4章を読んでおくこと																																																																																				
20	新しい事業の創造	ヤマト運輸を事例に新たな事業を創造する方法について解説します。	教科書の第5章を読んでおくこと																																																																																				

	21	いかに競争するか	マクドナルドとモスバーガーを事例に競争戦略の概要について解説します。	教科書の第6章を読んでおくこと																
	22	事業のリストラクチャリングと組織改革	GEを事例に企業革新について解説します。	教科書の第7章を読んでおくこと																
	23	小テスト	1回から7回の内容で小テストを実施します。	教科書の第1章から第7章(第2章を除く)と講義の1回から7回までを復習しておくこと																
	24	破壊的技術への対応とドメインの再定義	富士写真フィルムを事例に破壊的技術に対応するイノベーションについて解説します。	教科書の第9章を読んでおくこと																
	25	いかに国際化するか	ノキアを事例に企業の国際化戦略について解説します。	教科書の第10章を読んでおくこと																
	26	日本的生産システム	トヨタを事例にジャスト・イン・タイムなどのトヨタ生産方式について解説します。	教科書の第11章を読んでおくこと																
	27	組織の革新と再生	パナソニックを事例に組織変革について解説します。	教科書の第12章を読んでおくこと																
	28	企業の知識体系	シャープを事例に製品開発マネジメントについて解説します。	教科書の第13章を読んでおくこと																
	29	会社は誰のものか	カゴメを事例に所有と経営の分離について解説します。	教科書の第17章を読んでおくこと																
	30	ビジネスの倫理	三菱ふそうのハブ欠陥事件を事例に企業倫理について解説します。	教科書の第18章を読んでおくこと																
関連科目	経営管理論、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ケースに学ぶ経営学 [新版]</td> <td>東北大学経営学グループ著</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ケースに学ぶ経営学 [新版]	東北大学経営学グループ著	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ケースに学ぶ経営学 [新版]	東北大学経営学グループ著	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経験から学ぶ経営学入門</td> <td>上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>[前期] 期末試験(70%)と中間テスト(30%)の成績により評価します。</p> <p>[後期] 期末試験70%、小テスト30%で評価します。</p>																			
学生への メッセージ	<p>[前期] 主体的に講義に参加しよく復習するようにしてください。</p> <p>[後期] 実際の企業の事例を通じて経営学の面白さに触れてください。事例で取り上げる企業のホームページを見るなどして積極的に授業に参加してください。</p>																			
担当者の 研究室等	<p>[前期] 11号館8階</p> <p>[後期] 畠山俊宏研究室</p>																			
備考																				

科目名	経営学 I	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 本講義では、はじめて経営学に接する学生を対象に、企業経営の仕組みとその運営の仕方について基礎から説明していきます。企業を営むとは、どういったことをいうのでしょうか。また、企業の経営には何が必要で、企業はどのような仕組みで動いているのでしょうか。こうした問いについて、私たちの日頃の生活とリンクさせつつ経営学領域の色々な側面から考察します。経営学の基礎的な概念や理論に触れ、経営学に関する基本的な知識を蓄積していきます。</p> <p><b>【目的】</b> はじめて経営学を学ぶ学生が、経営学とは何かについてイメージし経営学を学習する機会を提供することを目的としています。</p>																																																																		
到達目標	<p><b>【到達目標】</b> ①経営学の基本的な概念や用語を理解すること ②具体的な企業の経営現象について、学んだ概念や用語によって説明できるようになること</p>																																																																		
授業方法と留意点	教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、数回の中間テストを講義の中で行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、販売士、公認会計士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業についてのガイダンスを行います。</td> <td>事前にシラバスを読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>企業経営入門 (1)</td> <td>企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>企業経営入門 (2)</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>企業と社会</td> <td>社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>企業形態</td> <td>企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コーポレート・ガバナンス</td> <td>所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経営理念</td> <td>企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>企業戦略</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>競争戦略</td> <td>企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>経営資源</td> <td>企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>マーケティング</td> <td>企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>組織形態</td> <td>企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本企業の組織形態</td> <td>前回の続き</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>組織間関係</td> <td>企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義内容をまとめます。</td> <td>今回のノートの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。	2	企業経営入門 (1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習	3	企業経営入門 (2)	前回の続き	今回のノートの復習	4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習	5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習	6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習	7	経営理念	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習	8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習	9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習	10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習	11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習	12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習	13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習	14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業についてのガイダンスを行います。	事前にシラバスを読んでおくこと。																																																																
2	企業経営入門 (1)	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	今回のノートの復習																																																																
3	企業経営入門 (2)	前回の続き	今回のノートの復習																																																																
4	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	今回のノートの復習																																																																
5	企業形態	企業の中でもとりわけ株式会社の仕組みや特徴について説明します。	今回のノートの復習																																																																
6	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、どのような現象が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	今回のノートの復習																																																																
7	経営理念	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために、必要な意思決定の指針とはどのようなものか、経営理念や企業戦略といった概念から説明します。	今回のノートの復習																																																																
8	企業戦略	前回の続き	今回のノートの復習																																																																
9	競争戦略	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																
10	経営資源	企業活動にとって不可欠な経営資源と戦略について学びます。	今回のノートの復習																																																																
11	マーケティング	企業は製造・生産した製品やサービスを「商品」として市場に提供し利益を得ます。市場に対する企業の様々な働きかけについて学びます。	今回のノートの復習																																																																
12	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	今回のノートの復習																																																																
13	日本企業の組織形態	前回の続き	今回のノートの復習																																																																
14	組織間関係	企業は他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	今回のノートの復習																																																																
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	今回のノートの復習																																																																
関連科目	経営管理論、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経験から学ぶ経営学入門</td> <td>上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末試験 (70%) と中間テスト (30%) の成績により評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	主体的に講義に参加しよく復習するようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 庭本研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	経営学Ⅱ	科目名 (英文)	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島山 俊宏

授業概要・目的	経営学には様々な分野や理論があります。それらを理解するためには、実際の企業の行動から学ぶことが必要です。本講義では、企業のケースを用いて経営学の基本的な概念を理解することを目標とします。
到達目標	実際の企業を事例に経営学の基本的な概念を説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進めます。理解を深めるために適宜、小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、販売士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	企業を起こす	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズを事例に大学発ベンチャーのビジネスモデルについて解説します。	教科書の第1章を読んでおくこと
3	現代企業の発生	ロックフェラーとスタンダード・オイルを事例に現代の大企業の誕生の歴史について解説します。	教科書の第3章を読んでおくこと
4	環境・戦略・組織	フォードとGMを事例に経営戦略と経営組織の発展について解説します。	教科書の第4章を読んでおくこと
5	新しい事業の創造	ヤマト運輸を事例に新たな事業を創造する方法について解説します。	教科書の第5章を読んでおくこと
6	いかに競争するか	マクドナルドとモスバーガーを事例に競争戦略の概要について解説します。	教科書の第6章を読んでおくこと
7	事業のリストラクチャリングと組織改革	GEを事例に企業革新について解説します。	教科書の第7章を読んでおくこと
8	小テスト	1回から7回の内容で小テストを実施します。	教科書の第1章から第7章(第2章を除く)と講義の1回から7回までを復習しておくこと
9	破壊的技術への対応とドメインの再定義	富士写真フィルムを事例に破壊的技術に対応するイノベーションについて解説します。	教科書の第9章を読んでおくこと
10	いかに国際化するか	ノキアを事例に企業の国際化戦略について解説します。	教科書の第10章を読んでおくこと
11	日本の生産システム	トヨタを事例にジャスト・イン・タイムなどのトヨタ生産方式について解説します。	教科書の第11章を読んでおくこと
12	組織の革新と再生	パナソニックを事例に組織変革について解説します。	教科書の第12章を読んでおくこと
13	企業の知識体系	シャープを事例に製品開発マネジメントについて解説します。	教科書の第13章を読んでおくこと
14	会社は誰のものか	カゴメを事例に所有と経営の分離について解説します。	教科書の第17章を読んでおくこと
15	ビジネスの倫理	三菱ふそうのハブ欠陥事件を事例に企業倫理について解説します。	教科書の第18章を読んでおくこと

関連科目 経営管理論、経営組織論、経営戦略論、人的資源管理論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケースに学ぶ経営学 [新版]	東北大学経営学グループ著	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末試験 70%、小テスト 30%で評価します。

学生へのメッセージ 実際の企業の事例を通じて経営学の面白さに触れてください。事例で取り上げる企業のホームページを見るなどして積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等 島山俊宏研究室

備考

科目名	経営学特講V	科目名(英文)	Up-to-date Topics of Business Administration V
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲 秀樹

授業概要・目的  
当授業では、監査の中でも企業会計の監査である財務諸表監査を中心に講義する。監査の本質を理解するために、監査の意義・種類について解説し、監査の基本的概念について検討したい。また実際の財務諸表監査とは、いかなる証拠を収集し、評価するのかなど、監査人の具体的な手続についても見ていくことにする。

到達目標  
財務諸表監査の限界と有用性を理解し、受講生が将来、財務諸表を活用するときの勘所を獲得することを目標とする。

授業方法と留意点  
教科書にもとづいた講義方式。監査について受講生はイメージを描きにくいと思われるので、具体例を交えながら平易な講義を心がけたい。

科目学習の効果(資格)  
監査論の基礎知識を得ることにより、公認会計士試験の初歩的な知識を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	監査のフレームワーク(1)	監査とは何か。監査がなぜ必要とされるのか。その意義について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
2	監査のフレームワーク(2)	監査の生成要因と監査の種類について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
3	監査のフレームワーク(3)	財務諸表監査の特質と監査の経済的機能について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
4	監査制度のフレームワーク	アメリカにおける監査基準の生成と展開を概説し、わが国の商法監査制度および証券取引法監査制度について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
5	監査規範の意義とわが国の監査基準(1)	監査規範の意義と体系について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
6	監査規範の意義とわが国の監査基準(2)	監査基準の生成と展開について解説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
7	監査規範の意義とわが国の監査基準(3)	監査基準における一般基準、実施基準、報告基準について概説する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
8	監査意見形成のプロセス(1)	監査意見形成のプロセスはどのような論理に支えられているか、を説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
9	監査意見形成のプロセス(2)	財務諸表監査における経営者の主張と監査要点について考える。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
10	監査意見形成のプロセス(3)	監査手続と監査技術の関係、および監査技術の詳細につき講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
11	リスク・アプローチと監査戦略	リスク・アプローチの意義と監査リスクの構成要素について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
12	リスク評価、実証手続および監査の完了	固有リスクの評価や統制リスクの評価について講義する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
13	監査報告書と情報提供機能	監査業務の最終成果物である監査報告書について、その意義と機能、利害関係者にとっての意味や監査報告書の利用方法について説明する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
14	総論	現在の会計監査の重要性とその将来性について検討する。	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する
15	おわりに	講義のまとめ	講義関連資料を配布するので、それをもとに授業時間中に簡単なレポートを作成し、提出する

関連科目  
会計関連科目、とくに財務会計論を履修していることが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシック監査論(七訂版)	伊豫田隆俊、松本祥尚、林隆敏	同文館出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
評価方法は定期試験が80%、レポートが20%として評価する。

学生へのメッセージ  
講義中の私語は厳禁。質問は大歓迎です。学生の講義の理解度に応じて講義内容を変更する場合があります。

担当者の研究室等  
11号館6階(経営学部事務室)

備考



科目名	経営管理論	科目名(英文)	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的】</b>          企業は目的を達成するために、組織やヒトを管理しています。経営管理論では、その背後にある理論を学びます。講義では、管理する側と管理される側の両方の立場から、経営管理に関する諸理論を考えていきます。取り上げる内容として、古典的管理論や人間関係論、近代組織論など、諸学説の発展を概観します。また講義の中で適宜、新聞記事などを用いて企業経営の現場で今まさに発生している事象や課題についても触れていきます。</p>
到達目標	<p><b>【到達目標】</b>          ①経営管理の基本的な理論を理解すること。          ②理論をもとに、実経営の良い点、改善すべき点を考えることができるようになること。</p>
授業方法と留意点	基本的には、講義形式になります。講義の理解を促進するために、振り返りを行いレポート提出をしていただきます。
科目学習の効果(資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおいてください
2	経営管理論の概要	組織体が活動を継続して行っていくためには、様々な資源を活用しうまく管理していかなければなりません。経営管理がどういった概念であるのか、それがなぜ必要なのか、そして主要な管理原則について説明します。	教科書序章の予習を読んで経営学を学ぶ意義を事前に理解しておいてください
3	科学的管理法(テイラー)	生産活動に初めて「管理」という概念を導入したテイラーの「科学的管理法」の内容を説明し、20世紀に始まった大量生産システムに対する貢献と意義について検討します。	教科書第6章を事前に読んでおいてください
4	フォード・システム	ヘンリー・フォードが行ったT型フォードの特徴と成功・衰退要因を時代背景からひも解きます。また、フォード・システムがどのようなものだったのかを学習します。	教科書第7章を事前に読んでおいてください
5	人間関係論(メイヨー)	大量システムによるアメリカ経済の繁栄の中で看過されてきた人間性を強調し、非公式組織として浮かび上がったのがメイヨーやレスリスパーガーらによる人間関係論です。非公式組織を発見する契機となった一連のホーソン実験を説明します。	教科書第9章を事前に読んでおいてください
6	新人間関係論(1)	マズローの欲求階層とアルダファーのERG理論を学習します。それぞれがどのような経緯で主張する理論に至ったのかの背景を説明します。	教科書第10章を事前に読んでおいてください
7	新人間関係論(2)	マグレガーのX理論Y理論とフレデリック・ハーズバーグの二要因理論を説明します。また、ハーズバーグの二要因理論を活用して学生自身のモチベーションの源泉を探ります。	教科書第10章を事前に読んでおいてください
8	モチベーション(1)	人は、何らかの欲求に動機づけられたとき仕事をしようと行動します。初めにモチベーション研究の系譜を説明し、モチベーションのイメージを持った上で具体的な各種理論について解説します。	今回のノートの復習
9	モチベーション(2)	前回の説明の続きを解説します。	今回のノートの復習
10	モチベーション(3)	前2回の講義で説明した動機づけ理論が、実践現場ではどのように活用されているのかを紹介します。	今回のノートの復習
11	ヒトのマネジメント(1)	組織メンバーの動機づけや協働には、人材マネジメントが大きな役割を果たしています。本講義では3回に分けて従業員の育成、評価、報酬といった人事諸制度について検討します。	今回のノートの復習
12	ヒトのマネジメント(2)	年功給、職能給、職務給、成果給といった賃金体系の各要素を検討し、それらがどのように従業員の働く意欲を高めているのかについて説明します。	今回のノートの復習
13	小テスト1回目	小テストを行います。終了後、解説を行います。	1~12回の講義内容を復習すること。
14	企業内におけるインセンティブ	企業では、働く人々を動機づけるために様々な制度を設けています。どのようなインセンティブ制度を設けているのかを紹介します。	今回のノートの復習
15	近代組織論(バーナード)	バーナード革命と言われた近代組織論について、バーナードの生い立ちから解説します。	教科書第11章を事前に読んでおいてください
16	意思決定論(サイモン)	サイモンは、バーナードの考えを継承したためバーナード=サイモン理論とも呼ばれています。まず、サイモンの意思決定理論を紹介し、がんにバーナードとサイモンの考え方の違いについて考察します。	教科書第11章を事前に読んでおいてください

17	リーダーシップ(1)	リーダーシップ研究の流れを概観します。また、リーダーシップ行動論で「不動の二軸」と言われている構造づくりと配慮に関して、ミシガン研究、オハイオ研究、日本のPM理論を通じて理解を深めます。	今回のノートの復習
18	リーダーシップ(2)	代表的なコンティンジェンシー理論を学習します。フィードラーの状況好意性、ハーシー&ブランチャードの状況的リーダーシップ、ハウスのパス・ゴール理論について紹介します。また、各理論の課題について考察します。	今回のノートの復習
19	リーダーシップ(3)	前回到続き、ブルームとイェットンの参加的リーダーシップ、カー&ジャミヤのリーダーシップの代替物・障害物について紹介します。また、各理論の課題について考察します。	今回のノートの復習
20	リーダーシップ(4)	新しいリーダーシップ研究を紹介します。パスの交換型・変革型リーダーシップ、上司と部下の二者間関係に注目したLMXについて考察します。	今回のノートの復習
21	フォロワーシップ(1)	フォロワーシップ研究の必要性が叫ばれるようになった背景を考察するとともに、フォロワーシップ研究の第一人者であるケリーとチャレフのフォロワーシップタイプについて紹介します。また、学生自身のフォロワーシップタイプを測定尺度で測定します。	今回のノートの復習
22	フォロワーシップ(2)	日本でフォロワーシップが必要になってきた社会的背景を考察します。また、日本の組織におけるフォロワーシップ研究を紹介し、海外の研究との違いについて説明します。	今回のノートの復習
23	小テスト2回目	小テストを行います。終了後、解説を行います。	14～22回の講義内容を復習すること。
24	DVD視聴	DVDを視聴して、これまで学習してきたどのような理論が活用されているのかを考察します。	今回のノートの復習
25	組織とは何か	組織体制をとる理由を考えるとともに、そもそも組織とはどのようなものなのか、これまで学んできた古典的組織論、新古典的組織論、近代組織論の流れにそって体系的に理解できるように説明します。	教科書第12章を事前に読んでおいてください
26	基本的な組織形態	ライン組織の長所と短所、ファンクショナル組織の長所と短所、ライン・アンド・スタッフ組織の長所と短所について考察します。	教科書第13章を事前に読んでおいてください
27	さまざまな組織形態	職能部門制組織、事業部制組織、プロフィットセンターとコストセンター、カンパニー制について各々の長所と短所について考察します。	教科書第14章を事前に読んでおいてください
28	経営戦略	チャンドラーの「組織は戦略に従う」という有名な言葉を紹介します。また、アンゾフの成長戦略、SWOT分析、PPMを紹介します。	教科書第15章を事前に読んでおいてください
29	マーケティング戦略	マーケティング戦略の変遷、具体的な企業におけるマーケティング戦略について、事例を取り上げながら考察します。	教科書第17章を事前に読んでおいてください
30	まとめと復習	これまでの講義の要点をまとめます。	教科書と今までのノートの復習

関連科目 経営学、経営組織論、人的資源管理論、経営戦略論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト経営学〔第3版〕	井原久光	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 期末テスト70%と小テスト(2回)を各15%の成績によって評価します。

学生へのメッセージ 経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるようにします。

担当者の研究室等 西之坊研究室(11号館8階)

備考

科目名	経営財務論 I	科目名 (英文)	Business Finance I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	<p>一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報から構成されるといわれることがある。経営財務論（最近では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれることが多い）は、株主の立場に立って、これら4つの企業構成要素のうち、主に、カネの流れ（キャッシュフロー）から企業の行動ないし意思決定のあり方を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要な領域の一つである。経営財務論 I では、経営財務論における一連の主要な基礎概念なり、その算定方法（例えば、企業の資金調達方法、リスクとリターン（期待収益率）との関係、アセット・プライシング、資本コスト、キャッシュフローと現在価値、企業価値評価など）を学ぶ。現在の企業行動を理解するために必要不可欠なこれらの基礎概念・計算方法およびそれらの相互の関係を十分に理解し体得することが、まずは本講義の目標である。</p>
到達目標	現在の経済社会において不可欠な経営財務（コーポレート・ファイナンス）における基礎概念（期待収益率、リスク、資本コスト、現在価値など）の知識を修得し、簡単な企業価値を自ら算定することができる。
授業方法と留意点	<p>配布する講義資料に沿って講義を進める。経営財務論における論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半30分程度は、配布した演習問題に取組み、質問に答える時間に当てる。毎回、電卓等の計算機器を携帯すること。</p> <p>原則として講義資料はほぼ講義2～3回分について1回のペースで配布する。配布する資料は本講義のテキストであり、ファイルして講義に際して持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料については、翌週に必ず持参することが必要である。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので、注意すること。</p>
科目学習の効果（資格）	企業への就職希望者にとって必要な知識が得られ、また専門的職業人（とくに公認会計士、証券アナリストなど）の資格取得にも密接に関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションー経営財務論（コーポレート・ファイナンス）とは何か	経営財務論の目的を理解し、経営財務論で取り上げられる主要な論点の概観を得る。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。
2	企業の資金調達（1）ー自己資金調達（エクイティ・ファイナンス）	現行制度のもとでの企業の資金調達の主要な手段を概観するとともに、自己資金調達（株式発行、内部資金などによる資金調達）について検討する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
3	企業の資金調達（2）ー負債調達（デット・ファイナンス）	現行制度のもとでの企業の資金調達方法のもう一つの主要な手段である各種の負債調達（社債発行、銀行借入などによる資金調達）について検討するとともに、自己資金調達との比較を行う。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所は必ず質問すること。
4	資本コストとリターン（期待収益率）	経営財務論におけるキーワードの一つである、企業サイドからの「資本コスト」および資金提供者サイドからの「リターン（期待収益率）」の一般的な意味とその計算方法の基礎を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
5	リスクとリターン（期待収益率）	経営財務論のキーワードの一つである「リスク」の意味を学び、リスクとリターン（期待収益率）の関係、さらに、「リスク・プレミアム」の意味を理解する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
6	企業の資本コスト（1）	前々回・前回の講義内容を前提に、企業が資金調達するうえで極めて重要な「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト（自己資本コスト）」・「総資本コスト」の意味を学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
7	企業の資本コスト（2）	前回の講義内容を前提に、今回は、「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト」・「総資本コスト」の関係を理解し、改めて3つの資本コストの理解をより確実なものにする。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
8	資本資産評価モデル（CAPM）の基礎（1）	リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（CAPM）の基礎的な考え方を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
9	資本資産評価モデル（CAPM）の基礎（2）	前回の講義に引き続き、リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（CAPM）の基礎的な考え方とその意義を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
10	整理と復習（1）ーリスク、リターン、資本コストおよび資本資産評価モデル（CAPM）	企業の資本コスト（負債の資本コスト、株式の資本コスト、総資本コスト）を中心に、リスクおよびリターンの関係およびCAPMの各論点について、整理を行い、復習し、改めてこれらのキー概念およびCAPMの正確な理解に努める。	これまでの講義において配布したすべての資料と演習問題を改めて復習し、疑問点・理解不十分な箇所について各自整理しておくこと。質問を受ける。
11	キャッシュフローと現在価値計算（1）	経営財務論の根幹をなすキャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法の基礎を、リスクがない場合とリスクがある場合の2つのケースについて学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。分からない箇所があれば必ず質問すること。
12	キャッシュフローと現在価値計算（2）	前回の講義に引き続き、キャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法を学ぶ。今回の講義で取りあげるのは、多期間キャッシュフローを前提とした現在価値計算の方法である。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。

	13	企業価値とDCF法	前々回・前回の講義内容をもとに、負債価値と株主資本価値の合計としての「企業価値」がどのように求められるのかを学ぶ。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	14	企業のリスクとコーポレート・ガバナンス	近時の経営財務論において、主要な論点の一つとして注目されているコーポレート・ガバナンスについて、企業を取り巻く各種リスクの意味をふまえ、企業価値創造の観点から検討する	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布済みの講義資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	15	整理と復習(2)ー現在価値計算と企業価値	後半の主要なテーマである割引計算の方法と企業価値の算定方法、さらに経営財務論Ⅰ全体の講義の整理と復習	これまでの講義全体を通じて(特に、後半のテーマである割引計算と企業価値に関する講義)において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。
関連科目	企業簿記、ミクロ経済学、財務会計論、金融論、経営分析論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 企業財務 戦略と実践	津森信也	東洋経済新報社
	2	ビジネス・ゼミナール 経営財務入門	井手正介・高橋文郎	日本経済新聞社
	3			
評価方法(基準)	定期試験 95%、中間時点における1回の演習問題の提出(提出の場合は事前に通知する) 5%			
学生へのメッセージ	経営財務論の議論は、経済学の分析枠組みを基礎に展開されることが多く、そのため、経営学部の学生(とりわけ低学年の学生)にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。質問は大いに歓迎する。			
担当者の研究室等	高尾研究室(11号館8階)			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。			

科目名	経営財務論Ⅱ	科目名(英文)	Business Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	<p>一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報から構成されるといわれることがある。経営財務論（最近では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれることが多い）は、株主の立場に立って、これら4つの企業構成要素のうち、主に、カネ（資金）の流れ（キャッシュフロー）から企業の意思決定ないし行動を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要な領域の一つである。経営財務論Ⅱでは、経営財務論Ⅰで学んだ知識を前提として、（1）企業の投資行動、（2）企業の資金調達と資本構成、（3）企業の配当政策、を順次取り上げ、それらが企業価値や株主価値にどのような影響を与えるのかという観点から検討する。本講義の目標は、現在の企業経営を理解し分析するうえで不可欠な知識であるこれらの議論を十分に理解し体得することである。</p>
到達目標	<p>資金（カネ）の流れ（キャッシュフロー）という観点から現実の企業の行動を理解し、さらに企業をこれらの行動の良否を自ら評価し、判断することができる知識を得る。</p>
授業方法と留意点	<p>配布する講義資料に沿って講義を進める。経営財務論における論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半30分程度を配布した演習問題に取り組み、質問に答える時間に当てる。電卓等の計算機を携帯すること。</p> <p>原則として、講義資料はほぼ講義2～3回分について1回のペースで配布する。配布する講義資料は本講義のテキストであり、配布のつどファイルし、毎回の講義に持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料は翌週に必ず持参すること。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので注意すること。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>企業への就職希望者にとって必要な知識であり、専門的職業人（とくに証券アナリスト、公認会計士など）の資格取得にも密接に関連する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションー経営財務論（コーポレート・ファイナンス）とは何か	経営財務論の目的を理解し、特に経営財務論Ⅱで取り上げられる主要な論点を概観する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	配布資料をしっかりと理解すること。
2	企業の投資決定と正味現在価値（NPV）	企業の投資決定の判断基準として用いられる「正味現在価値」（NPV）の意味を理解するとともに、企業の投資決定が、正味現在価値法を用いて、具体的にどのように行われるのかを検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
3	正味現在価値法（NPV法）の検討（1）	設例にもとづいて、正味現在価値法（NPV法）の具体的な利用方法を改めて理解するとともに、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値（NPV）法の特徴を探る。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
4	正味現在価値法（NPV法）の検討（2）	前回の講義内容とは異なり、「株主価値」への影響という観点から、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値（NPV）法の特徴を設例にもとづいて再度検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
5	もう一つの投資決定基準ー内部収益率法（IRR法）	正味現在価値法（NPV法）とともに、企業の投資決定基準とされる内部収益率法（IRR法）を学ぶ。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
6	正味現在価値法（NPV法）と内部収益率法（IRR法）の比較検討	二つの主要な企業の投資決定基準である正味現在価値法（NPV法）と内部収益率法（IRR法）を比較し、その長所・短所を検討する。加えて、実社会において用いられている、これら二つ以外の投資決定ルールについても簡単に取り上げる。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
7	リアル・オプション分析の基礎	リアル・オプションの意義を説明するとともに、企業の投資決定判断において、リアル・オプション分析が用いられる場合の企業投資判断への影響を検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
8	整理と復習（1）ー企業の投資決定ルール	企業の投資決定基準に関する各論点について、改めて整理を行い、復習・確認し、これらの意義と計算方法の確固とした理解を目指す。	これまでの講義において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について各自整理しておくこと。質問を受ける。
9	企業の資金調達と投資行動	経営財務論Ⅱの後半の主要テーマの一つは企業の資金調達行動である。資金調達行動の分析に際して、まずは投資行動との関係から、資金調達のあり方が企業の投資行動とどのような関係にあるのかを考えてみる。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
10	企業の資本構成と企業価値（1）	前回の講義内容に続いて、企業の資金調達行動の違い、よって資本構成のあり方は「企業価値」に影響するのかどうかに関する有名な「MMの無関係命題」を説明する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
11	企業の資本構成と企業価値（2）	今回は、企業の資金調達が「株主価値」にどのような影響を与えるのかという観点から、企業の資金調達を検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
12	企業の最適資本構成	これまでの企業の資金調達行動の検討を踏まえたうえで、法人税の存在といった現実的・制度的な状況のもとで、企業にとって望ましい資本構成のあり方を	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。

	13	企業の配当政策（1）	検討する。 企業の配当政策が「株主価値」にどのように影響するのかについて、現金配当を念頭に置き、まず①有名な「MMの配当政策無関連命題」を取り上げ議論し、次いで②所得税の存在といった現実的・制度的な状況を前提に検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	14	企業の配当政策（2）	今回は、配当政策の一つとみなされる「自社株買い」を念頭に置き、「株主価値」にどのような影響を与えるかについて検討する。	配布資料をしっかりと理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を復習し、分からない箇所があれば必ず質問すること。
	15	整理と復習（2）－企業の資金調達と配当政策	後半の主要なテーマである企業の資金調達行動と配当政策、さらに経営財務論Ⅱで取り上げたすべての論点の整理と復習	これまでの講義全体を通じて（特に、後半のテーマであるに関する企業の資金調達と配当政策）において配布した集への資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。
	関連科目			
企業簿記、ミクロ経済学、財務会計論、金融論、経営分析論など				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 企業財務 戦略と実践	津森信也	東洋経済新報社
	2	ビジネス・ゼミナール 経営財務入門	井手正介・高橋文郎	日本経済新聞社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 95%、中間時点において1回の演習問題の提出（提出の場合は事前に通知する） 5%			
学生への メッセージ	経営財務論の議論は、経済学の分析枠組みを用いて展開されることが多く、そのため、経営学部の学生（とくに低学年の学生）にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講者の迷惑となることから絶対に慎むこと。質問は大いに歓迎する。			
担当者の 研究室等	高尾研究室（11号館8階）			
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。			

科目名	経営史	科目名(英文)	Business History
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	<p>企業経営の歴史的発展を英・米・日の事例を中心として比較史的に考察します。</p> <p>前半は、経営史学の方法論や資本主義経済を生み出したイギリスの産業革命期の経営を取り上げます。とくに、技術の発展や規格化・標準化が企業経営のあり方を大きく規定することを考察します。</p> <p>後半は、アメリカが生み出した大量生産システムであるフォードシステム、それがもたらせた消費社会の形成について概観して、それらが現代の生産や消費形態の原型であったことを、考えていきます。</p>
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握する能力をつける。
授業方法と留意点	講義形式の授業。資料を配付して説明します。アメリカや日本の幅広い事例が出てきますので、板書事項をノートにとりながら、まとめてください。
科目学習の効果(資格)	企業経営に関する基本事項を歴史的視点から学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	経営史の方法論(1)	マックス・ウェーバーの「エートス」論	企業の歴史について興味を持っている企業のHPで調べて、まとめる。また、ウェーバーについて調べる。
2	経営史の方法論(2)	シュンペーター理論と企業者の役割	シュンペーターのイノベーション理論の概要を調べ、まとめる。
3	技術の発展と企業(1)	マニュファクチュア経営の「革命」性	マニュファクチュア、問屋制家内工業について事典で調べ、まとめる。
4	技術の発展と企業(2)	規格化と標準化が勝負を決める(ベータとVHSの争い)	技術の発展が経営に与えた影響をまとめる。
5	技術の発展と企業(3)	産業革命とは何か	産業革命について調べて、まとめる。
6	技術の発展と企業(4)	産業革命期の経営	産業革命期の経営について調べて、まとめる。
7	技術の発展と企業(5)	後進国の産業革命(工業化)	日本の産業革命の特質について調べて、まとめる。
8	英国の衰退の経営的要因	英国経済衰退の経営的背景は何か	イギリス近代経済史について概要を把握する。また、文化と経営の関連性について調べ、まとめる。
9	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(1)	互換性部品生産方式と「科学的管理法」	アメリカ式生産システムについて調べて、まとめる。
10	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(2)	自動車産業の発展とフォード・システムの形成過程	「フォーディズム」と現代資本主義
11	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム(3)	「フォーディズム」と「JIT(ジャスト・イン・タイム)」	JITについて事前学習し、講義後にまとめる。
12	消費社会の成立(1)	「消費」の変容と現代社会の成立	消費社会論の議論を予習し、講義後にまとめる。
13	消費社会の成立(2)	ブランドとは何か	ブランドの概念を事前学習し、講義後にまとめる。
14	消費社会の成立(3)	ブランド商品の誕生	具体的なブランド商品の事例について事前学習し、講義後にまとめる。
15	まとめ	———	練習問題

関連科目 現代日本経営史、企業者史Ⅰ・Ⅱ (S科科目)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験結果(90%)、講義への積極的な取り組み姿勢・態度(10%)
学生へのメッセージ	講義内容に関して不明な点や疑問点は、遠慮せずに質問してください。 なお、紹介する参考文献にはできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。
担当者の研究室等	11号館8階(佐藤教授室)
備考	

科目名	経営史 I	科目名 (英文)	Business History I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	<p>企業経営の歴史的発展を英・米・日の事例を中心として比較史的に考察します。</p> <p>前半は、経営史学の方法論や資本主義経済を生み出したイギリスの産業革命期の経営を取り上げます。とくに、技術の発展や規格化・標準化が企業経営のあり方を大きく規定することを考察します。</p> <p>後半は、アメリカが生み出した大量生産システムであるフォードシステム、それがもたらせた消費社会の形成について概観して、それらが現代の生産や消費形態の原型であったことを、考えていきます。</p>
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握する能力をつける。
授業方法と留意点	講義形式の授業。資料を配付して説明します。アメリカや日本の幅広い事例が出てきますので、板書事項をノートにとりながら、まとめてください。
科目学習の効果 (資格)	企業経営に関する基本事項を歴史的視点から学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	経営史の方法論 (2)	シュンペーター理論と企業者の役割	シュンペーターのイノベーション理論の概要を調べ、まとめる。
3	技術の発展と企業 (1)	マニュファクチュア経営の「革命」性	マニュファクチュア、問屋制家内工業について事典で調べ、まとめる。
4	技術の発展と企業 (2)	規格化と標準化が勝負を決める (ベータとVHSの争い)	技術の発展が経営に与えた影響をまとめる。
5	技術の発展と企業 (3)	産業革命とは何か	産業革命について調べて、まとめる。
6	技術の発展と企業 (4)	産業革命期の経営	産業革命期の経営について調べて、まとめる。
7	技術の発展と企業 (5)	後進国の産業革命 (工業化)	日本の産業革命の特質について調べて、まとめる。
8	英国の衰退の経営的要因	英国経済衰退の経営的背景は何か	イギリス近代経済史について概要を把握する。また、文化と経営の関連性について調べ、まとめる。
9	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム (1)	互換性部品生産方式と「科学的管理法」	アメリカ式生産システムについて調べて、まとめる。
10	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム (2)	自動車産業の発展とフォード・システムの形成過程	「フォーディズム」と現代資本主義
11	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム (3)	「フォーディズム」と「JIT (ジャスト・イン・タイム)」	JITについて事前学習し、講義後にまとめる。
12	消費社会の成立 (1)	「消費」の変容と現代社会の成立	消費社会論の議論を予習し、講義後にまとめる。
13	消費社会の成立 (2)	ブランドとは何か	ブランドの概念を事前学習し、講義後にまとめる。
14	消費社会の成立 (3)	ブランド商品の誕生	具体的なブランド商品の事例について事前学習し、講義後にまとめる。
15	まとめ	———	練習問題

関連科目	現代日本経営史、企業者史 I・II (S 科科目)
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	定期試験結果(90%)、講義への積極的な取り組み姿勢・態度 (10%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	講義内容に関して不明な点や疑問点は、遠慮せずに質問してください。なお、紹介する参考文献にはできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(佐藤教授室)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	経営史Ⅱ	科目名(英文)	Business History II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	第2次大戦後の日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業と経営者（企業家）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業・企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	資料の配付やビデオ視聴を行いながら講義形式で実施します。
科目学習の効果(資格)	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			第2次大戦後の経済と企業社会の変化について予習し、講義後にまとめる。
1	戦後の経済発展の枠組みと企業経営(1)	戦の復興過程と企業	
2	戦後の経済発展の枠組みと企業経営(2)	高度経済成長と企業経営者	戦後を代表する企業とその経営者をリストアップし、講義後その共通点について、まとめる。
3	高度経済成長と企業(1)	家電メーカーの成長と電化生活の変化	関西に家電メーカーが多く生まれた歴史的要因について考える。
4	高度経済成長と企業(2)	松下電器の発展と松下幸之助の経営哲学	松下の経営理念「水道哲学」とは何か、またそれは現在のパナソニックに引き継がれているのか、考察する。
5	高度経済成長と企業(3)	二輪車メーカーの叢生	戦後、二輪車メーカーが多数誕生するが、最終的にホンダなど数社に集約された要因を分析する。
6	高度経済成長と企業(4)	ホンダの創業と本田宗一郎	ホンダが二輪車メーカーのトップメーカーへと成長した要因を調べてまとめる。
7	高度経済成長と企業(5)	SONYと井深大	SONYの発展をもたらした要因を調べて、まとめる。
8	流通革命と企業経営(1)	戦後流通業の変化	流通業界の主役の移り変わりを調べて、まとめる。
9	流通革命と企業経営(2)	中内・ダイエーの「流通革命」とその挫折	ダイエーの経営の失敗について、その要因を調べて、まとめる。また、中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で引き継がれているのかを考える。
10	流通革命と企業経営(3)	コンビニの登場と発展	現在の小売業の主役であるコンビニ経営の本質について調べる。
11	流通革命と企業経営(4)	コンビニの発展とセブンイレブン・鈴木敏文	鈴木による小売業の革新は、海外においても通用するか考え、まとめる。
12	IT革命の進展と企業(1)	IT革命は企業経営をいかに変革したか(1)	PC、インターネットの発展がもたらした企業経営の変容を調べる。
13	IT革命の進展と企業(2)	IT革命は企業経営をいかに変革したか(2)	IT革命が企業経営に与えた影響について調べ、まとめる。
14	IT革命の進展と企業(3)	孫正義の理念と行動	孫正義がどのような理念で経営行動を行っているのか、「マイノリティとしての存在」から考える。
15	まとめ		練習問題

関連科目	経営史、企業者史Ⅰ（S科科目）
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験結果(90%)、講義への積極的な取り組み姿勢、態度(10%)で評価。
----------	--

学生へのメッセージ	講義内容に対する不明点や疑問は遠慮なく質問してください。また、紹介する参考文献にはできる限り目を通してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	11号館8階(佐藤研究室)
------------	---------------

科目名	経営戦略論	科目名(英文)	Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	榎谷 正人

授業概要・目的	経営戦略論の系譜を概観し経営環境の変化に適合する経営戦略策定の方法を説明します。また、実際企業の経営戦略のケースを代表的なアプローチで比較検討します。本講義の目的は、グローバル企業の競争優位の源泉と持続となっている経営戦略と組織能力について具体的に説明します。
到達目標	学習の到達目標は、第一に経営戦略論で繰り返されるキーワードを理解し説明できること。第二に現実の企業活動を新聞やインターネットで情報収集し分析できること。第三に代表的理論アプローチを比較し、共通点と相違点を説明できることです。
授業方法と留意点	講義を教科書とプロジェクターで行いますが、途中で理解促進演習も実施します。 最初の3分間、前回の復習のため理解促進小テストを実施します。 理解促進のためケーススタディのプリントを配布しディスカッションします。 質疑応答とディスカッションの時間を設けるため積極的な発言を求めます。 日頃から新聞・インターネット等を活用し、企業の経営戦略に関する情報収集を行う習慣を身につけてください。
科目学習の効果(資格)	企業研究の基礎になる科目でもあり、将来、経営者、管理者、経営企画、コンサルタントを目指す人の必須科目です。また、経営学検定、中小企業診断士の資格受験に有効です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経営戦略とは何か	ガイダンス：講義の目的、講義概要、評価方法を提示します。	ノートと教科書を持参してください。
2	経営戦略論の基礎	戦略論の系譜と概念を解説します。	教科書「まえがき」を事前に読んでください。
3	経営戦略の内容	ドメイン、全社戦略、事業戦略、機能別戦略を解説します。	教科書第1部第1章「組織ルーティンの機能2.組織ルーティンに関する先行研究」(pp.4-9)を読んでください。
4	戦略の策定	環境分析、資源分析、策定プロセスを解説します。	教科書第1部第2章「企業の持続性の分析単位としての組織ルーティン,1.はじめに,2.経営資源と組織能力の研究」(pp.14-19)を読んでください。
5	安定期の戦略論	成長ベクトル、多角化戦略を解説します。	教科書第1部第3章「戦略的組織ルーティンのSECIプロセスによる形成メカニズム」(pp.35-42)を読んでください。
6	競争のメカニズム	経済学と戦略、競争優位の源泉、多角化とシナジーを解説します。	再度、教科書第1部第3章「戦略的組織ルーティンのSECIプロセスによる形成メカニズム」(pp.35-42)を読んでください。
7	競争戦略の考え方(1)	ポジショニング・アプローチ、競争優位の構築と持続(ケーススタディ)を解説します。	5つの競争要因、3つの基本戦略、価値連鎖の説明ができるよう発表の準備をしてきてください。
8	競争戦略の考え方(2)	資源アプローチと能力アプローチ、ドメインの再定義(ケーススタディ)を解説します。	事例企業の資源と能力について抽出するための資料を準備してきてください。
9	競争戦略の考え方(3)	学習アプローチ、SWOT分析と戦略構想(ケーススタディ)を解説します。	事例企業を挙げ、企業の学習行動のプロセスをSWOT分析できるようにしてください。
10	競争戦略の考え方(4)	ゲーム・アプローチ、競争戦略と運動(ケーススタディ)を解説します。	特定業種の競合企業をとりあげ、ゲーム理論で説明できるように発表の準備をしておいてください。
11	経営戦略とイノベーション	企業制度の有効性と計画プロセス、戦略の実効性と創発プロセスを解説します。	教科書第2部第4章「組織変革による戦略的組織ルーティンの形成プロセス」(pp.45-57)を読んでください。
12	グローバル競争戦略と組織形態	経営理念、ビジョン、ミッション、経営者のリーダーシップと組織形態の変化を解説します。	教科書第2部第5章「組織変革による組織形態の変化」(pp.71-79)を読んでください。
13	グローバル戦略と組織変革	外部資源活用戦略、グローバル戦略展開のためのテクノロジーとマーケティングを解説します。	教科書第2部第6章「組織変革による戦略的組織ルーティンの破壊と創造」(pp.93-98)を読んでください。
14	企業の持続性とダイナミック・ケイパビリティ	イノベーションと組織変革、組織内外のマネジメントと企業家機能を解説します。	教科書第2部第7章「組織変革によるダイナミック・ケイパビリティ形成」(pp.115-125)を読んでください。
15	経営戦略の社会的実現性	企業の社会的戦略を解説します。	CSRと経営戦略の関係について、教科書の事例企業以外で、身近な企業事例の取り組みを整理してください。

関連科目	経営学、経営組織論、経営管理論等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	企業の持続性と組織変革	榎谷正人	文眞堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステークホルダーの経営学	大平浩二編著	中央経済社
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(80%)、毎回理解促進テストと演習課題(10%)、課題レポート(10%)により総合的に評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	企業の成長と発展を方向づける経営戦略を学ぶことによって、自らの人生の戦略プランであるキャリア開発にもその考え方を活かせます。
-----------	--

担当者の研究室等備考	11号館7階(榎谷研究室)
------------	---------------

科目名	経営組織論 I	科目名 (英文)	Theory of Business Organization I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	榎谷 正人

授業概要・目的	<p>今や多くの組織において、新しい企業環境の変化に応じた新たな組織づくりが問われている。この講義では、経営学の主要領域である経営組織について基本的な理解を深め、現実に行っている組織問題の本質を提示する。企業組織の基本形態を検討し、企業の戦略等によって組織がどのように変容する必要があるのか説明する。さらに、飛躍的に発展してきた組織論の基礎的な知識やロジックを学習しながら、現代的な諸問題を明らかにするとともに、それらの問題について実践的な対処法をケーススタディで解説する。</p>
到達目標	<p>第一に経営組織論 I で繰り返されるキーワードを理解し説明できること。 第二に現実の企業活動を新聞やインターネットで情報収集し分析できること。 第三に代表的理論を現実の企業に適用し説明できること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義、理解促進テストと演習課題、ディスカッションの3部構成で行う。 課題レポート(800字)を1~3回程度実施する。 日頃から新聞・インターネット等を活用し、企業組織の現実的諸問題について情報収集を行う。 ディスカッションを中心に行うので積極的な参加が求められる。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>企業研究の基礎になる科目でもあり、将来、経営者、管理者、経営企画、コンサルタントを目指す人の必須科目です。 また、経営学検定、中小企業診断士、販売士検定試験等の資格受験に有効です。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	企業と経営組織	ガイダンス、講義の目的、講義概要、評価方法の提示を行い、本講義を学ぶ意義を解説する。	ノートと教科書を持参してください。
2	組織研究 (1) 組織研究の発展	組織研究の発展、組織の捉え方について、企業の成長と発展を事例研究で解説する。	教科書「まえがき」を読んでください。
3	組織研究 (2) 組織研究の方法	組織の多様性、組織の合理性、伝統的組織論の理論モデルについて解説する。	多様な組織の形態について経営学に関する文献から調べてください。
4	組織における諸問題 (1) 組織の多様性	近代組織論の理論モデルと組織均衡、組織の非合理性、事例企業で解説する。	教科書 I 部「第 1 章組織ルーティンの機能」(pp. 3-8) を読んでください。
5	組織における諸問題 (2) テイラーの科学的管理法	T型フォードの生産、伝統的理論モデルの限界、科学的管理法と現代企業について解説する。	教科書 I 部「第 1 章組織ルーティンの機能」(pp. 9-13) を読んでください。
6	組織における諸問題 (3) ホーソン実験	伝統的組織論と近代組織論、人間関係論、組織の環境適応について解説する。	科学的管理法の特徴を整理し、身近な現代企業の活動と照らし合わせて説明してください。
7	組織の意思決定 (1) サイモンの制約された合理性	目的と手段の体系、意図せざる結果、組織におけるあいまいさと決定について解説する。	ホーソン実験の結果から明らかになった人間関係論の要点を整理してください。
8	組織の意思決定 (2) サイモンのゴミ箱モデル	目的の設定、階層的秩序、ゴミ箱モデル 4 つの要素、事実前提と価値前提について解説する。	教科書 I 部「第 2 章企業の持続性の分析単位としての組織ルーティン」(pp. 14-15) を読んでください。
9	組織化のプロセス (1) バーナードとサイモン	組織化のロジックを、バーナードの理論、サイモンの理論について解説する。	教科書 I 部「第 2 章企業の持続性の分析単位としての組織ルーティン」(pp. 16-19) を読んでください。
10	組織化のプロセス (2) ワイクとマーチ	組織化のプロセスを、ワイクの理論、マーチの理論について解説する。	教科書 I 部「第 2 章企業の持続性の分析単位としての組織ルーティン」(pp. 26-34) を読んでください。
11	環境と組織 (1) コンティンジェンシー理論	オープン・システムとしての組織、機械的管理と有機的管理について解説する。	教科書 I 部「第 3 章戦略的組織ルーティンの SECI プロセスによる形成メカニズム」(pp. 35-37) を読んでください。
12	環境と組織 (2) ネオ・コンティンジェンシー理論	戦略と組織、経営戦略論の発展、組織の主体性と戦略的選択アプローチについて解説する。	教科書 I 部「第 3 章戦略的組織ルーティンの SECI プロセスによる形成メカニズム」(pp. 37-42) を読んでください。
13	組織デザイン (1) 組織形態の基本型	分業のメリット・デメリット・組織構造の種類について、事例企業を通して解説する。	キャノン・花王・東レ・ダイキン工業の組織図を調べてください。
14	組織デザイン (2) 分業・標準化	分業の種類(垂直分業・水平分業・機能別分業・並行分業)について解説する。	分業のメリット・デメリット・組織構造の種類について要点を整理してください。
15	組織デザイン (3) 分業とモチベーション	分業とモチベーションの関係と、経営組織論の要点について解説する。	効果的な分業とモチベーションを高める方法について事例企業をあげて調べてください。

関連科目 経営学、経営戦略論、経営管理論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	企業の持続性と組織変革	榎谷正人	文真堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステーキホルダーの経営学	大平浩二編著	中央経済社
2	経営組織	大月博司・高橋正泰	学文社	
3				

評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、毎回理解促進テストと演習課題 (10%)、課題レポート (10%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	人間は、限定的で合理的な存在です。我々は全てのことがオールマイティではないのです。そこで、一人の人間ができることから、集団や組織 でできることの可能性について一緒に勉強しましょう。
担当者の 研究室等	榎谷研究室 (11 号館 7 階)
備考	

科目名	経営組織論Ⅱ	科目名(英文)	Theory of Business Organization II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	榎谷 正人

授業概要・目的	<p>今や多くの組織において、新しい企業環境の変化に応じた新たな組織づくりが問われている。この講義では、経営学の主要領域である経営組織について基本的な理解を深め、現実に行っている組織問題の本質を提示する。企業組織の基本形態を検討し、企業の戦略等によって組織がどのように変容する必要があるのか説明する。さらに、飛躍的に発展してきた組織論の基礎的な知識やロジックを学習しながら、現代的な諸問題を明らかにするとともに、それらの問題について実践的な対処法をケーススタディで解説する。</p>
到達目標	<p>第一に経営組織論Ⅱで繰り返し扱われるキーワードを理解し説明できること。 第二に現実の企業活動を新聞やインターネットで情報収集し分析できること。 第三に代表的理論を現実の企業に適用し説明できること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義、理解促進テストと演習課題、ディスカッションの3部構成で行う。 課題レポート(800字)を1~3回程度実施する。 日頃から新聞・インターネット等を活用し、企業組織の現実的諸問題について情報収集を行う。 ディスカッションを中心に行うので積極的な参加が求められる。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>企業研究の基礎になる科目でもあり、将来、経営者、管理者、経営企画、コンサルタントを目指す人の必須科目です。また、経営学検定、中小企業診断士、販売士検定試験等の資格受験に有効です。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	組織をめぐる諸問題と組織研究	ガイダンス、講義の目的、講義概要、評価方法の提示を行い、本講義を学ぶ意義を解説する。	ノートと教科書を持参してください。
2	組織能力と組織デザイン(1) 部門化・公式化	経営資源と組織能力を、組織デザイン(部門化・公式化)の関係から解説する	教科書Ⅱ部「第4章組織変革による戦略的組織ルーティンの形成プロセス」(pp.45-57)を読んでください。
3	組織能力と組織デザイン(2) 標準化・分権化	経営資源と組織能力を、組織デザイン(標準化・分権化)の関係から解説する。	教科書Ⅱ部「第4章組織変革による戦略的組織ルーティンの形成プロセス」(pp.57-70)を読んでください。
4	組織の内的コントロールと外的コントロール(1)	機械的コントロールと組織デザインによるコントロールについて、事例企業を通して解説する。	教科書Ⅱ部「第5章組織変革による組織形態の変化」(pp.71-79)を読んでください。
5	組織の内的コントロールと外的コントロール(2)	正統性の獲得を、対外対内コントロールの事例企業の実際を通して解説する。	教科書Ⅱ部「第5章組織変革による組織形態の変化」(pp.79-92)を読んでください。
6	組織の合理性と非合理性(1)	官僚制組織の特徴、計画的戦略と創発的戦略を通して、組織の合理性と非合理性を解説する。	教科書Ⅱ部「第6章組織変革による戦略的組織ルーティンの破壊と創造」(pp.93-98)を読んでください。
7	組織の合理性と非合理性(2)	ミンツバーグの所論非合理性の導入と活用、合理性と非合理性のバランスの重要性を解説する。	教科書Ⅱ部「第6章組織変革による戦略的組織ルーティンの破壊と創造」(pp.98-114)を読んでください。
8	組織文化と組織学習(1)	トンブソン・モデルの限界、シャインの組織文化論を基に、事例企業を比較して解説する。	教科書Ⅱ部「第7章組織変革によるダイナミック・ケイパビリティ形成」(pp.115-125)を読んでください。
9	組織文化と組織学習(2)	組織学習とルーティン、組織学習プロセスについて、事例企業を通して解説する。	教科書Ⅱ部「第7章組織変革によるダイナミック・ケイパビリティ形成」(pp.126-135)を読んでください。
10	組織間関係	戦略的提携、ネットワーク型組織の探求、組織変革の展開について事例企業で解説する。	教科書Ⅲ部「第8章キヤノン・花王・東レ・ダイキン工業の組織変革」(pp.139-145)を読んでください。
11	組織変革	組織変革のメカニズム、断続的均衡モデル、継続性モデル、学習する組織について解説する。	教科書Ⅲ部「第8章キヤノン・花王・東レ・ダイキン工業の組織変革」(pp.146-158)を読んでください。
12	組織イノベーション(1)	イノベーションの種類、テクノロジー・サイクルの理解を事例企業で解説する。	教科書Ⅲ部「第8章キヤノン・花王・東レ・ダイキン工業の組織変革」(pp.158-162)を読んでください。
13	組織イノベーション(2)	長期にわたり系統的に異なる種類のイノベーションの実現を、事例企業で解説する。	教科書Ⅲ部「第8章キヤノン・花王・東レ・ダイキン工業の組織変革」(pp.162-170)を読んでください。
14	知識創造とナレッジマネジメント	持続的成長と発展を遂げる企業の知識創造のプロセスとマネジメントを解説する。	教科書Ⅲ部「第9章戦略的組織ルーティンの創造からダイナミック・ケイパビリティの形成へ」(pp.171-179)を読んでください。
15	持続的イノベーション企業	セルフオーガニゼーション企業と、近年の経営組織論の展開と考え方、要点を解説する。	教科書「あとがき」(pp.180-183)を読んでください。

関連科目 経営学、経営戦略論、経営管理論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業の持続性と組織変革	榎谷正人	文眞堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ステークホルダーの経営学	大平浩二編著	中央経済社
2	経営組織	大月博司・高橋正泰	学文社
3	組織デザイン	沼上幹	日本経済新聞社

評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、毎回理解促進テストと演習課題 (10%)、課題レポート (10%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	人間は、限定的で合理的な存在です。我々は全てのことがオールマイティではないのです。そこで、一人の人間ができることから、集団や組織 でできることの可能性について一緒に勉強しましょう。
担当者の 研究室等	榎谷研究室 (11 号館 7 階)
備考	

科目名	経営統計学	科目名(英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかと印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。経営統計学では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行う。配布資料に含まれる演習問題を各自関数電卓を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果(資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	_____
2	統計資料の整理(1)	統計資料の読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計資料の整理(2)	統計資料の整理方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	データの集計(1)	代表値について、平均、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	データの集計(2)	度数分布、ヒストグラム	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集約(1)	データの集約、クロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集約(2)	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ・学力診断テスト1	前半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
9	データの相関関係(1)	相関関係について、相関係数の算出	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの相関関係(2)	相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	空間と事象(1)	標本空間、ベン図	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	空間と事象(2)	和集合、積集合	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学的手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ・学力診断テスト2	後半部分のまとめ	テストの解答内容を見直しておく
15	統計学の応用	マネジメントに求められる統計学、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目: ビジネス数学、ビジネスデータ分析

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ゼロから学ぶ統計解析	小寺平治	講談社
2	Excel でやさしく学ぶ統計解析	石村貞夫他	東京図書
3			

評価方法(基準)	試験(60%)、授業中の課題(40%)。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。
担当者の研究室等	11号館6階(杉本准教授室)
備考	必要に応じて資料を配布する

科目名	経営統計学	科目名 (英文)	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかと印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問である。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。経営統計学では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料を中心に講義を行い、プロジェクターを使用しながら解説する。配布資料に含まれる演習問題を各自関数電卓を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	_____
2	統計資料の整理 (1)	統計資料の読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計資料の整理 (2)	統計資料の整理方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	データの集計 (1)	代表値について、平均、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	データの集計 (2)	度数分布、ヒストグラム	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集約 (1)	データの集約、クロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集約 (2)	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ・学力診断テスト1	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく
9	データの相関関係 (1)	相関関係について、相関係数の算出	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの相関関係 (2)	相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	空間と事象 (1)	標本空間、ベン図	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	空間と事象 (2)	和集合、積集合	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学的手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ・学力診断テスト2	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく
15	統計学の応用	マネジメントに求められる統計学、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目: ビジネス情報処理、ビジネス数学、ビジネスデータ分析

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ゼロから学ぶ統計解析	小寺平治	講談社
2				
3				

評価方法 (基準): 授業中の課題 (40%)、小テスト (30%)、定期試験 (30%) の結果により総合的に評価する。  
私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。  
8割以上の出席を要求する。

学生へのメッセージ: 経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。統計学の知識は、就職活動だけでなく、社会に出てからも必ず役立ちます。

担当者の研究室等: 7号館2階 (非常勤講師控え室)

備考: 必要に応じて資料を配布する



科目名	経営と人間行動	科目名(英文)	Business and Human Behavior
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】経営における心理学の役割について学ぶ 企業などの組織の運営と管理における心理学的な課題を理解し、併せて組織行動に必要な知識やスキルの向上を図る。</p> <p>【概要】 企業の存在価値および存続価値を理解し、経営の基本が人であることを認識し、組織管理における人間理解の重要性や労働の意義を学ぶ。まず、リーダーシップ機能などの組織管理、人事管理における心理学的課題を学び、次に、企業の対社会的な活動について学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生き方と組織行動の特徴を知る</li> <li>2. 企業で働く意義・目的・課題を知る</li> <li>3. 組織管理論とリーダーシップ理論の変遷を知る</li> <li>4. 産業能率と労働意欲の関係をj知る</li> <li>5. 産業ストレスと労働者の健康管理について学ぶ</li> </ol>
授業方法と留意点	プリントおよびスライドを用いて授業を行う。配布資料はなくさないように。授業内容に即した参考図書を適宜紹介する。
科目学習の効果(資格)	企業経営における心理学的な課題に関心を持つことによって、心理学の視点から企業を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業と人間	人間の社会性を理解し、企業で働く人々に関係する多様な心理学的な課題を知る。	企業における人々の組織行動の目的と課題について考えてみよう。
3	組織管理と心理学(1):「ホーソン実験」の心理学的価値	「ホーソン実験」の成果を理解し、「産業能率」と「労働効率」の関係について学ぶ。	組織における人間的な要素を取り上げてみよう。
4	組織管理と心理学(2):組織論の変遷	テイラーの科学的管理論から始まる組織論の変遷を学び、組織設計と組織管理について考える。	組織効率とは何か、考えてみよう。
5	組織管理と心理学(3):リーダーとリーダーシップ	トップマネジメントの重要性とリーダーの特性およびリーダーシップ機能に関する心理学的な研究を理解する。	様々な経営者について調べ、その特徴をあげてみよう。
6	人的資源管理と心理学(1):労働意欲	産業能率と労働効率の関係を学び、労働意欲を向上させる諸条件について考える。	人事考課や勤務評定はなぜ必要か、考えてみよう。
7	人的資源管理と心理学(2):モチベーションおよび報酬と罰	労働におけるモチベーションの理論を学び、併せて、労働における報酬と罰の効果について考える。	仕事における報酬と罰の効果について考えてみよう。
8	人的資源管理と心理学(3):労働における「安全配慮義務」	労働に伴う疲労とストレスを理解し、健康に働くための社会的取り組みや企業の対応について学ぶ。	これまでの「労災問題」について調べてみよう。
9	職業選択と心理学(1):職業選択とミスマッチ	職業の適性診断とその心理学的手法を学ぶ。職業適性論は職業選択の決め手となるかについて考える。	自分にあう仕事とは何か。職業選択と適性について考えてみよう。
10	職業選択と心理学(2):職業教育と職業発達	社会生活における人間を理解し、職業における人格の発達について考える。	仕事を通して人は成長すると言われる理由を考えてみよう。
11	職業能力と心理学(1):社会人基礎力	社会人基礎力と職業能力の関係を理解し、企業が求める理想的な人材像を考える。	企業が求める人材について考えてみよう。
12	職業能力と心理学(2):組織開発と思考	「考える能力」と「チームワーク力」の関係を理解し、組織的行動の成立条件を考える。	協働を成功させる諸条件について考えてみよう。
13	産業ストレスと心理学(1):疲労とストレス	疲労とストレスの実態を理解し、労働者の健康問題を考える。	疲労と病気、ストレスと病気の関係を調べてみる。
14	産業ストレスと心理学(2):ストレスとその対処法	メンタルヘルスケアへの社会的な取り組みと企業の対応法について具体的な事例を通して学ぶ。	健康に働くための企業の取り組みについて考えてみよう。
15	講義のまとめ	経営学における心理学の役割とその有効性について振り返る。	講義内容から最も関心があったところをまとめる。

関連科目 組織管理や人的資源管理などの学習内容に心理学の知識が数多く含まれている。本講義を通してこれらの知識をよりよく理解できる。

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 期末定期試験の成績(70%)。小レポートの成績(30%)。小レポートは授業終了時に実施する。2つの成績をもとに総合的に評価する。なお出席管理システムによる出欠管理は成績評価の対象としないが、必ず学生証の提示を行うこと。

学生への メッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室厳禁。スマホ・携帯の使用厳禁。居眠り厳禁。 これらに違反した学生には退室を命ずることがある。
担当者の 研究室等	11号館7階「福田研究室」
備考	授業内容に関する質問には積極的に対応します。

科目名	経営とマーケティング	科目名 (英文)	Marketing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。各々がマーケティング的な視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。
到達目標	マーケティングの基礎的な知識を習得する。 マーケティング的な視点で物事をとらえる事ができるようになる。
授業方法と留意点	講義が中心だが、授業の中で課題の考察・検討の時間を設ける
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。マーケティングの発想ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マーケティング発想とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 内容の復習し、ポイントを整理する。
2	マーケティングのなり立ち	マーケティングの歴史を学ぶ	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
3	マーケティングの基本概念	マーケティングの4 Pなど基本的な概念について解説する	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
4	マーケティング戦略とは	マーケティング戦略の概要について解説する	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
5	製品のマネジメント	製品開発を中心に製品戦略について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
6	価格のマネジメント	価格の意味、価格設定など価格戦略について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
7	広告のマネジメント	販売促進の手段である広告についてその意義や役割を解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
8	チャネルのマネジメント	メーカーにとってのチャネルの重要性やチャネル管理について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
9	サプライチェーンのマネジメント	生産から販売までの企業が連携して在庫をコントロールするマネジメント手法について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
10	営業のマネジメント	人的販売で重要な役割を果たす営業について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
11	顧客理解	多様化した顧客のニーズや満足を理解する意義と方法について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
12	顧客関係のマネジメント	多様化した顧客と企業がいかに関係を構築するかその意義と方法について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
13	ブランドのマネジメント	ブランドの役割と重要性について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
14	ブランドのマネジメント組織	ブランドのマネジメント手法やそのための組織について学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
15	ソーシャル・マーケティング	コーズ・リレーティッド・マーケティングなどCSRを意識したマーケティングについて解説する	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 試験にむけた復習

関連科目	経営学、経営戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からのマーケティング	石井淳蔵、廣田章光	碩学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内課題30%、期末試験70%			
学生への メッセージ	日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかに関心を持って講義に臨んでもらいたい。			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵研究室			
備考				

科目名	経営分析論	科目名(英文)	Business Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	経営分析論(「財務諸表分析」ともよばれる)の目的は、主に財務的な観点から、企業の現状を知り企業の今後の展開を予測するために、また企業の価値評価の手掛かりを得るために、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書を読み、理解したうえで、これらの財務表データをさまざまな角度から分析するための各種の分析手法を取り上げ検討することである。この意味で、経営分析論は、簿記論・会計学の最終段階の応用領域であるとともにファイナンスに属する経営財務論(コーポレート・ファイナンス)への架け橋となる領域である。
到達目標	財務諸表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書など)データを読み、その意味を理解することができるようになる。 企業の現状(企業ファンダメンタルズ)を把握するための基本的な手法を身につけ、財務諸表さえ入手することができれば、自らの手で、その企業の(財務的な)強み・弱みを評価することができるようになり、さらには、会計学・経営財務論の究極的な目標である企業価値評価に向けた手がかりを得る。
授業方法と留意点	配布する講義資料に沿って講義を進める。経営分析論の各種の分析手法を修得する早道は、財務諸表を読み、理解した上で、財務諸表のデータを用いて自ら実際に財務比率等を算定してみることであり、それゆえ、原則として講義の後半30分程度を演習問題の取組み、質問の時間に当てる。電卓等の計算機器を携帯すること。 原則として講義資料はほぼ講義2～3回分に1回のペースで配布する。講義資料は配布された都度ファイルしておき、講義に際して持参すること。すくなくとも最後まで説明が終了しなかった講義資料は翌週に必ず持参すること。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので、この点、十分に注意すること。
科目学習の効果(資格)	企業人としての必須な知識が修得できる。、専門的職業人(とくに中小企業診断士、証券アナリストなど)の資格取得に密接に関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションー経営分析とは	経営分析の意義と目的を理解するため、経営分析論で取り上げられる主要なテーマについて概説する。加えて、財務データの収集方法や授業の進め方、評価方法などについても説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。
2	経営分析における各種の分析手法	経営分析では、さまざまな分析主体の異なる分析目的に応じて、多様な分析手法を利用する。講義の目的は、これらの各種・多様な分析手法を概観し、整理することである。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
3	貸借対照表を読む(1)	経営分析の主な分析対象となる財務諸表のうち、貸借対照表とは企業のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、貸借対照表の読み方・見方を説明する。今回の講義の焦点は「資産」である。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
4	貸借対照表を読む(2)	前回の講義に引き続いて、貸借対照表とは企業のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、貸借対照表の読み方・見方を説明する。今回の講義の焦点は「負債」「純資産」である。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
5	貸借対照表データの基本分析(1)	貸借対照表データに関する主要な分析手法(主に「安全性分析」に含まれる財務比率)を説明したうえで、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
6	貸借対照表データの基本分析(2)	前回は引き続き、「安全性分析」に含まれる財務比率・今回は特に長期的な視点からの財務比率を説明し、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
7	損益計算書を読む(1)	経営分析の主な分析対象となる財務諸表のうち、損益計算書とは企業活動のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、損益計算書の読み方・見方を、「当期純利益」段階まで説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
8	損益計算書を読む(2)	前回は引き続き、損益計算書を取り上げ、読み方・見方を学ぶ。今回は、とりわけ、「包括利益」に焦点を当て、「当期純利益」と比較する形で、損益及び包括利益計算書を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
9	損益計算書データの基本分析	損益計算書データに関する主要な分析手法(主に「収益性分析」に含まれる財務比率)を説明したうえで、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
10	整理と復習(1)	貸借対照表・損益計算書データの分析に関するこれまでの講義の主要な内容を改めて整理し復習する。演習問題を中心にこれまでの講義に関する質問に答える(講義の進捗に応じて前後することがある)。	これまでの講義全体において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。

	11	キャッシュフロー計算書を読む	経営分析の主な分析対象となる財務諸表のうち、キャッシュフロー計算書とは企業活動のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、キャッシュフロー計算書の読み方・見方を説明する。加えて、経営分析においてしばしば利用される「株主資本等変動計算書」・「製造原価報告書」についても取り上げ解説する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	12	キャッシュフロー計算書データの基本分析	キャッシュフロー計算書データに関する主要な分析手法を説明したうえで、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	13	統合的財務比率としての総資本事業利益率（ROA）と自己資本利益率（ROE）	これまでの講義では、個々の財務表ごとに関連する分析手法（主に財務比率分析）を説明してきた。今回は、個々の財務表のデータを相互に結びつけた企業の統合的・総合的な業績指標に焦点をあて検討する。加えて、算定された数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	14	主要な3つの経営分析－収益性分析・効率性分析・安全性分析	統合的・総合的な業績指標である自己資本利益率（ROE）の分解によって明らかとなる3つの要素、とりわけこれまでの講義では取り上げなかった「回転率」（効率性分析）に焦点を当て、自己資本利益率（ROE）分解の意義を改めて検討する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	15	整理と復習（2）	後半の講義の主要な内容を改めて整理し復習する。演習問題を中心にこれまでの講義に関する質問に答える。	これまでの講義全体（特に後半の講義）において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。																
関連科目	企業簿記、財務会計論、管理会計論、会計情報論、企業分析（財務戦略ケース分析）、経営財務論。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	特に指定しない																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>財務諸表の見方（日経文庫）</td> <td>日本経済新聞社</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ビジネスゼミナール 経営分析入門</td> <td>森田松太郎</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ビジネスゼミナール 決算書の読み方</td> <td>脇田良一・岩田康成</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	財務諸表の見方（日経文庫）	日本経済新聞社	日本経済新聞出版社	2	ビジネスゼミナール 経営分析入門	森田松太郎	日本経済新聞出版社	3	ビジネスゼミナール 決算書の読み方	脇田良一・岩田康成	日本経済新聞出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	財務諸表の見方（日経文庫）	日本経済新聞社	日本経済新聞出版社																	
2	ビジネスゼミナール 経営分析入門	森田松太郎	日本経済新聞出版社																	
3	ビジネスゼミナール 決算書の読み方	脇田良一・岩田康成	日本経済新聞出版社																	
評価方法（基準）	定期試験 95%、中間時点における1回の演習問題の提出（提出の場合は事前に通知する） 5%																			
学生へのメッセージ	経営分析論での主な作業は、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書といった財務諸表の内容を理解したうえで、それらのデータを分析することである。そえゆえ、「財務諸表に関する基礎的な知識を有している」という前提で講義が開始される。もとより本講義においても財務諸表の内容についてかなりの時間を割いて改めて説明するが、「財務諸表に関する基礎的な知識」が必要という意味で、「財務会計論」を履修済みであることが望ましい。 熱心かつ真面目な態度で授業に臨み、私語は他の受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。質問はどのようなものであれ大いに歓迎する。																			
担当者の研究室等	11号館8階（高尾研究室）																			
備考	講義内容が前後するなど若干の変更等が必要となる場合には、可能な限り事前に伝える。																			

科目名	経営分析論 I	科目名 (英文)	Business Analysis I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	経営分析論（「財務諸表分析」ともよばれる）の目的は、主に財務的な観点から、企業の現状を知り企業の今後の展開を予測するために、また企業の価値評価の手掛かりを得るために、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書を読み、理解したうえで、これらの財務表データをさまざまな角度から分析するための各種の分析手法を取り上げ検討することである。この意味で、経営分析論は、簿記論・会計学の最終段階の応用領域であるとともにファイナンスに属する経営財務論（コーポレート・ファイナンス）への架け橋となる領域である。
到達目標	財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書など）データを読み、その意味を理解することができるようになる。企業の現状（企業ファンダメンタルズ）を把握するための基本的な手法を身につけ、財務諸表さえ入手することができれば、自らの手で、その企業の（財務的な）強み・弱みを評価することができるようになり、さらには、会計学・経営財務論の究極的な目標である企業価値評価に向けた手がかりを得る。
授業方法と留意点	配布する講義資料に沿って講義を進める。経営分析論の各種の分析手法を修得する早道は、財務諸表を読み、理解した上で、財務諸表のデータを用いて自ら実際に財務比率等を算定してみることであり、それゆえ、原則として講義の後半30分程度を演習問題の取組み、質問の時間に当てる。電卓等の計算機器を携帯すること。原則として講義資料はほぼ講義2～3回分に1回のペースで配布する。講義資料は配布された都度ファイルしておき、講義に際して持参すること。すくなくとも最後まで説明が終了しなかった講義資料は翌週に必ず持参すること。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので、この点、十分に注意すること。
科目学習の効果（資格）	企業人としての必須な知識が修得できる。、専門的職業人（とくに中小企業診断士、証券アナリストなど）の資格取得に密接に関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションー経営分析とは	経営分析の意義と目的を理解するため、経営分析論で取り上げられる主要なテーマについて概説する。加えて、財務データの収集方法や授業の進め方、評価方法などについても説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。
2	経営分析における各種の分析手法	経営分析では、さまざまな分析主体の異なる分析目的に応じて、多様な分析手法を利用する。講義の目的は、これらの各種・多様な分析手法を概観し、整理することである。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
3	貸借対照表を読む（1）	経営分析の主な分析対象となる財務諸表のうち、貸借対照表とは企業のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、貸借対照表の読み方・見方を説明する。今回の講義の焦点は「資産」である。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
4	貸借対照表を読む（2）	前回の講義に引き続いて、貸借対照表とは企業のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、貸借対照表の読み方・見方を説明する。今回の講義の焦点は「負債」・「純資産」である。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
5	貸借対照表データの基本分析（1）	貸借対照表データに関する主要な分析手法（主に「安全性分析」に含まれる財務比率）を説明したうえで、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
6	貸借対照表データの基本分析（2）	前回到引き続き、「安全性分析」に含まれる財務比率ー今回は特に長期的な視点からの財務比率を説明し、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
7	損益計算書を読む（1）	経営分析の主な分析対象となる財務諸表のうち、損益計算書とは企業活動のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、損益計算書の読み方・見方を、「当期純利益」段階まで説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
8	損益計算書を読む（2）	前回到引き続き、損益計算書を取り上げ、読み方・見方を学ぶ。今回は、とりわけ、「包括利益」に焦点を当て、「当期純利益」と比較する形で、損益及び包括利益計算書を説明する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
9	損益計算書データの基本分析	損益計算書データに関する主要な分析手法（主に「収益性分析」に含まれる財務比率）を説明したうえで、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。
10	整理と復習（1）	貸借対照表・損益計算書データの分析に関するこれまでの講義の主要な内容を改めて整理し復習する。演習問題を中心にこれまでの講義に関する質問に答える（講義の進捗に応じて前後することがある）。	これまでの講義全体において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。

	11	キャッシュフロー計算書を読む	経営分析の主な分析対象となる財務諸表のうち、キャッシュフロー計算書とは企業活動のいかなる側面に関する情報を提供するものであるのかを改めて復習し、キャッシュフロー計算書の読み方・見方を説明する。加えて、経営分析においてしばしば利用される「株主資本等変動計算書」・「製造原価報告書」についても取り上げ解説する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	12	キャッシュフロー計算書データの基本分析	キャッシュフロー計算書データに関する主要な分析手法を説明したうえで、配布した資料にもとづいて、実際に財務比率等を計算し、計算した数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	13	統合的財務比率としての総資本事業利益率（ROA）と自己資本利益率（ROE）	これまでの講義では、個々の財務表ごとに関連する分析手法（主に財務比率分析）を説明してきた。今回は、個々の財務表のデータを相互に結びつけた企業の統合的・総合的な業績指標に焦点をあて検討する。加えて、算定された数値の意味を考えてみる。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	14	主要な3つの経営分析－収益性分析・効率性分析・安全性分析	統合的・総合的な業績指標である自己資本利益率（ROE）の分解によって明らかとなる3つの要素、とりわけこれまでの講義では取り上げなかった「回転率」（効率性分析）に焦点を当て、自己資本利益率（ROE）分解の意義を改めて検討する。	配布資料をしっかりと読み理解すること。演習問題については必ず自ら納得して終えること。直前に配布した資料を講義後に復習し、不明な箇所があれば翌週の講義の際に必ず質問し、理解を確かなものしておくこと。																
	15	整理と復習（2）	後半の講義の主要な内容を改めて整理し復習する。演習問題を中心にこれまでの講義に関する質問に答える。	これまでの講義全体（特に後半の講義）において配布したすべての資料と演習問題を復習し、疑問点・理解不十分な箇所について整理しておくこと。質問を受ける。																
関連科目	企業簿記、財務会計論、管理会計論、会計情報論、企業分析（財務戦略ケース分析）、経営財務論。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	特に指定しない																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>財務諸表の見方（日経文庫）</td> <td>日本経済新聞社</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ビジネスゼミナール 経営分析入門</td> <td>森田松太郎</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ビジネスゼミナール 決算書の読み方</td> <td>脇田良一・岩田康成</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	財務諸表の見方（日経文庫）	日本経済新聞社	日本経済新聞出版社	2	ビジネスゼミナール 経営分析入門	森田松太郎	日本経済新聞出版社	3	ビジネスゼミナール 決算書の読み方	脇田良一・岩田康成	日本経済新聞出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	財務諸表の見方（日経文庫）	日本経済新聞社	日本経済新聞出版社																	
2	ビジネスゼミナール 経営分析入門	森田松太郎	日本経済新聞出版社																	
3	ビジネスゼミナール 決算書の読み方	脇田良一・岩田康成	日本経済新聞出版社																	
評価方法（基準）	定期試験 95%、中間時点における1回の演習問題の提出（提出の場合は事前に通知する） 5%																			
学生へのメッセージ	経営分析論での主な作業は、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書といった財務諸表の内容を理解したうえで、それらのデータを分析することである。そえゆえ、「財務諸表に関する基礎的な知識を有している」という前提で講義が開始される。もとより本講義においても財務諸表の内容についてかなりの時間を割いて改めて説明するが、「財務諸表に関する基礎的な知識」が必要という意味で、「財務会計論」を履修済みであることが望ましい。 熱心かつ真面目な態度で授業に臨み、私語は他の受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。質問はどのようなものであれ大いに歓迎する。																			
担当者の研究室等	11号館8階（高尾研究室）																			
備考	講義内容が前後するなど若干の変更等が必要となる場合には、可能な限り事前に伝える。																			



科目名	経営倫理 I	科目名 (英文)	Management Ethics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田 住吉

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶのは、「戦略」です。経営倫理の視点から今日的なテーマである内部統制を取り上げます。内部統制とは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？</li> <li>・主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①企業は、なぜ失敗するのか？ また、その失敗はどのような社会的ダメージをもたらすのか？</li> <li>②企業にはどんな倫理上のリスクがあり、どのような内部統制を行えばそのダメージを最小化できるのか？</li> <li>③内部統制を、ビジネス戦略や企業の成長にどう活かせば良いのか？</li> </ul> </li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・内部統制とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本的な内部統制の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケーススタディ（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返す、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</li> </ul> </li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。 <復習> 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるように。
	2	失敗の美学 ～ビジネス現場の内部統制～	企業事例研究：食品加工メーカーA社 ～①企業は、なぜ失敗するのか？～	同上
	3	同上②	企業事例研究：食品加工メーカーA社 ～②内部統制リスクの種類とその統制～	同上
	4	同上③	企業事例研究：食品加工メーカーA社 ～③内部統制ダメージの原因分析とその対策～	同上
	5	同上④	企業事例研究：食品加工メーカーA社 ～④全社的統制～	同上
	6	コンプラって、何だろう？ ～法令遵守と内部統制～	企業事例研究：自動車部品メーカーB社 ～①企業のコンプライアンスと社会的影響～	同上
	7	同上②	企業事例研究：自動車部品メーカーB社 ～②企業のリスクダメージ分類マトリクス～	同上
	8	同上③	企業事例研究：自動車部品メーカーB社 ～③企業の成長とコンプライアンス～	同上
	9	同上④	企業事例研究：自動車部品メーカーB社 ～④営業取引とコンプライアンス～	同上
	10	同上⑤	企業事例研究：自動車部品メーカーB社 ～⑤中小企業のコンプライアンス経営～	同上
	11	ある内部告発事件 ～企業倫理と内部統制～	企業事例研究：文具メーカーC社 ～①労務管理とハラスメント対策～	同上
	12	同上②	企業事例研究：文具メーカーC社 ～②企業風土と内部統制～	同上
	13	同上③	企業事例研究：文具メーカーC社 ～③内部告発と情報漏洩～	同上
	14	同上④	企業事例研究：文具メーカーC社 ～④企業倫理と情報公開～	同上
	15	同上⑤	企業事例研究：文具メーカーC社 ～⑤内部統制の成熟度指標～	同上

関連科目 経営倫理Ⅱ、企業分析（コーポレートガバナンス）など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	すべて教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる内部統制	富士通オフィス機器㈱	FOM出版
	2	中小企業のための「内部統制」制度の確立	武田 隆二	TKC出版
	3	内部統制のポイント	三浦 太一	中経出版

評価方法 (基準)	①グループ討議への参加意欲・発言内容 (40%)、 ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (20%)、 ③プレゼン力および質疑応答対応力 (20%) ④定期試験 (論述式) (20%) による総合評価。 ただし、①～③は、毎回の授業の都度採点し、集計します。
学生への メッセージ	・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッション しましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室
備考	

科目名	経営倫理II	科目名(英文)	Management Ethics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶのは、「戦略」です。経営倫理の視点から今日的なテーマであるCSR（企業の社会的責任）を取り上げます。CSRとは何か？ 経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶ必要があるのか？</li> <li>・主な学習テーマは、以下のとおりです。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①企業にとって、なぜCSRが必要なのか？</li> <li>②CSRを実施するにあたり、企業は具体的に何をすれば良いのか？</li> <li>③CSRを、ビジネス戦略や企業の成長にどう活かせば良いのか？</li> </ul> </li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</li> <li>・CSRとビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本的なCSRの企業事例について、実際のビジネス現場で起るケーススタディ（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</li> <li>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返して、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</li> <li>③ グループメンバー、役割分担は定期的に変更し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方の違いを体感します。</li> </ul> </li> <li>・前期の授業において、経営倫理Iを履修していることをお勧めします。</li> <li>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。スマホ等は必ず持参下さい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	<予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように。 <復習> 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるように。
2	目指せ！「匠」のマネジメント ～労務対策とCSR～	企業事例研究：粉末調味料メーカーE社～①従業員の力量判定と人材育成～	同上
3	同上②	企業事例研究：粉末調味料メーカーE社～②従業員の健康管理と経営倫理～	同上
4	同上③	企業事例研究：粉末調味料メーカーE社～③従業員の労災リスク回避～	同上
5	同上④	企業事例研究：粉末調味料メーカーE社～④食品アレルギーコンタミ対策～	同上
6	もしものためのBCP ～自然災害とCSR～	企業事例研究：金属プレス加工業A社・食品スーパーB社～①自然災害と企業ダメージ～	同上
7	同上②	企業事例研究：金属プレス加工業A社・食品スーパーB社～②早期復旧対策におけるボトルネック～	同上
8	同上③	企業事例研究：金属プレス加工業A社・食品スーパーB社～③存続すべき中核事業の判定基準～	同上
9	同上④	企業事例研究：金属プレス加工業A社・食品スーパーB社～④BCPに盛り込むべき企業倫理～	同上
10	同上⑤	企業事例研究：金属プレス加工業A社・食品スーパーB社～⑤BCP作成演習～	同上
11	いま、なぜ、CSR？ ～J-SOX法とCSR～	企業事例研究：監査法人F社～①企業不祥事とJ-SOX法	同上
12	同上②	企業事例研究：監査法人F社～②会計監査とCSR～	同上
13	同上③	企業事例研究：監査法人F社～③上場会社の内部統制基準～	同上
14	同上④	企業事例研究：監査法人F社～④中小企業とCSR経営～	同上
15	同上⑤	企業事例研究：監査法人F社～⑤CSR経営とステークホルダー～	同上

関連科目 経営倫理I、企業分析（コーポレートガバナンス）など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	すべて教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用します。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	C S R 経営戦略	伊吹 英子	東洋経済新報社
	2	C S R 会計を導入する	松本 恒雄、倍 和博	日本規格協会
	3			
評価方法 (基準)	<p>①グループ討議への参加意欲・発言内容 (40%)、                  ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力 (20%)、                  ③プレゼン力および質疑応答対応力 (20%)                  ④定期試験 (論述式) (20%)                  による総合評価。                  ただし、①～③は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッション                      しましょう！</li> <li>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室			
備考				

科目名	経営労務論 I	科目名 (英文)	Personnel Management I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p>[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理 I では、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。</p> <p>[授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>
到達目標	<p>[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。</p> <p>この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。</p>
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	第1章
3	人的資源管理入門(2)	人事管理の特徴や仕組みの概要について、時代の変化に関連させながら説明します。	第1章
4	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	第2章
5	人間モデル	各人間モデルに対応するマネジメントについて検討します。	第2章
6	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	第3章
7	戦略的人的資源管理	人的資源管理が企業の業績に貢献するプロセスについて検討します。	第3章
8	組織能力	人的資源を企業の持続的競争優位の源泉とするマネジメントのあり方を考えます。	第4章
9	組織デザイン	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	第5章
10	モチベーション	人的資源管理の心理的側面について、モチベーションの観点から説明します。	第6章
11	モチベーション	企業経営におけるモチベーション・マネジメントの課題を検討します。	第6章
12	リーダーシップ	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	第7章
13	リーダーシップ	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	第7章
14	コミットメント	従業員のコミットメントを高めるための人事諸制度を説明します。	第8章
15	人事管理のまとめ	前期で学んだことをまとめます。	これまでの復習

関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄編著	中央経済社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	中間テスト(30%)、定期試験(70%)で評価します。			
学生へのメッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。			
担当者の研究室等備考	11号館8階(庭本研究室)			

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	<p>本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを買ったり売ったりすることを経済という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかにか身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。</p> <p>私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的なながらも重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。</p>
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得

授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める。ただし、受動的な受講姿勢とならないよう、“声を出す”ことを重視する。例えば教科書の音読、臨機応変な質疑応答などである。言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
----------	---

科目学習の効果(資格)	日々の暮らしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々の暮らしとの結びつきについて概説し、「暮らしと経済」で何を考え学ぶのかを解説する。新聞の読み方についても解説する。	復習すること
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章を予習復習のこと
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章を予習復習のこと
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章を予習復習のこと
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章を予習復習のこと
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章を予習復習のこと
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章を予習復習のこと
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第7章を予習復習のこと
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章を予習復習のこと
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章を予習復習のこと
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章を予習復習のこと
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章を予習復習のこと
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章を予習復習のこと
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章を予習復習のこと

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経済学	中谷武、中村保	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間試験(50%)＋期末試験(50%)で評価する。中間・期末双方の試験を受験しなければ評価の対象とならない。なお、詳細は初回講義で述べる。
----------	---

学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	原価計算論 I	科目名 (英文)	Cost Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的  
製造業を営む企業にとって、原価計算はなくてはならない計算技術である。製造業においては、原価計算がなければ、財務諸表作成だけでなく、価格決定など様々な経営管理上の課題も解決することができない。本講義では、原価とは何か、原価計算の目的は何か、原価計算はどのような手続きを経て実施されるのかなど原価計算を理解する上で必要不可欠な基礎知識を身につけてもらうことを目的として授業を進める。

到達目標  
①原価計算の目的が理解できる。②原価計算の基本的な概念や用語が理解できる。③原価計算の基本的な仕組みが理解できる。

授業方法と留意点  
講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を高めるため、毎回小テストを行う予定である。

科目学習の効果 (資格)  
日商簿記検定 2 級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	—————
2	原価計算の目的	財務諸表作成目的、原価管理目的、利益管理目的、経営意思決定目的	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
3	原価計算の種類	原価計算制度、特殊原価調査	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
4	原価概念(1)	原価計算制度における原価の一般概念	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
5	原価概念(2)	原価計算制度における原価の諸概念	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
6	原価要素(1)	形態別分類、製品との関連による分類、機能別分類	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
7	原価要素(2)	操業度との関連における分類、原価の管理可能性にもとづく分類	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
8	原価計算の手続	原価計算の手続過程、原価単位と原価計算期間	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
9	原価計算の形態	個別原価計算、総合原価計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
10	標準原価計算	標準原価計算の意義、標準原価計算の手続き	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
11	直接原価計算	直接原価計算の意義と目的	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
12	損益分岐点分析	損益分岐点の計算方法	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
13	特殊原価概念(1)	差額原価、埋没原価	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
14	特殊原価概念(2)	機会原価、現金支出原価、回避可能原価、延期可能原価	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
15	まとめ	授業全体のまとめ	今まで学んできた内容を復習しておくこと。

関連科目  
簿記入門、財務会計論等

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代 原価・管理会計の基礎	山田庫平、吉村聡	東京経済情報出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
定期試験の点数(70点)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30点)に基づいて評価する。

学生へのメッセージ  
授業中の私語は周りの受講生の迷惑になるので絶対に慎んで下さい。また、講義内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。

担当者の研究室等  
11号館7階(三木准教授室)

備考

科目名	原価計算論Ⅱ	科目名(英文)	Cost Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的  
原価計算論Ⅰで学んだことを踏まえて、本講義では財務諸表作成のための原価計算の具体的な手続過程について学習していく。製造原価の計算は、費目別計算、部門別計算、製品別計算の3つの手続過程を経て行われるが、本講義では、この3つの手続過程それぞれの内容について理解することを目的として授業を進める。

到達目標  
日商簿記検定2級(工業簿記)レベルの財務諸表作成目的の原価計算について理解する。

授業方法と留意点  
講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、毎回小テストを行う予定である。

科目学習の効果(資格)  
日商簿記検定2級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等の説明	—————
2	費目別計算(1)	材料費の分類、材料購入原価の計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
3	費目別計算(2)	材料消費量の計算、材料消費価格の計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
4	費目別計算(3)	労務費の分類、支払賃金の計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
5	費目別計算(4)	消費賃金の計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
6	費目別計算(5)	経費の分類、経費の計算、費目別計算のまとめ	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
7	部門別計算(1)	部門別計算の目的、原価部門の設定、部門に集計される原価要素の範囲	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
8	部門別計算(2)	部門別計算の手続き(部門費の第1次集計)	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
9	部門別計算(3)	部門別計算の手続き(部門費の第2次集計)	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
10	製品別計算(1)	個別原価計算の意義、個別原価計算の手続	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
11	製品別計算(2)	総合原価計算の意義、単純総合原価計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
12	製品別計算(3)	工程別総合原価計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
13	製品別計算(4)	組別総合原価計算、等級別総合原価計算	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
14	製品別計算(5)	連産品の原価計算、総合原価計算のまとめ	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
15	まとめ	授業全体のまとめ	今まで学んできた内容を復習しておくこと。

関連科目  
簿記入門、財務会計論等

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代 原価・管理会計の基礎	山田庫平、吉村聡	東京経済情報出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
定期試験の点数(70点)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30点)に基づいて評価する。

学生へのメッセージ  
授業中の私語は周りの受講者の迷惑になるので絶対に慎んで下さい。また、講義内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。

担当者の研究室等  
11号館7階(三木准教授室)

備考



科目名	現代社会論	科目名(英文)	Challenges of Modern Society
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	いわゆる日本の高度成長期には「消費は美德」という言葉が流行した。「大量生産／大量消費社会」を賛美したものである。しかし、現在ではこれはもはや死語である。代わって、時代をリードしているのは「Mottainai(もったいない)」であるが、現代社会は本当にエコロジーを主軸に転換することに成功しているだろうか。この講義では、20世紀の半ば以降、今日に至るまで社会を動かしている経済のシステムを理解した上で、それを変革するための道を探る。
到達目標	資本主義の精神的基盤について理解する。 古典的資本主義の限界と現代資本主義の特徴を理解する。 現代資本主義の限界、特に「外部問題」について理解する。 「成長の限界」において何が問われているのかを理解する。 資本主義に代わる社会のあり方について、自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	テキストを用いない「ノート講義」方式。適宜プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	現代社会の根幹をなす資本主義を理解することによって、自分たちが混沌の時代に生きていること、また、これにどう対処すべきかのヒントが得られるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・現代＝近代の特徴とは何か ・(熱い)社会と(冷たい)社会(レヴィ＝ストロース) ・資本主義と成長の「神話」	現代社会の特徴と問題点を自分なりに考えてみる。
2	資本主義社会の成立(1)	・冒険商人と資本家 ・「倫理」としての資本主義(マックス・ウェーバー)	配付資料について自分なりの考えをまとめる。
3	資本主義社会の成立(2)	・恋愛と贅沢と資本主義(ゾンバルト) ・禁欲的生産と享乐的消費の関係	ウェーバーとゾンバルトの着眼点の違いを整理して、現代の商品開発に当てはめてみる。
4	古典的資本主義の限界と現代資本主義	・資本主義の帰結としての恐慌と帝国主義 ・現代資本主義の登場(フォードとGMの経営戦略)	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
5	現代資本主義社会の特徴	・大量生産／大量消費社会 ・情報化／消費化社会におけるゆたかさ	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
6	産業の文明論的進化と情報化社会	・梅棹忠夫の「情報産業論」 ・情報化と脱工業化 ・情報化と消費化	『情報の文明学』の該当箇所を読んでおく。
7	情報化と人間社会	・インターネットの発達とコミュニケーションの変質 ・ネット社会の光と影	ネット社会の問題点を自分なりに考えてくる。
8	大衆社会と消費文化	・社会の大衆化と文化としての消費 ・情報の消費としてのマス・コミュニケーション ・消費と消尽(パタイユ)	社会の大衆化によって形成されてきた消費文化の事例を考えてみる。
9	現代社会の「外部問題」(1)	・経済システムと物理システム ・資源・エネルギーと環境の経済的「価値」	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
10	現代社会の「外部問題」(2)	・貨幣の謎とエントロピー ・エコロジー経済学の可能性	エントロピー概念についての資料を理解する。
11	現代社会の「外部問題」(3)	・社会システムの限界としての「共有地の悲劇」 ・外部問題としての南北問題 ・途上国の人口爆発と先進国の少子高齢化	「共有地の悲劇」について調べてくる。
12	「成長の限界」をめぐって(1)	・『成長の限界』の予測とそれに対する様々な評価 ・エネルギー・資源の限界と「2050年問題」	「算術級数的増加」と「幾何級数的増加」の意味について調べてくる。
13	「成長の限界」をめぐって(2)	・成長神話からの脱却 ・江戸時代における循環型社会 ・循環型社会の構築のための条件	フローとストックについて調べてくる。
14	グローバル化と自由主義	・グローバル化の様々な局面 ・市場主義と経済の自由 ・リバタリアンとコミュニタリアン	グローバル化の事例について調べてみる。
15	まとめ	・講義全体のまとめ	これまでの講義ノートをまとめておく。

関連科目 環境倫理Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の(精神)	M・ウェーバー	岩波文庫
2	情報の文明学	梅棹忠夫	中公文庫	
3	現代社会の理論	見田宗介	岩波新書	

評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%)、授業後のレポート、期末試験 (60%)
学生への メッセージ	環境問題の解決のためには現代社会全体の変革が必要です。21世紀のあるべき企業の姿もそこに重なっていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階
備考	事前・事後学習におよそ60時間必要。

科目名	現代日本経営史	科目名(英文)	Business History of Modern Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	第2次大戦後の日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業と経営者（企業家）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。企業の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業・企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	資料の配付やビデオ視聴を行いながら講義形式で実施します。
科目学習の効果(資格)	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	戦後の経済発展の枠組みと企業経営(1)	戦の復興過程と企業	第2次大戦後の経済と企業社会の変化について予習し、講義後にまとめる。
2	戦後の経済発展の枠組みと企業経営(2)	高度経済成長と企業経営者	戦後を代表する企業とその経営者をリストアップし、講義後その共通点について、まとめる。
3	高度経済成長と企業(1)	家電メーカーの成長と電化生活の変化	関西に家電メーカーが多く生まれた歴史的要因について考える。
4	高度経済成長と企業(2)	松下電器の発展と松下幸之助の経営哲学	松下の経営理念「水道哲学」とは何か、またそれは現在のパナソニックに引き継がれているのか、考察する。
5	高度経済成長と企業(3)	二輪車メーカーの叢生	戦後、二輪車メーカーが多数誕生するが、最終的にホンダなど数社に集約された要因を分析する。
6	高度経済成長と企業(4)	ホンダの創業と本田宗一郎	ホンダが二輪車メーカーのトップメーカーへと成長した要因を調べてまとめる。
7	高度経済成長と企業(5)	SONYと井深大	SONYの発展をもたらした要因を調べて、まとめる。
8	流通革命と企業経営(1)	戦後流通業の変化	流通業界の主役の移り変わりを調べて、まとめる。
9	流通革命と企業経営(2)	中内・ダイエーの「流通革命」とその挫折	ダイエーの経営の失敗について、その要因を調べて、まとめる。また、中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で引き継がれているのかを考える。
10	流通革命と企業経営(3)	コンビニの登場と発展	現在の小売業の主役であるコンビニ経営の本質について調べる。
11	流通革命と企業経営(4)	コンビニの発展とセブンイレブン・鈴木敏文	鈴木による小売業の革新は、海外においても通用するか考え、まとめる。
12	IT革命の進展と企業(1)	IT革命は企業経営をいかに変革したか(1)	PC、インターネットの発展がもたらした企業経営の変容を調べる。
13	IT革命の進展と企業(2)	IT革命は企業経営をいかに変革したか(2)	IT革命が企業経営に与えた影響について調べ、まとめる。
14	IT革命の進展と企業(3)	孫正義の理念と行動	孫正義がどのような理念で経営行動を行っているのか、「マイノリティとしての存在」から考える。
15	まとめ		練習問題

関連科目	経営史、企業者史 I (S科科目)
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験結果(90%)、講義への積極的な取り組み姿勢、態度(10%)で評価。
----------	--

学生へのメッセージ	講義内容に対する不明点や疑問は遠慮なく質問してください。また、紹介する参考文献にはできる限り目を通してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	11号館8階(佐藤研究室)
------------	---------------

科目名	国際会計論	科目名(英文)	International Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 信博

授業概要・目的	次の内容について講義する。 ①簿記及び会計の仕組みを英文で学習していく。具体的には、取引の仕訳、勘定記入、決算及び財務諸表の作成をすべて英文で行い、英文簿記の手続と基本単語を学習する ②わが国の会計基準に関する基礎的な項目を踏まえて、米国会計基準およびIFRSの特質を講義する。
到達目標	以下の3つの到達目標をおく。 ①簿記・会計学を英語で理解するとともに簡単な英文財務諸表を分析・解釈できるようになる。 ②わが国の会計基準、米国会計基準、国際財務報告基準(IFRS)の違いを把握する。 ③IFRSの最近の動向を理解する。
授業方法と留意点	講義および演習方式。毎回小テストを実施する。わかりやすく、そして興味を持てる内容の講義を心掛ける。
科目学習の効果(資格)	まずは日本商工会議所「BATIC(国際会計検定)」Subject1クリアをめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	仕訳・勘定記入・精算表・財務諸表の作成	英文会計における簿記一巡について学ぶ。	小テストに備えて練習問題を解く。
2	英文財務諸表の概要	英文財務諸表の基本的なフォーマットについて俯瞰する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
3	現金預金および売上債権	現金の定義および管理、売上債権の種類および貸倒引当金について詳細に説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
4	棚卸資産および固定資産	棚卸資産の種類・評価方法および固定資産の種類・費用化手続きを学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
5	仕入債務および固定負債	仕入債務の種類および社債について説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
6	株主持分	株主持分である払込資本および留保利益について詳細に説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
7	収益の認識・測定	具体的な収益の認識・測定基準を学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
8	費用の認識・測定	具体的な費用の認識・測定基準を学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
9	英文財務諸表の分析Ⅰ	英文財務諸表を用いて安全性分析・収益性分析・効率性分析・成長性分析を行う。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
10	英文財務諸表の分析Ⅱ	英文財務諸表を用いてデュボン分析を行う。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
11	わが国の会計基準の概要	わが国の会計基準の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
12	米国会計基準の概要	米国の会計基準の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
13	国際財務報告基準(IFRS)の概要	IFRSの歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
14	近年における国際会計の動向	米国会計基準およびIFRSの最近の動向を理解する。	実施した小テストの復習をする。期末テストに備えて練習問題を解く。
15	試験	到達度を測定するために試験を実施する。	———

関連科目 企業簿記(簿記論)・財務会計論Ⅰ・Ⅱをあらかじめ修得しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『国際会計検定(BATIC Subject 1) 問題集』	東京商工会議所編	中央経済社
2				
3				

評価方法(基準) 以下の基準で成績評価を行う  
定期試験 50%、小テスト 40%、授業参加度 10%

学生へのメッセージ 本講義では、英語力はまったく問わない。文法については中学校卒業程度しか要求しない。ただし、講義中で扱う technical terms(専門用語)についてはしっかりと押さえること。  
企業活動がグローバル化した現在において企業は英文会計および国際会計のスキルを持った学生を欲している。是非 BATIC(国際会計検定)にチャレンジして欲しい。

担当者の研究室等 大阪市立大学商学部棟(浅野研究室)  
email: nasano@bus.osaka-cu.ac.jp

備考

科目名	国際会計論 I	科目名 (英文)	International Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 信博

授業概要・目的	<p>次の内容について講義する。</p> <p>①簿記及び会計の仕組みを英文で学習していく。具体的には、取引の仕訳、勘定記入、決算及び財務諸表の作成をすべて英文で行い、英文簿記の手続と基本単語を学習する</p> <p>②わが国の会計基準に関する基礎的な項目を踏まえて、米国会計基準および IFRS の特質を講義する。</p>
到達目標	<p>以下の3つの到達目標をおく。</p> <p>①簿記・会計学を英語で理解するとともに簡単な英文財務諸表を分析・解釈できるようになる。</p> <p>②わが国の会計基準、米国会計基準、国際財務報告基準 (IFRS) の違いを把握する。</p> <p>③IFRS の最近の動向を理解する。</p>
授業方法と留意点	講義および演習方式。毎回小テストを実施する。わかりやすく、そして興味を持てる内容の講義を心掛ける。
科目学習の効果 (資格)	まずは日本商工会議所「BATIC (国際会計検定)」Subject1 クリアをめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英文財務諸表の概要	英文財務諸表の基本的なフォーマットについて俯瞰する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
3	現金預金および売上債権	現金の定義および管理、売上債権の種類および貸倒引当金について詳細に説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
4	棚卸資産および固定資産	棚卸資産の種類・評価方法および固定資産の種類・費用化手続きを学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
5	仕入債務および固定負債	仕入債務の種類および社債について説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
6	株主持分	株主持分である払込資本および留保利益について詳細に説明する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
7	収益の認識・測定	具体的な収益の認識・測定基準を学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
8	費用の認識・測定	具体的な費用の認識・測定基準を学ぶ。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
9	英文財務諸表の分析 I	英文財務諸表を用いて安全性分析・収益性分析・効率性分析・成長性分析を行う。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
10	英文財務諸表の分析 II	英文財務諸表を用いてデュボン分析を行う。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
11	わが国の会計基準の概要	わが国の会計基準の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
12	米国会計基準の概要	米国の会計基準の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
13	国際財務報告基準 (IFRS) の概要	IFRS の歴史および概要について講義する。	実施した小テストの復習をする。小テストに備えて練習問題を解く。
14	近年における国際会計の動向	米国会計基準および IFRS の最近の動向を理解する。	実施した小テストの復習をする。期末テストに備えて練習問題を解く。
15	試験	到達度を測定するために試験を実施する。	———

関連科目 企業簿記 (簿記論)・財務会計論 I・II をあらかじめ修得しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『国際会計検定 (BATIC Subject 1) 問題集』	東京商工会議所編	中央経済社

評価方法 (基準) 以下の基準で成績評価を行う  
定期試験 50%、小テスト 40%、授業参加度 10%

学生へのメッセージ 本講義では、英語力はまったく問わない。文法については中学校卒業程度しか要求しない。ただし、講義中で扱う technical terms (専門用語) についてはしっかりと押さえること。  
企業活動がグローバル化した現在において企業は英文会計および国際会計のスキルを持った学生を欲している。是非 BATIC (国際会計検定) にチャレンジして欲しい。

担当者の研究室等 大阪市立大学商学部棟 (浅野研究室)  
email: nasano@bus.osaka-cu.ac.jp

備考

科目名	財務会計論 I	科目名 (英文)	Financial Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	会計とは、経済主体の経済活動を一定のルールに従って、計数的に認識し、測定し、報告することである。このルールとは、商法、証券取引法等の法律の他に、各種の省令や通達および会計基準や会計慣行を意味している。今日、企業を取り巻く環境の多様化、国際化に伴い、この会計ルールもより複雑に、国際的統一化の方向へ変化している。財務諸表を理解するためには、この会計ルールの理解が不可欠となる。この講義では、会計情報開示制度と財務諸表の作成方法に重点を置き、財務会計の基礎的知識の修得に努める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計の役割、機能を理解する。</li> <li>・ 会計情報開示制度の基本的ルール、会計基準を理解する。</li> <li>・ 貸借対照表の作成の会計基準、ルールを理解する。</li> <li>・ 資産、負債、純資産の内容、本質を理解する。</li> <li>・ 実際の企業の貸借対照表を理解し、自ら企業の経営内容や財政状態を分析することができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	配布資料にに基づいた講義方式。講義内容を確認するために、原則的には毎回授業の最後に練習問題を解いて提出する。
科目学習の効果 (資格)	簿記検定試験 2 級以上、税理士試験、公認会計士試験には不可欠である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	会計の意義	財務会計の目的と役割	当日配布プリントと板書を整理する
	2	会計制度	会社法、金融商品取引法、法人税法の会計規則	当日配布プリントと板書を整理する
	3	会計基準と企業会計原則	企業会計原則 (一般原則) 会計基準の国際的統合	練習問題 1
	4	資産会計 (1)	資産の内容と分類、 現金預金の会計 債権の会計	練習問題 2
	5	資産会計 (2)	有価証券の会計 棚卸資産の会計	練習問題 3
	6	資産会計 (3)	有形固定資産の会計 固定資産の減損会計	練習問題 4
	7	資産会計 (4)	無形固定資産の会計 のれん、研究開発費、繰延資産	練習問題 5
	8	資産会計 (5)	デリバティブ 先物取引、オプション取引、スワップ取引、ヘッジ会計	練習問題 6
	9	まとめと確認テスト	進捗度により、まとめと確認テストを省略する場合があります。	今までの復讐
	10	負債会計 (1)	負債の本質と分類	練習問題 7
	11	負債会計 (2)	引当金の会計 退職給付引当金	練習問題 8
	12	純資産会計 (1)	純資産の本質と分類	練習問題 9
	13	純資産会計 (2)	払込資本の会計	練習問題 10
	14	純資産会計 (3)	留保利益の会計 剰余金の配当 自己株式	練習問題 11
	15	まとめ		

関連科目	企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	財務会計の基本を学ぶ	八田進二他	同文館出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験の評価 (50%)、課題 (練習問題) 提出 (30%)、確認テスト (20%)、進捗度により確認テストを実施しない時は、定期試験の評価を 70% とする。
学生へのメッセージ	講義に出席して、その後必ず配布プリント、講義ノートを読み直して、講義の内容を整理して理解してください。その上で理解できないところは、どんどん質問して下さい。
担当者の研究室等備考	11 号館 8 階 (佐井教授室)

科目名	財務会計論Ⅱ	科目名(英文)	Financial Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	財務会計論Ⅰに引き続き、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、についてその意義と内容を解説する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・損益計算書、キャッシュフロー計算書の作成に関する会計基準、ルールを理解する。</li> <li>・実際の企業の損益計算書、キャッシュフロー計算書を理解し、企業の経営内容や財務状況の分析ができるようになる。</li> <li>・企業会計と税務会計の関係を理解し、税効果会計の意味や繰延税金資産の資産性の問題点について理解する。</li> <li>・会計をめぐる国際的動向について理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	配布資料に基づいた講義方式 その日の講義内容を確認するために、最後に練習問題を解いて提出する。 財務会計論Ⅰからの続きですから、必ず財務会計論Ⅰを受講して下さい。
科同学習の効果(資格)	簿記検定2級以上、税理士試験、公認会計士試験には不可欠である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	損益計算書(1)	損益計算書の基礎概念 本質、基本原則、報告様式	練習問題1
	2	損益計算書(2)	収益の認識、測定基準 実現主義の適用	練習問題2
	3	損益計算書(3)	工事契約における収益認識	練習問題3
	4	損益計算書(4)	費用の認識、測定基準 役員賞与の会計	練習問題4
	5	税効果会計(1)	企業と税金 企業会計と税務会計	練習問題5
	6	税効果会計(2)	繰延税金資産と繰延税金負債	練習問題6
	7	まとめと確認テスト	進捗度により確認テストを省略する場合があります	今までの復讐
	8	包括利益計算書	包括利益計算書とは	練習問題7
	9	キャッシュフロー計算書(1)	キャッシュフロー計算書の意義 利益とキャッシュフロー	練習問題8
	10	キャッシュフロー計算書(2)	キャッシュフロー計算書の3区分 営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー、	練習問題9
	11	キャッシュフロー計算書(3)	キャッシュフロー計算書の作成 直接法と間接法	練習問題10
	12	キャッシュフロー計算書(4)	キャッシュフロー分析	練習問題11
	13	会計をめぐる国際的動向(1)	国際会計の台頭と会計基準の国際的コンバージェンス	練習問題12
	14	会計をめぐる国際的動向(2)	コンバージェンスからアドプションへ	練習問題13
	15	まとめ		

関連科目 企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論、財務会計論Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	財務会計の基本を学ぶ	八田進二	同文館出版
	2	ガイダンス企業会計入門	山浦、広本	白桃書房
	3			

評価方法(基準) 定期試験の評価(50%)、課題(練習問題)の提出(30%)、テスト(20%)  
進捗度により確認テストを省略した場合は、定期試験の評価を70%とします。

学生へのメッセージ 講義に出席して、ノートを取り、その後教科書を読み直して下さい。わからないところは、どんどん質問して下さい。

担当者の研究室等 11号館8階(佐井教授室)

備考

科目名	財務諸表論入門	科目名 (英文)	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々へのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計の目的、役割を理解する。</li> <li>・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。</li> <li>・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。</li> <li>・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	・講義資料を配布して講義形式で行うが、基本的に毎回、練習問題の解答やレポート課題が課されることに留意する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。</li> <li>・組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。</li> <li>・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。</li> <li>・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	配布資料 練習問題①
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	配布資料 練習問題②
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	配布資料 練習問題③
5	会計情報の内容 (1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	配布資料 練習問題④
6	会計情報の内容 (1)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑤
7	会計情報の内容 (2)	貸借対照表 資産と負債・純資産について	配布資料 練習問題⑥
8	まとめと確認テスト	確認テストと解説	今までの復讐
9	会計情報の内容 (3)	損益計算書 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑦
10	会計情報の内容 (4)	損益計算書 収益と費用の認識と測定	配布資料 練習問題⑧
11	会計情報の内容 (5)	キャッシュフロー計算書 資金の範囲、キャッシュフロー計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑨
12	会計情報の内容 (6)	キャッシュフロー計算書 営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー	配布資料 練習問題⑩
13	会計情報の内容 (7)	株主資本等変動計算書 株主資本とは、株主変動計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑪
14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	配布資料 練習問題⑫
15	まとめ	講義の復讐とまとめ	配布資料

関連科目	経営学、企業簿記
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ガイダンス企業会計入門	山浦・広本	白桃書房
	2	財務会計の基本を学ぶ	八田進二	同文館出版
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加と課題の提出 (30%)、確認テスト (20%)、定期テスト (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回授業に出席して下さい。
-----------	---------------

担当者の研究室等	佐井研究室 (11号館8階)
----------	----------------

備考	
----	--



科目名	市場調査入門	科目名(英文)	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	社会調査の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義がなされる。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。
到達目標	社会調査の基礎を理解する。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートを取る。授業中にグループワークをすることもある。第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。
科目学習の効果(資格)	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち【A】社会調査の基本的事項に関する科目】に対応。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要について。	授業の流れについて理解する。
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
6	量的調査と質的調査—それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
7	官庁統計1—官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何かがあるか。統計法とは何か。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
8	官庁統計2—官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
9	量的調査1—統計学と質問紙調査(1)	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
10	量的調査2—統計学と質問紙調査(2)	質問紙調査の方法について。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
11	量的調査3—質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	簡単な質問紙調査を体験する。
12	質的調査1—聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	簡単な聞き取り調査を体験する。
13	質的調査2—参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
14	質的調査3—ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	教科書の該当部分を読んで予習する。資料を読んで復習する。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よりよい社会調査をめざして	井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦代	創元社
2			
3			

評価方法(基準)	授業態度と提出課題(10%)と定期試験(90%)の割合で、総合的に判断する。
学生へのメッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ講義です。
担当者の研究室等	.11号館7階(牧野(幸)准教授室)
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ、携帯電話など電子機器の使用など)はすべて禁止とします。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	情報と職業	科目名(英文)	Information and Career
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北尾 隆夫

授業概要・目的	<p>情報化の進展は、社会に巣立って行く学生諸氏にとって以下の3つの課題を突き付けています。</p> <p>(1) 社会人としての就労において、情報活用やその手段としての情報機器の活用  (2) 企業経営や戦略立案の重要な手段である情報収集と情報活用に対する基本的な知識の習得  (3) 情報化社会と言われる日常生活における情報活用と情報機器に対する最低限度の知識の保有</p> <p>これらの課題にどの様に取り組むべきか、更には情報社会における職業観や勤労観の変化などについて講義します。</p> <p>特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人としての情報活用能力、情報保全能力の必要性や社会的役割と責任</li> <li>・更には組織人としてのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の重要性について探求します。</li> </ul>
---------	---

到達目標	<p>本教科の目的を3つに絞り、それぞれの観点において以下の内容を理解していただきます。</p> <p>(1) 企業活動に於ける情報活用の目的や意味の理解  (2) 情報化社会の意味と、我々の日常生活の関わり合いの理解  (3) 以上の内容を通じて、情報に関する教員免許として要求されている「情報と職業」の内容についての理解</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れたものにします。 復習と言う意味から、授業途中での理解度確認のための小テストを実施します。 必要に応じてプリントやパワーポイントにより新しい動向を紹介します。</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(情報)を取得するためには、この科目が必修となっています。</p>
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	情報社会の概念	・情報社会とは、どの様なことを指すのかを説明すると同時に、情報社会への対応策について解説します。	新聞から情報社会についての記事を探して持ってきてください。
3	情報社会における職業観や勤労観	・わが国の産業界の特徴について解説します。 ・職業観と職業生活に対する意識について解説します。	情報産業についてどのようなものがあるか調べてください。
4	情報化社会と私たちの暮らし I	・情報化社会における危機管理について解説します。 ・高齢化社会と社会保障について解説します。	高齢化社会の問題について調べてください。
5	情報化社会と私たちの暮らし II	・高学歴社会と自己学習力について解説します。 ・労働時間の短縮と余暇の利用について解説します。	余暇の使い方について考えてください。
6	情報社会と高等教育	・情報社会で活躍する人材について解説します。 ・情報通信技術遠隔学習について解説します。	生涯学習の意味を調べてください。
7	情報技術と社会の改革 I	・情報と情報通信技術について解説します。 ・情報化社会とIT革命について解説します。	IT革命とは何でしょう、調べてください。
8	情報技術と社会の改革 II	・企業組織の情報化について解説します。 ・政府・電子自治体の情報化について解説します。	電子決済について調べてください。
9	情報技術と人材育成 I	・企業活動と人材育成について解説します。 ・公的資格と社会認知について解説します。	皆さんに関係する資格を書き出してください。
10	情報技術と人材育成 II	・情報技術を利用した企業教育について解説します。 ・情報産業における職制と職種について解説します。	企業における教育の必要性について考えてください。
11	情報産業と国際化 I	・情報技術革命とは何かについて解説します。 ・インターネット革命と日本企業について解説します。	情報社会における企業の姿について考えてください。
12	情報産業と国際化 II	・情報産業における国際規格について解説します。 ・情報産業におけるビジネスモデルと情報倫理について解説します。	情報と国際化について、今後の姿を考えてください。
13	情報と職業についての課題検討と質疑応答	情報が職業開発に及ぼす影響についてのプレゼンテーションに基づく課題検討を行います。	授業を受けてのまとめをしてください。 質問事項の整理をしておいてください。
14	情報と職業のまとめ	レポートの発表 または 小テストの実施を行います。	レポートの発表準備、小テストに備えての復習をしておいてください。
15	情報と職業全体のまとめ	①講義全体の復習 ②重要なポイントの整理 ③説明不足な点のレビュー	情報と職業の全体のまとめをしてください。

関連科目	<p>情報科学関連や職業開発に関する講義を受講しておくことが理解を深めることに役立ちます。</p>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	情報と職業	近藤勲編著	丸善株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	情報と職業	廣石良雄著	株式会社SCC
	2	情報と職業	駒谷昇一、辰巳丈夫、楠本範明共著	オーム社出版局
	3			
評価方法 (基準)	<p>全体評価は、平常評価（35%）と学期末試験評価（65%）により行います。          平常評価は、課題レポート、小テスト、および授業ごとの感想レポートにより行い、学期末試験評価は、文章表現力向上の目的も兼ねて論述も取り入れた試験を実施し評価します。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回出席をとります〔連絡カード配付〕。遅刻をしないようにしてください。</li> <li>・座席は前から詰めて着席してください〔座席は指定しません〕。</li> <li>・授業中の私語は謹んでください〔真面目な受講者の弊害となる場合は退場戴くこともあります〕。</li> <li>・不明な事柄は放置せず、積極的に質問してください。</li> </ul>			
担当者の 研究室等 備考	11号館6階 経営学部事務室、講師控え室			

科目名	職業能力開発	科目名(英文)	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】社会生活および職業に必要な能力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的思考力、論理的な思考力、新しいアイデアを生み出す発想力の向上を目指す。</p> <p>【概要】 心理学の視点から人間に固有な社会的知性の発達を理解し、抽象的な思考の活用法を理解する。 学問の成立とその発展を振り返り、学問の意義を学び、論理的思考法と科学的思考法の基本を身につける。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の3大精神機能を理解する</li> <li>2. 知的な精神活動の役割を知る</li> <li>3. シンボル操作&lt;言葉と数の活用法&gt;を知る</li> <li>4. 学問の発展と科学的な研究方法を知る</li> <li>5. 言語の論理性と数学的思考の特徴を知る</li> <li>6. 合理的な意思決定法の理念を知る</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて授業する。講義内容をよりよく理解するために、具体的な練習問題を課す。自ら考えて答えを出すように心掛けてください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	論理的な思考法や科学的な思考法を習得し、活用することができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方</td> <td>講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。</td> <td>企業が求める人材について考える。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>講義目的と今日の課題</td> <td>教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。</td> <td>学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人間の知性(1):3大精神機能</td> <td>知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。</td> <td>人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間の知性(2):知能の研究</td> <td>人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。</td> <td>人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人間の知性(3):概念的思考の形成</td> <td>言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。</td> <td>言葉や数の有用性を考える。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学問の世界(1):学問の誕生</td> <td>古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。</td> <td>学問の意義と教育の重要性を考える。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学問の世界(2):近世の学問</td> <td>ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を学ぶ。</td> <td>理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学問の世界(3):科学的方法</td> <td>自然科学の発展と科学的研究方法を知る。</td> <td>ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思考の4つの様式</td> <td>人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。</td> <td>4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語的思考(1):演繹的思考法</td> <td>論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。</td> <td>課題&lt;論理問題&gt;を提示する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>言語的思考(2):命題論理</td> <td>否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>言語的思考(3):述語論理</td> <td>全称と存在の理解を深める。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>数的思考(1):数の活用</td> <td>数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。</td> <td>数理能力とその有用性を考える。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>数的思考(2):文章問題と数的理解</td> <td>具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。</td> <td>課題あり。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のまとめ</td> <td>社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。</td> <td>ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。	企業が求める人材について考える。	2	講義目的と今日の課題	教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。	学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。	3	人間の知性(1):3大精神機能	知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。	人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。	4	人間の知性(2):知能の研究	人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。	人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。	5	人間の知性(3):概念的思考の形成	言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。	言葉や数の有用性を考える。	6	学問の世界(1):学問の誕生	古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。	学問の意義と教育の重要性を考える。	7	学問の世界(2):近世の学問	ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を学ぶ。	理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。	8	学問の世界(3):科学的方法	自然科学の発展と科学的研究方法を知る。	ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。	9	思考の4つの様式	人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。	4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。	10	言語的思考(1):演繹的思考法	論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。	課題<論理問題>を提示する。	11	言語的思考(2):命題論理	否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。	課題あり。	12	言語的思考(3):述語論理	全称と存在の理解を深める。	課題あり。	13	数的思考(1):数の活用	数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。	数理能力とその有用性を考える。	14	数的思考(2):文章問題と数的理解	具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。	課題あり。	15	講義のまとめ	社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。	企業が求める人材について考える。																																																																
2	講義目的と今日の課題	教育の目的を理解するとともに日本における教育現状を考える。	学力の国際比較を通して、日本における教育課題を考える。																																																																
3	人間の知性(1):3大精神機能	知・情・意の3大精神機能の特徴を理解し、意思決定における知性の役割を知る。	人間に特有な知性の特徴および知と情の関係を考えてみよう。																																																																
4	人間の知性(2):知能の研究	人間の知性に関する心理学研究のプロセスを理解し、今日の知能研究の課題を知る。	人間の知性に関する系統発生と個体発生の違いについて考えてみよう。																																																																
5	人間の知性(3):概念的思考の形成	言葉や数などのシンボルを用いた世界認識の特徴を知る。	言葉や数の有用性を考える。																																																																
6	学問の世界(1):学問の誕生	古代文明の学問とギリシャ時代の学問を知る。ソクラテス・プラトン・アリストテレスによる学問の体系化を学ぶ。	学問の意義と教育の重要性を考える。																																																																
7	学問の世界(2):近世の学問	ルネサンス期の学問の特徴を理解する。パスカルやデカルトの考え方を学ぶ。	理性主義、啓蒙主義とは何か、事前に調べる。																																																																
8	学問の世界(3):科学的方法	自然科学の発展と科学的研究方法を知る。	ガリレオやニュートンの科学的発見について調べてみよう。																																																																
9	思考の4つの様式	人間の4つの思考法を理解する。演繹的思考法・帰納的思考法・類推的思考法・発想的思考法の特徴を学ぶ。	4つの思考法のそれぞれの特徴を具体的な例を用いて説明できるようにする。																																																																
10	言語的思考(1):演繹的思考法	論理的思考法の特徴を理解し、論理思考の法則を学ぶ。	課題<論理問題>を提示する。																																																																
11	言語的思考(2):命題論理	否定文、連言文、選言文、条件文の「論理法則」について学ぶ。	課題あり。																																																																
12	言語的思考(3):述語論理	全称と存在の理解を深める。	課題あり。																																																																
13	数的思考(1):数の活用	数の性質を理解する。基数と序数の違い、代数学と幾何学の特徴を知る。	数理能力とその有用性を考える。																																																																
14	数的思考(2):文章問題と数的理解	具体的な問題を通して数式や図式の活用法を学ぶ。	課題あり。																																																																
15	講義のまとめ	社会的知性の発達と思考の重要性を再確認する。	ビジネスに必要な思考力と決断力について、整理しまとめる。																																																																
関連科目	キャリア能力の向上を目指す科目と連動する。自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書は指定しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書は指定しない。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	教科書は指定しない。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門!論理学</td> <td>野矢茂樹</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>使える!確率的思考法</td> <td>小島寛之</td> <td>ちくま新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門!論理学	野矢茂樹	中公新書	2	使える!確率的思考法	小島寛之	ちくま新書	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門!論理学	野矢茂樹	中公新書																																																																
2	使える!確率的思考法	小島寛之	ちくま新書																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	期末定期試験の成績(70%)。授業後の小レポート課題の成績(30%)。これらの成績をもとに総合的に評価する。なお、出席管理システムによる出欠管理データは成績評価に用いないが、学生証の提示は必須。																																																																		
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。																																																																		
担当者の研究室等	11号館7階「福田研究室」																																																																		
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。																																																																		

科目名	人的資源管理論 I	科目名 (英文)	Human Resources Management I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p>[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も生きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理 I では、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。</p> <p>[授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>
到達目標	<p>[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。</p> <p>この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。</p>
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。
	2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	第1章
	3	人的資源管理入門(2)	人事管理の特徴や仕組みの概要について、時代の変化に関連させながら説明します。	第1章
	4	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	第2章
	5	人間モデル	各人間モデルに対応するマネジメントについて検討します。	第2章
	6	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	第3章
	7	戦略的人的資源管理	人的資源管理が企業の業績に貢献するプロセスについて検討します。	第3章
	8	組織能力	人的資源を企業の持続的競争優位の源泉とするマネジメントのあり方を考えます。	第4章
	9	組織デザイン	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	第5章
	10	モチベーション	人的資源管理の心理的側面について、モチベーションの観点から説明します。	第6章
	11	モチベーション	企業経営におけるモチベーション・マネジメントの課題を検討します。	第6章
	12	リーダーシップ	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	第7章
	13	リーダーシップ	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	第7章
	14	コミットメント	従業員のコミットメントを高めるための人事諸制度を説明します。	第8章
	15	人事管理のまとめ	前期で学んだことをまとめます。	これまでの復習

関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄編著	中央経済社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テスト(30%)、定期試験(70%)で評価します。
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館8階(庭本研究室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	人的資源管理論Ⅱ	科目名(英文)	Human Resources Management II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p>[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ⅱでは、雇用、人材育成、評価、賃金制度など人的資源管理の各論を中心に講義します。</p> <p>[授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>
到達目標	<p>[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。</p> <p>この授業を受講するには、人的資源管理Ⅰ、経営学の基礎を理解していることが望まれます。</p>
科目学習の効果(資格)	中小企業診断士、社会保険労務士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業の概要と進め方について説明します。	シラバスを読んでください。
2	戦略的人的資源管理と各制度について	企業組織のマネジメントにおける人的資源管理の位置づけについて復習します。	第1章、第3章
3	雇用(1)	人と職務のマッチングに関する人事諸制度について説明します。	第9章
4	雇用(2)	日本企業における雇用システムの変容について検討します。	第9章
5	人材育成(1)	人材育成の意義について検討し、人事育成の各制度を説明します。	第10章
6	人材育成(2)	日本企業の人材育成に対する考え方の変容を説明し、今後の課題について考えます。	第10章
7	評価(1)	人事評価の意義について検討し、人事評価の各制度を説明します。	第11章
8	評価(2)	従業員にとって納得のいく評価がなされるために重要なことは何かを考えます。	第11章
9	昇進(1)	昇進・昇格の意義について検討し、昇進・昇格の各制度を説明します。	第12章
10	昇進(2)	日本企業の昇進・昇格に対する考え方の変容を説明し、今後の課題について考えます。	第12章
11	賃金(1)	賃金の種類に関連して、それぞれの特徴やメリット・デメリットを説明します。	第13章
12	賃金(2)	グローバル化が進んでいる今日の企業経営において、賃金のマネジメントの課題を検討します。	第13章
13	労使関係	日本企業の労使関係管理の特徴について、諸外国のマネジメントと比較しながら説明します。	第14章
14	国際的人的資源管理	多国籍企業に必要な人的資源管理について説明します。	第15章
15	まとめ	後期の授業についてまとめをします。	これまでの復習

関連科目	経営管理論、経営戦略論、経営組織論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄編著	中央経済社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	・小テスト(30%)、定期試験(70%)で評価します。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階(庭本研究室)
------------	---------------

科目名	税務会計論 I	科目名 (英文)	Tax Accounting I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中塚 賢

授業概要・目的	企業活動において必要とされる日常の税務、また決算時に行う税額計算などの一連の税務手続きについて、容易に理解できるように具体的な企業活動を想定し、税務会計上どのような処理が必要になるのかを順を追って説明してゆく。また、可能な限り実務上の事例などを取り上げ、受講者がより具体的な興味を持てるように工夫を加える。さらに税に関するトピックなどを紹介し、受講者が税を身近に感じ、将来の税について考えるための素材を提供する。
到達目標	税に興味を持ち、簡単な課税所得及び法人税額の計算ができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で配布プリントやノートを利用する。具体的事例を交えて、わかりやすく興味を持てる内容の講義を心掛ける。
科目学習の効果 (資格)	企業で活躍するビジネスマンや会計担当者、さらには職業会計人 (税理士・公認会計士) を目指す第一歩となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～税金入門	税について考える	新聞記事やニュースで税に興味を持つ
	2	税務会計の基礎①	税の仕組みや役割・負担など	新聞記事やニュースで税に興味を持つ
	3	税務会計の基礎②	税務会計の意義と役割	新聞記事やニュースで税に興味を持つ
	4	税務会計の基礎③	確定決算主義と課税所得	新聞記事やニュースで税に興味を持つ
	5	法人税概要	法人税の手続き等	配布プリントの復習
	6	課税所得金額の計算①	益金と損金	配布プリントの復習
	7	課税所得金額の計算②	決算調整と申告調整	配布プリントの復習
	8	収益の額と計上時期	収益の種類と計上時期	配布プリントの復習
	9	益金の額と益金不算入	評価益や受取配当等	配布プリントの復習
	10	棚卸資産	売上原価と棚卸資産の評価	配布プリントの復習
	11	減価償却①	減価償却の方法	配布プリントの復習
	12	減価償却②	減価償却の計算	配布プリントの復習
	13	繰延資産	繰延資産の種類と償却	配布プリントの復習
	14	総合課題 I	まとめと練習問題 I	配布プリントの復習
	15	総合課題 II	まとめと練習問題 II	配布プリントの復習

関連科目	企業簿記, 財務会計論, 税務会計論 II
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門税務会計	谷川喜美江	税務経理協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版税務会計論第4版	成道秀雄	中央経済社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験の結果 (60%程度)、小テスト (20%程度) 授業参加度 (20%程度) による。
-----------	---

学生へのメッセージ	簿記と比べて税務会計はより実務的であり、実際の企業活動や税務行政の現場事例を多く紹介し、興味深い講義としたい。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館6階(経営学部事務室) 質問等は授業終了後もしくは下記メールアドレス宛にお送りください。
----------	---

備考	ken_nakatsuka@cpta-ken.com
----	----------------------------

科目名	税務会計論Ⅱ	科目名(英文)	Tax Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚 賢

授業概要・目的	企業活動において必要とされる日常の税務、また決算時に行う税額計算などの一連の税務手続きについて、容易に理解できるように具体的な企業活動を想定し、税務会計上どのような処理が必要になるのかを順を追って説明してゆく。また、可能な限り実務上の事例などを取り上げ、受講者がより具体的な興味を持てるように工夫を加える。さらに税に関するトピックなどを紹介し、受講者が税を身近に感じ、将来の税について考えるための素材を提供する。
到達目標	税に興味を持ち、簡単な課税所得や法人税額の計算ができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で配布プリントやノートを利用する。具体的事例を交えて、わかりやすく興味を持てる内容の講義を心掛ける。
科目学習の効果(資格)	企業で活躍するビジネスマンや会計担当者、さらには職業会計人(税理士・公認会計士)を目指す第一歩となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	役員給与①	税法上の役員給与とは	配布プリントの復習
	2	役員給与②	役員給与の損金不算入	配布プリントの復習
	3	寄付金	寄付金の損金不算入	配布プリントの復習
	4	交際費等	交際費の扱いと隣接費用	配布プリントの復習
	5	租税公課	租税公課の取扱い	配布プリントの復習
	6	その他の費用	リース料など	配布プリントの復習
	7	引当金の処理	貸倒引当金など	配布プリントの復習
	8	貸倒損失	貸倒損失の損金要件	配布プリントの復習
	9	圧縮記帳	固定資産等の圧縮記帳	配布プリントの復習
	10	有価証券	有価証券の処理	配布プリントの復習
	11	申告・納税・欠損金の繰越控除	申告納税手続、欠損金の繰越控除	配布プリントの復習
	12	法人税額の計算	税額計算と税額控除	配布プリントの復習
	13	連結納税とグループ法人課税	連結納税制度とグループ法人単体課税制度	配布プリントの復習
	14	総合課題Ⅰ	まとめと練習問題Ⅰ	配布プリントの復習
15	総合問題Ⅱ	まとめと練習問題Ⅱ	配布プリントの復習	

関連科目	企業簿記、財務会計論、税務会計論Ⅰ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門税務会計	谷川喜美江	税務経理協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版税務会計論第4版	成道秀雄	中央経済社
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験の結果(60%程度)、小テスト(20%程度)授業参加度(20%程度)による。
----------	--

学生へのメッセージ	簿記と比べて税務会計はより実務的であり、実際の企業活動や税務行政の現場事例を多く紹介し、興味深い講義としたい。税務会計論Ⅰと比較すると、より具体的な処理が多く、簡単な税額の計算も含む。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階(経営学部事務室) 質問等は授業終了後もしくは下記メールアドレスにお送りください。
----------	--

備考	ken_nakatsuka@cpta-ken.com
----	----------------------------



科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>																		
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b>          専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら爽やかな大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	横谷 正人

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>																		
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樋口 友紀

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>																		
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			



科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	畠山 俊宏

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>																		
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>																		
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談のり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド (『FIRST YEAR STUDY GUIDE』) を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>																		

科目名	専門基礎演習	科目名 (英文)	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。2年次以降のゼミを選択する際に役立つため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。</p>			
到達目標	<p>大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・発表、討論などをクラス制で行う。演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。</p> <p>なお、初回の授業において、初年次教育ガイド(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組み姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。</p>			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	<p>【目的】 卒業研究論文の作成 &lt;研究なくして卒論は書けない&gt; 研究論文とは、研究を通して明らかにしたこと、研究を通して得た新しい事柄を整理しまとめたものをいう。まず、しっかりと研究しなければならない。準備段階では、研究テーマに関する知識や情報を収集し、整理し、考察する。データが不十分な場合には、自らデータの収集を行う。ゼミ授業では、研究テーマに関わる様々なデータを発表し、議論する。</p> <p>【成果】 研究論文には必ず謝辞を述べる 研究テーマは各自が自由に選択したものであるが、研究を進めるには、多くの人々の協力が必要となる。協力をいただいた人には必ず感謝の意を示すこと。心から“ありがとう”が言えるように、責任を持って、かつ、自信を持って研究を進めてほしい。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究は、何を問い、何を調べるか、という課題と目標を明らかにすることから始まる。次に、調べたことに対する自分の考え（主張）の正しさを示す科学的な検証作業が求められる。卒研はこの2つの作業によって進められる。</li> <li>2. 研究テーマの確定：研究テーマに関連する事柄を整理し、調べた事柄をその都度発表することで、テーマを明確にする。</li> <li>3. 研究発表：限られた時間で、自分の考えたこと、明らかにしたことを分かりやすく発表することで、他のゼミ生からの理解と協力を得る。プレゼンテーション力（発言力）を高めること。</li> <li>4. 論文作成にあたり事実に基づいた客観性と構成の論理性を追究する。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>「卒業研究」のゼミは、分かったことや疑問点を議論するところである。聞き手に分かるように整理し、まとめることを心掛けてください。また、聞き手は疑問点や不明な点などを指摘し、研究がさらに深まるような助言を心掛けてください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>研究テーマの設定は自由である。自由ではあるが、経営学にかかわるテーマが望ましい。本ゼミは「経営における心理学」を学習目標に掲げているので、テーマが経営学においても価値があることを望む。</p> <p>卒研を進めるに当たり、以下の手順を踏むこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒研テーマの設定（3年次後期の課題）</li> <li>2. 研究テーマに関連する個々の課題を明らかにすること（個別テーマの発表） 政府発表資料および新聞などで報告された資料の参照</li> <li>3. もっとも関心が高く、重要と判断した研究テーマに的を絞る（個別課題の検討と最重要テーマの確定）</li> <li>4. 調査や実験が必要な場合、調査目的や実験目的を明らかにし、ゼミ生の協力を得るように努めること</li> </ol> <p>*研究は決して一人ではできない。研究を進めるには多くの人の協力が不可欠である *研究発表は自分の考えを明確にするうえで重要 *聞き手の意見や考えは、研究の質を高めるうえで重要、相手の研究に響くような助言を心掛ける *先輩の卒業論文を読み、研究の進め方と論文の書き方を理解する *最後に、下級生や他のゼミ生に対して卒論の発表を行う *学部主催の卒論発表会に出席し、発表できるようにまとめること</p> <p>なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p>																
関連科目	あらゆる授業科目を関係する。また、アルバイトや他の課外活動なども、研究に大事な示唆を与える。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書は指定しないが、新聞や政府発表の資料などを活用する。また、参考図書は随時指摘する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書は指定しないが、新聞や政府発表の資料などを活用する。また、参考図書は随時指摘する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教科書は指定しないが、新聞や政府発表の資料などを活用する。また、参考図書は随時指摘する。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>テーマに関する文献、資料は随時紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	テーマに関する文献、資料は随時紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	テーマに関する文献、資料は随時紹介する。																
2																	
3																	
評価方法（基準）	資料や文献の整理、調査の実施と結果の考察、それらの発表。さらに、ゼミ授業における発言などを総合的に評価するとともに、最終的にまとめられた論文の構成の良さや質の高さをあわせて総合的に判定する。なお、卒論発表会への出席は必須である。授業態度（50%）、研究への取り組みと成果（50%）。																
学生へのメッセージ	知識の受け売りや他者の代弁とならないように、自分の考えをしっかりと述べる。研究を進めるには、論理的・科学的な姿勢が必要である。ゼミ生との討議は研究を進めるうえで不可欠である。																
担当者の研究室等	11号館7階「福田研究室」																
備考	ゼミでの発表資料の作成やパワーポイントの作成のために研究室を開放する。ただし、開放時間は事前確認のこと。																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	<p>テーマ～（環境と経営と社会） 21世紀の社会が存続していくために環境問題の解決は不可欠である。そのためには社会全体の方向転換が必要である。そのための具体的方策について考える。</p>																		
到達目標	<p>テーマに即した文献を読み解く力をつける。 インターネットでの情報収集力をつける。 卒業論文として十分認められるものを書く力を養う。</p>																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b> [授業内容] 卒業論文を仕上げるための個別指導を中心とする。 [授業方法と留意点] 昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順で進める。序章、第1章の原稿は、早い時期に一度発表を行うが、その際には特定質問者を設定し、お互いの議論の中から学ぶことも求める。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[前期] 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う。</p> <p>[後期] 卒業論文の原稿の完成とチェック。最終的なOKが出るまで。 卒業論文の発表と論集の発行。</p> <p>なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>授業への参加態度、卒業論文。卒業論文8割。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>11号館7階</p>																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤 正志

授業概要・目的	<p>テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史）」 各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的発展・現状についての研究をおこない、卒業論文の作成をめざすゼミです。加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。</p>																		
到達目標	卒論をまとめる作業を通して、さまざまな資料の分析方法、論文やレポートなどのテーマの設定、論述の仕方などの技術的能力を高める。																		
授業方法と留意点	<p><b>【授業内容】</b> 卒論執筆の基本的な方法について全体的に説明し、個別指導を経て、各自締め切りまでに研究をまとめます。最終的な論文内容等の個別指導の後、卒論を完成させ、提出します。</p> <p>(前期) (1) 卒業論文のテーマの確定と章立ての確認 (2) 論文作成の関する具体的な方法（目次、内容の展開、資料収集・分析、文献引用など）についての指導・説明</p> <p>(後期) (1) 論文執筆に関する個別指導（データベースの利用） (2) 卒論内容の発表、質疑</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>企業家の経営活動が彼らが経営した企業の発展過程といかに関わったのか分析します。レベルが高くオリジナリティのある卒論執筆のために、関連論文や専門書などにあたり、深く研究していきます。</p> <p>なお、卒論作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理について改めて指導します。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえ、論文作成に当たらなければなりません。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒論内容で評価する。その際、研究の独自性（30%）、資料の適切な引用と分析（30%）、論理的展開（20%）、論文の完成度（20%）の基準から評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階																		
備考	<p><b>【学生へのメッセージ】</b> 楽しく充実したゼミにするには、ひとえにゼミ生の意気込みにかかっています。積極的に企画を出すなどして、ゼミ活動に主体的に参加してください。</p>																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	<p>テーマ 日本経済の分析</p> <p>日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的な経済理論を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 現状をよく知るために、新聞などを読む。  (2) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。  (3) 論理的な思考をする。  (4) 自分の考えを、口頭で発表する。  (5) 形式の整った、内容のあるレポートを書く。</p>																
到達目標	形式と内容が伴った卒業研究を完成させる。																
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <p>[授業内容]  各自の卒業研究のテーマに関する発表。個人的な論文の指導。  [授業方法と留意点]  個人発表と討論。出席と授業中の発言などが、最も重視される。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究の製作。加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点、授業での取り組み、卒研レポートなどで総合的に評価。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。</p>																



科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	横谷 正人

授業概要・目的	<p>テーマ：企業の戦略と組織理論の研究</p> <p>【目的】 企業の成長と発展要因を、戦略と組織の考察・調査を通して卒業論文を完成させます。</p>																
到達目標	<p>皆さんが社会で活躍できるよう、情報収集と分析能力を習得し、論理思考を高めて自らの視点で問題を解決するビジネス実務能力を鍛えます。卒業論文の作成、個別指導、全体発表、口頭試問によって到達目標の結果を評価します。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業内容】 卒業論文の構造（「問い」－「答え」という形式で出来ている）について解説します。 (1) 複数の人間に読まれることを想定した文章表現である。 (2) 問題設定し、論理的・実証的に論述し、最後に問題解決を提示する。</p> <p>【授業方法と留意点】</p> <p>1. 卒業論文作成の留意点：各部分で何を書くか？ (1) 目次 (2) 序論 (3) 本論 (4) 結論 (5) 付録・脚注 (6) 参考文献</p> <p>2. テキスト批評（先行研究）のレポート作成とプレゼンテーション</p> <p>3. 事例研究（文献調査、アンケート調査、インタビュー）</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】 企業の戦略と組織理論の研究</p> <p>【方法】 経営学における戦略と組織のマネジメントを研究し、日本の企業が直面する課題を実証研究します。そのため、最初に、各自取り上げた事例企業が、激変する環境や競争状況をどのようにして乗り越えてきたのか、その活動を調査します。次に、「戦略と組織のダイナミックな相互作用」の優位性について解明することにより、体系化・モデル化します。</p> <p>【事前事後学習課題】 参考文献の「テキスト批評」を行います。尚、A4(1,600字)×1枚以上Wordで作成し、全体構成は下記の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>表題</li> <li>目的の提示（5～10行ほど）</li> <li>要約（全体の30～40%ほど）</li> <li>問題の提起（全体の10～20%ほど）</li> <li>議論（全体の30～40%ほど）</li> <li>まとめ（全体の10～20%ほど）</li> </ol> <p>【研究倫理の指導・教育】 卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のため研究倫理を改めて指導・教育する。ゼミ生は習得した「不正防止のための研究倫理」を十分踏まえて卒業研究を作成すること。</p>																
関連科目	経営戦略論、企業分析（経営戦略ケース分析）、経営組織論Ⅰ、経営組織論Ⅱ、経営学																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>論文の教室-レポートから卒論まで</td> <td>戸田山和久</td> <td>日本放送出版協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	論文の教室-レポートから卒論まで	戸田山和久	日本放送出版協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	論文の教室-レポートから卒論まで	戸田山和久	日本放送出版協会														
2																	
3																	
評価方法（基準）	<ol style="list-style-type: none"> <li>プロセスの評価：参考文献の「テキスト批評」、事例研究など調査研究の量</li> <li>結果の評価：卒業論文内容の独自性・実証的記述・論理一貫性など、成果の質</li> </ol>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>本ゼミでは、参考文献の「テキスト批評」のプレゼンテーションとフィードバック、及び、事例企業の調査研究も取り入れて、卒業論文を完成させます。</p>																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	庭本 佳子

授業概要・目的	興味を持っている経営現象について、今まで学んできた経営学の諸理論・諸概念を用いながら分析し、卒業研究論文を執筆していきます。																		
到達目標	①課題と解決方法を自ら探究することを通して、自主性と問題解決能力を養う。 ②他メンバーとのディスカッションを通してコミュニケーション能力を養う。 ③論文の正しい書き方や研究の進め方を通して、研究倫理を養う。																		
授業方法と留意点	文献研究及び事例分析																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	[授業内容] 各自の研究テーマに沿って、文献、事例を分析していきます。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、併せて取り上げ、教育・指導します。  [研究テーマ] 戦略、組織、人に関わる組織マネジメントの諸課題に取り組んでいきます。  [学習課題] 常に新聞や専門雑誌に目を通し、研究テーマに関わる経営現象をチェックしておきましょう。																		
関連科目	経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>羽石寛寿</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>酒井 隆</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1		羽石寛寿		2				3		酒井 隆	
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1		羽石寛寿																	
2																			
3		酒井 隆																	
評価方法 (基準)	ゼミでの発表、発現、提出物、論文の内容で総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	他メンバーとの意見交換を積極的に行いながら、卒業研究論文に取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	11号館8階 庭本研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾 裕二

授業概要・目的	卒業研究は、演習（ゼミナール）の締め括りである。これまで学んだ会計学やコーポレート・ファイナンスの領域から、自身で研究テーマを見つけ、自身で文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深め、自身の理解のぎもとに、論文と呼ぶにふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成する。			
到達目標	論理的な内容を持ち、形式の整った研究論文を仕上げる。 論文内容を他人に説明するプレゼン能力を身につける。 他人の報告について、質問・コメントすることのできる能力を身につける。			
授業方法と留意点	卒業論文完成に向けて、進捗に応じた各段階での経過報告と個別指導を繰り返す。 他人のテーマなり、進捗状況を知るため、定期的に全員参加の報告会を実施する。 コツコツと少しずつ、前進することが必要である。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	割り当てられた日時および全員参加の報告会に、経過報告を行い、今後の作業についての指導を受ける。			
関連科目	財務会計、経営財務論、経営分析論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	進捗に応じた経過報告の実施（50%）と完成した研究論文の内容と形式（50%）			
学生へのメッセージ	自ら、テーマを選定し、資料を収集し、形式を整えた論文の作成という体験を通じて、自立した社会人（会社人）となるための第一歩にしてほしい。			
担当者の研究室等	高尾研究室（11号館8階）			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	<p>・3年時後期から各自進めている企業分析をさらに進め、卒業論文を完成させる。また、実際の企業、経営、経済の動向について、会計領域に限定せずにその内容等を調べ、経営学全般の知識の修得に努めるとともに、社会人基礎力を身につける。加えて、不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身で、研究テーマを決める。何が分からないのか、何を調べたいのか、明らかにしたいのか、問題意識を明確に持つ。</li> <li>・研究のプロセス管理がきちんとできる。</li> <li>・研究内容を論文として書き上げる。</li> <li>・研究内容を、他人に分かりやすく説明、プレゼンできる。</li> <li>・卒業後の自らの学びの糧となるものを修得する。</li> </ul>			
授業方法と留意点	<p>基本的には、各自の進捗度の沿った個人指導が中心となるが、全員で中間発表、最終発表を行う卒業論文の経過発表を行い、必要に応じて修正、加筆を行う。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各自のテーマにそって卒論を作成し、ゼミで報告すること。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>平常点 (演習の参加) と卒業論文を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。</p>			
担当者の研究室等	<p>11号館8階</p>			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	<p>2008年の金融危機は米国のサブプライムローンという住宅ローンに端を発している。巨大国家米国とはいえ、住宅ローンの一部に過ぎないサブプライムローン問題が、世界のあらゆる国の経済に損失をもたらした。この問題を通して我々はいかに金融が身近な存在であるのかを改めて痛感させられた。</p> <p>本演習では主として金融問題を扱い、学生諸君自身がこれらを解き明かす、“探求する”ことを目的とする。扱うテーマは、例えば資金の借り手としての企業や貸し手としての銀行、また証券会社、格付け機関といった金融市場のプレイヤーから、株式・債券市場といったマクロ的な金融市場を取り上げても良い。また、金融政策やプルーデンス政策など政策的観点からテーマを選んでも良い。</p> <p>ただし、本演習の論文作成においては、論理・理論に基づくことは言うまでもないが、さらにそれらを支えるデータや統計学的手法、同時にパソコンを駆使する傾向が強くなる。したがって本演習を希望する学生には、入門水準で良いので、できうる限りこれらの知識を習得しておいて欲しい。そして何より、ヤル気や積極性が重要である。テーマ選定や演習の運営については学生諸君に任せるという意味で自由だがその反面、積極的な参加姿勢が求められるとっておいて欲しい。</p>																		
到達目標	金融を中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること																		
授業方法と留意点	演習2で作成した原稿をもとに卒論の完成を目指す。学生による発表形式で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。易きに流されれば、そのツケは必ず自分に跳ね返ってくる肝に銘じること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の完成に向けて、個人別に指導していく。年度末には学部主催の報告会があるので、それに向けた準備も行う。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日頃の学習状況や最終論文を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的	各自選定したテーマに基づいて、卒業論文の作成・指導を行う。卒業論文は、各自がテーマを設定し、文献・資料を収集し、論文を完成させていく。授業では、調べた内容を発表してもらって、意見交換しながら、内容面・形式面の充実を図っていく。並行して、定期的に卒業論文経過報告書を提出してもらって、各人の進捗状況に応じて、個別指導も行う。			
到達目標	問題発見能力、論理的思考力および問題解決能力を身につける。			
授業方法と留意点	卒業論文の作成に真摯に取り組み、4年間の大学生活の集大成となるような卒業論文を完成させてほしい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の完成度を高めていく。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミでの報告と最終論文を総合的に評価して決定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	卒業研究は、演習の締めくくりであり、これまで学んだ領域から自分の関心のある経営学に関わりのある研究テーマを見つけ、研究論文を作成する。 準備として、研究テーマに関する知識や情報を収集整理し考察する。授業では、研究テーマに関わる様々なデータを発表し、議論を活発に行う。																
到達目標	課題の発見とその解決方法を自ら行うことを通して、自主性と問題解決能力を養う。 与えられた時間に、自分が考えたことを明らかにしわかりやすく伝えることで、プレゼンテーション能力を養う。 論文の正しい書き方や研究の進め方を通して研究倫理を養う。																
授業方法と留意点	卒論テーマについて各自の発表とゼミでの質疑を重ねる中で内容を深め、さらに専門文献への読み込みを行い、論文作成に繋げること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>&lt;授業テーマ&gt; 研究テーマは自由であるが、経営学にかかわるテーマが望ましい。</p> <p>&lt;内容、方法&gt; 完成した論文の内容は学内での報告を行って終了となる。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ教育・指導する。</p> <p>&lt;事前、事後学習課題&gt; 常に新聞や専門雑誌に目を通し卒論のテーマと関係がある課題や記事などをチェック。これらの情報を適宜整理し、論文内容に反映していくこと。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	中間発表 (20%)、最終発表 (30%)、論文の内容 (50%) で評価する。																
学生へのメッセージ	発表者は、発表する日の1週間前までにはレジュメを作成し提出すること。																
担当者の研究室等備考	11号館8階 安久研究室																

科目名	地域社会と経営	科目名(英文)	Business and Community
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	相川 康子

授業概要・目的	人口減少や少子化・高齢化に伴い、地域間格差が広がるとともに、大都市、地方都市、中山間地域それぞれに高度経済成長期とは様相が異なる「都市問題」や「過疎問題」を抱えています。ここ数年「消滅可能性自治体」という言葉が広がり、政府に「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され、2015年度には全国の地方自治体で「地域版総合戦略」が策定されるなど、「地域経営」の視点がますます重要になっています。本講では、これらの政策動向を注視しながら、その背景の理解に必要な基礎知識～たとえば国と地方の関係や地域政策の推移、地方自治体の変遷、現在や近未来の地域課題など～を学んでいきます。と同時に、学生の皆さんが、身近な地域の歴史や現状、将来に関心が持てるよう、データを集め分析する手法の基本を身につけられることを目指します。
到達目標	第一の目標は、現在の東京一極集中の原因や地方の状況について自分なりに理解し、今後の国や地方のあり方に関心を持つようになることです。第二は、地方創生や地域活性化に関する報道や論文に接し、背景や用語を含めて、読みこなせるようになること(社会人としての基礎能力をつける)ことです。さらに、人口統計等のデータを集め、簡単な地域分析ができる技法を身につけることが第三の目標です。
授業方法と留意点	配布するレジュメや資料に沿って講義形式で行います。自ら考える力を養うため、ワークシートを記入したり、学生同士あるいは学生一教員との対話を積極的に取り入れます。
科目学習の効果(資格)	地域の現状について、経済社会状況の変化や政策の変遷、統計等の基礎データをもとに、構造的に理解できる手法や視点を学びます。公務員志望者や地域課題に取り組む事業者への就職・起業やNPOでの活動を考えている人、さらにこれから社会人になろうとするすべての学生の現状把握能力や「率先市民」としての素養を高めます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	地域の概念をつかむ(1) 地方自治体の多様性	現在の地方自治制度がどのように整ってきたかや、地方公共団体の多様性(都道府県と基礎自治体、政令指定都市、中核市)を理解するとともに、新たな地域の括り(広域連合、道州制、都構想など)について学ぶ。	自分が居住する(出身の)自治体について規模や特徴を調べる。
3	地域の概念をつかむ(2) 少子化・高齢化と地域間格差	少子化・高齢化に関して、日本全体に与える影響だけでなく、局地的な地域への影響について、それぞれ考察する。また、人口の偏在に伴う地域間格差についても考える。	少子高齢化が急激に進むのはどんな地域なのか、どんなことになるのか、を配布資料をもとに考察する。
4	地域の概要をつかむ(3) 地域政策の変遷	中央集権と地方分権の違いを理解し、経済社会情勢の変化などとともに、全国総合開発計画がどう変遷してきたかを概観する。	全国総合開発計画の変遷など、経済社会情勢や政治体制と地域政策の関連について、復習しておく。
5	地域の概要をつかむ(4) 現在の地域政策の特徴	特区や地域再生など「選択と集中」を基本とする、現在の地域政策の特徴について学ぶ。	地域間競争のプラス面・マイナス面について考察する。
6	トピック：増田ショック(自治体消滅)と、まち・ひと・しごと創生のビジョン、総合戦略	2014年に成立した「まち・ひと・しごと創生法」について、制定の背景、政策としての特徴、さらに各自治体で策定された地域版総合戦略の概要をつかむ。	まち・ひと・しごと創生法のビジョンや総合戦略を読んでみる
7	地域経営のためのデータを集める	地域分析の基礎となる人口統計について、データのアクセス方法や読み解き方、簡単な分析手法について解説する。	※ミニレポート(1) 自分のまちの人口に関する基礎データを引き出して分析する
8	都市の経営(1) 都市とはなにか	なぜ人口集積が起こるのかを考え、利点と問題点を整理する。歴史や成り立ちが異なる世界の都市をいくつか取り上げ、日本の都市の特徴を探る。	様々な都市の成り立ちやそれに派生する特徴について、復習しておく。
9	都市の経営(2) 都市問題の変遷と都市政策	新旧の都市問題と、それらを解決しようとしてきた都市政策の概観を学ぶ。また、環境問題(ヒートアイランド現象)や災害に対する脆弱性など、新たな都市問題について考える。	自分のまちの都市計画や環境問題への取り組みについて調べてみる。
10	都市の経営(3) 大都市を考える	人口集中が進む大都市の強み・弱みを考え、都市間競争の機会や近い将来起こりうる脅威についてSWOTの手法で考えてみる。	大阪や神戸など身近な大都市のホームページなどから、そのまちのSWOTを考えてみる。
11	都市の経営(4) 地方都市を考える	急激に変化する地方都市の姿(オールドニュータウン化、商業や工業の衰退)を、人口や就業構造からとらえ、地域活性化に向けた取り組みのいくつかを解説する。	自分のまちの人口構造や地域活性化の取り組みについて調べる。
12	非都市部の経営 中山間地域や過疎集落を考える	中山間地域の多面的機能について理解したうえで、人口減少の実態と従来の過疎を食い止める方策・成果を概観する。	地方都市の人口減少と、中山間地域の人口減少との相違点について考えてみる。 ※ミニレポート(2) 現在、地元自治体で行われている人口減少対策について考察する
13	地域の多様な連携	定住自立圏構想や地域連携、都市農村交流など、「競争」だけではない、官民の多様な地域連携について学ぶ。	身近な都市が、どこで、どんな地域連携を行っているか調べてみる。
14	住民自治と地域経営	近年、全国で広まっている「住民自治(地域自治)協議会」の動きと、それが縮小する行政に代わって住民サービスを行い、地域経営の主体となれるかどうかを探る。	住民自治協議会の先進事例を調べ、その取り組みが自治会・町内会等従来の地縁組織と、どこが違うかを考えてみる。
15	総括 地域の持続可能性を探る	あらためて「地域とはなにか」「地域経営とはなにか」を考える。	地域の諸課題について、自分に何ができるかを考える。

関連科目 公共経営論、NPO論、地方自治論



教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市計画の世界史	日端康雄	講談社現代新書
	2	地方消滅～東京一極集中が招く人口急減	増田寛也	中央新書
	3	地方消滅の罫～『増田レポート』と人口減少社会の正体	山下祐介	ちくま新書
評価方法 (基準)	受講態度やコメントペーパーの内容 (30%) ミニレポート2回 (各10%) 定期試験(50%)により評価します。			
学生への メッセージ	ここ数十年で、地域は急激に変化しています。今後、さらに都市間競争が促され、自治体の破たんも懸念される中で、地域経営の知見はますます重要になってくるでしょう。 そんな地域の現状を正しく捉えるためには、過去の政策を知るとともに、必要なデータを集めて分析する作業が欠かせません。新聞記事などで地域のトピックを知ると同時に、背景や構造についても、関心を持って学んでください。			
担当者の 研究室等 備考	11号館6階(経営学部事務室)			

科目名	地方自治論	科目名(英文)	Local Autonomy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国と地方は相互協力であって依存関係ではないということの認識が必要である。</li> <li>・そのため、住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。</li> <li>・組織や制度を講義するとともに法との関連も講義したい。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治の現状の制度を理解する。</li> <li>・地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。</li> <li>・変化する社会状況において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。</li> <li>・地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。</li> <li>・2010年に総務省が取りまとめた「地方自治法抜本改正の考え方」を講義内容に加え、未改正項目等、その現代的意義についても考察する。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員試験の対象となる。</li> <li>・地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。	教科書または参考書の目次を読んで概略をつかんでおく。 第一章
2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第二章
3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第三章
4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第四章
5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第五章
6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第六章
7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第七章
8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第八章
9	地方公共団体の執行機関1	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第一、二節
10	地方公共団体の執行機関2	地方公共団体の機関、長及び他の機関(議会と行政委員会)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第三、四節
11	地方公共団体の財務1	地方公共団体の財務(収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第一、二、三、四節
12	地方公共団体の財務2	地方公共団体の財務(資金的収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第五、六、七節
13	地方公共団体と他の主体との関係1	地方公共団体と国との関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第一節
14	地方公共団体と他の主体との関係2	地方公共団体の相互の関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第二節
15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。	教科書及び参考書を読んでおく。

関連科目 「地方自治と法(法学部)」等の行政法関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治制度 第七次改訂版	久世公堯	学陽書房

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新自治体学入門 市民力と職員力	森啓	時事通信社

評価方法(基準) 定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。

学生へのメッセージ
 

- ・一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義です。
- ・経済学部・経営学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。
- ・国家、地方とも公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。

担当者の研究室等 1号館7階 田井准教授室(経済学部)

科目名	ビジネスインターンシップ I	科目名 (英文)	Business Internship I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	授業概要：夏季休暇中に実施するインターンシップ実習に参加するための事前指導科目です。 目的：自分がどのような行動特性を持っており、それを社会のどのような環境や業種の中で活かしていけるかを考え、将来に対するライフプランを明確にしていく。
到達目標	①組織人に求められる社会的役割および責任、仕事への情熱等を身につけ、主体的に発言できるプレゼンテーション能力の開発。 ②インターンシップ体験や就職活動などを積極的にアプローチし、かつ、臨機応変な対応ができるバランスのとれた人格の形成。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参加方式の授業のため、演習や発表を多く取り入れたものにする。
科目学習の効果 (資格)	将来の職業選択意識を高め適切に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	やりたい仕事を探してみよう 【4月19日】	・自分がやりたい仕事についてワークを通じて考える ・自分の行動特性を考える	予習：自分のやりたい職種を3つ考えてきてください (安久・高尾)
3	アルバイトと正社員の違いについて考える 【4月26日】	・仕事の内容から求められる能力や資質について考える ・目標達成意欲度診断の実施	予習：アルバイトと正社員との違いを比較表にしてまとめてきてください (安久・高尾)
4	職種から求められる資質と行動・考え方 【5月10日】	・職種から求められる資質と行動・考え方 ・インターンシップ先希望調査(受け入れ先一覧の配布)	予習：職種から求められる資質はどのようなものがあるのかを考えてきてください (安久・高尾)
5	自分のキャリアスタイルを考える 【5月17日】	・キャリアスタイルの分析を通じて、自分の行動特性をチェックする ・キャリアスタイル診断の実施 ・インターンシップ先とのマッチング	予習：自分の長所と短所を3つずつ考えてきてください (安久・高尾)
6	インターンシップの狙いと重要性 【5月24日】	・インターンシップの狙いと重要性の再確認 ・インターンシップの目的を明確にする	予習：インターンシップに参加する目的を整理しておいてください (安久・高尾)
7	社会人基礎力について① 【5月31日】	・採用企業と学生の認識の違いについてグループワーク	予習：社会人基礎力について調べてきてください (安久・高尾)
8	社会人基礎力について② 【6月7日】	・採用企業と学生の認識の違いについてグループ発表	予習：企業は社会人基礎力の中のどの能力を優先するかを考えてきてください (安久・高尾)
9	社会人基礎力について③ 【6月14日】	・社会人基礎力診断の実施 ・履歴書の書き方の再確認 ・インターンシップ実習についての事務連絡	予習：履歴書の書き方で気になることを整理しておいてください (安久・高尾)
10	企業の求める人材像 【6月21日】	・企業管理者による講演会(予定)	予習：事前に講演者の企業情報を調べ、積極的に質問できるようにしておくこと (安久・高尾)
11	事前訪問事業所の調査 【6月28日】	・事業所への事前訪問(電話応答から訪問まで)のシナリオを考える ・グループで考えたシナリオを使ってロールプレイ	予習：事前訪問事業所の情報をWebページで調べておいてください (安久・高尾)
12	業界研究 【7月5日】	・インターン先の業界が同種のグループごとに特徴や課題をプレストする ・課題等をKJ法を使ってまとめグループごとに発表する	インターンシップ先が属する業界について調べてきてください (安久・高尾)
13	マナーについて知ろう 【7月12日】	・社会人としての基本的なマナーについて考える ・挨拶、席次、敬語、名刺交換など	マナーとエチケットの違いについて調べてきてください (安久・高尾)
14	事前訪問の準備 【7月19日】	・事前訪問先でのマナーや面談応答のロールプレイ	予習：名刺を作成し、名刺ケースを持参してください (安久・高尾)
15	まとめ 【7月26日】	・インターンシップに参加するための目的を再度、明確にする ・インターンシップに参加した先輩との意見交換(予定)	なぜ、インターンシップに参加するかを明確にし、200字程度の文章にまとめてください (安久・高尾)

関連科目 「ビジネスインターンシップⅡ」(企業等での就業体験実習)を希望する学生は、必ずこの科目を同時履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	原則、講義レポートの内容 (50%) と定期期末試験結果 (50%) で評価します。		
学生への メッセージ	インターンシップの流れ (予定) 4月下旬に事業所リスト公開→5月上旬に希望事業所の絞り込み→5月下旬に受け入れ可能かの回答→7月上旬に事前訪問→8月13日(土)～9月7日(水)の間(夏季休暇期間中)に、原則2週間(実質10日以上)のインターンシップ実習に参加すること。		
担当者の 研究室等	11号館8階 安久研究室		
備考	授業の進捗状況により一部内容や進め方を変更することがあります。		

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名(英文)	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	授業概要：夏季休暇中に実施するインターンシップ実習(10日間以上)のための集中(土曜日午前2コマ連続)科目です。 目的：職業人としての社会的役割および責任、仕事への情熱と意欲、組織人としての在り方等について自ら学習できる学生の育成。
到達目標	インターンシップを通して「企業とは」「組織とは」「仕事とは」について学び、就職に対する心構えを養い、自ら責任を自覚して主体的に発言・行動ができるバランスのとれた人格の形成を目指す。
授業方法と留意点	①「事前指導(講義)」「インターンシップ(実習・研修)」「事後指導(就業体験の発表)」すべてに出席(参加)すること。 ②無断欠席は絶対にしないこと。必ず事前連絡を担当教員が経営学部事務室(11号館6階)にすること。 ③事前に授業のある土曜日のスケジュール(以下の「授業テーマ」内に明記)は、確保しておくこと。 ④全学部代表による発表会を11月12日(土曜日)に予定しているので、全員リクルートスーツ着用で出席のこと。 ⑤体験報告書のゼミ担当教員氏名欄には署名と押印がされたものを、期日までに提出のこと。 ⑥「ビジネスインターンシップ」実習記録簿は、毎日実習日誌を書き、受け入れ先担当者からのコメントと署名押印をもらい、インターンシップ終了後は、所定の必要事項を記入しゼミ担当教員氏名欄に署名、押印されたものを、期日までに提出のこと。 ⑦実習期間は、実質10日間以上でないとう単位履修したことにはならないので、くれぐれも注意すること。
科目学習の効果(資格)	①就業体験を通して、実社会への足掛かりをつかむ。 ②職業意識を高め、職業選択を適切に行い、就職活動への意欲を高める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	事前教育 6月25日(土) 1限目	・インターンシップの心構え、体験報告書等について ・マナー講座(学外講師を含む)	・ビジネスマナーについて考える ★スーツ着用で参加してください (安久・高尾)
2	事前教育 6月25日(土) 2限目	・マナー講座(学外講師を含む) ★授業終了後、インターンシップ先が同一の他学部の学生との顔合わせを行います	正しい電話のかけ方を考える ★次回の授業前に「履歴書」と体験実習先での「目的(テーマ)と実習内容」をまとめたレポートを提出してください (安久・高尾)
3	事前教育 7月23日(土) 1限目	・パソコン講習Ⅰ(情報センター職員を含む)	学んだことを実習先で活用できるように機能などをマスターしておいてください (安久・高尾)
4	事前教育 7月23日(土) 2限目	・パソコン講習Ⅱ(情報センター職員を含む)	学んだことを実習先で活用できるように機能などをマスターしておいてください (安久・高尾)
5	インターンシップ(就業体験実習)	・夏期休暇期間中の8月13日(土)～9月7日(水)の間、原則2週間(実質10日間以上)の実習を行う	事前に企業等の理念や事業内容について調べ、ノートにまとめておいてください (安久・高尾)
6	インターンシップ(就業体験実習)	・夏期休暇期間中の8月13日(土)～9月7日(水)の間、原則2週間(実質10日間以上)の実習を行う	インターンシップのテーマ(ねらい、目的)を明確にしたうえで参加してください (安久・高尾)
7	体験報告書の作成	・体験報告書の作成指導	「報告書の書き方」を熟読してください (安久・高尾)
8	体験報告書のゼミ教員指導	・ゼミの先生による体験報告書のチェックと指導(署名、押印)	誤字・脱字がないか確かめてから指導を受けてください (安久・高尾)
9	報告書の提出	・インターンシップ担当教員による体験報告書のチェックと指導 ★担当教員への提出と教務課へ電子データを9月15日(木)までに提出<期日厳守>	「インターンシップ体験報告集」に掲載されますので、何度も読み返して報告書の内容を推敲してください (安久・高尾)
10	事後指導 9月17日(土) 1限目	・「インターンシップに参加して」① ・インターンシップ終了学生によるグループ発表と選抜	・ゼミ担当教員の指導を受けチェックされた体験報告書の提出 ・7分間で体験報告の発表ができるように各自内容をまとめ出席してください(時間が短かったり、長すぎないように注意してください) (安久・高尾)
11	事後指導 9月17日(土) 2限目	・「インターンシップに参加して」② ・グループ代表の選抜 ・目標達成意欲度、キャリアスタイル、社会人基礎力診断の実施	・ゼミ担当教員の指導を受けチェックされた体験報告書の提出 ・7分間で体験報告の発表ができるように各自内容をまとめ出席してください(時間が短かったり、長すぎないように注意してください) (安久・高尾)
12	事後指導 9月24日(土) 1限目	・「インターンシップに参加して」③ ・グループ代表による発表 ★発表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください	グループ代表者は12分で報告できるようパワーポイントにまとめてください(パワーポイントは、文字の大きさや見やすさに気を配ってください) (安久・高尾)

	13	事後指導 9月24日(土)2限目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターンシップに参加して」④</li> <li>・グループ代表による発表と選抜選抜</li> <li>★発表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください</li> </ul>	<p>グループ代表者は12分で報告できるようパワーポイントにまとめてください (パワーポイントは、文字の大きさや見やすさに気を配ってください)</p> <p>(安久・高尾)</p>
	14	事後指導 10月22日(土)1限目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターンシップに参加して」⑤</li> <li>・学部代表報告 発表</li> <li>★学生代表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください</li> <li>★授業開始前までに体験報告書と実習記録簿を提出すること</li> </ul>	<p>学生代表者はパワーポイントで報告してください(15分程度)</p> <p>(安久・高尾)</p>
	15	事後指導 10月22日(土)2限目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターンシップに参加して」⑥</li> <li>・学部代表報告 発表と全学代表者の選抜</li> <li>★学生代表者は、当日までにパワーポイントでの発表を準備してください</li> </ul>	<p>学生代表者はパワーポイントで報告してください(15分程度)</p> <p>(安久・高尾)</p>
関連科目	教養科目「ビジネスインターンシップⅠ」を必ず合格していること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	原則、事前指導(20%)、インターンシップ-受け入れ事業所の評価および実習記録簿、報告書の提出を含む(25%)、事後指導(55%)のすべての受講態度、提出物等により決定します。インターンシップだけの参加では、単位認定はできません。			
学生へのメッセージ	<p>①「ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ」を履修申請するためには、2月26日(金)の履修ガイダンスを予定しているので出席することが必須となります。履修希望者は必ず出席し、「ビジネスインターンシップⅠ、Ⅱ」の事前申請書を提出すること。やむを得ない理由により参加できない場合は、速やか(事前に)に安久(研究室:11号館8階)まで申し出ること。</p> <p>②「ビジネスインターンシップⅠ」を同時履修すること。</p> <p>③3年次で履修するのが望ましい。</p> <p>④10月29日(土)午前は、全学部の各代表による報告会があります。当日はスーツ着用。</p> <p>⑤履修希望者が多い場合は、選考する場合があります。</p>			
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室			
備考	・授業の進捗状況や履修者数により一部内容や進め方を変更することがあります。			

科目名	ビジネスゲーミング	科目名(英文)	Business Gaming for Society
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	福田 市朗

授業概要・目的	目的：ビジネスに必要な社会的思考力の向上を図る 概要：多様な人間関係を維持するための社会的知性の特性を学び、複雑な利害対立の解決を目指す戦略的な思考力の向上をはかる。経済学で追究されてきたゲーム理論の基本と合理的な意思決定法について学習する。併せて、様々な利害対立や葛藤を解決するための戦略的な意思決定に関する心理学的な研究方法を学ぶ。
到達目標	1. 社会的知性および社会的思考の心理学的な特性を知る 2. 私たちの経験する多様な対立の種類とその特徴を理解する 3. 社会行動を理解するための心理学実験法やシミュレーション技法などを学ぶ 4. ゲーム理論<ゼロ和ゲーム理論と非ゼロ和ゲーム理論>の基本を学ぶ 5. ゲームを用いた社会行動の分析手法を学ぶ
授業方法と留意点	多様な対立を分類し、個々の対立に関する解決方法を自ら考えて答えを出すこと。本講義は自ら答えを出すという実践的な理解を求めている。授業後の復習に力を注ぎ、疑問点は必ず質問し、解決するように心がける。
科目学習の効果(資格)	合理的な意思決定法を理解することによって、利害対立の解決に必要な社会的スキルの向上が期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義概要：「ビジネスゲーミング」の講義目的と学習目標	講義の目的・方法および成績評価について説明する。ゲーミング技法の導入意義やゲーム理論の活用などを紹介する。	ビジネスにおける様々な種類の利害関係を取り上げ、分析する。
	2	ビジネスゲームの技法(1)：ゲーム・シミュレーションの導入	経済行動やビジネス活動における諸問題を理解し、ビジネスゲーミング技法の導入意義を知る。	梶井厚志著『戦略的思考の技術』(中公新書)。小島寛之著『数学的思考の技術』(ベスト新書)
	3	ビジネスゲームの技法(2)：ゲーム理論による社会行動の分析	戦略決定における合理性、論理性、倫理性を学ぶ。ゲーム理論の目的やシミュレーションゲームの教育的意義について学ぶ。	「公共財ゲーム」の開始。毎回授業の初めに回答を求める。
	4	社会的思考法(1)：社会的知性と戦略的思考	様々な対立や葛藤を取り上げ、これらを解消する合理的な思考法を学ぶ。多様なゲームの課題と目的を理解する。	説得や交渉が成立するための条件、協力が成立する条件を考える。
	5	社会的思考法(2)：ゲーム理論の目的と課題	戦略論としてのゲーム理論と必勝法を理解する。併せて、戦略的意思決定における合理的な思考法を学ぶ。	勝敗を争うボードゲームにおける合理的な戦略を考えてみよう。
	6	ゲーム理論の紹介：ゲーム理論の基礎	ゲーム理論を構成する基本用語を理解する。併せて、展開型ゲームと行列型ゲームの相違点を学ぶ。	ゲームにおける思考法を振り返ってみよう。
	7	ゼロ和ゲームの世界(1)：ゼロ和ゲームの基本	ゼロ和ゲームに関する理論とその解法を学ぶ。また、ミニマックス戦略とマックスミニ戦略などの基本概念を理解する。	具体的なゲームを通して「競争型ゲーム」の特徴を理解しよう。
	8	ゼロ和ゲームの世界(2)：混合戦略と期待値	じゃんけんゲームを解説し、混合戦略と期待値の関係を理解する。また、合理的なゲームの解を求める計算方法を学ぶ。	均衡戦略と均衡解の求め方を理解する。練習問題を解いて理解を深める。
	9	ゼロ和ゲームの世界(3)：ゼロ和ゲームの応用	ゼロ和ゲームに関する心理学的課題を知る。戦略決定における合理性について考える。	「専制者ゲーム」や「最後通牒ゲーム」の心理社会的な特徴を考える。
	10	非ゼロ和ゲームの世界(1)：非ゼロ和ゲームの基本	「囚人のジレンマゲーム」の特徴を理解する。利害対立の合理的な解決方法および約束が成立する要因について考える。	協力や約束が成立する条件を考えよう。
	11	非ゼロ和ゲームの世界(2)：非協力型ゲームと協力型ゲーム	ナッシュ均衡と合理的な交渉の進め方を理解する。プレイヤー間の「駆け引き」について考える。	松原望著、『ゲームとしての社会戦略』(丸善ライブラリ)。
	12	非ゼロ和ゲームの世界(3)：非ゼロ和ゲームの応用	「チキンゲーム」や「異文化対立ゲーム」などのゲームを理解し、それらの特徴と心理学的課題を知る。	具体的な戦略的場面をゲームの構造として捉え、最善の戦略を考える。
	13	ゲームによる社会行動分析(1)：ゲーム理論と社会行動	「公共財ゲーム」や「共有地の悲劇ゲーム」を理解する。社会行動における公正や正義について考える。	「公共財ゲーム」および「共有地の悲劇ゲーム」を具体例を考えてみよう。
	14	ゲームによる社会行動分析(2)：社会的合意と報酬分配	ゲーム理論の観点から、合意の形成や社会的ルールの成立について考える。併せて、協力的行動と報酬分配について学ぶ。	「共有地の悲劇」が起こらないためのルールを考えなさい。
	15	講義のまとめ	多様な対立が渦巻く社会生活とビジネス活動を正しく理解し、正しい決定を下すための社会的知性を振り返る。	社会的に価値のある決定を下すために必要なことは何か、再度考えてみよう。

関連科目：ミクロ経済学、職業能力開発、経営戦略論などの意思決定に関係する科目を併せて受講すると理解が深まる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は指定しないが、読んでほしい参考図書を随時紹介する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略的思考の技術 - ゲーム理論を実践する	梶井厚志	中公新書
	2	ゲームとしての社会戦略	松原望	丸善ライブラリー
	3	ゲームとしての交渉	草野耕一	丸善ライブラリー

評価方法 (基準)	小レポートの成績(30%)と期末定期試験の成績(70%)を合算し、総合的に評価する。小レポートは授業内容と関係するので、誠実に回答すること。
学生への メッセージ	遅刻厳禁!居眠り厳禁! 私語を慎み、中途退室は避けること。 講義中のスマホ・携帯の使用禁止。 出席管理システムのデータは成績評価に用いないが、学生証によるチェックは忘れないこと。
担当者の 研究室等	11号館7階(福田研究室)
備考	現実には理論通りにはならない。しかし、理論を知ることが重要である。 授業を通して、理論と実践の相違点を理解するとともに、社会的な思考術を身につけてほしい。



科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、および PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	履修に際して予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。 8割以上の出席を要求する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、学内ネットワーク利用方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	コンピュータの機能	コンピュータの仕組み、ファイル操作	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	インターネットの利用と情報検索?	インターネットによる情報収集、情報倫理	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	文書作成 (1) ?	Word の基礎知識、文書の書式設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	文書作成 (2) ?	表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	文書作成応用 (1) ?	表現力を高める文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	文書作成応用 (2) ?	応用文書の作成?	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと学力診断テスト	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
9	表計算 (1)	Excel の基礎知識、データの入力と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	表計算 (2)	表の作成・編集、計算式の作成と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	表計算 (3)	基本的な関数の利用、グラフの作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の基礎知識、プレゼンテーション資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	プレゼンテーション (2)	図やオブジェクトの挿入と編集、画面切り替え効果、アニメーション効果の設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	プレゼンテーション応用 (1)	テーマ別プレゼンテーション資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	プレゼンテーション応用 (2)	プレゼンテーション相互評価	全体の内容を復習しておく

関連科目 コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業中の課題 (40%)、小テスト (30%)、実技を含む試験 (30%)、をもとに総合的に評価する。  
この授業は演習中心であるため、8割以上の出席が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。  
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後、独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格しています。

担当者の研究室等 備考

科目名	ビジネス情報処理 I	科目名 (英文)	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、コンピュータの機能を知るとともに、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、および PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	履修に際して予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。 8割以上の出席を要求する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、学内ネットワーク利用方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	コンピュータの機能	コンピュータの仕組み、ファイル操作	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	インターネットの利用と情報検索?	インターネットによる情報収集、情報倫理	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	文書作成 (1) ?	Word の基礎知識、文書の書式設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	文書作成 (2) ?	表の作成・編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	文書作成応用 (1) ?	表現力を高める文書の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	文書作成応用 (2) ?	応用文書の作成?	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと学力診断テスト	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
9	表計算 (1)	Excel の基礎知識、データの入力と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	表計算 (2)	表の作成・編集、計算式の作成と編集	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	表計算 (3)	基本的な関数の利用、グラフの作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	プレゼンテーション (1)	PowerPoint の基礎知識、プレゼンテーション資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	プレゼンテーション (2)	図やオブジェクトの挿入と編集、画面切り替え効果、アニメーション効果の設定	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	プレゼンテーション応用 (1)	テーマ別プレゼンテーション資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	プレゼンテーション応用 (2)	プレゼンテーション相互評価	全体の内容を復習しておく

関連科目 コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業中の課題 (40%)、小テスト (30%)、実技を含む試験 (30%)、をもとに総合的に評価する。  
この授業は演習中心であるため、8割以上の出席が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。  
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後、独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格しています。

担当者の研究室等 7号館 2階 (非常勤講師室)

備考

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要な情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、Excel を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎・復習	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	表計算(1)	表の作成・編集、計算式の作成と編集、 相対参照と絶対参照	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	表計算(2)	基本的な関数を使った資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	表計算応用(1)	Excel の応用利用、様々な関数を使った 資料の作成(1)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	表計算応用(2)	Excel の応用利用、様々な関数を使った 資料の作成(2)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
6	表計算応用(3)	データベースの利用とデータ分析(1)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
7	表計算応用(4)	データベースの利用とデータ分析(2)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を整理しておく
9	数値データの解析(1)	記述統計の基礎、基本統計量の計算	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	数値データの解析(2)	基本統計量の具体例、度数分布、ヒストグラム	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	データ解析の応用(1)	相関と相関係数、相関係数の算出方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	データ解析の応用(2)	クロス集計の基礎、クロス表と変数の関連	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	データ解析の応用(3)	独立性の検定(カイ二乗検定)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	データ解析の応用(4)	回帰分析の基礎、回帰分析の方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめと確認テスト	後半の内容を整理しておく

関連科目 コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業中の課題(40%)、小テスト(30%)、実技を含む試験(30%)をもとに総合的に評価する。  
この授業は演習中心であるため、8割以上の出席が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。  
多くの先輩が、「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」受講の後、独学でMOS(Microsoft Office Specialist(マイクロソフト オフィス スペシャリスト))に合格しています。

担当者の研究室等 11号館8階研究室

備考

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題およびレポートの作成やプレゼンテーションに必要な情報活用能力を習得する。Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報モラルに関するさまざまな技能を学び、ビジネスの場で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を習得する。本講義では、Excel を用いた表計算の応用、ビジネスデータの分析に関する技能習得を目指す。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果(資格)	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験などのIT系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excelの基礎・復習	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
2	表計算(1)	表の作成・編集、計算式の作成と編集、 相対参照と絶対参照	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	表計算(2)	基本的な関数を使った資料の作成	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	表計算応用(1)	Excelの応用利用、様々な関数を使った 資料の作成(1)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	表計算応用(2)	Excelの応用利用、様々な関数を使った 資料の作成(2)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
6	表計算応用(3)	データベースの利用とデータ分析(1)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
7	表計算応用(4)	データベースの利用とデータ分析(2)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 配付資料の該当箇所を読んでおく
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめと確認テスト	前半の内容を整理しておく
9	数値データの解析(1)	記述統計の基礎、基本統計量の計算	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	数値データの解析(2)	基本統計量の具体例、度数分布、ヒストグラム	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	データ解析の応用(1)	相関と相関係数、相関係数の算出方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	データ解析の応用(2)	クロス集計の基礎、クロス表と変数の関連	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	データ解析の応用(3)	独立性の検定(カイ二乗検定)	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	データ解析の応用(4)	回帰分析の基礎、回帰分析の方法	授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	後半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめと確認テスト	後半の内容を整理しておく

関連科目 コンピュータ概論、インターネット概論、ビジネス情報処理Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業中の課題(40%)、小テスト(30%)、実技を含む試験(30%)をもとに総合的に評価する。  
この授業は演習中心であるため、8割以上の出席が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。  
多くの先輩が、「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」受講の後、独学でMOS(Microsoft Office Specialist(マイクロソフト オフィス スペシャリスト))に合格しています。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	ビジネスプラン	科目名(英文)	Business Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 貞幸

授業概要・目的	社会経済が激動する昨今、キャリアプランを考える際に「起業」が一つの選択肢になりつつあります。起業は自らの価値観にあった働き方であり、ひいては経済に活力を与える源泉であるといえます。そこで「ビジネスプラン」の講義では、起業環境を認識し、そして起業する際に必要とされるものの学習をはじめ、起業成功確率を高める「ビジネスプラン」の書き方、作り方学びます。また「ビジネスプラン」を実行する際の経営戦略法、市場戦略手法についても解説します。
到達目標	ビジネスプランの書き方・作り方を習得する。
授業方法と留意点	レジュメ(プリント)を用い講義し、起業・ビジネスプラン・経営戦略に関する知識の習得だけでなく、実際の起業現場において、どのようなビジネスプランが作成されているのかを体験します。
科目学習の効果(資格)	ビジネス系資格取得のプラス知識になります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	起業・起業環境を知る	起業の現状と課題 日本経済社会の現状とこれからの考える	「生きる」「仕事をする」ことについて考える機会を得る
2	「働くということ」を考える	自分のキャリアプランを考える	自分の人生について考えてみる
3	起業家の条件	起業を成功させるためのポイント	自分自身の「起業家」に向いている部分について考えてみる
4	ビジネスプランとは?	ビジネスプランの目的・必要性・ポイント	ビジネスをはじめるといふことについて考える
5	ビジネスアイデアとビジネスモデル	ビジネスアイデアによるビジネスモデルの違い	同業態企業であってもアイデアによってビジネスモデルが違っているその違いを分析してみる
6	ビジネスアイデア	ビジネスアイデア発想とビジネスとしての採算性	ビジネスを発想してみるそしてその採算性について検討しビジネスとして成立するかどうかを考える
7	ビジネスモデルの構築	ビジネスモデルとは何か、またそのポイントを知る	知っている企業のビジネスモデルについて考える
8	起業とSNSマーケティング	SNSを活用したマーケティングを知る	SNSを体験してみる
9	ビジネスプランの書き方・作り方	ビジネスプランの書き方について学ぶ	ビジネスプランを書いてみる
10	ビジネスプランの構成と経営戦略	ビジネスプランの構成を学び、実行する際の経営戦略について考える	知っている企業の戦略について考える
11	ビジネスプラン作成実習(1)	起業家になったつもりで自分の考えていることを、ビジネスプランとして明文化する	いろいろな業種業態について考えてみる
12	ビジネスプラン作成実習(2)	フリー時代にマッチしたビジネスプランを作成する	フリー時代の生き方について考えてみる
13	ビジネスプランのプレゼンテーション	ビジネスプランを完成させ、表現する	作成したビジネスプランをプレゼンテーションしてみる
14	実践現場のビジネスプラン	実際のビジネスプランをみてる	実際の起業や新規事業において、どんなビジネスプランが作られているのかを知る
15	ビジネスプランのまとめ	ビジネスプラン作成のポイントをおさえる	ビジネスプランのポイントを覚える

関連科目 「ベンチャービジネス論」「ビジネスインターンシップI・II」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) レポートと試験 (レポートの評価50%、試験の評価50%)  
(レポートは4回提出、試験は後期試験期間中に実施)

学生へのメッセージ 起業・事業創業は生きがいを求める人生へのチャレンジ。今後のキャリアプランにおいて「起業」という選択肢が無縁ではなくなりつつあります。また、会社の一員であっても 新規事業開発の局面を含め、ますます新しい思考、アイデアが求められ、ビジネスプランとしてアウトプットできる能力が必要です。

担当者の研究室等 11号館6階(経営学部事務室)

備考

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名(英文)	Financial Planning
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大

授業概要・目的	FP3級取得レベルの知識の習得
到達目標	FP技能士の資格試験は毎年5月・9月・1月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9月試験の合格を目指します。

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則的に講義形式です。</li> <li>・講義内で頻繁に問題演習を行います。</li> <li>・おおよそ講義2回に1回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。</li> </ul>
----------	---

科目学習の効果(資格)	FP3級の取得、FP2級の学習への予備的学習
-------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ライフプランニングと資金計画(1)	ライフプランニングの考え方・手法	第2回の復習
3	ライフプランニングと資金計画(2)	公的年金制度	第3回の復習
4	ライフプランニングと資金計画(3)	ライフプラン策定上の資金計画	第2回から第4回までの復習(第5回に確認テスト①)
5	確認テスト① + リスク管理(1)	生命保険	第5回の復習
6	リスク管理(2)	損害保険 第三の保険	第5回から第6回までの復習(第7回に確認テスト②)
7	確認テスト② + 金融資産運用(1)	各種経済指標 マーケット環境の理解 投資信託	第7回の復習
8	金融資産運用(2)	債券・株式 その他金融商品 金融資産に係る税金 ポートフォリオ運用	第7回から第8回までの復習(第9回に確認テスト③)
9	確認テスト③ + タックスプランニング(1)	所得税制度 各種所得①	第9回の復習
10	タックスプランニング(2)	各種所得② 所得税計算	第9回から第10回までの復習(第11回に確認テスト④)
11	確認テスト④ + 不動産(1)	不動産の価格 不動産取引に係る法律 不動産登記	第11回の復習
12	不動産(2)	不動産に係る関連法規(都市計画法・建築基準法など) 不動産に係る税金	第11回から第12回までの復習(第13回に確認テスト⑤)
13	確認テスト⑤ + 相続・事業承継(1)	贈与・相続制度	第13回の復習
14	相続・事業承継(2)	贈与・相続に係る税金	第13回から第14回までの復習(第15回に確認テスト⑥)
15	確認テスト⑥ + 今後の学習について	期末テストについて 今後のFP学習について	特になし

関連科目	金融論・地域金融論など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編'15~'16年版)	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター	きんざい
	2	パーフェクトFP技能士3級対策問題集・実技編(個人資産相談業務)'15~'16年版)	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター	きんざい
	3			

評価方法(基準)	確認テスト(計6回)60%、定期試験40%
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	FP試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください(もし受けないと、その回のテストは0点扱いとします)。FP試験は年間3回あります(5月・9月・1月)ので、積極的に受験することを勧めます。
----	---

科目名	ベンチャービジネス論	科目名(英文)	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	<p>授業概要：大学を卒業しても就職することだけが目的ではなく、自分自身で起業（ベンチャー企業）してみるのも一つの方法です。ベンチャービジネスとは何か、どうすれば起業できるのかについて、わかりやすく解説します。</p> <p>目的：この授業では起業を目指す学生だけではなく、就職する学生にとってもベンチャースピリットがいかに大切かについて学習します。</p>
到達目標	豊富な社会経験を積んだ多くの講師から、働き方についての幅広い知識や知恵などを学び、その中でベンチャースピリットの重要性についての理解を深める。
授業方法と留意点	<p>授業方法：</p> <p>(1) 専門家によるリレー講義です。</p> <p>(2) 経験豊富な実務家の貴重なビジネス体験談が受講できます。</p> <p>(3) 原則、毎回レジュメ（プリント）が配布されます。事前にファイリングするフォルダー（2穴）などを準備すること。</p> <p>留意点：重要な点をきちんとメモして、提出レポートに反映させること。また、聴講のマナーを厳守すること。</p>
科目学習の効果（資格）	経験豊富なさまざまな専門家（起業家）の体験談を直接聞き学ぶことで、社会に対する認識と仕事選択に対する考え方や選択肢を広げることができると期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「ベンチャービジネス論」開講の意義、受講できる専門科目との関連性 【4月7日】	・「ベンチャービジネス論」の摂南大学のキャリア教育との関係について ・「ベンチャービジネス論」開講の意義 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：ベンチャービジネスについての意味を調べてきてください。
2	ベンチャービジネス 概説 【4月14日】	・ベンチャービジネスの歴史と定義・今日的な時代要請 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：ベンチャービジネスについて雑誌またはホームページで調べてみましょう。
3	ベンチャービジネス 方法論 (1) 【4月21日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-従業員採用における基礎知識- 総合事務所ネクスト 所長 特定社会保険労務士 小西 勝 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：従業員を募集・採用する時の注意点について調べてきてください。
4	ベンチャービジネス 方法論 (2) 【4月28日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-創業と政府系金融機関の役割- 日本政策金融公庫大阪創業支援センター 所長 永井俊二 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：政府系金融機関の役割について調べてきてください。
5	ベンチャービジネス 現状論 (1) 【5月12日】	・ベンチャービジネス分野別の現状と課題<小売業>-食品小売業界- AKR 共栄会 事務局長 大西基裕 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：食品小売業界について雑誌またはホームページで調べてきてください。
6	ベンチャービジネス 現状論 (2) 【5月19日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-子ども対象の実践的英会話スクールの運営、学童保育事業の今後- 株式会社 CLC 代表取締役 砂田千秋 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：子供の英会話スクールについて調べてきてください。
7	ベンチャービジネス 現状論 (3) 【5月26日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-投資育成の実践- 株式会社ファンドファンクション 代表取締役 萩原貞幸 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：投資育成についてホームページで調べてきてください。
8	ベンチャービジネス 現状論 (4) 【6月2日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-地域密着型情報発信事業- 特定非営利活動法人週刊ひがしおおさか代表 前田寛文 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：「週刊ひがしおおさか」の活動を Web ページで調べてきてください。
9	ベンチャービジネス 方法論 (3) 【6月9日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-携帯アプリ開発事業の現状と今後の方向性- 株式会社フィードテイラー 代表取締役 大石裕一 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：天気予報アプリ「そら案内」について調べてきてください。
10	ベンチャービジネス 現状論 (5) 【6月16日】	・国による中小・ベンチャー企業支援と東日本大震災の復興支援-震災復興事業のコンサルティングについて- (独) 中小企業基盤整備機構 震災復興支援部 復興支援課 担当課長 (商業支援、販路) 地域活性化伝道師 (内閣府) 長坂泰之 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：東日本大震災の復興の現状について調べてきてください。
11	ベンチャービジネス 現状論 (6) 【6月23日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-設計製造分野での IT 活用①- キャディック株式会社 代表取締役 筒井真作 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：「キャディック株式会社」について調べてきてください。
12	ベンチャービジネス 現状論 (7) 【6月30日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-NPO 法人による社会救済支援- グッド・サマリタン・チャーチ 牧師 金子道仁 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：NPO 法人による社会救済支援活動がどのようなものか調べてきてください。

	13	ベンチャービジネス 現状論 (8) 【7月7日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-交野市活性化企画「おりひめ大学」「交野キャンパス」のプロデュースと地域と大学との関係性-クリエイティブディレクション 代表 甲斐健 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：交野市の「おりひめ大学」の活動について調べてきてください。																
	14	ベンチャービジネス 現状論 (9) 【7月14日】	・ベンチャービジネス展開に関する手法-バリ島との国際交流事業-株式会社 ミレーノ 取締役部長 上田 豊 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：バリ島の学校教育について調べてきてください。																
	15	ベンチャービジネス論 まとめ 【7月21日】	・まとめ ・モチベーションと行動特性の変化の確認(セルフチェック診断) 安久典宏、西之坊穂、畠山俊宏	予習：今までの講義の資料を持参ください。																
関連科目	ビジネスプラン、経営学、経営管理論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	原則、講義レポートの内容 (50%) と定期期末試験結果 (50%) で評価します。																			
学生へのメッセージ	ベンチャービジネスの専門家と直接話し合ってみませんか。皆さんの将来に対する夢が膨らみます。																			
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室																			
備考																				



科目名	簿記入門	科目名(英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 僚祐

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きにまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	教科書の該当箇所参照
2	簿記の基礎②	取引と勘定	教科書の該当箇所参照
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	教科書の該当箇所参照
4	簿記の基礎④	試算表	教科書の該当箇所参照
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	教科書の該当箇所参照
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	教科書の該当箇所参照
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
8	現金・預金①	現金・現金過不足	教科書の該当箇所参照
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	教科書の該当箇所参照
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	教科書の該当箇所参照
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	教科書の該当箇所参照
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	教科書の該当箇所参照
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	教科書の該当箇所参照
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	教科書の該当箇所参照
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	教科書の該当箇所参照
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	教科書の該当箇所参照
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	教科書の該当箇所参照
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	教科書の該当箇所参照
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	教科書の該当箇所参照
21	決算②	費用・収益の見越し	教科書の該当箇所参照
22	決算③	試算表の作成1	教科書の該当箇所参照
23	決算④	試算表の作成2	教科書の該当箇所参照
24	決算⑤	精算表の作成	教科書の該当箇所参照
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	教科書の該当箇所参照
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	教科書の該当箇所参照
27	伝票会計	証ひょうと伝票、伝票の集計・管理	教科書の該当箇所参照
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	教科書の該当箇所参照
30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	教科書の該当箇所参照

関連科目 財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式 日商簿記検定問題集3級改訂版	渡辺正直	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業簿記	紙博文	大学教育出版
2			
3			

評価方法(基準) 学期末試験の結果により評価する。

学生へのメッセージ 簿記は借方・貸方などの専門用語があつて最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかりと身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。

担当者の研究室等 11号館7階(三木准教授室)

備考

科目名	簿記入門	科目名(英文)	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	G H J K L M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 博人

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きにまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記3級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果(資格)	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	教科書の該当箇所参照
2	簿記の基礎②	取引と勘定	教科書の該当箇所参照
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	教科書の該当箇所参照
4	簿記の基礎④	試算表	教科書の該当箇所参照
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	教科書の該当箇所参照
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	教科書の該当箇所参照
7	まとめ	第1回から第6回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
8	現金・預金①	現金・現金過不足	教科書の該当箇所参照
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	教科書の該当箇所参照
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	教科書の該当箇所参照
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	教科書の該当箇所参照
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	教科書の該当箇所参照
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	教科書の該当箇所参照
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	教科書の該当箇所参照
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	教科書の該当箇所参照
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	教科書の該当箇所参照
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	教科書の該当箇所参照
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	教科書の該当箇所参照
19	まとめ	第8回から第18回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	教科書の該当箇所参照
21	決算②	費用・収益の見越し	教科書の該当箇所参照
22	決算③	試算表の作成1	教科書の該当箇所参照
23	決算④	試算表の作成2	教科書の該当箇所参照
24	決算⑤	精算表の作成	教科書の該当箇所参照
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	教科書の該当箇所参照
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	教科書の該当箇所参照
27	伝票会計	証ひょうと伝票、伝票の集計・管理	教科書の該当箇所参照
28	まとめ	第20回から第27回の授業内容の復習	教科書の該当箇所参照
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	教科書の該当箇所参照
30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	教科書の該当箇所参照

関連科目 財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式 日商簿記検定問題集3級改訂版	渡辺正直	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業簿記	紙博文	大学教育出版
2			
3			

評価方法(基準) 学期末試験の結果により評価する。

学生へのメッセージ 簿記は借方・貸方などの専門用語があつて最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかりと身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。

担当者の研究室等 11号館6階(非常勤講師室)

備考

科目名	マーケティング概論	科目名 (英文)	Introduction to Marketing Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的  
この講義では、マーケティングの基礎的知識について学習します。マーケティングは、企業の市場創造活動です。基礎的知識として、製品政策、価格政策、流通政策、販売促進政策を中心に、学習していきます。

到達目標  
マーケティングの基礎知識を学習し、現実のマーケティング現象を理解できるようになる。

授業方法と留意点  
講義形式を基本とします。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティング概論の全体について、説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
2	マーケティングとは何か	マーケティングとは何かについて、説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
3	製品政策	製品の基本的な知識について学習します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
4	価格政策	価格の基本的な知識について学習します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
5	流通政策	流通の基本的な知識について学習します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
6	販売促進政策	販売促進の基本的な知識について学習します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
7	マーケティングと消費行動	マーケティングと消費行動について説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
8	消費行動の歴史の変遷	日本の消費行動の歴史の変遷について説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
9	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの基礎について説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
10	高付加価値戦略	高付加価値戦略について、説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
11	市場細分化戦略	市場細分化戦略について、説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
12	製品ライフサイクル戦略	製品ライフサイクルについて、説明します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
13	競争の戦略 (1)	競争の基本戦略について、学習します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
14	競争の戦略 (2)	企業の地位別戦略について、学習します。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
15	講義のまとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
講義内課題 30%、期末試験 70%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等  
11号館8階 武居教授室

備考

科目名	マクロ経済学	科目名(英文)	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本 篤信

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では、国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお、ミクロ経済学では、経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。																																																																		
到達目標	マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書を中心に行うが、適宜、新聞やTVで取り上げられたトピックも用いる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公務員試験・経済学検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済学とは何か</td> <td>経済学とはどのような学問か？マクロ経済学とミクロ経済学の違い</td> <td>経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>GDPとは何だろうか？(1)</td> <td>付加価値、三面等価の原則</td> <td>テキスト第1章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>GDPとは何だろうか？(2)</td> <td>GDPの範囲、GNI(GNP)との違い、名目値と実質値</td> <td>テキスト第1章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)</td> <td>ケインズ型の消費関数</td> <td>テキスト第2章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)</td> <td>ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向</td> <td>テキスト第2章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>設備投資と在庫投資(1)</td> <td>資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論</td> <td>テキスト第3章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>設備投資と在庫投資(2)</td> <td>調整費用モデル、在庫投資</td> <td>テキスト第3章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>金融と株価(1)</td> <td>企業の資金調達手段、家計の資産選択</td> <td>テキスト第4章までを復習しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>金融と株価(2)</td> <td>株価の決定理論、トービンのq</td> <td>テキスト第4章を読んで復習しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>貨幣の需要と供給(1)</td> <td>貨幣の機能、貨幣需要関数、</td> <td>テキスト第5章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>貨幣の需要と供給(2)</td> <td>貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利率の決定</td> <td>テキスト第5章を復習しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>乗数理論とIS-LM理論(1)</td> <td>有効需要の原理、乗数理論</td> <td>テキスト第6章を予習しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>乗数理論とIS-LM理論(2)</td> <td>財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析</td> <td>テキスト第6章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>経済政策の有効性</td> <td>クラウディング・アウト、流動性のわな、非伝統的金融政策</td> <td>テキスト第7章を読んでおくこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>財政赤字と国債</td> <td>財政政策の意義、日本の財政赤字、国債の中立命題</td> <td>テキスト第8章を読んでおくこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。	2	GDPとは何だろうか？(1)	付加価値、三面等価の原則	テキスト第1章を読んでおくこと。	3	GDPとは何だろうか？(2)	GDPの範囲、GNI(GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第1章を読んでおくこと。	4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)	ケインズ型の消費関数	テキスト第2章を読んでおくこと。	5	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第2章を読んでおくこと。	6	設備投資と在庫投資(1)	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第3章を読んでおくこと。	7	設備投資と在庫投資(2)	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第3章を読んでおくこと。	8	金融と株価(1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第4章までを復習しておくこと。	9	金融と株価(2)	株価の決定理論、トービンのq	テキスト第4章を読んで復習しておくこと。	10	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣需要関数、	テキスト第5章を読んでおくこと。	11	貨幣の需要と供給(2)	貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利率の決定	テキスト第5章を復習しておくこと。	12	乗数理論とIS-LM理論(1)	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第6章を予習しておくこと。	13	乗数理論とIS-LM理論(2)	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析	テキスト第6章を読んでおくこと。	14	経済政策の有効性	クラウディング・アウト、流動性のわな、非伝統的金融政策	テキスト第7章を読んでおくこと。	15	財政赤字と国債	財政政策の意義、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第8章を読んでおくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。																																																																
2	GDPとは何だろうか？(1)	付加価値、三面等価の原則	テキスト第1章を読んでおくこと。																																																																
3	GDPとは何だろうか？(2)	GDPの範囲、GNI(GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第1章を読んでおくこと。																																																																
4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(1)	ケインズ型の消費関数	テキスト第2章を読んでおくこと。																																																																
5	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？(2)	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第2章を読んでおくこと。																																																																
6	設備投資と在庫投資(1)	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第3章を読んでおくこと。																																																																
7	設備投資と在庫投資(2)	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第3章を読んでおくこと。																																																																
8	金融と株価(1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第4章までを復習しておくこと。																																																																
9	金融と株価(2)	株価の決定理論、トービンのq	テキスト第4章を読んで復習しておくこと。																																																																
10	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣需要関数、	テキスト第5章を読んでおくこと。																																																																
11	貨幣の需要と供給(2)	貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利率の決定	テキスト第5章を復習しておくこと。																																																																
12	乗数理論とIS-LM理論(1)	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第6章を予習しておくこと。																																																																
13	乗数理論とIS-LM理論(2)	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、IS-LM分析	テキスト第6章を読んでおくこと。																																																																
14	経済政策の有効性	クラウディング・アウト、流動性のわな、非伝統的金融政策	テキスト第7章を読んでおくこと。																																																																
15	財政赤字と国債	財政政策の意義、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第8章を読んでおくこと。																																																																
関連科目	ミクロ経済学、貿易と金融																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マクロ経済学・入門</td> <td>福田慎一・照山博司</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マクロ経済学・入門	福田慎一・照山博司	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	マクロ経済学・入門	福田慎一・照山博司	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 75% 平常点(レポート提出,小テストなど) 25%																																																																		
学生へのメッセージ	授業中は私語厳禁、携帯電話の利用禁止。 テキストやノートでの復習は必ずすること。																																																																		
担当者の研究室等	11号館6階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp																																																																		
備考																																																																			

科目名	ミクロ経済学	科目名(英文)	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、消費者や企業の行動原理を、もっともらしい仮定を起点として論理を積み上げ説明する経済理論である。本講義では、ミクロ経済学の理論を現実事象と照らし合わせながら説明する。
到達目標	経済主体の意思決定や市場について理解すること
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。理解度を重視して進めるので、講義計画の変更もある。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、発言することを求める。発言は評価の対象である。
科目学習の効果(資格)	TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学で学ぶこと	経済学を学ぶ理由、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、価格メカニズムの働き、図とグラフ	事前に第1章を読んでおくこと。復習も行うこと。
2	需要の理論	市場需要曲線、曲線のシフト要因、消費者余剰	事前に第2章を読んでおくこと。復習も行うこと。
3	消費者行動の理論(1)	最適消費点	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
4	消費者行動の理論(2)	需要曲線の導出、曲線のシフト要因再考	事前に第3章を読んでおくこと。復習も行うこと。
5	供給の理論(1)	限界費用、供給量の決定、供給曲線、生産者余剰	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
6	供給の理論(2)	右上がりの限界費用曲線、市場供給曲線、供給曲線のシフト要因	事前に第4章を読んでおくこと。復習も行うこと。
7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について説明する。	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。
8	需給曲線と弾力性	需要と供給の弾力性、弾力性を左右する要因	事前に第5章を読んでおくこと。復習も行うこと。
9	ここまでのまとめ	まとめとして中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと。
10	市場の理論	さまざまな市場構造、社会的余剰、効率性、分配の公正性、市場の失敗	事前に第6章を読んでおくこと。復習も行うこと。
11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前に第7章を読んでおくこと。復習も行うこと。
12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前に第8章を読んでおくこと。復習も行うこと。
13	市場の失敗(2)	外部効果、公共財	事前に第9章を読んでおくこと。復習も行うこと。
14	市場の失敗(3)	情報の非対称性	事前に第10章を読んでおくこと。復習も行うこと。
15	市場の失敗(1)	独占市場	事前に第11章を読んでおくこと。復習も行うこと。

関連科目 くらしと経済、マクロ経済学、金融論 企業金融論 等々

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎からわかるミクロ経済学 第2版	家森信善・小川光	中央経済社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 中間試験(40%)と期末試験(60%)で評価する。なお、詳細は初回講義で述べる。

学生へのメッセージ 経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。

担当者の研究室等 11号館8階(岩坪教授室)

備考

科目名	民法 I	科目名 (英文)	Civil Law I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵

授業概要・目的	民法 I および民法 II を通じて、民法というものの全体を扱います。各講義は選択制ですので、民法衡は財産法と呼ばれる部分を、民法講は家族法と呼ばれる部分を扱います。しかし、時間との関係から本講義では財産法の全体像をとらえることを中心としています。また、時間の合間に民事に関する紛争を解決した判例というものを簡単に見ていきたいとも思っています。
到達目標	民法の財産法といわれる部分を扱うため、人と物との法律関係、人と人との法律関係を講義で扱います。それにより、社会の問題がいかんにかして生じるのか、またそのような問題に対して、いかに対応すべきか、いかに議論を進めるべきかの端緒を得ることができる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。復習などのために資料を配布することも行います。法律科目ですので、六法が必要であり、六法を入手する予定のない方には本講義をお勧めしません。六法なしに受講する意味はありません。
科目学習の効果 (資格)	宅地建物取引主任者、行政書士などを旨とする人の入門として

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度①	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	民法と契約という制度②	契約をするうえで、何らかの問題がある場合を前回に続いて確認する予定です。	人は間違いをしてしまうものです。契約において何らかの問題があった場合の事例の対処方法などを考えてください。
5	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
6	代理	人は完全に自分ひとりで物事を処理できません。契約もそうです。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人が必要となります。そのような人についてみていく予定です。	他人が自分のために契約をしてくれる便利さと怖さを確認してください。
7	時効	契約は無限に続くのか、他人の物を知らずに占有しているとはどのようなこととなるのかなどを確認する予定です。	犯罪捜査における時効とは何が違い、また時効の必要性についても考えてください。
8	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	友達との約束についても法的に考えてみて下さい。
9	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？これを、法的に考えてみてください。
10	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
11	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	他人に損害賠償を請求することの難しさを考えてみてください。
12	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について考えてください。
13	債務の弁済について①	契約を守ってもらえない場合に対して、あらかじめ対処する方法などを見る予定です。	お金の貸し借りの難しさと、その対処方法を考えてみてください。
14	債務の弁済について②	担保をという制度を把握し、それが実行されたのちの関係などをみる予定です。	他人を信頼することの難しさ、債権というものを担保する必要性を今一度考えてください。
15	講義のまとめ	講義全体のまとめをしながら、財産法の特徴意義をもう一度確認する予定です。	全体的な復習を通して、財産法とはどのような視点から見るべきかを考えてみてください。

関連科目 後期の民法 II と共に受講をしていただきたいと思います。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法入門	小川富之他編	一学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	講義中の復習テストを 2 回行い、各 10 点として評価に加える予定 (初回に確認します)。定期試験 (80 点) で評価の予定 (初回に確認します)。
学生へのメッセージ	講義内容の性質から、民法以外の法律にも触れることとなります。それゆえ、民法以外の法にも興味を持っていただくと、より理解が進むと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 大川研究室
備考	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民法Ⅱ	科目名(英文)	Civil Law II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵

授業概要・目的	民法Ⅰおよび民法Ⅱを通じて、民法というものの全体を扱います。各講義は選択制ですので、民法Ⅱは財産法と呼ばれる部分を、民法Ⅰは家族法と呼ばれる部分を扱います。しかし、時間との関係から本講義では財産法の全体像をとらえることを中心としています。また、時間の合間に民事に関する紛争を解決した判例というものを簡単に見ていきたいとも思っています。
到達目標	民法の家族法といわれる部分を扱うため、家族関係、人の死後の財産関係に関する法律問題を講義で扱います。それにより、社会で生じている家族間の問題等がいかにして生じるのか、またそのような問題に対して、いかに対応すべきか、いかに議論を進めるべきかの端緒を得ることができる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定です。資料等を配布することもあります。法律科目ですので、六法が必要です。六法を入手する考えのない方にはお勧めしません。また、受講する意味もありません。
科目学習の効果(資格)	宅地建物取引主任者、行政書士などを目指す人の入門として

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	財産法と家族法の確認	民法Ⅰでみた財産法の内容について確認しつつ、家族法の全体を確認する予定です。	前期で扱った財産法の部分を復習しておいて下さい。
2	家族法総論	家族法全体について、また家族とはどのようなものかを見ていく予定です。	家族とはどのような人たちか、法的にどのように考えられているのかを確認すること。ここで確認した用語を今後使用します。
3	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	誰でも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えてください。
4	婚姻の効果ならびに離婚	婚姻が成立するとどのような権利義務が生じるのかを確認する予定です。また、婚姻関係が終了する場合の一つである、離婚についても簡単に確認する予定です。	一緒に住むこと以外にも、婚姻には大きな意義があることを確認すること。
5	離婚に関する諸問題	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。
6	婚姻類似の関係	婚姻関係にないが内縁関係のように、類似する場面もある。それを法的にどのようにとらえるのかをみる。	なぜ、そのような関係を保護するのか、その必要性を考えること。
7	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	法律が完全に正義を実現しているのかどうかを考える重要な問題が出てきます(非嫡出子の問題)。それを考えること。
8	養子縁組	実子以外と親子関係を形成する手段である養子縁組の制度を見ながら、現代の生殖補助の問題も確認する予定です。	養子制度の必要性や現代における科学技術の進歩についても意識する必要がある。
9	親権	親は子に対してどのような義務を負うのかを確認していく。	法的に負わされた義務を本当に社会において実現されているのかを考えてみる。
10	相続について	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	法律がどのような範囲で相続を認めているのかを理解するため、家族というものを復習しておくこと。
11	相続できる者とは	相続とはどのような人間関係において生じるのかを見る予定です。	誰でも相続できるのでしょうか。なぜ相続で争うのでしょうか。考えて下さい。
12	相続分について	誰がどのような内容を相続するのかについて確認する。	多少の計算が必要となります。自分の家族などに置き換えて、頭の中で考えること。
13	相続分の調整原理	相続が開始したとしても、それまでに多くの財産をもらっていた人や、財産形成に寄与した人もしくは、その場合の調整方法を確認する。	計算などの場合、具体例を想定して考える必要があるので、あわせて考えること。
14	遺言	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	遺言の重要性と、不明確な場合の問題を現実の例から確認すること。
15	遺留分および講義のまとめ	相続人が最低限確保することが認められている相続分の意義について確認していく。また、講義全体のまとめにも入りたい。	全体の復習をしておくこと。

関連科目 民法Ⅰの内容を前提に講義をいたします。ただし、やる気のある方は、民法Ⅰを受講していなくても受講して下さってかまいません。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法	小川富之他編	一学舎
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 講義中の復習テストを2回行い、各10点として評価に加える予定(初回に確認します)。定期試験(80点)で評価の予定(初回に確認します)。

学生へのメッセージ 講義内容の性質から、民法以外の法律にも触れることとなります。それゆえ、民法以外の法にも興味を持っていただけると、より理解が進むと思います。

担当者の 研究室等	11号館9階 大川研究室
備考	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。



科目名	ものづくりと経営	科目名 (英文)	Manufacturing Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	黒澤 敏朗

授業概要・目的	本科目の目的は、日本が得意としてきた「ものづくりのマネジメント」について、需要（市場）の観点からは品質や納期の管理について、また生産の観点からは資材（材料）と資源（設備）の管理について、その基礎となる概念を、個人単位の演習とグループによるディスカッションを通じて理解させることである。
到達目標	「ものづくりのマネジメント」の価値や役割、それを管理するための主な方法を理解し、そのあらましを説明できる。
授業方法と留意点	基礎概念が理解できるよう、できるだけ身近な事例を用いた説明を行い、さらにゲームやシミュレーション形式の演習、さらにグループディスカッションを取り入れた授業を行う。なお、マスコミやニュースで取り上げられる製造業の様々な話題も織り交ぜながら説明するので、世間に対する関心をもってほしい。
科目学習の効果（資格）	基本情報処理、販売士や中小企業診断士の試験内容の基礎知識として役立つ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	生産マネジメントの役割	製造業における生産マネジメントの役割とそれを実現するための組織	シラバスを再確認しよう
	2	製造業の特徴（1）	日本の製造業の現状	日本の3大製造業について調べて、その代表的な企業についてのレポートを作成する。
	3	製造業の特徴（2）	生産のしくみと、管理のしくみ	身近な品目を取り上げ、その生産と管理の仕組みを調べよう
	4	資材の管理（1）	在庫管理ゲームによる演習	ゲームの結果を振り返り、問題点を見つけ出そう。
	5	資材の管理（2）	需要の変動、在庫管理の必要性と定量発注方式の解説と演習	授業で解説した演習課題を復習しよう。
	6	資材の管理（3）	品切れリスクと期待利益の解説と演習	授業で解説した演習課題を復習しよう。
	7	資材の管理（4）	A B C 分析と定期発注方式の解説と演習	授業で解説した演習課題を復習しよう。
	8	資源の管理（1）	日程計画ゲームによる演習	授業で解説した演習課題を復習しよう。
	9	資源の管理（2）	プロジェクトの管理（PERT）の基礎概念の解説と演習	授業で解説した演習課題を復習しよう。
	10	資源の管理（3）	プロジェクトの管理（PERT）の応用概念の解説と演習	授業で解説した演習課題を復習しよう。
	11	資源の管理（4）	コストを考慮したプロジェクトの管理（CPM）の解説と演習	授業で解説した演習課題を復習しよう。
	12	技術経営（1）	品質管理と品質保証の解説とグループディスカッション	グループディスカッションの続きを調べてみよう。
	13	技術経営（2）	I S O 9 0 0 0 の解説とグループディスカッション	良い会社とは何かについて、グループディスカッションの続きを調べてみよう。
	14	技術経営（3）	新製品の企画の解説とグループディスカッション	グループディスカッションの続きを調べてみよう。
	15	まとめ	本学で学習した内容のまとめ	定期試験の準備に取りかかろう

関連科目	経営学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）および授業中に行う課題やディスカッションに対する取組やレポート（40%）により評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	一般にはなかなかわかりにくい、主に製造業で行われている「管理の仕事」について、その原理・原則をわかりやすく解説します。製造業や流通、サービス業など、仕事の付加価値が問われる業界への就職を考えている学生諸君には、ぜひ受講してほしい。なお、数値を扱う演習も行うので、電卓（関数電卓でなくてもいい）を毎回持参してほしい。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館7階（黒澤教授室）
------------	---------------

科目名	労働法 I	科目名 (英文)	Labor Law I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 剛志

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、同じ場面でも、使用者としての立場か、労働者としての立場かによって、事実の評価や取りうる手段が異なる場合があります。労働という事象をとらえると、使用者も労働者もその主たる当事者であることを理解し、その関係を規律する法律の基本的知識を理解することが目標です。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果 (資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。また、企業経営にとって労働者は不可欠で、労使関係を規律する法律を学ぶことは、実際の経営に有益と考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	労働法の全体像を把握し、労働法の法源には何があるかを理解してください。
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲 ・労働者派遣法 ・パートタイム労働者、外人労働者問題	労働法でいわれる「労働者」、「使用者」とは何かを理解してください。また、現代における多様な働き方についても概観します。
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
9	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
10	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の1つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
11	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	労働時間の基本的枠組みに対して、これを柔軟化するための特別の制度が労働基準法には定められています。それぞれの制度の内容と意義を理解してください。
12	基本的労働条件④	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
13	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の1つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。
14	年少者、女性の保護 労働と私生活の調和	・年少者の保護 ・女性の保護 ・育児介護休業法	近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識されるようになってきました(ワーク・ライフ・バランス)。年少者、女性の保護とあわせて、その内容を理解してください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分やどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第10版]	菅野 和夫	弘文堂、2012年
	2	労働法 [第5版]	水町 勇一郎	有斐閣、2014年
	3	労働法 [第12版]	安枝 英紳/西村 健一郎	有斐閣、2014年

<p>評価方法 (基準)</p>	<p>原則として学期末テストの成績の点数(100%)によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらうことがありますが、それらは加減事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります(レポートを実施した場合の評価基準は、レポートが70%、確認テストが30%)。前年度までと成績評価方法が異なるので、その点注意しておいてください。</p>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)</p>
<p>備考</p>	<p>学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。</p>

科目名	労働法Ⅱ	科目名(英文)	Labor Law II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分かれるといわれています。この授業では、団体的労働関係法に属し、労働者、使用者と並ぶ重要な主体である労働組合について規定している労働組合法の内容を概観します。また、雇用保障に関する法律を概観したいと考えています。
到達目標	勤労者の団結する権利は憲法28条によって保障されています。労働組合の組織率が低下しており、争議行為も減少している現在においても、「労働者が使用者との交渉において対等の立場にたつことを促進することにより労働者の地位を向上させること」、「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ること」を目的とする労働組合は、なお重要な地位を占めているということが出来ます。そうした、労働組合の意義、内容、問題点を理解することをこの授業では目標としています。 また、労働者に就労の機会を保障し、労働者の雇用の安定を図り、失業した労働者の労働関係への復帰を促進することを目的とする法律の内容を認識することも目標となります。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでみると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	労働者の集団が代表者を通じて使用者と行う交渉である団体交渉について、基本的な内容を理解してください。
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	労働協約の意義と効力について理解してください。
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約がどのような場合に組合員以外に拡張して適用されるかを理解してください。
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	違法な争議行為が行われた場合の責任について、理解してください。
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	使用者が、ストライキを中心とする労働者の争議行為に対抗する手段にどのようなものがあるか、概観してみましょう。
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	争議行為が法律により制限・禁止されている場面、労働争議の調整を定める労働関係調整法の規定を概観します。
10	組合活動	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動 ・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	就業時間中に組合活動を行うこと、ピラ貼り、ピラ配布の正当性、組合活動への便宜供与について、判例の流れを参照にして、理解してください。
11	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨を理解してください。
12	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	不当労働行為にはどのような種類があり、それぞれどのような要件があれば成立するかを理解してください。
13	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	不当労働行為の救済として、労働委員会による救済と、裁判所による救済の2つのルートを概観します。
14	雇用保障	・雇用保障の意義と体系 ・職業紹介、募集 ・職業訓練 ・失業防止、雇用安定と失業者救済	雇用保障に関する法律の内容を概観します。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を捕捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅰ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第10版]	菅野 和夫	弘文堂、2012年
	2	労働法 [第5版]	水町 勇一郎	有斐閣、2014年
	3	労働法 [第12版]	安枝 英紳/西村 健一郎	有斐閣、2014年

<p>評価方法 (基準)</p>	<p>原則として学期末テストの成績の点数(100%)によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらうことがありますが、それらは加減事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります(レポートを実施した場合の評価基準は、レポートが70%、確認テストが30%)。前年度までと成績評価方法が異なるので、その点注意しておいてください。</p>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)</p>
<p>備考</p>	<p>学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。</p>



# 基礎科目





科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
	2	Unit 1: The Case of the Big Dipper	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	3	Unit 2: The Case of Death in the Air	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	4	Unit 3: The Case of the Happy Baby	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	5	Unit 4: The Case of the Uneasy Squirrel	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	6	Unit 5: The Case of the Dowager's Jewels	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	7	Unit 6: The Case of the Lobster Joint	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	8	Exam: Unit 1-6	Unit 1-6 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 1-6 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
	9	Unit 7: The Case of the Dead Man's Medals	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	10	Unit 8: The Case of the Doubting Uncle	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	11	Unit 9: The Case of the Five Candidates	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	12	Unit 10: The Case of the Murdered Vocalist	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	13	Unit 11: The Case of the Suicide Note	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	14	Unit 12: The Case of the Railroad Crash	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	15	Exam: Unit 7-12	Unit 7-12 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 7-12 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solve the Mystery and Improve Your English Reading Skills	Donald J. Sobol	英宝社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ  
この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探っていくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等

備考	スチューデントアワー：月曜日5時限  毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、	テキストの予習と単語の学習
2	Meeting and greeting people.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
3	Exchanging Personal Information.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
4	Describing a Person.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
5	Family.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
6	Daily Routines.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
7	Schedules.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
8	Furniture.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
9	Location.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
10	Stores and Services	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
11	Directions.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
12	Important Life events.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
13	Talking about the past.	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
14	Quiz & Review	Individual Task, Pair work, and group work	テキストの予習と単語の学習
15	Issues.	Individual Task, Pair work, and group work	これまでの内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand I	Marc Helgesen	Pearson Longman
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Classroom Procedures, Topic Interview: Family	Interview about Family.	家族についてのインタビュー
	2	Unit 0 & 1: Essential English. / It's nice to meet you.	Introducing yourself and others.	自己紹介、他己紹介
	3	Unit 2: Who are they talking about?	Describing people.	人の外見の特徴を述べる
	4	Unit 3: When do you start?	Talking about habits and routines.	習慣について語る
	5	Topic Interview: House and Home	Interview about House and Home.	自宅についてのインタビュー
	6	Conversation Test Practice	Students practice for their Conversation Test.	会話テストの練習
	7	Conversation Test I	Conversation Test. (with question sheet)	会話テスト
	8	Unit 4: Where does this go?	Locations.	物の位置
	9	Unit 5: How do I get there?	Directions.	道案内
	10	Unit 6: What happened?	Talking about past events.	過去の出来事について語る
	11	Topic Interview: Food / Video Presentation Basics & Introducing Self / Write Speech	Interview about Food. Speech samples (Homework Check)	食べ物についてのインタビュー
	12	Speech: Self Introduction 3 minutes	Power Point, 3-10 slides, USB stick or Web Box.	3分スピーチ、自己紹介
	13	Conversation Test Practice	Students practice for their Conversation Test.	会話テストの練習
	14	Conversation Test II	Conversation Test. question sheet : No	会話テスト
	15	Achievement Test, Units 1-6	Written Test	学習到達確認

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand I (4th edition) Student Book	Marc Helgesen	Pearson Longman
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
学生へのメッセージ	Students who engage in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。	

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed.	
	2	Meeting and greeting people in business situations.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 1
	3	Company Profiles	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 2 Homework assignment 1 Due
	4	Dealing With Figures (How to talk about numbers in English in different business situations)	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 3 Homework assignment 2 Due
	5	Making Small Talk	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 4 Homework assignment 3 Due
	6	Visiting a Client	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 5 Homework assignment 4 Due
	7	Midterm Assessment Activity	Written activities and a speaking task will be done to assess students ability to successfully use language learned in lessons 1-6.	Homework assignment 5 Due
	8	Business Routines - Describing Routines	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	
	9	Arranging Meetings by Telephone.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 6 Homework assignment 4 Due
	10	Arranging Meetings by Email.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 7 Homework assignment 4 Due
	11	Making Requests and Offers	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 8 Homework assignment 4 Due
	12	Company and Personal history	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 9 Homework assignment 4 Due
	13	How to Make Presentations	Presentation Skills will be examined including posture, voice inflection, and the appropriate use of gestures and visuals.	Quiz 10 Homework assignment 4 Due
	14	Company Profile Presentation	Students will present a company profile to the class	

	15	Final Assessment Activity	Written activities and a speaking task will be done to assess students ability to successfully use language learned in lessons 1-13.	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Venture 1	Roger Barnard & Jeff Cady	Oxford
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A		20%	
	全学共通英語課題 B		10%	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		70%	
学生への メッセージ	英語と触れる機会をできるだけ持ってください。日本で英語を学ぶためには、語彙力と繰り返しの読解、英語を聞くことが効果的です。また、本授業での成果を確認する意味で、英語関連試験をぜひ受験してみてください。繰り返し受験し、その都度勉強することでスコアは向上するものです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	教科書と英和辞書を毎回必ず持参すること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の概要説明</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 1 part I</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 1 part II</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 2 part I</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 2 part II</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 3 part I</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 3 part II</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>8</td><td>Test</td><td>Test</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 4 part I</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 4 part II</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 5 part I</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 5 part II</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 6 part I</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 6 part II</td><td>Text and Pairwork Activities</td><td>授業内で指示</td></tr> <tr><td>15</td><td>Test</td><td>Test</td><td>授業内で指示</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示	2	Unit 1 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	3	Unit 1 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	4	Unit 2 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	5	Unit 2 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	6	Unit 3 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	7	Unit 3 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	8	Test	Test	授業内で指示	9	Unit 4 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	10	Unit 4 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	11	Unit 5 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	12	Unit 5 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	13	Unit 6 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	14	Unit 6 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示	15	Test	Test	授業内で指示
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示																																																																
2	Unit 1 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
3	Unit 1 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
4	Unit 2 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
5	Unit 2 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
6	Unit 3 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
7	Unit 3 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
8	Test	Test	授業内で指示																																																																
9	Unit 4 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
10	Unit 4 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
11	Unit 5 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
12	Unit 5 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
13	Unit 6 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
14	Unit 6 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示																																																																
15	Test	Test	授業内で指示																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand Success, Student Book</td> <td>Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier</td> <td>Pearson Longman</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>English Firsthand Success, Workbook</td> <td>Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier</td> <td>Pearson Longman</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand Success, Student Book	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman	2	English Firsthand Success, Workbook	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand Success, Student Book	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman																																																																
2	English Firsthand Success, Workbook	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman																																																																
3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A		20%																																																																
	全学共通英語課題 B		10%																																																																
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)		70%																																																																
学生へのメッセージ	Please participate fully and enjoy the class.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習
	2	Welcome to Japan	動詞の現在形	テキストの予習と単語の学習
	3	That Sounds Like Fun(1)	代名詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	4	That Sounds Like Fun(2)	代名詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	5	We Leave on Friday Morning	時を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	6	You Know a Lot about Trains (1)	基本5文型(1)	テキストの予習と単語の学習
	7	You Know a Lot about Trains (2)	基本5文型(2)	テキストの予習と単語の学習
	8	I Didn't Want to Leave (1)	動詞の過去形(1)	テキストの予習と単語の学習
	9	I Didn't Want to Leave (2)	動詞の過去形(2)	テキストの予習と単語の学習
	10	You're Working Late (1)	進行形(1)	テキストの予習と単語の学習
	11	You're Working Late (2)	進行形(2)	テキストの予習と単語の学習
	12	I'm Sure He'll Understand	未来形	テキストの予習と単語の学習
	13	I'll Remember That (1)	助動詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	14	I'll Remember That (2)	助動詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ  
辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スマザーズ 理恵

授業概要・目的	In this course, students will learn reading comprehension so that English activities such as communication, discussion, summarization and presentation can take place. Specifically, students will learn to discover the main points of passages and summarize them effectively rather than engage in word for word translation. We also focus on reading the material aloud in order to convey the message of the written texts with proper English pronunciation.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be required to actively participate in class activities.
科目学習の効果 (資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class Orientation	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Students should prepare their own textbook.
	2	Amazing Animals: The Incredible Dolphin	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	3	Amazing Animals: Musical Elephants	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	4	Travel and Adventure: The Trip of a Lifetime	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	5	Travel and Adventure: Adventure Island	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	6	The Power of Music: hip-Hop Planet	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	7	The Power of Music: A Musical Boost	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	8	Wrap-up and Review quiz	Review of the first half of the course	Students should prepare for the review quiz.
	9	Into Space: Life Beyond Earth?	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	10	Into Space: Living in Space	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	11	City Life: Global Cities	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	12	City Life: Rio Reborn	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	13	Small Worlds: In One Cubic Foot	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	14	Small Worlds: A World Within Us	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	15	Wrap-up and Review quiz	Review of the course	Students should prepare for the review quiz.

関連科目	英語 Id
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Explorer 1	Nancy Douglas/ David Bohlke	Cengage learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	a) 第8回目と15回目の授業中に行われる復習テスト(25%×2) b) 各ユニット終了後に行われる小テスト (20%) c) 提出物、クラスでの発表、音読、積極性 (30%)
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 講師控室
----------	------------

備考	なし
----	----



科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン パーキン

**授業概要・目的**  
 基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。学科の学習・教育目標との対応：[E]

**到達目標**  
 簡単な文型や単語を使った日常会話はこなせるようになること。

**授業方法と留意点**  
 学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。

**科目学習の効果 (資格)**  
 英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、自己紹介、英語パズルなど	ガイダンス、自己紹介、TOEIC のスコアなど	U1 の予習
2	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U1 の復習、予習
3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U1 の復習、U2 の予習
4	日常生活、学生生活の会話	日常生活、学生生活の会話 Wh-の疑問文 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U2 の復習、予習
5	日常生活、学生生活の会話	日常生活、学生生活の会話 Wh-の疑問文 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U2 の復習、U3 の予習
6	娯楽、趣味の会話	～ができる。助動詞を使った会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U3 の復習、予習
7	娯楽、趣味の会話	～ができる。助動詞を使った会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U3 の復習
8	U1～3 の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U4 の予習
9	場所の会話	～があります。故郷や近所をたずねる会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U4 の復習、予習
10	場所の会話	～があります。故郷や近所をたずねる会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U4 の復習、U5 の予習
11	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U5 の復習、予習
12	旅行の会話	～はどこですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U5 の復習、U6 の予習
13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U6 の復習、予習
14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U6 の復習
15	U4～6 の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U1～6 の復習

**関連科目**  
 他の英語のクラスすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	Macmillan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 Students will be assessed on class work, attitude and through weekly speaking activities. There will be pair work, group work and individual speaking exercises/activities.

**学生へのメッセージ**  
 I'm looking forward to our class! This is a speaking class so don't be shy! It's important that you speak out in class as the best way to improve your speaking is by speaking! This class will be taught in English. Please bring your textbook, notebook, pen and a dictionary every week.

**担当者の研究室等**  
 非常勤講師室 (7号館 2F)

**備考**

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	The Network textbook will help you navigate the English social media landscape learning inter-connectedness, profile creation and general on-line communication skills. 興味のおトピックを通じて英語の基礎力を伸ばし、応用への基盤を作る。
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果 (資格)	・・・

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト	評価方法など 次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	テスト一回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	テスト2回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	テスト3回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	テスト4回目	Feedback session	・・・

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network: Get Connected (Starter)	Tom Hutchinson, Kristin Sherman	Oxford (OUP) ISBN 978-0-190467157-6
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		SEIBIDO
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の単語テスト・・・30% テスト4回+音読+授業態度・・・70%
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	・・・

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening and speaking skills with an emphasis on using practical, everyday language.
到達目標	By the end of the course, students should be able to introduce themselves and others, talk about self, family, friends, and experiences; describe situations, places, and future plans. In addition, students should be able to complete all the required tasks and reach respective benchmarks at their level.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	6	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	7	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.
関連科目	Drama, Skills training, English Presentation		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice : Second Edition Level 1 Student Book with Online Practice 2,940 円 (ISBN-13: 9780194407373)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (10%) Unit review tests (3x30%)			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' particularly in Australia should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<a href="http://elt.oup.com/student/smartchoice/">http://elt.oup.com/student/smartchoice/</a> Practice grammar and vocabulary with fun games, and practice pronunciation with songs and karaoke.			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイース

授業概要・目的	Students will practice speaking, writing, reading and listening to English in a business context.
到達目標	Students will have gained some experience using basic business English.
授業方法と留意点	Speaking, listening, reading and writing tasks

科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	2	Unit 1 First Meeting	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	3	Unit 1	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	4	Unit 2 You and your company	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	6	Unit 3 Visiting a Client	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	7	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	8	Unit 4 Business Activities	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	9	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	10	Unit 5 Fixing and appointment	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	11	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	12	Unit 6 Requests and offers	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	13	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	15	Test	Test	....

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Venture 1	Roger Barnard	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Participation 30%, test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	平尾 秀実

授業概要・目的  
英語の4技能の基礎力をつけることを目標に、テキストに沿って練習問題をこなして行きます。毎回問題に出た文のうち4～5文を暗記して、小テストします。  
学科の学習・教育目標との対応：「D」

到達目標  
基礎読解力獲得、 TOEIC 300 以上

授業方法と留意点  
テキストとカセット・テープを用いた「学生参加型」授業。出席重視。予習前提。私語厳禁。メール厳禁。飲食厳禁。熟睡厳禁。脱帽。

科目学習の効果 (資格)  
TOEIC アップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文法： as の様々な用法	文法・作文演習	予習と復習
3	読解練習： The British Royal Family	内容把握と設問解答	本文・設問予習
4	文法： 関係代名詞と関係副詞	文法。作文演習	本文・設問予習
5	英文読解： British Politics: Two-Party System Under Change	内容把握・設問解答	本文・設問の予習と復習
6	文法： 能動態と受動態	文法・作文演習	本文・設問予習・復習
7	英文読解： People Profile 1: A British University Student	内容把握・設問解答	本文・設問復習と予習
8	文法： or の注意すべき用法	文法・作文演習	本文・設問復習と予習
9	英文読解： The Suburbs of London	内容把握と設問解答	本文・設問予習と復習
10	文法： 不定詞の意味上の主語	文法・作文演習	本文・設問予習と復習 課題テスト準備
11	課題テストと解説	ペーパーテスト	本文・設問予習と復習
12	英文読解： British Food is Delicious	内容把握、設問解答	本文・設問予習と復習
13	文法： 仮定法	文法・作文演習	本文・設問予習と復習
14	英文読解： Park Life	内容把握と設問解答	本文・設問予習と復習
15	文法： 様々な比較級表現	文法・作文演習	本文・設問復習と定期テスト準備

関連科目  
すべての英語の授業

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
定期試験、小テスト・課題などに基づいて判定する。定期試験40%、小テスト20%、レポート20%、課題テスト20%  
TOEIC、英検を受験して下さい(その成績を評価に加味します)

学生へのメッセージ  
授業を4回以上以上欠席した学生は、本授業の単位を取得できない。予習を完成していない学生は、退室しなければならない。なお、授業への積極的な参加は成績評価の対象になるので、留意すること。必ず辞書を持参すること。

担当者の研究室等  
7号館2階 (非常勤講師室)

備考

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スマザーズ 理恵

授業概要・目的	In this course, students will learn reading comprehension so that English activities such as communication, discussion, summarization and presentation can take place. Specifically, students will learn to discover the main points of passages and summarize them effectively rather than engage in word for word translation. We also focus on reading the material aloud in order to convey the message of the written texts with proper English pronunciation.
到達目標	The students can: (1) improve reading skills in English; (2) learn English pronunciation; (3) improve communication skills in English; and (4) improve listening skills in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students will be required to actively participate in class activities.
科目学習の効果 (資格)	Through English activities, students will become familiar and confident using English and learn reading and listening comprehension skills so that performance on English qualification tests such as TOEIC or Eiken can be improved.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class Orientation	Course overview, objectives, learning outcomes, and explanation of assessment	Students should prepare their own textbook.
	2	When Dinosaurs Ruled: The Truth about Dinosaurs	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	3	When Dinosaurs Ruled: Mystery of the Terrible Hand	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	4	Stories and Storytellers: The Brothers Grimm	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	5	Stories and Storytellers: The Tale of the Seven Ravens	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	6	Unusual Jobs: Meet the Meteorite Hunter	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	7	Unusual Jos: Smokejumpers	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	8	Wrap-up and Review quiz	Review of the first half of the course	Students should prepare for the review quiz.
	9	Uncovering the Past: The Army's True Colors	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	10	Uncovering the Past: Wonders of Egypt	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	11	Legends of the Sea: Pirates: Romance and Reality	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	12	Legends of the Sea: Women of the Waves	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	13	Vanished!: Mystery of Everest	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	14	Vanished!: The Missing Pilot	Reading comprehension English activities	Students should read assigned text.
	15	Wrap-up and Review quiz	Review of the course	Students should prepare for the review quiz.

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Explorer 1	Nancy Douglas/ David Bohlke	Cengage learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	a) 第8回目と15回目の授業中に行われる復習テスト (25%×2) b) 各ユニット終了後に行われる小テスト (20%) c) 提出物、クラスでの発表、音読、積極性 (30%)
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 講師控室
----------	------------

備考	なし
----	----



科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェン パーナー

**授業概要・目的**  
 基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。学科の学習・教育目標との対応：[D]

**到達目標**  
 簡単な文型と単語を使った日常会話はマスターすること。

**授業方法と留意点**  
 学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。

**科目学習の効果 (資格)**  
 英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U7 の復習、予習
2	現在進行中の事柄の会話	～しているところです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U7 の復習、U8 の予習
3	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U8 の復習、予習
4	人物を描写する会話	～のようにみえる、～のようです。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U8 の復習、U9 の予習
5	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U9 の復習、予習
6	近い計画、招待の会話	進行形で計画、招待の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U9 の復習
7	U7～9 の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U10 の予習
8	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U10 の復習、予習
9	休暇の会話	過去形の疑問文、肯定文で休暇の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U10 の復習、U11 の予習
10	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U11 の復習、予習
11	これまでの人生の会話	これまでの出来事の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U11 の復習、U12 の予習
12	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U12 の復習、予習
13	夢を語る会話	～したい。の会話 教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U12 の復習
14	U10～12 の見直し、復習	教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	U10～12 の復習
15	テーマは自由に選択、ペアでロールプレイを行う。	授業でペアを組み会話を実演	U7～12 の復習

**関連科目**  
 他の英語のクラスすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	Macmillan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 Students will be assessed on class work, attitude and through weekly speaking activities. There will be pair work, group work and individual speaking exercises/activities.

**学生へのメッセージ**  
 I'm looking forward to our class! This is a speaking class so don't be shy! It's important that you speak out in class as the best way to improve your speaking is by speaking! This class will be taught in English. Please bring your textbook, notebook, pen and a dictionary every week.

**担当者の研究室等**  
 非常勤講師室 (7号館2F)

**備考**

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	The Network textbook will help you navigate the English social media landscape learning inter-connectedness, profile creation and general on-line communication skills. 興味のおくトピックを通じて英語の基礎力を伸ばし、応用への基盤を作る。
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。  自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。  音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果 (資格)	・・・

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション テキスト	First Term Test Review	Students should study the content of the day's lesson
	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	テスト一回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	テスト2回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	テスト3回目 Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	テスト4回目	Feedback session	・・・

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network: Get Connected (Starter)	Tom Hutchinson, Kristin Sherman	Oxford (OUP) ISBN 978-0-190467157-6
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		SEIBIDO
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の単語テスト・・・30% テスト4回+音読+授業態度・・・70%
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	・・・

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening and speaking skills with an emphasis on using practical, everyday language.
到達目標	By the end of the course, students should be able to introduce themselves and others, talk about self, family, friends, and experiences; describe situations, places, and future plans. In addition, students should be able to complete all the required tasks and reach respective benchmarks at their level.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
	7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	Complete online homework ( <a href="http://www.sconlinepractice.com">http://www.sconlinepractice.com</a> ) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目 Drama, Skills training, English Presentation

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice : Second Edition Level 1 Student Book with Online Practice 2,940 円 (ISBN-13: 9780194407373)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (10%) Unit review tests (3x30%)			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<a href="http://elt.oup.com/student/smartchoice/">http://elt.oup.com/student/smartchoice/</a> Practice grammar and vocabulary with fun games, and practice pronunciation with songs and karaoke.			

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイース

授業概要・目的	Students will practice speaking, writing, reading and listening to English in a business context.
到達目標	Students will have gained some experience using basic business English.
授業方法と留意点	Speaking, listening, reading and writing tasks
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Summer Vacation	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	2	Unit 7 Company and personal history	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	3	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	4	Unit 8 Making Plans	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	5	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	6	Unit 9 Opinions and preferences	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	7	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	8	Unit 10 Directions and invitations	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	9	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	10	Unit 11 Entertaining	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	11	Unit 11	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	12	Unit 12 Saying goodbye	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	13	Unit 12	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
	15	Test	Test	....

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Venture 1	Roger Barnard	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Participation 30%, test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	平尾 秀実

授業概要・目的	英語の4技能の基礎力をつけることを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。毎回、問題に出た文のうち4～5文を暗記して、小テストします。
到達目標	TOEIC 350以上
授業方法と留意点	テキストに沿って読み進むとともに練習問題に取り組んでいく。予習・復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果(資格)	英語語彙力の増強、TOEICのスコアアップ、英検におけるレベルアップ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英文読解練習：： People Profile 2: A Young Man in London	小テスト、英文法、読解練習	復習と予習
	2	文法： 同格	小テスト・英文法・読解	予習・小テストの準備
	3	英文読解練習：： Britain Favorite Writers	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	4	文法： 分詞構文	小テスト+・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	5	英文読解練習：： British Art: The Pre-Raphaelites	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	6	文法： other と another	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	7	英文読解練習：： What Do the British Watch on TV	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備 課題テストの準備
	8	まとめと課題テストと解説	これまでのまとめとペーパーテスト	予習と復習
	9	文法： 関係代名詞 which の制限用法と非制限用法	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	10	英文読解：： People Profile 3: A British School Girl	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	11	文法：： 現在完了形	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	12	英文読解練習：： Earthquakes in Britain	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	13	文法： 付帯状況の with	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	14	英文読解練習：： Street Demonstration	小テスト・英文法・読解学習	予習・小テストの準備
	15	文法：： 完了不定詞	小テスト 総復習	定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Fresh Look at Britain	Jonathan Lynch	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験40%、小テスト20%、レポート20%、課題テスト20% TOEIC、英検を受験して下さい(その成績を評価に加味します)
----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、復習を必ず行って下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	EnglishⅡa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明 リーディング・文法クイズ	特になし
	2	Unit 1: Suntory University Preps Workers for Global Growth	教科書 pp. 4-7	復習、予習、語彙学習
	3	Unit 3: Jaoanese Office Worker's Stunning iPhone Sketches	教科書 pp. 12-15	復習、予習、語彙学習
	4	Unit 5: Robots to Descend on Haneda Airport	教科書 pp. 20-23	復習、予習、語彙学習
	5	進度調整と教科書小テスト	復習と学習確認テスト	復習、語彙学習
	6	Unit7 : Omotenashi Hospitality Boosts Japan	教科書 pp. 28-31	復習、予習、語彙学習
	7	Unit 9: "Englishnization" Advances at Rakuten	教科書 pp. 36-39	復習、予習、語彙学習
	8	Unit 11: Things Japanese People Should Not Say to Westerners	教科書 pp. 52-55	復習、予習、語彙学習
	9	進度調整と小テスト	復習と学習確認テスト	復習、予習、語彙学習
	10	Unit 13 : An Interview with MIYAVI	教科書 pp. 52-55	復習、予習、語彙学習
	11	Unit 15 : University Survival Strategy	教科書 pp. 60-63	復習、予習、語彙学習
	12	Unit 17 : Volunteer Group Organizes Intercultural Cooking Class for Tohoku Students, Parents	教科書 pp. 68-71	復習、予習、語彙学習
	13	Unit 19: How to Overcome the GAIJIN Complex	教科書 pp. 76-79	復習、予習、語彙学習
	14	進度調整と復習	復習と弱点補強	前期内容を復習し、わからないところを質問できるようにする
	15	まとめのテスト	前期内容のまとめと学習確認	テスト勉強

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Leadership Adventures	Peter Nagano	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ  
授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加すること

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
授業の進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。



科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English Iia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 三千代

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前にテキストの内容に目を通しておくこと。
2	Chap. 1: Dates We can't Forget : 9/11/2001 and 3/11/2011	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
3	Chap. 1: Dates We can't Forget : 9/11/2001 and 3/11/2011	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
4	Chap. 2: Pfofessor Donald Keene: "I want to be with Japan"	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
5	Chap. 2: Pfofessor Donald Keene: "I want to be with Japan"	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
6	Chap. 3: The Cherry Blossoms of Washington DC	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
7	Chap. 3: The Cherry Blossoms of Washington DC	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
8	Chap. 4: The Pink Dog	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
9	Chap. 4: The Pink Dog	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
10	Chap. 5: The Miracle of Trees	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
11	Chap. 6: Nothing new under the Sun	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
12	Chap. 7: Exporting the Mottainai Movement	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習

	13	Chap. 8: The Spirit Bear	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	14	The Japan Times, The Japan News etc.	文法事項を復習、確認しながら英字新聞や英字雑誌を読んでいく。	授業範囲の予習と復習
	15	Review & Test	各ユニットの復習とまとめ。	レポート最終提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Enjoyable Reading II	Joan McConnel 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子

授業概要・目的 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。

「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。

「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果 (資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Where is the PC room?	場所を訪ねる/ 自己紹介	テキストの予習と単語の学習
3	What does "term" mean?	わからない言葉を探る/ お気に入りの場所の紹介	テキストの予習と単語の学習
4	When does Golden Week start?	日程を確認する/ 休日の過ごし方	テキストの予習と単語の学習
5	I'm a member of the International Exchange Club.	クラブ活動を説明する/ 自分の所属クラブの紹介	テキストの予習と単語の学習
6	I have a part-time job as a sales clerk.	アルバイトについて説明する/ 自分のアルバイトについて書く	テキストの予習と単語の学習
7	What do you think about this program?	相手の意見を聞く/ eメール	テキストの予習と単語の学習
8	How will you spend your vacation?	夏休みの予定について話す/ 自分の夏休みの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
9	When is the due date?	レポートの締め切りを探る/ スケジュール	テキストの予習と単語の学習
10	May I take a bath every night?	ホストファミリーのルールを探る/ 手紙の返事を書く	テキストの予習と単語の学習
11	Is this the right bus to go downtown?	行き先の確認をする	テキストの予習と単語の学習
12	Do you need some help?(1)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
13	Do you need some help?(2)	外国人観光客をサポートする/ 英語表示の看板・標識	テキストの予習と単語の学習
14	It looks like my GPA has improved.	成績について話す/ 自分の成績や単位について書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Campus English	田村 雅昭他	セーラーズエデュケーション株式会社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 全学共通英語課題 A 20%  
全学共通英語課題 B 10%  
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ 辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English Iia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	教科書にさっと目を通しておくこと。
2	Unit 1 キムチを宇宙へ	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
3	Unit 1 キムチを宇宙へ	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
4	Unit 2 銀杏は効果的?	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
5	Unit 2 銀杏は効果的?	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
6	Unit 3 犬のきもち	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
7	Unit 3 犬のきもち	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
8	Unit 4 オンライン・ゲーム	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
9	Unit 4 オンライン・ゲーム	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
10	Unit 5 中国に追い越された	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
11	Unit 5 中国に追い越された	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
12	Unit 6 野菜にもっと塩分を	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
13	Unit 6 野菜にもっと塩分を	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
14	総復習	前期に学習したところの重要な点をおさえていく。	理解しにくかった点などの疑問点を自分なりにまとめておく。
15	まとめのテスト	復習	前週に言われた箇所をていつきの学習しておく。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>VOA News Plus</td> <td>安浪誠祐</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	VOA News Plus	安浪誠祐	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	VOA News Plus	安浪誠祐	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	評価には、4/5以上の出席が必要である。遅刻は、3回で欠席扱いとする。少しづつでも努力することで必ず力はつきます。あきらめず最後まで、取り組みましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English Iia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。

「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。

「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Intoduction	
2	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
3	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
4	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
5	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
6	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
7	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
8	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
9	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
10	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
11	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
12	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
13	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
14	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
15	Review	Review	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Carnaval	Richard Rowat	Weissman Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 全学共通英語課題 A 20%  
全学共通英語課題 B 10%  
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ You will need the textbook, a notebook, writing materials, and highlighting markers for this class. Come see me anytime if you need help with anything.

担当者の研究室等 非常勤講師室(7号館2階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等		事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。		
2	Unit 1: the Petite Wife	教科書演習		Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
3	Unit 2: the Spinning Eggs	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
4	Unit 3: the Missing Model	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
5	Unit 4: the Circus	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
6	Unit 5: the Italian Sports Car	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
7	Unit 6: the lost Stamp	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
8	Exam: Unit 1-6	Unit 1-6 の内容についてテストの実施とその解説		Unit 1-6 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
9	Unit 7: the Second Will	教科書演習		Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
10	Unit 8: the Silver Bowl	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
11	Unit 9: the Double Blowout	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
12	Unit 10: the Fatal Oversight	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
13	Unit 11: the Jade Monkey	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
14	Unit 12: the Confederate Half-Dollar	文法小テスト及び教科書演習		Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
15	Exam: Unit 7-12	Unit 7-12 の内容についてテストの実施とその解説		Unit 7-12 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。	

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的  
1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標  
「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出し出したりすることができる。  
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点  
演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)  
TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	シラバス説明 UNIT 1 の導入	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	UNIT 1 の予習 英単語テスト(1)の準備
2	UNIT 1	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(1) (917 ~ 941)	UNIT 1 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(2)の準備
3	UNIT 1	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(2)の準備	UNIT 1 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(2)の準備
4	UNIT 2	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(2) (942 ~ 966)	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(3)の準備
5	UNIT 2	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(3)の準備	UNIT 2 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(3)の準備
6	UNIT 3	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(3) (967 ~ 991)	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(4)の準備
7	UNIT 3	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(4)の準備	UNIT 3 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(4)の準備
8	UNIT 4	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(4) (992 ~ 1016)	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(5)の準備
9	UNIT 4	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(5)の準備	UNIT 4 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(5)の準備
10	UNIT 5	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(5) (1017 ~ 1041)	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(6)の準備
11	UNIT 5	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(6)の準備	UNIT 5 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(6)の準備
12	UNIT 6	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(6) (1042 ~ 1066)	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(7)の準備
13	UNIT 6	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(7)の準備	UNIT 6 既習範囲の復習、予習 英単語テスト(7)の準備
14	UNIT 6	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(7) (1067 ~ 1090)	UNIT 6 既習範囲の復習 英単語前期分の総復習
15	UNIT 1~UNIT 6	既習範囲の総復習 英単語前期分の総復習 定期試験(前期末)の準備	定期試験(前期末)の準備

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Base - Skills for Academic Success	山科美和子	センテージ
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
全学共通英語課題 A 20%  
全学共通英語課題 B 10%  
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ  
英語を通して日本に目を向けましょう。

担当者の研究室等  
7号館3階 天野研究室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	表谷 純子

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、TOEICについての説明 TOEIC 模擬テスト	教科書の予習、英単語の暗記 9 1 7 - 9 2 9
	2	Unit 1 Were you texting while walking 頻度を表す副詞と数量を表す表現	Listening Speaking	教科書の予習復習、英単語の暗記 9 3 0 - 9 4 2
	3	Unit 1 Were you texting while walking パラグラフの構造 1	Reading Writing	教科書の予習復習、英単語の暗記 9 4 3 - 9 5 5
	4	Unit 2 Do you work part-time? 動詞+to 不定詞/動名詞	Listening Speaking	教科書の予習復習、英単語の暗記 9 5 6 - 9 6 8
	5	Unit 2 Do you work part-time? パラグラフの構造 2 支持文	Reading Writing	教科書の予習復習、英単語の暗記 9 6 9 - 9 8 1
	6	Unit 3 Personality and appearance 見た目や性格を表す形容詞	Listening Speaking	教科書の予習復習、英単語の暗記 9 8 2 - 9 9 4
	7	Unit 3 Personality and appearance パラグラフの構造 3 結論文	Reading Writing	教科書の予習復習、英単語の暗記 9 9 5 - 1 0 0 7
	8	Unit 4 Past event Be 動詞・一般動詞の過去形	Listening Speaking	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 0 0 8 - 1 0 2 0
	9	Unit 4 Past event 2つの語・句・節をつなぐ接続詞	Reading Writing	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 0 2 1 - 1 0 3 3
	10	プレゼンテーション課題の準備	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション準備、英単語の暗記 1 0 3 4 - 1 0 4 6
	11	Unit 5 Manners: Be a good guest 現在進行形と過去進行形	Listening Speaking	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 0 4 7 - 1 0 4 9
	12	プレゼンテーション	発表	プレゼンテーション準備、英単語の暗記 1 0 5 0 - 1 0 6 2
	13	プレゼンテーション	発表	プレゼンテーション準備、英単語の暗記 1 0 6 3 - 1 0 7 5
	14	Unit 5 Manners: Be a good guest 二つの事柄を並べて説明する	Reading Writing	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 0 7 6 - 1 0 9 0
	15	まとめテスト	テスト 答え合わせ	これまでの復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Beams Essential Skills for Talking and Writing	Junko Omotedani / Mariko Kawasaki / Ayed Hasian / Paul Aaloe	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			



評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト、プレゼンテーション等含む) 70%	20% 10%
学生への メッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。	
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。	

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩橋 一樹

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の概要 評価方法 教科書や単語帳の使い方についての説明 Pre-Unit 品詞と語順</td> <td>文法についての講義・演習</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: Jobs &amp; Careers</td> <td>リスニング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1: Jobs &amp; Careers</td> <td>リーディング ライティング スピーキング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2: Entertainment</td> <td>リスニング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2: Entertainment</td> <td>リーディング ライティング スピーキング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3: Work Schedule</td> <td>リスニング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3: Work Schedule</td> <td>リーディング ライティング スピーキング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テスト Unit 4: Health &amp; Fitness</td> <td>中間テスト</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4: Health &amp; Fitness</td> <td>リスニング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 4: Health &amp; Fitness Unit 5: Shopping</td> <td>リスニング リーディング ライティング スピーキング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5: Shopping</td> <td>リーディング ライティング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 5: Shopping Unit 6: Business Meeting</td> <td>スピーキング リスニング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6: Business Meeting</td> <td>リーディング ライティング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 6: Business Meeting</td> <td>スピーキング</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> <td>授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の概要 評価方法 教科書や単語帳の使い方についての説明 Pre-Unit 品詞と語順	文法についての講義・演習	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。	2	Unit 1: Jobs & Careers	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	3	Unit 1: Jobs & Careers	リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	4	Unit 2: Entertainment	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	5	Unit 2: Entertainment	リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	6	Unit 3: Work Schedule	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	7	Unit 3: Work Schedule	リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	8	中間テスト Unit 4: Health & Fitness	中間テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。	9	Unit 4: Health & Fitness	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	10	Unit 4: Health & Fitness Unit 5: Shopping	リスニング リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	11	Unit 5: Shopping	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	12	Unit 5: Shopping Unit 6: Business Meeting	スピーキング リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	13	Unit 6: Business Meeting	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	14	Unit 6: Business Meeting	スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳	15	まとめ	まとめ	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の概要 評価方法 教科書や単語帳の使い方についての説明 Pre-Unit 品詞と語順	文法についての講義・演習	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。																																																																
2	Unit 1: Jobs & Careers	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
3	Unit 1: Jobs & Careers	リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
4	Unit 2: Entertainment	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
5	Unit 2: Entertainment	リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
6	Unit 3: Work Schedule	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
7	Unit 3: Work Schedule	リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
8	中間テスト Unit 4: Health & Fitness	中間テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。																																																																
9	Unit 4: Health & Fitness	リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
10	Unit 4: Health & Fitness Unit 5: Shopping	リスニング リーディング ライティング スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
11	Unit 5: Shopping	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
12	Unit 5: Shopping Unit 6: Business Meeting	スピーキング リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
13	Unit 6: Business Meeting	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
14	Unit 6: Business Meeting	スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
15	まとめ	まとめ	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Switch</td> <td>Robert Hickling、ほか</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Switch	Robert Hickling、ほか	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Switch	Robert Hickling、ほか	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%																																																																	

<p>学生への メッセージ</p>	<p>毎回の授業に必ず出席し、授業内容を予習・復習すること。 特に、教科書にある問題を事前に解いて、わからない単語の意味を調べておくことが望ましい。 TOEICを受験することを勧める。特に、繰り返し受験して出題形式に慣れるのが望ましい。さらに単語力を増強するため、リンガポルタやそのほかの e-learning を活用し、積極的に自習すること。 リンガポルタや e-learning の取り組み（点数、学習時間など）も成績評価に反映されます。 辞書（電子辞書も可 スマートフォンやタブレット端末についている辞書は不可） を用意すること。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階 非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<p>毎週単語テストを行います。 単語帳から出題します。 出題範囲は第1回目の授業で指示する。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。</p>

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIB
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	2	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	3	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	4	Unit2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	5	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	6	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	7	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	8	まとめ、臨時テスト Unit 4: Switzerland	まとめ、臨時テスト リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	9	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	10	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	11	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	12	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	13	Unit 7: Russia	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	14	Unit 7: Russia	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
	15	まとめ、臨時テスト	まとめ、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガボルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガボルテの取り組みも成績評価に反映されます。	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。	

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIC
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	2次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 新聞記事、あるいは、ニュースを読む	最新の記事を読む	特になし
	2	Unit 2: Japan Productivity Gains Key to Staving off Decline	教科書 pp. 8-11	復習、予習、語彙学習
	3	Unit 4: Perceptions of Space, from Japan to the World	教科書 pp. 16-19	復習、予習、語彙学習
	4	Unit 6: Japanese Scientists Go High-tech to Repair Ancient Indonesian Temple	教科書 pp.24-27	復習、予習、語彙学習
	5	進度調整と教科書小テスト	復習と学習確認テスト	復習、語彙学習
	6	Unit8: Multi-lingualization in Progress at Kyoto Station	教科書 pp.32-35	復習、予習、語彙学習
	7	Unit 10: Language Skills Key for Kawashima	教科書 pp.40-43	復習、予習、語彙学習
	8	Unit 12: Addressed by a Westerner . . .	教科書 pp.48-51	復習、予習、語彙学習
	9	進度調整と小テスト	復習と学習確認テスト	復習、予習、語彙学習
	10	Unit 14: Sayoko Yamaguchi-The Wearist, Clothed in the Future	教科書 pp.56-59	復習、予習、語彙学習
	11	Unit 16: Universities, NPOs Beef up Safety for Students Going Abroad	教科書 pp.64-67	復習、予習、語彙学習
	12	Unit 18: Foreign-studies Universities to Train Volunteer Army of Interpreters	教科書 pp.72-75	復習、予習、語彙学習
	13	Unit 20: Brazilian Woman's Dream to Teach Comes True	教科書 pp.80-83	復習、予習、語彙学習
	14	進度調整と復習	復習と弱点補強	後期内容を復習し、わからないところを質問できるようにする
	15	まとめのテスト	後期内容のまとめと学習確認	テスト勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Global Leadership Adventures</td> <td>Peter Nagano</td> <td>松柏社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Leadership Adventures	Peter Nagano	松柏社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Global Leadership Adventures	Peter Nagano	松柏社													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加すること
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業の進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代

基礎科目

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前にテキストの内容に目を通しておくこと。
	2	Chap. 9: Technology and Language	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	3	Chap. 9: Technology and Language	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	4	Chap. 10: The Philosophy of Steve Jobs	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	5	Chap. 10: The Philosophy of Steve Jobs	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	6	Chap. 11: A Little Boy's Act of Kindness	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	7	Chap. 11: A Little Boy's Act of Kindness	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	8	Chap. 12: The Dolphin with an Artificial Tail	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	9	Chap. 12: The Dolphin with an Artificial Tail	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習

	10	Chap. 13: Inspiration from Nadeshiko	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	11	Chap. 14: John Nakahama Manjiro: A Bridge between Two Cultures	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	12	Chap. 15: Lesson from Japan	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	13	Chap. 16: Special Reading Miki Endo: A Voice That Saved Thousands	まず重要な文の構造や単熟語を準備してから、Reading Passage を読み、その内容把握をチェックし、Summary と進めていく。また会話文の練習をし、英語ライティングや並べ替えの Practice をする。そして、最後に Phrase Reading も試みる。	授業範囲の予習と復習
	14	The Japan Times, The Japan News etc.	文法事項を復習、確認しながら英字新聞や英字雑誌を読んでいく。	授業範囲の予習と復習
	15	Review & Test	各ユニットの復習とまとめ。	課題等最終提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Enjoyable Reading II	Joan McConnel 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生へのメッセージ	今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子

基礎科目

授業概要・目的	2次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる【CEFR-J B1-1 目標】。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の確認、プリント	テキスト前期の内容の確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	I don't know which to choose.	ゼミ決定を相談する/ ゼミ決定の理由を書く	テキストの予習と単語の学習
3	He got a job with a copy machine company.	就職活動について話す/ 自分の職業適性について書く	テキストの予習と単語の学習
4	How do you make them laugh?	学園祭での模擬店/ お茶の入れ方の手順を書く	テキストの予習と単語の学習
5	it is a celebrationday for kids.	日本文化を紹介する/ 日本の祝日	テキストの予習と単語の学習
6	What is your favorite dish at the cafeteria?	学食のメニューについて話す/ 自分の好きな(嫌いな)メニューについて書く	テキストの予習と単語の学習
7	What is Chistmas like in your country?	クリスマスの過ごし方/ クリスマスカードを書く	テキストの予習と単語の学習
8	Your e-mail is full of garbled text.	メールの文字化けについて話す/ 新年のあいさつ、メール	テキストの予習と単語の学習
9	I'd like to talk about my research(1)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
10	I'd like to talk about my research(2)	ゼミで発表する/ 自分の好きな世界遺産について書く	テキストの予習と単語の学習
11	That's why I applied for the position.	人事面接を受ける/ 自分のアピールポイントを書く	テキストの予習と単語の学習
12	Who's your date?	バレンタインデーの過ごし方/ ラブソングの歌詞	テキストの予習と単語の学習
13	Why don't you plan a farewell party?	追い出しコンパを企画する/ 追い出しコンパの計画を書く	テキストの予習と単語の学習
14	I have set three goals for myself.	目標を決める/ 自分の来年度の目標を書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Campus English	田村 雅昭他	セーラーズ・エデュケーション株式会社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む） 70%
----------	---

学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子

授業概要・目的 2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。

「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。

「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	教科書にさっと目を通しておくこと。
2	Unit 7 ホームレスの人たちへホームを	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
3	Unit 7 ホームレスの人たちへホームを	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
4	Unit 8 これからの外骨格	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
5	Unit 8 これからの外骨格	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
6	Unit 9 大忙しの健康	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
7	Unit 9 大忙しの健康	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
8	Unit 10 成長期の電子書籍	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
9	Unit 10 成長期の電子書籍	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
10	Unit 11 アフリカの森林と薬草	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
11	Unit 11 アフリカの森林と薬草	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
12	Unit 12 重力をもともしないスケボー	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
13	Unit 12 重力をもともしないスケボー	視聴覚教材を用いながら、テキストの問題を解いていく。	テキストの予習
14	総復習	前期に学習したところの重要な点をおさえていく。	理解しにくかった点などの疑問点を自分なりにまとめておく。
15	まとめのテスト	復習	前週に言われた箇所をていつきの学習しておく。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	VOA News Plus	安浪誠祐	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 全学共通英語課題 A 20%  
全学共通英語課題 B 10%  
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ 評価には、4/5以上の出席が必要である。遅刻は、3回で欠席扱いとする。少しづつでも努力することで必ず力はつきます。あきらめず最後まで、取り組みましょう。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

基礎科目

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Introduction	
	2	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	3	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	4	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	5	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	6	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	7	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	8	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	9	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	10	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	11	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	12	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	13	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	14	Exercises	Pronunciation and comprehension practice; writing	Pre-read the material for next class
	15	Review	Review	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>SCD Carnaval</td> <td>Richard Rowat</td> <td>Weissman Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SCD Carnaval	Richard Rowat	Weissman Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	SCD Carnaval	Richard Rowat	Weissman Press													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	You will need the textbook, a notebook, writing materials, and highlighting markers for this class. Come see me anytime if you need help with anything.
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 13: the Olympic Athlete	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
3	Unit 14: the lost Spectacles	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
4	Unit 15: the Kidnapped Brother	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
5	Unit 16: the Anxious Nephew	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
6	Unit 17: the Health Formula	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
7	Unit 18: the Fatal Slip	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
8	Exam: Unit 13-18	Unit 13-18 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 13-18 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
9	Unit 19: the Arctic Hero	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
10	Unit 20: the Silver Pen	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
11	Unit 21: the Frightened Playboy	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
12	Unit 22: the Vanishing Hostage	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
13	Unit 23: the Escobi Sapphire	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
14	Unit 24: the Poisoned Drink	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
15	Exam: Unit 19-24	Unit 19-24 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 19-24 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ  
この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等  
7号館2階 非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史

基礎科目

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	シラバス説明 Chapter 7の導入	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Chapter 7の予習 英単語テスト(1)の準備
2	Chapter 7	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(1) (1297 ~ 1326)	Chapter 7既習範囲の復習、予習 英単語テスト(2)の準備
3	Chapter 7	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(2)の準備	Chapter 7既習範囲の復習、予習 英単語テスト(2)の準備
4	Chapter 8	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(2) (1327 ~ 1356)	Chapter 8既習範囲の復習、予習 英単語テスト(3)の準備
5	Chapter 8	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(3)の準備	Chapter 8既習範囲の復習、予習 英単語テスト(3)の準備
6	Chapter 9	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(3) (1357 ~ 1386)	Chapter 9既習範囲の復習、予習 英単語テスト(4)の準備
7	Chapter 9	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(4)の準備	Chapter 9既習範囲の復習、予習 英単語テスト(4)の準備
8	Chapter 10	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(4) (1387 ~ 1416)	Chapter 10既習範囲の復習、予習 英単語テスト(5)の準備
9	Chapter 10	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(5)の準備	Chapter 10既習範囲の復習、予習 英単語テスト(5)の準備
10	Chapter 11	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(5) (1417 ~ 1446)	Chapter 11既習範囲の復習、予習 英単語テスト(6)の準備
11	Chapter 11	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(6)の準備	Chapter 11既習範囲の復習、予習 英単語テスト(6)の準備
12	Chapter 12	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(6) (1447 ~ 1476)	Chapter 12既習範囲の復習、予習 英単語テスト(7)の準備
13	Chapter 12	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(7)の準備	Chapter 12既習範囲の復習、予習 英単語テスト(7)の準備
14	Chapter 12	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト(7) (1477 ~ 1500)	Chapter 12既習範囲の復習 英単語後期分の総復習
15	Chapter 7~Chapter 12	既習範囲の総復習 英単語後期分の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Base - Skills for Academic Success	山科美和子	センテージ
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ  
どんな英文でも読み解くことができるような本当の力を身につけましょう。

担当者の研究室等  
7号館3階 天野研究室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱd	科目名(英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	表谷 純子

授業概要・目的	2次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法などを説明	教科書の予習、英単語の暗記 1 2 9 7 - 1 3 1 1
	2	Unit 7 Dogs are so much better 前半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 3 1 2 - 1 3 2 6
	3	Unit 7 Dogs are so much better 後半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 3 2 7 - 1 3 4 1
	4	Unit 9 We are going on a cruise 前半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 3 4 2 - 1 3 5 6
	5	Unit 9 We are going on a cruise 後半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 3 5 7 - 1 3 7 1
	6	Unit 10 Have you ever volunteered before? 前半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 3 7 2 - 1 3 8 6
	7	Unit 10 Have you ever volunteered before? 後半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 3 8 7 - 1 4 0 1
	8	プレゼンテーション課題準備	プレゼンテーション課題 作成	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 4 0 2 - 1 4 1 6
	9	Unit 11 Think before you post 前半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 4 1 7 - 1 4 3 1
	10	プレゼンテーション	発表	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 4 3 2 - 1 4 4 6
	11	プレゼンテーション	発表	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 4 4 7 - 1 4 6 1
	12	Unit 11 Think before you post 後半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 4 6 2 - 1 4 7 6
	13	Unit 12 You lied to her 前半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 4 7 7 - 1 4 9 1
	14	Unit 12 You lied to her 後半	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 4 9 2 - 1 5 0 0
	15	まとめテスト	まとめテスト 答え合わせ	これまでの復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Beams Essential Skills for Talking and Writing</td> <td>Junko Omotedani / Mariko Kawasaki / Ayed Hasian /Paul Aaloe</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Beams Essential Skills for Talking and Writing	Junko Omotedani / Mariko Kawasaki / Ayed Hasian /Paul Aaloe	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	English Beams Essential Skills for Talking and Writing	Junko Omotedani / Mariko Kawasaki / Ayed Hasian /Paul Aaloe	金星堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂													
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト、プレゼンテーション等含む)	20% 10% 70%
学生への メッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。	
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。	

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩橋 一樹

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7: Recruitment	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
3	Unit 7: Recruitment Unit 8: Customer Needs	スピーキング リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
4	Unit 8: Customer Needs	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
5	Unit 8: Customer Needs Unit 9: Business Trip	スピーキング リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
6	Unit 9: Business Trip	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
7	Unit 9: Business Trip	スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
8	中間テスト Unit 10: Advertising	中間テスト リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
9	Unit 10: Advertising	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
10	Unit 10: Advertising Unit 11: Factory Tour	スピーキング リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
11	Unit 11: Factory Tour	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
12	Unit 11: Factory Tour Unit 12: Money Matters	スピーキング リスニング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
13	Unit 12: Money Matters	リーディング ライティング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
14	Unit 12: Money Matters	スピーキング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳
15	まとめ	まとめ	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。 単語帳

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Switch	Robert Hickling、ほか	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を予習・復習すること。 特に、教科書にある問題を事前に解いて、わからない単語の意味を調べておくことが望ましい。 TOEICを受験することを勧める。特に、繰り返し受験して出題形式に慣れるのが望ましい。さらに単語力を増強するため、リンガポルタやそのほかのe-learningを活用し、積極的に自習すること。 リンガポルタやe-learningの取り組み(点数、学習時間など)も成績評価に反映されます。 辞書(電子辞書も可 スマートフォンやタブレット端末についている辞書は不可)を用意すること。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎週単語テストを行います。 単語帳から出題します。 出題範囲は第1回目の授業で指示する。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。



科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子

授業概要・目的 2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。  
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
2	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
3	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
4	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
5	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
6	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
7	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
8	まとめ、臨時テスト Unit 11: Thailand	まとめ、臨時テスト リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
9	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
10	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
11	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
12	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
13	Unit 14: The United States of America	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
14	Unit 14: The United States of America	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
15	まとめ、臨時テスト	まとめ、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 全学共通英語課題 A 20%  
全学共通英語課題 B 10%  
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%

学生へのメッセージ 毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。  
TOEICを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガボルテを活用し、積極的に自習すること。  
リンガボルテの取り組みも成績評価に反映されます。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
	2	Unit 13: The Case of the Barbecue Murder	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	3	Unit 14: The Case of the Dropped Cuff Link	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	4	Unit 15: The Case of the Italian Grocer	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	5	Unit 16: The Case of the Old-Fashioned Pen	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	6	Unit 17: The Case of the Stunned Nephew	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	7	Unit 18: The Case of the Bogus Hero	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	8	Exam: Unit 13-18	Unit 13-18 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 13-18 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
	9	Unit 19: The Case of the Arctic Explorer	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	10	Unit 20: The Case of Edmund Bayne	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	11	Unit 21: The Case of the Nature Lover	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	12	Unit 22: The Case of the New Year's Eve Murder	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	13	Unit 23: The Case of the Pudgy Playboy	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	14	Unit 24: The Case of the Mona Lisa	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	15	Exam: Unit 19-24	Unit 19-24 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 19-24 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solve the Mystery and Improve Your English Reading Skills	Donald J. Sobol	英宝社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ  
この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探っていくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等  
7号館2階 非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Your Summer Vacation	テキストの Unit 10 までの内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
	2	Occupations.	受動態、受け身を表す表現	テキストの予習と単語の学習
	3	Skills	to 不定詞と原形不定詞	テキストの予習と単語の学習
	4	Entertainment	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習
	5	Inviting and Suggesting	動名詞を含む表現	テキストの予習と単語の学習
	6	Arts and Media.	現在分詞・過去分詞	テキストの予習と単語の学習
	7	Future Plans	様々な形容詞	テキストの予習と単語の学習
	8	Predictions	様々な副詞	テキストの予習と単語の学習
	9	Clothing	前置詞・接続詞	テキストの予習と単語の学習
	10	Personal Items.	関係代名詞	テキストの予習と単語の学習
	11	Processes.	関係副詞	テキストの予習と単語の学習
	12	Describing processes.	比較と否定の表現	テキストの予習と単語の学習
	13	Opinions and Music.	仮定法過去・過去完了	テキストの予習と単語の学習
	14	Quiz and Review	仮定法現在、慣用表現	テキストの予習と単語の学習
	15	Issues.	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 1	Marc Helgesen	Pearson Longman
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	--	-------------------

学生へのメッセージ  
辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。

担当者の研究室等  
7 号館 2 階(非常勤講師室)

備考  
事前・事後学習には 1 時間以上かけること。  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Essential English Review, Classroom Procedures, Summer Vacation	Students talk about their summer vacation	夏休みについて語る
2	Unit 7: Occupations	Talking about jobs.	仕事について語る
3	Unit 8: What's playing?	Talking about entertainment.	娯楽について語る
4	Unit 9: What are you going to do?	Talking about future plans.	予定について語る
5	Topic Interview: School	Interview about School.	大学についてのインタビュー
6	Conversation Test Practice	Students practice for their Conversation Test.	会話テストの練習
7	Conversation Test I	Conversation Test. (with question sheet)	会話テスト
8	Unit 10: How much is this?	Shopping.	買い物について語る
9	Unit 11: How do you make it?	Describing processes.	手順を説明する
10	Unit 12: Opinions and Music	Giving opinions.	好みについて語る
11	Topic Interview: Work / Video: Power Point, SoS 1 Posture & Eye Contact / Write Speech	Interview about Work. Speech Samples (Homework Check)	仕事についてインタビュー
12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	Power Point, 3-10 slides, USB stick or Web Box.	3分スピーチ、私の夢
13	Conversation Test Practice	Students practice for their Conversation Test.	会話テストの練習
14	Conversation Test II	Conversation Test. question sheet : No	会話テスト
15	Achievement Test, Units 7-12	Written Test	学習到達確認

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand I (4th edition) Student Book	Marc Helgesen	Pearson Longman
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
-----------	--	-------------------

学生へのメッセージ	Students who engage in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Syllabus Review Review Tasks	
	2	Opinions and Preferences - Making Comparisons	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 1
	3	Interrupting Someone	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 2 Homework Assignment 1 Due
	4	Making Invitations Accepting/Refusing Invitations	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 3 Homework Assignment 2 Due
	5	Asking for and Giving Directions	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 4 Homework Assignment 3 Due
	6	Describing People	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 5 Homework Assignment 4 Due
	7	Midterm Assessment Activity	Material from Lessons 2-6 will be reviewed and students' competence will be assessed	Homework Assignment 5 Due
	8	Entertaining: Ordering food and drink	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	
	9	Sightseeing: Describing your town	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 6 Homework Assignment 6 Due
	10	Correcting Someone	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 7 Homework Assignment 7 Due

	11	Soliciting Detail	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 8 Homework Assignment 8 Due
	12	Clarification Questions	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 9 Homework Assignment 9 Due
	13	Saying Good-Bye	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Quiz 10 Homework Assignment 10 Due
	14	Final Assessment Task	Material from Lessons 2-13 will reviewed and students' competence will be assessed	
	15	Review and Wrap-up Activities		
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Venture 1	Roger Barnard & Jeff Cady	Oxford
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	英語と触れる機会をできるだけ持ってください。日本で英語を学ぶためには、語彙力と繰り返しの読解、英語を聞くことも効果的です。また、本授業での成果を確認する意味で、英語関連試験をぜひ受験してみてください。繰り返し受験し、その都度勉強することでスコアは向上するものです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	教科書と英和辞書を毎回必ず持参すること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要説明	授業内で指示
	2	Unit 7 Part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	3	Unit 7 Part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	4	Unit 8 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	5	Unit 8 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	6	Unit 9 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	7	Unit 9 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	8	Test	Test	授業内で指示
	9	Unit 10 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	10	Unit 10 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	11	Unit 11 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	12	Unit 11 part II	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	13	Unit 12 part I	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	14	Unit 12 partII	Text and Pairwork Activities	授業内で指示
	15	Test	Test	授業内で指示

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Student Book	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ  
Please participate fully and enjoy the class.

担当者の研究室等  
7号館2階 非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習/プリント教材</td> <td>前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Hiro Forgot (1)</td> <td>to 不定詞(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Hiro Forgot (2)</td> <td>to 不定詞(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>How Have You Been (1)</td> <td>現在完了(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>How Have You Been (2)</td> <td>現在完了(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>While They're Here (1)</td> <td>接続詞(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>While They're Here (2)</td> <td>接続詞(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>How Was Tennis? (1)</td> <td>比較(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>How Was Tennis? (2)</td> <td>比較(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>What Do You Mean?</td> <td>受動態</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Well, What Are You Waiting For? (1)</td> <td>分詞(現在分詞・過去分詞)(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Well, What Are You Waiting For? (2)</td> <td>分詞(現在分詞・過去分詞)(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>The Last Supper (1)</td> <td>関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>The Last Supper (2)</td> <td>関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)</td> <td>テキストの予習と単語の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト、復習</td> <td>これまでの内容の復習、まとめのテスト</td> <td>これまでの内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習/プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習	2	Hiro Forgot (1)	to 不定詞(1)	テキストの予習と単語の学習	3	Hiro Forgot (2)	to 不定詞(2)	テキストの予習と単語の学習	4	How Have You Been (1)	現在完了(1)	テキストの予習と単語の学習	5	How Have You Been (2)	現在完了(2)	テキストの予習と単語の学習	6	While They're Here (1)	接続詞(1)	テキストの予習と単語の学習	7	While They're Here (2)	接続詞(2)	テキストの予習と単語の学習	8	How Was Tennis? (1)	比較(1)	テキストの予習と単語の学習	9	How Was Tennis? (2)	比較(2)	テキストの予習と単語の学習	10	What Do You Mean?	受動態	テキストの予習と単語の学習	11	Well, What Are You Waiting For? (1)	分詞(現在分詞・過去分詞)(1)	テキストの予習と単語の学習	12	Well, What Are You Waiting For? (2)	分詞(現在分詞・過去分詞)(2)	テキストの予習と単語の学習	13	The Last Supper (1)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)	テキストの予習と単語の学習	14	The Last Supper (2)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習/プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習																																																																
2	Hiro Forgot (1)	to 不定詞(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	Hiro Forgot (2)	to 不定詞(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	How Have You Been (1)	現在完了(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	How Have You Been (2)	現在完了(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	While They're Here (1)	接続詞(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	While They're Here (2)	接続詞(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	How Was Tennis? (1)	比較(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	How Was Tennis? (2)	比較(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	What Do You Mean?	受動態	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	Well, What Are You Waiting For? (1)	分詞(現在分詞・過去分詞)(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	Well, What Are You Waiting For? (2)	分詞(現在分詞・過去分詞)(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	The Last Supper (1)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	The Last Supper (2)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English First-Basic</td> <td>Robert Hickling 他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English First-Basic	Robert Hickling 他	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English First-Basic	Robert Hickling 他	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>			全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																										
全学共通英語課題 A	20%																																																																		
全学共通英語課題 B	10%																																																																		
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		



科目名	英語コミュニケーション I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、スピーチ力の強化を図る。
到達目標	ディスカッションを通じて英語力の向上を図るだけでなく、自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、ディスカッションの本文の読みを通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果 (資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 1	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Unit 1 大学は秋入学にすべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	3	Unit 2 高校の部活は厳しすぎる	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	4	Unit 3 授業の出欠には指紋認証を使うべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	5	Unit 4 プロスポーツにもっと外国人選手を使うべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	6	Unit 5 物よりも経験を買う方が得である	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	7	Unit 6 初デートは男性がお金を払うべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	8	Unit 7 消費税は15%に引き上げるべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	9	Unit 8 女性アイドルグループは若い子に良い影響を及ぼさない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	10	Unit 9 SNSは有益なメディアである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	11	Unit 9 SNSは有益なメディアである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	12	Unit 10 歩きスマホは違法にすべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	13	Unit 10 歩きスマホは違法にすべきである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	14	まとめ	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
15	まとめ試験	期末試験	試験対策	

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語で考え、英語で発信する	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 50% 授業内発表、課題、小テスト 50%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的	本授業では、実践的な英語コミュニケーション能力を習得することを目的とする。ディスカッションのトピックを読みながら、読解力、語彙力、スピーチ力の強化を図る。
到達目標	ディスカッションを通じて英語力の向上を図るだけでなく、自らの考えをしっかりと持ち、それを発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	本授業では、ディスカッションの本文の読みを通して、リーディング力、語彙力、文法力を磨く。また本文に対する自分の意見を英語で発信する力も磨く。
科目学習の効果(資格)	総合的な英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 11	ガイダンス	課題、小テスト対策
	2	Unit 11 iPhoneは最高のスマートフォンである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	3	Unit 12 ゲームで遊ぶのは時間の無駄である	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	4	Unit 13 外国のお祭りを祝うのは悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	5	Unit 14 電車内でものを食べても構わない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	6	Unit 15 ラーメンは体に良くないので食べない方がよい	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	7	Unit 16 朝食はご飯よりもパンである	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	8	Unit 17 血液型で人の性格は正しく分類できる	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	9	Unit 18 美容整形は悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	10	Unit 19 ビアスはするべきではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	11	Unit 19 ビアスはするべきではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	12	Unit 20 香水をつけるのは悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	13	Unit 20 香水をつけるのは悪いことではない	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	14	まとめ	ディスカッション演習	課題、小テスト対策
	15	まとめ試験	期末試験	試験対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語で考え、英語で発信する	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験 50% 授業内発表、課題、小テスト 50%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	この研修は、語学力（英語力）の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は40万円前後を予定（為替レートにより変動の可能性あり）。*詳細は、3月～4月の募集ガイダンスで周知する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。</li> <li>・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>3月上旬～4月下旬 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施（全3回）</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p>&lt;研修スケジュール&gt; [2週間コース] 8月中旬～8月下旬（予定）</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬（予定）</p> <p>9月下旬～10月上旬（予定） 成果報告会</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外渡航に関する基本的なガイダンス</li> <li>・英語多読・英会話など、学内の教材や設備でできる英語学習（ガイダンス時に説明）</li> <li>・インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。</li> </ul> <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。</li> </ul> <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。</li> <li>・レポート。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート（30%） 研修先での成績（70%）																
学生へのメッセージ	ちがう学年、学部の学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。																
担当者の研究室等	国際交流センター																
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。</li> <li>・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。</li> <li>・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。</li> </ul>																

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之

基礎科目

授業概要・目的	スポーツ科学実習で習得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	【授業内容】 実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は下記のとおりである。 ①サッカー、②テニス、③ソフトボール、④バドミントン、バレーボール、バスケットボール⑤卓球 これら種目の他に、集中授業としてゴルフを開講しますが、通年授業の生涯スポーツ実習との重複履修は出来ません。 ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダ ンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。																																																																		
科目学習の 効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習・簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意事項の説明) コース種目分け	授業内容のまとめ																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習・簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発 育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレー ニング理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の 研究室等	体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	生涯スポーツ実習	科目名(英文)	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる  学科の学習・教育目標との対応：[A]																																																																		
授業方法と留意点	事前ガイダンスと集中授業4日間合わせて5日間で行う。 5日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術(1)</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術(2)</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術(3)</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術(1)</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術(2)</td> <td>ミニラウンド</td> <td>技術の反復練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド(9H)</td> <td>イメージトレーニング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認	3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習	4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習	5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習	6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習	7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習	8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	ゴルフの概要を確認																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	ルールの再確認																																																																
3	ゴルフの基礎技術(1)	グリップ、スウィング	技術の反復練習																																																																
4	ゴルフの基礎技術(2)	打球練習場での練習 アイアン	技術の反復練習																																																																
5	ゴルフの基礎技術(3)	アプローチ、パター練習	技術の反復練習																																																																
6	ゴルフの応用技術(1)	打球練習場での練習 ドライバー	技術の反復練習																																																																
7	ゴルフの応用技術(2)	ミニラウンド	技術の反復練習																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド(9H)	イメージトレーニング																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ、Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止)ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。																																																																		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵

授業概要・目的  
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。

到達目標  
 授業方法と留意点  
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格)  
 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間	課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間	課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間	課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間	課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間	課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間	課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間	課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間	課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間	課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間	課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間	課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間	課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の間	課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間	課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間	課題レポート

関連科目  
 数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)  
 演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。

学生へのメッセージ  
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。

担当者の研究室等  
 3号館3階(数学準備室)

備考

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫

**授業概要・目的**  
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

**到達目標**  
 (1) 式の展開・因数分解ができる。  
 (2) 方程式・不等式を解くことができる。  
 (3) 場合の数・確率の計算ができる。

**授業方法と留意点**  
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

**科目学習の効果 (資格)**  
 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート

**関連科目** 数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)** 演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。

**学生へのメッセージ**  
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

**担当者の研究室等備考** 3号館3階(数学準備室)

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	妻鳥 淳彦

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	経済学・経営学を学ぶために必要な数学的計算ができること、具体的にはいろいろな場合の数の求め方を理解し、確率の計算ができること、その計算に必要な整式・方程式の計算を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
	1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間	課題レポート
	2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間	課題レポート
	3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第2章の間	課題レポート
	4	分数式・無理式(2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間	課題レポート
	5	1次方程式(1)	・等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
	6	1次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
	7	1次不等式(1)	・不等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
	8	1次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
	9	連立1次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第4章の間	課題レポート
	10	連立1次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間	課題レポート
	11	連立1次方程式(3)	・消去法	第4章の間	課題レポート
	12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第5章の間	課題レポート
	13	場合の数(2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間	課題レポート
	14	確率(1)	・確率の計算	第6章の間	課題レポート
	15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間	課題レポート

関連科目	数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
----------	--------------

備考	
----	--



科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	畑中 美帆

**授業概要・目的**  
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。

**到達目標**  
 高校の初年度級の数学的知識の復習を出発点として、経営系の学生にとって、最低限必要な数学的素養を確実に身につけることを目標とする。

**授業方法と留意点**  
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

**科目学習の効果 (資格)**  
 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第1章の間	課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第1章の間	課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第2章の間	課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第2章の間	課題レポート
5	1次方程式 (1)	・等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
6	1次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
7	1次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第3章の間	課題レポート
8	1次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第3章の間	課題レポート
9	連立1次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第4章の間	課題レポート
10	連立1次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第4章の間	課題レポート
11	連立1次方程式 (3)	・消去法	第4章の間	課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第5章の間	課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第5章の間	課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第6章の間	課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第6章の間	課題レポート

**関連科目**  
 数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。

**学生へのメッセージ**  
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。

**担当者の研究室等**  
 3号館3階(数学準備室)

**備考**

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵

授業概要・目的  
この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。

到達目標

授業方法と留意点  
テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果(資格)  
数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	座標 平面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目  
数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)  
演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。

学生へのメッセージ  
どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等  
3号館3階(数学準備室)

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫

**授業概要・目的** 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

**到達目標** 1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。

**授業方法と留意点** テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

**科目学習の効果(資格)** 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・ 面の表し方	第7章の問課題レポート
2	1次関数	・ グラフの書き方 ・ 傾き, 切片	第7章の問課題レポート
3	2次関数(1)	・ グラフの書き方 ・ 頂点, 対称軸	第7章の問課題レポート
4	2次関数(2)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用例	第7章の問課題レポート
5	無理関数	・ 逆関数 ・ 定義域	第7章の問課題レポート
6	数列(1)	・ 等差数列 ・ 和の公式	第8章の問課題レポート
7	数列(2)	・ 等比数列 ・ 和の公式	第8章の問課題レポート
8	整関数の微分(1)	・ 変化率 ・ 微分係数, 接線	第9章の問課題レポート
9	整関数の微分(2)	・ 導関数 ・ 極大値, 極小値	第9章の問課題レポート
10	整関数の微分(3)	・ 関数の増加, 減少 ・ 関数のグラフ	第9章の問課題レポート
11	整関数の微分(4)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用問題	第9章の問課題レポート
12	積分(1)	・ 不定積分 ・ 原始関数	第10章の問課題レポート
13	積分(2)	・ 区分求積法 ・ 定積分	第10章の問課題レポート
14	積分(3)	・ 微積分の基本定理 ・ 定積分の計算	第10章の問課題レポート
15	積分(4)	・ 面積, 体積 ・ 応用問題	第10章の問課題レポート

**関連科目** 数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎 (摂南大学数学研究室)		学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

**評価方法(基準)** 演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。

**学生へのメッセージ** 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

**担当者の研究室等備考** 3号館3階(数学準備室)

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	妻鳥 淳彦

授業概要・目的 この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、整関数の微分・積分を学習する。微積分学の基本定理による定積分の計算方法を学び、経済系科目に必要な統計の計算ができるようになることを目的としている。

到達目標 関数の概念および微分・積分の考え方を理解したうえで、基礎的な定積分の計算ができることを到達目標とする。

授業方法と留意点 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果(資格) 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	座標 平面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。

学生へのメッセージ どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階(数学準備室)

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畑中 美帆

授業概要・目的	この授業では、1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	1次関数、2次関数の復習を出発点として、数列、簡単な微積分の計算などを習得することを目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	座標 平面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等備考	3号館3階(数学準備室)
------------	--------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名(英文)	Practice of Sports Science I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)
----	-------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。)授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目 生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ論の理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--



科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動 1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動 2	自己 PR を書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール 1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール 2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール 3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール 4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール 5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール 6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール 7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール 8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール 9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
-----------	-------------------------

学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (3) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	—————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的  
この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。

到達目標  
抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。

授業方法と留意点  
統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)  
授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。

学生へのメッセージ  
受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

担当者の研究室等  
国際交流センター (3号館4階)

備考

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的 日本語会話F Iと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。

到達目標 抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。

授業方法と留意点 統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 国際交流センター(3号館4階)

備考

科目名	日本語上級会話 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	トピック⑦	議論	復習
	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語上級会話 F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的  
日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。

到達目標  
抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。

授業方法と留意点  
統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)  
授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等  
国際交流センター (3号館4階)

備考

科目名	日本語上級作文 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。																																																																		



科目名	日本語上級作文FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語上級読解 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語上級読解F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る</p> <p>②まとまった内容の文章の大意を把握する</p> <p>③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行いません。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行いません。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行いません。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

基礎科目

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「あたりまえ」を疑う社会学</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習	4	背理法①	読解、内容理解	復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習	14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解	復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習																																																																
14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語読解 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。																																																																		



科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的  
この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。

到達目標  
読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。  
語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。

授業方法と留意点  
・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。  
・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。

科目学習の効果(資格)  
専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目  
日本語読解II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
語彙テスト、授業への参加態度(課題やタスクへの取り組み)等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
(1)授業外の質問等には、メールで対応する。  
(2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現作文 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文 II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につけることを目指す。
到達目標	レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につける。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成する。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習	

関連科目	日本語表現作文Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。 また、授業内で書き進めたレポートを評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅱ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室) 3号館2階 (学習支援センター)
----------	---------------------------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	E F G H
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。

科目名	日本語表現法 I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大石 真由香

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
----------	-----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--



科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	EFGH
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	J K L M
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大石 真由香

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的  
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標  
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点  
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果 (資格)  
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目  
日本語文法 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！

担当者の研究室等  
7号館2階 (非常勤講師室)

備考  
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。  
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的  
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標  
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点  
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果 (資格)  
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目  
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!

担当者の研究室等  
7号館2階 (非常勤講師室)

備考  
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。  
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的  
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標  
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点  
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果(資格)  
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目  
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
小テスト、授業への参加態度(練習への取り組み)等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
(1)授業外の質問等には、メールで対応する。  
(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的  
日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標  
日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします

授業方法と留意点  
各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)  
自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目  
日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)  
各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等  
7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本事情F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的  
日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標  
日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。

授業方法と留意点  
各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)  
自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目  
日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法(基準)  
各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等  
7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本事情R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的  
日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標  
日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします

授業方法と留意点  
各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格)  
自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目  
日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)  
各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等  
7号館4階(門脇研究室)

備考



科目名	日本事情R II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。

到達目標 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。

授業方法と留意点 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習

科目学習の効果(資格) 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法(基準) 各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。

学生へのメッセージ 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。

担当者の研究室等 7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。企業の海外進出、海外企業との合併、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。この授業ではビジネス英語の基本的事項を習得します。
到達目標	企業での来客応対、ビジネスエチケット、レジユメの作製などを習得する。また、TOEICの教材も使用し、スコアアップ(460点)を目指します。
授業方法と留意点	テキスト、TOEICの副教材、単語集を用い、音声、文法、語彙をバランスよく学習します。
科目学習の効果(資格)	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明など	講義の進め方、評価方法などを説明、リングポルタの利用方法の説明	予習、復習 リングポルタ
2	Unit 1 Takuya's job hunt	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
3	Unit 1 Takuya's job hunt	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
4	Unit 2 Asking a favor	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
5	Unit 2 Asking a favor	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
6	Unit 3 Decision time	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
7	Unit 3 Decision time	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
8	Unit 4 A lucky break	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
9	Unit 4 A lucky break	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
10	Unit 5 Fun in the sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
11	Unit 5 Fun in the sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
12	Unit 6 Welcome to the land of the rising sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
13	Unit 6 Welcome to the land of the rising sun	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
14	Unit 7 Bottoms up!	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングポルタ
15	Unit 7 Bottoms up!	テキストからの音声、文法問題で学習	期末試験の準備 リングポルタ

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Working abroad ISBN978-4-88198-706-3	行時 潔 他	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験60%、小テスト40%で評価する。
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	電子辞書を持参。必ず予習をすること。リングポルタで自習して下さい。成績評価に反映されます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館非常勤講師室
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュ II	科目名 (英文)	Business English II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。この授業ではビジネス英語の基本的事項を習得します。
到達目標	企業での来客応対、ビジネスエチケット、レジユメの作製などを習得する。また、TOEICの教材も使用し、スコアアップ(460点)を目指します。
授業方法と留意点	テキスト、TOEICの副教材、単語集を用い、音声、文法、語彙をバランスよく学習します。
科目学習の効果(資格)	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEICのスコアアップを目指します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 8 The world's most comfortable city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
3	Unit 8 The world's most comfortable city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
4	Unit 9 Touching base	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
5	Unit 9 Touching base	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
6	Unit 10 The lion city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
7	Unit 10 The lion city	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
8	Unit 11 Heading down under	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
9	Unit 11 Heading down under	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
10	Unit 12 Dreams come true	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
11	Unit 12 Dreams come true	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
12	Unit 13 An unexpected invitation	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
13	Unit 13 An unexpected invitation	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
14	Unit 14 The sweet, spicy, and sour wonderland	テキストからの音声、文法問題で学習	予習、復習 リングボルト
15	Unit 14 The sweet, spicy, and sour wonderland	テキストからの音声、文法問題で学習	期末試験の準備 リングボルト

関連科目	ビジネスイングリッシュ I
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Working abroad ISBN978-4-88198-706-3	行時 潔 他	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験60%、小テスト40%で評価する。
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	電子辞書を持参。必ず予習をすること。リングボルトで自習して下さい。成績評価に反映されます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館非常勤講師室
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	礫 玉麗

授業概要・目的 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。2年以後は外国語学部「中国語中級」に継続可能。

到達目標 到達目標  
 授業方法と留意点 この講義は「ビジネス中国語基礎b」(水曜4時限目)の講義と連携し、同一教科書を使用して週2コマをリレー式に進められる。(1コマだけの履修も可。)

科目学習の効果(資格) 中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答する。
2	子音(4), 子音(5)	発音編 4	練習問題を解答する。
3	文末助詞, 主述述語文	第1課 2	練習問題を解答する。
4	会話 1	第1課 4	練習問題を解答する。
5	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第2課 2	練習問題を解答する。
6	会話 2	第2課 4	練習問題を解答する。
7	文末助詞 2, 副詞 3	第3課 2	練習問題を解答する。
8	会話 3	第3課 4	練習問題を解答する。
9	数詞, 量詞 1	第4課 1	練習問題を解答する。
10	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第4課 3	練習問題を解答する。
11	数詞 3, 曜日	第5課 1	練習問題を解答する。
12	疑問代名詞 3, 介詞 1	第5課 3	練習問題を解答する。
13	方位詞, 不定代名詞, 量詞 2	第6課 1	練習問題を解答する。
14	指示代名詞 2	第6課 3	練習問題を解答する。
15	第4課～第6課まとめ	第2回単元テスト	練習問題を解答する。

関連科目 中国語IVa

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業参加と単元テストによる。

学生へのメッセージ 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば、その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。

到達目標 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。

授業方法と留意点 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。

科目学習の効果 (資格) 中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	練習問題を解答する。
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	練習問題を解答する。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	練習問題を解答する。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	命令文, 同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第4課 おいくら?	動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第4課 おいくら?	こそあどの言い方, 単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第5課 どの先生が好き?	前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目 ビジネス中国語基礎 c

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準) 授業参加と単元テストによる。

学生へのメッセージ 教室でも家でも声を出してよく読みましょう。

担当者の研究室等 7号館3階(瀬戸研究室)

備考

科目名	ビジネス中国語基礎 b	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 おはようございます	発音 2, 単母音, 複母音。	練習問題を解答する。
3	第3課 お久しぶりです	発音 3, 子音 1。	練習問題を解答する。
4	第4課 お掛けください	発音 4, 子音 2。	練習問題を解答する。
5	第5課 どこの人ですか	動詞「是」の使い方, いろいろな疑問文。	練習問題を解答する。
6	第6課 お名前は何かですか	姓の言い方と尋ね方, フルネームの言い方と尋ね方。	練習問題を解答する。
7	第7課 何を食べますか	動詞文, 選択疑問文。 △復習 (第 5~7 課)	練習問題を解答する。
8	第8課 図書館に行きたいです	☆単元テスト 1 連動文, 助動詞「想」。	練習問題を解答する。
9	第9課 キャンパスに銀行はありますか	動詞「有」, 動詞「在」。	練習問題を解答する。
10	第10課 今日は何曜日ですか	年月日、曜日の言い方, 助動詞「得」と「要」。 △復習 (第 8~10 課)	練習問題を解答する。
11	第11課 中国語は難しいですか	☆単元テスト 2 形容詞述語文, 時間の言い方。	練習問題を解答する。
12	第12課いくらですか	お金の言い方, 量詞。	練習問題を解答する。
13	第13課 彼女は今年18歳です	年齢の言い方と尋ね方, 前置詞「在」。	練習問題を解答する。
14	第14課 動物園に行きました	文末の「了」, 動詞の重ね型。	練習問題を解答する。
15	復習	△復習 (第 11~14 課) ☆単元テスト 3	練習問題を解答する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 a(経 S) ビジネス中国語基礎 a(経 D)
------	--------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	いま始めよう! アクティブラーニング—初級中国語—	陳淑梅 張	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	授業参加と単元テストによる。 出席回数は10回以上; 単元テストの平均点が60点を越えていることを単位認定の基準とします。 音読発表は随時行いますが、その成績も平常評価として重視します。
-----------	---

学生へのメッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 教科書の音読練習は授業時間以外にも時間をとって練習してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)
------------	----------------

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	礪 玉麗

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
	2	第6課 今は3時5分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
	3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	副詞「經常」、例示の言い方。	練習問題を解答する。
	4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
	5	第8課 小説は好きなの？	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
	6	第8課 小説は好きなの？	前置詞「離」、前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
	7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」。	練習問題を解答する。
	8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
	9	第10課 北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト2 助動詞「過」、助動詞「要」。	練習問題を解答する。
	10	第10課 北京ダックを食べたことある？	副詞「再」、副詞「別」。	練習問題を解答する。
	11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」、副詞「只」。	練習問題を解答する。
	12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
	13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」、仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
	14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
	15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 a
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業参加と単元テストによる。
-----------	----------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階講師室
----------	----------

備考	
----	--

科目名	ビジネス中国語基礎 d	科目名 (英文)	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。2年以後は外国語学部「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」に継続可能。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第15課 四川料理を食べたことはありますか	経験を表す助詞「過」、比較の前置詞「比」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第16課 二胡を弾けますか	助動詞、二重目的語構文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第17課 みかんを味見してもいいですか	助動詞「可以」、「有点兒」と「一点兒」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第18課 中国語はお上手ですね	様態補語、期間を表す言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	復習 (第15～18課)	単元テスト1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第19課 もう一度言ってください	結果補語、回数の言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第20課 いつ失くしましたか	「是～的」構文、禁止の言い方。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第21課 中で食べましょう	方向補語、完了の助詞「了」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第22課 何をしていますか	進行を表す表現、可能補語。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	復習 (第19～22課)	単元テスト2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第23課 横浜は東京から遠いですか	前置詞「離」「從」「到」、程度補語。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第24課 彼は来られません	助動詞「能」、助動詞「会」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第25課 彼をスーパーへ買い物に行かせました	使役表現、主述述語文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第26課 早く窓を閉めてください	「把」構文、存現文。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	復習 (第23～26課)	単元テスト3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	ビジネス中国語基礎 c(経S) ビジネス中国語基礎 c(経D)
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語――	陳淑梅 張	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		小学館
	2	日中辞典		小学館
	3			

評価方法 (基準)	単元テストの成績と平常点により総合的に判断する。 単元テストの平均点が60点以上；出席回数が10回以上であることが単位認定の最低条件となります。 音読発表も随時行いますが、その成績も平常点として重視します。
-----------	---

学生へのメッセージ	使用教科書は前期と同じなので、前期購入者は後期購入する必要はない。但し、後期から新しく登録したものは教科書の購入が必要である。 私語を慎むように。他の受講生の迷惑になります。 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。出席は10回以上ないと単位が認定できない。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)
------------	----------------



科目名	保健論	科目名(英文)	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内部 昭彦

授業概要・目的	現代社会では、健康問題が最大の関心事である。特に生活習慣病は増加の一途をたどっている。この要因は食生活・運動・喫煙・飲酒・休養・ストレス等のライフスタイルに強く関連している。本講義では以上を踏まえて受講者が生涯にわたって自ら健康づくりを実践できる方途を具体的に論述する。
到達目標	①ライフスタイルの重要性について理解できる。 ②生活習慣病について理解できる。 ③健康づくりのための運動処方について理解できる。 ④疾病について理解できる。 学科の学習・教育目標との対応：[A]
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果(資格)	本人が自覚して健康維持・増進を図ることの出来る能力を身につけ、生活の内容を豊かにできる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康論とは	・ガイドダンス ・現代の健康についての概念	・筆記用具の準備
2	喫煙と健康	・煙草の種類 ・喫煙のリスク ・喫煙の弊害	・喫煙のリスク、健康への害に対する理解
3	薬物と健康	・違法薬物とは ・薬物中毒 ・薬物の内容・弊害	・違法薬物に対する理解
4	飲酒と健康	・飲酒と健康 ・飲酒の弊害	・アルコールの知識を理解を深める
5	思春期と性	・身体の変化 ・性とは	・性に対する理解を深める
6	妊娠・出産	・妊娠とは ・妊娠初期について ・妊娠中期について ・妊娠後期について ・産じょく期について	・妊娠初期、中期の理解 ・妊娠後期、産褥期の理解
7	性感染症	・性感染症とは ・現代の性感染症 ・予防方法	・現代の性感染症の確認と理解
8	エイズ	・エイズを知る ・現代のエイズ状況 ・HIV と AIDS ・感染経路 ・エイズの予防対策	・世界の現状を理解 ・エイズの感染経路の確認と理解 ・エイズの予防の確認と理解
9	生活習慣病予防としての運動の役割	・「運動」「栄養」「休養」について概説し、それらと生活習慣病との関連性について説明する。 ・五大栄養素とその役割について解説する。	・生活習慣病予防としての運動の理解
10	食事と睡眠・心身相関	・健康な食事と睡眠 ・心身の関係性	・正しい食事、睡眠の確認と理解
11	発育・発達・老化	・幼少期から青年期にいたる身体の形態発育・機能発達と、それらに運動トレーニングが及ぼす効果について解説 ・身体の形態・機能の老化について解説 ・中・高齢者における運動トレーニングの効果について解説	発育・発達・老化について理解
12	運動障害と予防、応急処置	・日常の応急手当、スポーツ障害、過換気症候群、RICE 処置、心肺蘇生法について解説 ・救急処置法 ・救急処置の実際	・日常生活やスポーツ実施時の応急処置の方法 ・事故などに関する応急処置の方法
13	健康づくりのための運動処方	・有酸素・無酸素運動、レジスタンストレーニングについて、健康づくりの観点から解説 ・年代・性差による違いについても説明	・健康づくりのための運動について理解
14	ストレス・疲労への対策	・ストレス要因の軽減・ストレスへの早期対応としてのスポーツの関わりを解説 ・疲労が起こるしくみとその対策について解説	・スポーツによる、ストレスの軽減を理解
15	健康論総括(テスト)	1 4 回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学実習 1・2 生涯スポーツ実習
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	健康論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。			
学生への メッセージ	質問等がある場合は、研究室あるいは総合体育館事務室に来て下さい。			
担当者の 研究室等	総合体育館1階 内部助教室			
備考				

# 教 養 科 目



科目名	朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	科目名(英文)	face modern society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	朝日新聞社の現役記者が講師として、様々な社会問題の読み解き方や論理的文章の書き方について講義する。異なるテーマについて、それぞれ学生との意見交換を経たうえで、小論文を作成する。論文は全員分を持ち帰って添削し、後日の講義で講評する。
到達目標	新聞を通じて、社会の諸問題についての理解を深めるとともに、文章力や自己表現力を磨き、学生の「社会力」を高める。
授業方法と留意点	新聞を全員に配布したうえで、講義と意見交換、小論文作成と添削・講評をセットにした授業を展開する。
科目学習の効果(資格)	現代社会への問題意識を深め、文章力や論理的思考力を向上させる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	新聞の読み解き方	講義の目標、進め方、評価方法の説明、新聞の読み解き方の説明	事前に新聞を読んでおく
	2	論理的文章の書き方	論理的文章の書き方の説明	文章を書く習慣をつけておく
	3	海外の若者事情	海外の若者事情について説明	難民問題などについて考えをまとめておく
	4	同上	小論文作成	同上
	5	同上	海外の若者事情について解説、意見交換	同上
	6	同上	小論文の講評	同上
	7	正規雇用と非正規雇用の是非	正規雇用と非正規雇用について説明	雇用問題について考えをまとめておく
	8	同上	小論文作成	同上
	9	同上	正規雇用と非正規雇用について解説、意見交換	同上
	10	同上	小論文の講評	同上
	11	少子高齢化と18歳選挙権	少子高齢化と18歳選挙権について説明	少子化・高齢化と選挙制度との関わりを調べておく
	12	同上	小論文作成	同上
	13	同上	少子高齢化と18歳選挙権について解説、意見交換	同上
	14	同上	小論文の講評	同上
	15	社会問題の読み解き方	社会問題の読み解き方について説明、総括レポート作成	様々な社会問題について考えをまとめておく

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小論文3回×30点、総括レポート10点。100点満点で評価し60点で合格。
学生へのメッセージ	日常的に新聞を読む習慣をつけることで視野が広くなり、社会で生きる力を身につけることができます。
担当者の研究室等備考	教務部 教務課(寝屋川11号館1階)

科目名	科学技術教養 I～IV (A1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(A1)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	建築の外装・外構	外装材とはエクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (A2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(A2)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	専門科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書 (配布予定) ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある
----	--

科目名	科学技術教養 I~IV (C1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(C1)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	頭井 洋

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4~7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8~11回は設計方法、第12~15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。</li> <li>歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。</li> <li>講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1（古くからの技術）、事例2（近代以降の技術）	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、 歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重 力に抵抗しているのか、 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計 算する。川、ダムと港の設計へ。 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度20%、受講メモ40%、レポート・小論文40%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2~3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
----------	---

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
-----------	--

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
----------	--------------------

備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。
----	---

教養科目



科目名	科学技術教養 I～IV (C2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(C2)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	頭井 洋

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
3	建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査)	測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
4	建設に必要な調査②(環境の調査)	生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
6	トンネル、半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
10	都市型洪水への備え	透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは、実現するものは、人とのかわり、技術とのかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

評価方法(基準) 受講態度20%、受講メモ40%、レポート・小論文40%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界でも厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 I ~ IV (E1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(E1)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鹿間 信介

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	電池の構造と応用技術	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する、売電のしくみ	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験、変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モース通信から携帯電話へ	モース通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコンの内部構造	真空管計算機ENIAC、電子回路で論理計算をする、ハードウェアとソフトウェア、CPUとメモリ、ハードディスクとSSD	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御、電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史、CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり	インターネットのしくみ、ルータとハブ、無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御、電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 受講態度 20%、受講メモ 40%、小テスト 40%の総合点で評価する。

学生へのメッセージ 身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

担当者の研究室等 1号館4階・5階の電気電子工学教員室

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 I～IV (E2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(E2)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鹿間 信介

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のパナテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
	2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
	3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
	4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
	5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
	6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
	7	電波と放送	電波の利用と電波法、初期のラジオ放送、電波に映像を載せる テレビ放送の開始からカラーテレビへ、デジタル化と双方向テレビ	テキストを復習する。1時間
	8	携帯電話のしくみ	有線電話から無線へ、無線基地局と無線ゾーン、携帯電話がつながるしくみ、メールやWebへの応用、携帯電話のこれから	テキストを復習する。1時間
	9	私たちの生活をささげる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
	10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
	11	電気通信から光通信へ	電気信号と光信号の変換、光で通信する光ファイバと高速・大容量化、光で測る	テキストを復習する。1時間
	12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
	13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
	14	最新ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来 ハードとソフト(人工知能)はどこまでできているのか	テキストを復習する。1時間
	15	電気と宇宙	第4の状態—プラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、 太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, 小テスト 40%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館 4階・5階電気電子工学科教員室			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 I～IV (M1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(M1)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにいいねいまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
	2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
	3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
	4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか？ ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
	5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造（金属と何が異なるか？） ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
	6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
	7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械（工作機械の歴史） ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
	8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する（コンピュータと工作機械） ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
	9	ものづくり(3) - 工場（ファクトリー）	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
	10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
	11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
	12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
	13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
	14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
	15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	毎回、講義メモとレポートを提出する。 受講態度（20%）、講義メモ（40%）、レポート（40%）を評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどういう乗り物が実現されているのか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
----------	------------------------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。
----	---

科目名	科学技術教養 I～IV (M2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(M2)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸本 直子

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	配付資料に目を通しておくこと
3	活動の源(2) - 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電	配付資料に目を通しておくこと
4	乗り物(1) - エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン（ガソリン等）、電気モータ	配付資料に目を通しておくこと
5	乗り物(2) - 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道	配付資料に目を通しておくこと
6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	・空を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	配付資料に目を通しておくこと
7	空間を移動する(2) - 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	配付資料に目を通しておくこと
8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	配付資料に目を通しておくこと
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	配付資料に目を通しておくこと
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差	配付資料に目を通しておくこと
11	制御する	・制御の成り立ちと発展、自動制御とは？ ・調速機、結果を見て制御する（フィードバック）	配付資料に目を通しておくこと
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	配付資料に目を通しておくこと
13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコブグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	配付資料に目を通しておくこと
14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	配付資料に目を通しておくこと
15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	配付資料に目を通しておくこと

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	毎回、講義メモとレポートを提出する。 受講態度（20%）、講義メモ（40%）、レポート（40%）を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているのか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
-----------	---

担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 I～IV (R1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(R1)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎知識を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の方針の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人と人の関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	居住地域を把握するー社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標を用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				



評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の 研究室等	12号館 7階 各教員研究室
備考	出席に関しては、履修申請要領の「科目履修に当たっての注意事項」を遵守すること。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養 I～IV (R2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(R2)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森山 正和

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	(オリエンテーション) 住まいと生活	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 住まいと何か、家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中での住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料講義部分の復習を十分に行う。
	2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的住宅について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	3	住宅とまちの関係	実例紹介に沿って住環境としてのまちなみの個性と課題を解説する。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	4	まちのにぎわい	自然発生的建築の多義性、多様性を解説し、現代における住環境の空間デザイン論を語る。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	5	福祉住環境のデザイン	今までに携わってきた実例を紹介しつつ、住の延長としての医療福祉系住環境の課題を解説する。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	12	野生動物との共存のデザイン	具体的事例を通して、野生動物と人間が共存するための方策を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	13	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	14	暮らしの中の太陽エネルギー利用	太陽光発電システムと太陽熱利用システムをとりあげ、暮らしの中の太陽エネルギー利用について学ぶ。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
	15	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。?	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80% で評価する。 期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	12号館 7階 各教員研究室
----------	----------------

備考	履修申請要領の「科目履修にあたっての注意事項」を遵守する。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。
----	--

科目名	科学技術教養 I～IV (T1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(TI)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すぐたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。 「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

教養科目

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらおう。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	10	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	予習・配布プリント復習 (0.5時間以上)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 40%, レポート 60%で判定する。			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [8号館の2階, 3号館の3階]			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	科学技術教養 I~IV (T2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(T2)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一

授業概要・目的 「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。

到達目標 時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。

授業方法と留意点 座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。

科目学習の効果 (資格)

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから)Fから始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力Fを使って、なんだか良くわからない質量mを定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s.不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論---原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目 数学・物理の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養(基礎理工)		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 講義メモ40%、レポート60%で評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考 遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養 I～IV (V1)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(V1)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる、(2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子。	内容:生物のDNAは常に外界の危険因子によって傷(変異)を受けているが、生物の体内には傷を発見して治療する安全システムが存在している。この安全システムはどのように作動して、また不具合が生じた場合にどうなるのか?また身近に存在する危険因子や疾患の代表例について考える。	配布資料を復習する(1時間)。
3	脳・神経の病気のしくみ。	脳や神経の病気は難病と言われているものが多く、治療、回復が困難な現状である。まず難病のいくつかを紹介し、それらの治療のためにどのようなことがなされているかを概説する。	配布資料を復習する(1時間)。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ。	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	配布資料を復習する(1時間)。
5	がんの発生とその予防法。	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	配布資料を復習する(1時間)。
6	ミトコンドリアと病気。	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	配布資料を復習する(1時間)。
7	くすりと遺伝子工学。	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	配布資料を復習する(1時間)。
8	くすりと組換え生物。	8年ほど前にヒトのすべてのDNA配列が解読されて、ヒトには約2万2千の遺伝子があることが明らかにされた。ポストゲノム研究では、マウスやラットなどを用いた「遺伝子組み換え生物」が作製され、再生医療や疾患の新しい治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の作製などにも役立つ。遺伝子組み換え生物の作成と応用について考える。	配布資料を復習する(1時間)。
9	くすりとバイオインフォマティクス。	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	配布資料を復習する(1時間)。
10	くすりとタンパク質のかたち。	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつであるX線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	配布資料を復習する(1時間)。
11	くすりとゲノム。	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	配布資料を復習する(1時間)。
12	薬物乱用と依存性薬物。	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	配布資料を復習する(1時間)。
13	遺伝子治療の最前線。	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	配布資料を復習する(1時間)。
14	神経再生治療の最前線。	ヒトの中枢神経は損傷から回復できない。また、抹消神経であっても神経細胞そのものがダメージを受けるとやはり回復は難しい。ヒトの神経及び神経細胞の損傷からの回復を目指して様々な努力が行われている。それらの研究をわかりやすく概説する。	配布資料を復習する(1時間)。

	15	iPS 細胞研究の最前線.	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	配布資料を復習する (1 時間)。
関連科目	科学技術教養 V2.			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度 20%, 講義メモ 40%, およびレポート・小論文・演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。			
担当者の 研究室等	1 号館 9 階 松川, 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 船越, 井尻, 居場研究室。			
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理します。			



科目名	科学技術教養 I～IV (V2)	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy I~IV(V2)
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青俣 治

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
	2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
	3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
	4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
	5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
	6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
	7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
	8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
	9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
	10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後に期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
	11	微生物酵素を用いる物質生産システム～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術(固定化酵素など)と酵素改変技術(分子進化学、逆進化学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。	配布資料を復習する。
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。

	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊，地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因，発生機構，人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。
関連科目	科学技術教養Ⅴ1			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度 20%、受講メモ 40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。			
担当者の 研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾山 廣

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。地域連携センター所属の教職員が授業の企画・運営に参画する。毎回、授業時間内に授業内容に沿ったレポート課題を課す(15分以上の遅刻には課題用紙を配布しない)。なお、事前に、北河内8市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、自分自身が学ぶ摂南大学の歴史と、地域で活躍する方々の思いや人生観に触れることで、この地域がどのようなところで、そこには何があるのかを発見できる。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内を知る」	摂南大学の歴史と教育の理念、本学と地域社会との関わりなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	地域を考える(1)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	地域を考える(2)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	地域を考える(3)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
5	グループ・ディスカッション(1)	「地域を考える」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
6	地域をつくる(1)	北河内地域をモデルに都市の景観やシビルデザインの考え方を紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	地域をつくる(2)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
8	地域をつくる(3)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	地域をつくる(4)	北河内地域の環境とその保全、河川整備や防災対策などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループ・ディスカッション(2)	「地域をつくる」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	地域をまなぶ(1)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	地域をまなぶ(2)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	地域をまなぶ(3)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
14	地域をまなぶ(4)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化などを説明する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	グループ・ディスカッション(3)	「地域をまなぶ」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 毎回の講義におけるレポート課題に対する評価とグループ・ディスカッションの相互評価(外部講師、教職員、学生など)を総合して評価する。なお、受講態度等を勘案し、更なるレポートを課すことがある(評価に加味)。

学生へのメッセージ 地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?

担当者の研究室等 1号館9階 尾山教授室

備考 学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	近代文学から学ぶ	科目名 (英文)	Modern Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を味わい鑑賞する力を身につける。
授業方法と留意点	毎回、1編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。
科目学習の効果 (資格)	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	明治の文学	近代社会へ 言文一致運動	配布したプリントを読み、理解しておく
	2	明治の文学	夏目漱石の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	3	明治の文学	谷崎潤一郎の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	4	明治の文学	森鷗外の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	5	大正の文学	志賀直哉の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	6	大正の文学	佐藤春夫の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	7	大正の文学	菊地寛の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	8	大正の文学	小川未明の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	9	大正の文学	芥川龍之介の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	10	昭和の文学	横光利一の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	11	昭和の文学	中島敦の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	12	昭和の文学	太宰治の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	13	昭和の文学	原民喜の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	14	現代文学へ	安部公房の短編を読む	配布したプリントを読み、理解しておく
	15	近代の詩を読む	高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	配布したプリントを読み、理解しておく

関連科目	古典文学から学ぶ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業時の参加度・コメント (100%) 場合によっては、課題を出す。
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の研究室等	橋本研究室 (7号館4階)
備考	事前学習として、毎週1時間以上必要。

科目名	くらしと経済	科目名(英文)	Life and Economy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪 加紋

授業概要・目的	<p>本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを売ったり買ったりすることを経済という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかに身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。</p> <p>私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的なながらも重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。</p>
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得

授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める。ただし、受動的な受講姿勢とならないよう、“声を出す”ことを重視する。例えば教科書の音読、臨機応変な質疑応答などである。言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果(資格)	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第1章を予習復習のこと
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第2章を予習復習のこと
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第3章を予習復習のこと
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第4章を予習復習のこと
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第5章を予習復習のこと
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第6章を予習復習のこと
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身に染みて感じるであろう労働市場について解説する。	教科書第7章を予習復習のこと
10	GDPについて	国の豊かさを測るGDPについて解説する。	教科書第8、9章を予習復習のこと
11	消費需要と投資需要	GDP構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第10章を予習復習のこと
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第11章を予習復習のこと
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第12章を予習復習のこと
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第13章を予習復習のこと
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第14章を予習復習のこと

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経済学	中谷武、中村保	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間試験(50%)＋期末試験(50%)で評価する。中間・期末双方の試験を受験しなければ評価の対象とならない。なお、詳細は初回講義で述べる。
----------	---

学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館8階(岩坪教授室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	グローバル世界の倫理	科目名 (英文)	Ethics in Global Society
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱 良祐

授業概要・目的 現代のグローバル化の進展や科学技術の発展によって人間存在や人間の社会にもたらされる変容について考察する。さらに、その変容から生じる倫理的諸問題を取り上げ、その解決への道を探る。

到達目標 (1) グローバル世界の諸問題に関する基礎的な知識を習得すること。  
(2) 現代社会の諸問題に対する哲学的・倫理的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。  
(3) 自らの思考を適切に伝える論理的表現力を高めること。

授業方法と留意点  
講義形式  
授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて適宜授業中に紹介する。  
受講者には、授業で取り上げる諸思想を単に学習するだけでなく、そこで問題となっている事柄について自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。  
前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。  
授業期間中に数回、授業の理解度を試す小テスト、少レポートを実施する。

科目学習の効果 (資格) 現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	グローバリズムとグローバル化	政治・経済の領域におけるグローバル化によってもたらされた世界の変容について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
3	テクノロジーと人間	科学技術そのものが本質的に孕む危険性について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
4	未来への責任——環境倫理 (1)	現代の自然環境の変化の責任をいかにして背負うのか、という倫理的問題に取り組む。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
5	自然の生存権——環境倫理 (2)	自然と人間の共生について考察し、従来の人間中心主義に対する諸々の批判を検討する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
6	「死の選択」と生命の価値——生命倫理 (1)	安楽死問題等の「死の選択」をめぐる議論を検討し、現代における生命の価値について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
7	生命の選択——生命倫理 (2)	人工妊娠中絶や出生前診断などの生殖をめぐる現代の議論を検討し、現代における生命と幸福について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
8	クローン技術はなぜ規制されるべきなのか——生命倫理 (3)	現代における遺伝子操作の技術的発達によって生じる倫理的問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
9	グローバル化と多文化主義	現代における移民と文化的アイデンティティーの問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
10	国民国家の衰退と〈帝国〉	グローバル化の帰結としての国家の衰退とそれ以後の世界の行方について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
11	現代における「正義」論 (1)	ロールズの正義論を通して、現代における自由と正義の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
12	現代における「正義」論 (2)	前回に引き続き、ロールズの正義論を通して、現代における自由と正義の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
13	グローバル時代の平和論	現代の国際社会における平和の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
14	グローバル・テロリズムと平和	現代のグローバル化したテロリズムを、いかにして克服すべきなのかを考察する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料・教科書の読み直し。 〈復習〉ノート・資料の整理。

関連科目 哲学、環境倫理、社会と人権、現代社会論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル世界と倫理	石崎嘉彦、太田義器ほか共著	ナカニシヤ出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知の21世紀的課題	石崎嘉彦、石田三千雄、山内廣隆編	ナカニシヤ出版
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点(受講態度、授業後の質問、小テスト、小レポートなど)を40%、期末レポートの結果を60%として総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室(授業日のみ入室)
備考	授業担当者メールアドレス: xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp

科目名	芸術の理解	科目名(英文)	Appreciation of Art
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨

授業概要・目的 現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現をとおして絵画芸術への影響、映像芸術について考える。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。

到達目標 様々なかたちで映像メディアと接する機会が増えているが、発信する側、受け手としての理解を深める。

授業方法と留意点 講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。

科目学習の効果(資格) 学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて	視覚について本やWEBで調べる
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19世紀の写真表現について本やWEBで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19世紀の写真について本やWEBで調べる
8	写真と絵画の交わり1	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
9	写真と絵画の交わり2	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やWEBで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やWEBで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やWEBで調べる
13	現代写真表現1	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
14	現代写真表現2	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、21世紀の写真メディアの在り方を考える	写真について復習する

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 出席点40%、期末レポート点60%により評価する。

学生へのメッセージ 板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。

担当者の研究室等 7号館5階(岩間研究室)

備考

教養科目



科目名	健康科学	科目名(英文)	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美

授業概要・目的	<p>私たちを取り巻く社会は交通手段の発達や家事の自動化など利便性が増した結果、人々の身体活動量が著しく低下している。さらに食生活の欧米化等も影響して、肥満症や生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、社会の多様化・情報化なども少なからず影響してここの健康を害する人口も増加しており、メンタルヘルス対策も重要な社会問題となっている。</p> <p>本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたる心身の健康の維持・増進を目指して、健康に関する「科学的根拠に基づいた知識」を幅広く学び、講義内容を実践できる能力を修得することを目的とする。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
到達目標	健康は、知的職業人として生きていくうえの基盤である。健康に関する幅広い知識を理解し実生活に応用、心身両面における健康を保持することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	日本人の健康に関する現状を理解し、本講義の意義について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
2	健康づくりの三本柱	運動・栄養・休養について概要を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
3	身体の生理機能	恒常性(ホメオスタシス)について理解し、生体が外部・内部環境の変化にどのように適応しているか、具体的に説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群を正しく理解し、運動トレーニングがどのように貢献しているか説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
5	運動トレーニングで何がかわるのか?	運動トレーニングによる筋力増強、持久力向上、エネルギー代謝の改善、またストレス軽減作用について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
6	どんな運動が健康によいのか?	肥満解消、筋力増大、メンタルヘルスの保持など目的に応じたトレーニング方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
8	食生活と健康	望ましい食事バランスや量について理解し、簡単な献立を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
9	ダイエット計画	体重と体脂肪率が表現することを正しく理解し、減量が必要な場合の望ましいダイエット方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
10	女性の健康・男性の健康	性別による生理的特徴を理解し、女性の月経や妊娠について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
11	ストレスマネジメント	ストレスの定義について理解し、それを軽減し得る方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
12	睡眠	睡眠の段階的役割を含めた必要性や、日中の生活へ及ぼす影響について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールの代謝や遺伝的要因、タバコ、薬物が身体にもたらす影響について説明できる。また性感染症について罹患の原因、対策について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
14	高齢者の介護予防と運動	高齢者の形態・機能的特徴を理解すると共に、介護について説明できる。さらに運動など生活習慣が及ぼす影響についても説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> </ul>

関連科目 スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持が大切です。「病気にかかってから治療する」のではなく「病気にかからない」ための正しい知識を身につけ、それを実践して健康な日々を送りましょう！
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 藤林研究室
備考	1) 毎回の課題は 1 時間以上かけて作成のこと。 2) 毎回の課題以外に、講義の予習復習として 30 分以上かけること。 3) 自主学習は試験の準備を含めて、20 時間かけること。

科目名	古典文学から学ぶ	科目名(英文)	Classic Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	日本の古典文学の物語を読む。なお、古代から江戸時代までの作品を古典文学と位置づける。文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。この授業では、日本人が何を、どのように、何のために「物語」として描いたのか、そこに焦点を当てて考える。古典を読むことで、現代の我々の思考力と想像力を豊かにすることを目的とする。また、古典文学への抵抗をなくし、文学作品を読んで考える習慣を身につけることも目的とする。																																																																		
到達目標	作品を味わい鑑賞する力を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	毎回、1作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメントを書く。 古典文学・文法に関する知識は一切必要ない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文学に対する関心と知識が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>物語とは何か 1</td> <td>古典文学について、物語について講義する</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>神話の世界 1</td> <td>古事記を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>神話の世界 2</td> <td>風土記を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>男女の物語 1</td> <td>伊勢物語を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>信仰の文学 1</td> <td>今昔物語集を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>怪異を物語る 1</td> <td>今昔物語集を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>信仰の文学 2</td> <td>宇治拾遺物語を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>いくさの文学</td> <td>平家物語を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>下剋上の文学 1</td> <td>室町時代の物語を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>芸能と文学 1</td> <td>狂言を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>芸能と文学 2</td> <td>説経浄瑠璃を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>芸能と文学 3 男女の文学 2</td> <td>人形浄瑠璃を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>物語から小説へ 1</td> <td>江戸時代の物語を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>物語から小説へ 2 怪異を物語る 2</td> <td>江戸時代の物語を読む</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>絵と物語 まとめ</td> <td>絵と物語の関係について 物語について総括する</td> <td>配布した作品を読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	物語とは何か 1	古典文学について、物語について講義する	配布した作品を読む	2	神話の世界 1	古事記を読む	配布した作品を読む	3	神話の世界 2	風土記を読む	配布した作品を読む	4	男女の物語 1	伊勢物語を読む	配布した作品を読む	5	信仰の文学 1	今昔物語集を読む	配布した作品を読む	6	怪異を物語る 1	今昔物語集を読む	配布した作品を読む	7	信仰の文学 2	宇治拾遺物語を読む	配布した作品を読む	8	いくさの文学	平家物語を読む	配布した作品を読む	9	下剋上の文学 1	室町時代の物語を読む	配布した作品を読む	10	芸能と文学 1	狂言を読む	配布した作品を読む	11	芸能と文学 2	説経浄瑠璃を読む	配布した作品を読む	12	芸能と文学 3 男女の文学 2	人形浄瑠璃を読む	配布した作品を読む	13	物語から小説へ 1	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む	14	物語から小説へ 2 怪異を物語る 2	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む	15	絵と物語 まとめ	絵と物語の関係について 物語について総括する	配布した作品を読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	物語とは何か 1	古典文学について、物語について講義する	配布した作品を読む																																																																
2	神話の世界 1	古事記を読む	配布した作品を読む																																																																
3	神話の世界 2	風土記を読む	配布した作品を読む																																																																
4	男女の物語 1	伊勢物語を読む	配布した作品を読む																																																																
5	信仰の文学 1	今昔物語集を読む	配布した作品を読む																																																																
6	怪異を物語る 1	今昔物語集を読む	配布した作品を読む																																																																
7	信仰の文学 2	宇治拾遺物語を読む	配布した作品を読む																																																																
8	いくさの文学	平家物語を読む	配布した作品を読む																																																																
9	下剋上の文学 1	室町時代の物語を読む	配布した作品を読む																																																																
10	芸能と文学 1	狂言を読む	配布した作品を読む																																																																
11	芸能と文学 2	説経浄瑠璃を読む	配布した作品を読む																																																																
12	芸能と文学 3 男女の文学 2	人形浄瑠璃を読む	配布した作品を読む																																																																
13	物語から小説へ 1	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む																																																																
14	物語から小説へ 2 怪異を物語る 2	江戸時代の物語を読む	配布した作品を読む																																																																
15	絵と物語 まとめ	絵と物語の関係について 物語について総括する	配布した作品を読む																																																																
関連科目	近代文学から学ぶ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業時の参加度・コメント(100%) 場合によっては、課題を出す。																																																																		
学生へのメッセージ	古典文学・文法の知識は一切必要ありません。でも関心は持って下さい。 しばし日常を離れ、古典の世界に遊びましょう。																																																																		
担当者の研究室等	橋本研究室(7号館4階)																																																																		
備考	事後学習として、毎週1時間以上必要(授業での説明を参考にして作品を読み直す)。																																																																		

科目名	自然科学 I	科目名 (英文)	Introduction to Natural Sciences I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 哲郎

授業概要・目的  
授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10 の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、  
案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。

到達目標  
新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。

授業方法と留意点  
ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。

科目学習の効果 (資格)  
一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約 60 兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシヤボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器官系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器官の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器官系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器官のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目  
自然科学 II と連動している。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表		浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)  
小テストを 40%、臨時テストを 40% および授業態度を 20% で評価する

学生へのメッセージ  
社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。

担当者の研究室等  
枚方・薬学部 6 号館 3 階病理学研究室 1

備考  
講義後の復習 (ノートをまとめ、重要単語を暗記する 1 時間 X15 回)。

教養科目

科目名	自然科学II	科目名(英文)	Introduction to Natural Sciences II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹内 健治

授業概要・目的 人体の構造や機能から健康を害するしくみについて理解し、健康維持と病気治療への積極的な参加に必要な知識を得ることを目的とする。

到達目標 人体の構造や機能の知識を習得することで、自然科学および健康に関する教養を身につける。

授業方法と留意点 教科書やプロジェクター、配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認します。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	生体を構成する物質	全ての生物に共通する基本的な物質の種類。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
2	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の構造と役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
3	遺伝子の構造と機能	遺伝子を構成する分子とその役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
4	セントラルドグマ	遺伝子を構成する分子とその役割。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
5	酵素が代謝を支える	代謝に関わる分子と、代謝を行うシステム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
6	生体とエネルギー	代謝に関わる分子と、代謝を行うシステム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
7	生命を支える細胞分裂	一つの受精卵からヒトの生命は出発する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
8	細胞の分化と細胞間の情報交換	多細胞生物を構成する細胞は独立した役割を持つ。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
9	がん	がん発生の仕組みとその原因。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
10	生殖の仕組み	生殖の仕組みを細胞レベルで解説します。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
11	細胞死と老化	細胞数を減少させる仕組み。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
12	個体の自己維持	恒常性維持の仕組み。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
13	生体防衛機構	免疫の仕組みと働き。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
14	遺伝の仕組み	遺伝の仕組みと遺伝子疾患。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
15	ヒトの遺伝病	遺伝の仕組みと遺伝子疾患。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。

関連科目 自然科学 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎生物学第2版	南雲保	羊土社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト(30%)、課題(10%)、定期試験(60%)により評価する。

学生へのメッセージ 質問は適宜受け付けます。

担当者の研究室等 枚方学舎1号館5階

備考

教養科目

科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的  
私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。講義では社会学的な考え方や基礎知識を紹介したのち、教育、仕事・産業・経済といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。

到達目標  
受講生が社会学の知識・考え方を身につけ、自らが直面する問題について社会学的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。

授業方法と留意点  
テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。

科目学習の効果 (資格)  
社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
2	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
3	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
4	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
5	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (4)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
6	1 社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (5)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
7	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習
8	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
9	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
10	2 教育の社会学	学歴社会のメカニズム (3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
11	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
12	3 仕事の社会学	働き方の変化とその背景 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
13	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
14	4 産業と経済の社会学	豊かな社会への道 (2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習

関連科目  
社会学 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
授業態度 10%、試験 (中間、期末) 90%で評価する。

学生へのメッセージ  
やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。

担当者の研究室等  
11号館7階 山本講師室

備考

教養科目

科目名	社会学Ⅱ	科目名(英文)	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	受講生が社会学の知識・考え方を身につけ、自らが直面する問題について社会学的な発想に基づいて多面的に理解し考察できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマに関連するデータ資料や視聴覚教材をもちいる。
科目学習の効果(資格)	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	3	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	4	1 家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	5	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	6	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	7	2 宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	8	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	配布レジメに基づく予習
	9	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	10	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	11	3 政治の社会学	平和と共存の作法を求めて(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	12	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(1)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	13	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(2)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	14	4 社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」(3)	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジメに基づく予習および授業内容に関する復習

関連科目	社会学Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度10%、試験(中間、期末)90%で評価する。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なことは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館7階 山本講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣

授業概要・目的  
就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。

到達目標  
就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること

授業方法と留意点  
授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。

科目学習の効果(資格)  
就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的,意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目  
コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜SmartSPIの活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他SPIや玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法(基準)  
小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%  
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ  
7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3年生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考  
7号館3階 キャリア教育推進室



科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永見 誠二

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・テスト	講座の目的,意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
	9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜Smart SPIの活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他SPIや玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠

授業概要・目的  
就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。

到達目標  
就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること

授業方法と留意点  
授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。

科目学習の効果(資格)  
就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的,意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目  
コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜SmartSPIの活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他SPIや玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法(基準)  
小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%  
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ  
7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3年生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考  
7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的、意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校6年間の算数が6時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
2			
3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%  
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策をしておく、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

教養科目

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	毛 新華

授業概要・目的  
心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。

到達目標  
1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。  
2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。  
3) 自己を探索するための手がかりをつかめるようすること。

授業方法と留意点  
・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。  
・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしているため、積極的に参加すること。  
・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定をし、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる。

科目学習の効果 (資格)  
講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究手法、研究分野について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。
4	知覚のプロセス(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第2章を事前に予習しましょう。
5	知覚のプロセス(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き知覚、動き知覚、知覚から認知へについて解説します。	関連する映像資料を紹介するので、視聴してください。
6	学習理論	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件づけの違いについて解説します。	例を挙げながら、二つの条件づけの違いについてA4用紙にまとめて提出してください。
7	心の構造	精神分析理論、局所論、構造論、エディプス・コンプレックスについて解説します。	教科書の第8章を事前に予習しましょう。
8	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書の第6章を読んで、要約をA4用紙にまとめて、提出してください。
9	自己の形成	自己概念の形成、他者の評価、自己知覚、上方比較、下方比較について解説します。	例を挙げながら、自己概念はどのように作り上げたかを説明するレポートを作成してください。
10	自尊感情(1)	自尊感情とは、自尊感情を脅かすもの(可能自己・理想自己・当為自己・セルフ・ディスレパンシー)、ソシオメーター理論について解説します。	自尊感情の心理テストを答え、配布する関係資料と照らし合わせ、自分の自尊心を測定します。
11	自尊感情(2)	自尊感情の維持と高揚(利己的帰属・セルフ・ハンディキャッピング・防衛的悲観主義・栄光浴)自尊感情の文化比較(自己高揚・自己卑下)、自尊感情の存在意義について解説します。	紹介する文献を読んで、感想文をまとめて、提出してください。
12	自己表現	自己制御(客体的自覚状態・没個性化状態・公的自己・私的自己)、自己表現(自己開示・自己呈示)・ジョハリの窓について解説します。	第7章の後半部分を事前に予習してください。
13	印象形成	中心特性と周辺特性説、初頭効果と新近効果説、ステレオタイプ、第一印象について解説します。	紹介する関連文献リストから一冊を選び、読んでおきましょう。
14	健康と適応	心の健康と身体の健康、ストレスと健康、心の健康と適応	自分なりに、半期の内容からもっとも関心深いテーマを選び、レポートにまとめてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目  
「心理学II」も併せて履修することが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 小レポート、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。 【定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%】
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 経営学部事務室
備考	

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	毛 新華

授業概要・目的	心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。私たちは、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことができる。
到達目標	1) 集団の中で個々の行動について理解できるようになる。 2) グローバル化社会において、異なる文化に反映される心理・行動への理解を深めることにつながる。 3) 対人的コミュニケーションの仕組みや役割を理解できるようになり、そして自分のコミュニケーション力を高めることにつながる。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしているため、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定をし、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる。
科目学習の効果(資格)	取得できる資格は特になし。しかしながら、自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるために重要な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
	2	対人的魅力(1)	外見的要因、美の定義・タイプ、魅力度、性役割、マッチング仮説、ハロー効果について解説します。	授業の前に、教科書第12章を予習してください。
	3	対人的魅力(2)	環境要因、単純接触効果、類似性・相補性、生理的覚醒、錯誤帰属について解説します。	日常生活にある対人魅力に関係する事柄を留意して観察してください。
	4	対人的魅力(3)	ラブタイプ、恋愛行動の進展段階、友情・愛情、別れ、失恋について解説します。	対人的魅力について、関心のあるテーマを選び、レポートを作成し、提出してください。
	5	援助行動	傍観者効果効果、モデリング、責任の分散、多数の無知、多数派同調バイアス、援助のプロセス、援助される側の責任について解説します。	教科書のp206-214を事前に予習してください。
	6	社会的迷惑行為	迷惑行為の定義・範囲、迷惑行為の増加背景について解説します。	自ら社会的迷惑行為の経験を考え、生活しやすい社会のあり方を考えてください。
	7	説得	広告、バランス理論、逆説得の免疫効果、フット・イン・ザ・ドア・テクニック、ドア・イン・ザ・フェイス・テクニック、ロー・ボール・テクニックについて解説します。	教科書第16章を予習してください。
	8	同調	同調の定義、規範的影響、情報的影響、同調の種類、社会的インパクト理論、沈黙の螺旋理論について解説します。	多数派の意見に流されないように、養う必要のあることを考えましょう。
	9	権威への服従	服従のプロセス、代理状態、服従と同調の異動について解説します。	ユダヤ人虐殺などの歴史事件を踏まえ、人間の服従の心理について感想文を書きましょう。
	10	社会的ジレンマ	囚人のジレンマ、共有地の悲劇、社会的トラップ、社会的フェンス、協力行動について解説します。	環境問題の解決には、社会的ジレンマの知識を用いて、考えてください。
	11	社会的アイデンティティ	個人的アイデンティティ、社会的アイデンティティ、内集団、外集団について解説します。	社会的アイデンティティがもたらしたメリットとデメリットについて、考えましょう。
	12	社会的促進・抑制	社会的促進、社会的抑制、社会的手抜きについて解説します。	他者の存在は自分に対する影響を考えてください。
	13	攻撃	対人葛藤、攻撃、攻撃の過程モデル、攻撃の影響要因、タイプA、攻撃の抑制方法について解説します。	事前に第17章を予習してください。
	14	心と文化	日本人らしさ、集団主義・個人主義、文化の変容について解説します。	事前に第17章を予習してください。
	15	まとめ	全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目 心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わたしそしてわれわれ ミレニアムバージョン—現代に生きる人のための心理学テキストブック	大坊郁夫	北大路書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。  
小レポート、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。  
【定期試験60%、レポート20%、小テスト20%】

学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	11号館6階 経営学部事務室
備考	

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大高 和香

授業概要・目的 最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、「リノベーション」の実習を体験し、初歩的な知識と技術を修得する。

到達目標 将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。

授業方法と留意点 パワーポイントや板書による講義を行う。

科目学習の効果 (資格) 身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	デザインスタイルの基礎	第5回目から第7回目までの授業の前段としてデザインスタイル全般について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	デザインスタイルの分類 (1)	モダン系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	デザインスタイルの分類 (2)	ナチュラル系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	デザインスタイルの分類 (3)	クラシック系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	J実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(1)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーションを作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	実習:ピフォーアフター「団地のリノベーション」(2)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーション作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	「団地のリノベーション」作品講評会 (1)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	「団地のリノベーション」作品講評会 (2)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	「団地のリノベーション」作品講評会 (3)	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいの色彩計画	色彩計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいの照明計画	照明計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	まとめ、リノベーションの実例から、「住まいとデザイン」に関し考えを深める。	リノベーションに関し自らの考えをレポートにまとめる。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 期末試験:60%、受講態度(出席・講義メモ・課題・小テストなど):40%を、合わせて評価する。

学生へのメッセージ 自分の周りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。きっと新しい発見があることでしょう。

担当者の研究室等 12号館7階、8号館3階 大谷准教授室

備考 出欠・遅刻に関する規定は、理工学部に準ずる。

教養科目



科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Politics I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	政治学の基本的な項目について習得することを目標にする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果 (資格)	政治学の基本となる知識を習得できるようにしたい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治目・国際面を読む習慣をつける
	2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	4	国家の政治体制 (1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	5	国家の政治体制 (2)	自由民主主義体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	6	国家の政治体制 (3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	7	政治と経済・福祉 (1)	政治と経済の関わりについて	政治学に関する参考文献を読んでおく
	8	政治と経済・福祉 (2)	戦後の福祉国家について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	9	政治制度と政治過程	国民代表・利益代表の政治過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	10	政策と行政	政策過程について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	11	政党制	政党とはなにか、また政党システムの類型について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	12	集権と分権	分権と連邦主義、国際統合について	政治学に関する参考文献を読んでおく
	13	近代の国際政治と現代の国際政治 (1)	近代の国際体系＝ウェストファリア体制について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	14	近代の国際政治と現代の国際政治 (2)	現代の国際政治の特色について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
	15	まとめ	講義のまとめと、試験について	試験に向けたノート作りをしておく

関連科目	政治学・国際政治・外交関連の科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代政治学	加茂利男・大西仁他	有斐閣
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末の試験 (論述式。5 問出題して 2 問を選択してもらいます) の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
-----------	--

学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。共に勉強しましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
----------	------------------------------

備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。
----	--

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一

授業概要・目的  
この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。

到達目標  
第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。

授業方法と留意点  
プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。

科目学習の効果(資格)  
現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目  
国際政治関係の科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア	有斐閣
2	国際政治をつかむ	村田晃司・君塚直隆他	有斐閣
3	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会

評価方法(基準)  
期末の試験(論述式、5問出題して2問を選択してもらいます)の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。

学生へのメッセージ  
日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。共に勉強しましょう。

担当者の研究室等  
11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)

備考  
出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。

教養科目

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分：          ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて          ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ          ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ          ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ          ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ          ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ          ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ          ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ          ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）：          受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）：          青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意：          学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2016年2月に実施）に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題：          学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	生命科学入門	科目名(英文)	Basics of Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人

授業概要・目的	生命科学は、ウイルス、バクテリア、植物からヒトにいたるまでの生命の全体像を浮かび上がらせる学問分野であり、これまであまり生命科学になじみのなかった学生も社会常識として学ぶべき科目である。 本授業では、高校で生物学を学んだことが無い学生でも、生命科学の基礎を学び、生命科学が自分たちの生活にどのような形で関わっているかを幅広く学べるように講義する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学の基礎を理解し、種々の生命現象を理論的に説明できる。</li> <li>課題(レポート)に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の講義終了時に出席票をかねたミニレポート(小テストを含む)を提出させる。</li> <li>全講義終了後にレポートを提出させ、その内容を評価する。レポートの題材は、いずれかの回の講義内容に直結するものを受講生が探す。</li> <li>独自の論考を加えたものについては、高い点を与える。</li> <li>成績判定は出席とレポートの内容を総合して評価する。</li> <li>欠席が3回以上の場合(初回を含めて)は、レポートの採点はおこなわない。</li> </ul>

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	人類はどうやって生まれてきたか	生命の起源から地球環境と生命の進化について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
3	細胞の成り立ちと遺伝の仕組み	細胞を構成する物質から遺伝子の転写翻訳、エピジェネティクス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
4	進化の理論	ダーウィンの進化論・分子進化学・環境適応と進化等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
5	細胞が増える仕組み	増殖シグナルの伝達様式や細胞周期・染色体の分離と細胞分裂について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
6	性と生殖の不思議	生殖細胞と減数分裂及び幹細胞やES細胞・クローン、発生工学や遺伝子ノックアウト生物について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
7	老化と病	なぜ老化するのか? 抗老化ホルモンやアルツハイマー病、狂牛病や夢のやせ薬について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
8	なぜ、がんになるのか?	がんをとりまく遺伝子や浸潤と転移の仕組み、がんの分子標的治療について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
9	生体防御と感染	免疫を担う細胞群や自然免疫・獲得免疫の仕組み、アレルギーやアトピー性皮膚炎について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
10	遺伝子医療と感染症	遺伝子診断とオーダーメイド医療や遺伝子治療、再生医療と感染性疾患、インフルエンザ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
11	先端バイオ技術の応用	個人識別と犯罪捜査、遺伝子組換え植物や不毛の地の緑地化、青いバラ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
12	ナノテクが拓くバイオの未来	ナノテクノロジー、ナノ医療、RNA創薬などについて説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
13	「植物の発生」	植物の基本体制や種子形成、発芽、分枝、植物ホルモン等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
14	人類はどこに行くのか	人類と科学技術、地球上の生命にとっての人類の役割、メタンハイドレート、核融合、バイオマス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
15	エピローグ	この講義の総括、補習講義、全員による討論を行う。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生命科学の基礎	野島 博	東京化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	理系総合のための生命科学	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 (60%)、レポート (40%)、60%で合格とする。</li> <li>・リアクションペーパーにより、出席確認・講義に関する質問および要望等を受け付けます。</li> <li>・欠席が3回以上の場合 (初回を含めて) は、レポートの採点はおこなわない。</li> </ul>
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	History of the World
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口にして歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。

授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各单元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。
--------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
	2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。
	10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40点)、②レポート (30点)、③レスポンスペーパー (30点+a)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
-----------	--

学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	【教職科目】 教科に関する科目 (中学校 社会) 【施行規則に定める科目区分】 日本史及び外国史 【履修区分】 必修
----	--

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p>&lt;過疎地域における地域資源活用プロジェクト&gt; 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。</li> <li>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。</li> <li>3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手順で実施する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定</li> <li>2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定</li> <li>3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。</li> <li>4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て</li> <li>5. 現地で加工、施工、組み立て開始</li> <li>6. 装置・設備の完成</li> <li>7. 試作装置・設備による実験評価</li> <li>8. 実験結果の考察と改良</li> <li>9. 改良した装置について評価実験・考察</li> <li>10. 現地で再実験</li> <li>11. 実験結果の考察と改良</li> <li>12. 最終実地評価と報告</li> </ol> <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p>&lt;過疎地域における地域資源活用プロジェクト&gt; 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。</li> <li>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。</li> <li>3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手順で実施する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定</li> <li>2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定</li> <li>3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。</li> <li>4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て</li> <li>5. 現地で加工、施工、組み立て開始</li> <li>6. 装置・設備の完成</li> <li>7. 試作装置・設備による実験評価</li> <li>8. 実験結果の考察と改良</li> <li>9. 改良した装置について評価実験・考察</li> <li>10. 現地で再実験</li> <li>11. 実験結果の考察と改良</li> <li>12. 最終実地評価と報告</li> </ol> <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会（7月）、天若湖アートプロジェクト（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。                  ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。                  ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。                  ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う                  ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

教養科目

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作るにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。          ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。          ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。          ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う          ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・グループ学習</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・グループ学習</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する</p> <p>3. 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を理解し、自分なりにレポートにまとめる</p> <p>4. 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化</p> <p>5. 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。</p> <p>6. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>7. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>8. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる</p> <p>9. 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえ商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む</p> <p>10. 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる</p> <p>11. 現地調査 由良町に外向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後調査：調査結果をレポートにまとめる</p> <p>12. 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込みされた案を企画書にする</p> <p>13. 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理</p> <p>14. 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析</p> <p>15. 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる</p> <p>16・試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく</p> <p>17. 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ</p>

	<p>18. 販売先の確保 事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整</p> <p>19. 製品最終仕様の決定 事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備</p> <p>20. 販売促進方法の検討と実施 事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施</p> <p>21. 製品販売開始 事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う</p> <p>22. 現地での発表 事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成</p>																
関連科目	各学部マーケティング関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社														
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館														
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%																
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭に立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する</p> <p>3. 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を理解し、自分なりにレポートにまとめる</p> <p>4. 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化</p> <p>5. 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。</p> <p>6. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>7. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>8. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる</p> <p>9. 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえて商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む</p> <p>10. 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる</p> <p>11. 現地調査 由良町に出向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後調査：調査結果をレポートにまとめる</p> <p>12. 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込みされた案を企画書にする</p> <p>13. 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理</p> <p>14. 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析</p> <p>15. 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる</p> <p>16・試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく</p> <p>17. 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ</p>

	<p>18. 販売先の確保 事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整</p> <p>19. 製品最終仕様の決定 事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備</p> <p>20. 販売促進方法の検討と実施 事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施</p> <p>21. 製品販売開始 事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う</p> <p>22. 現地での発表 事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成</p>																
関連科目	各学部マーケティング関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社														
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館														
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%																
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、「ものづくり」の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育          通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。          コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <p>・大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加          「前期」          ・コンペティションの制約条件の確認          ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算          ・図面化          ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作          ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加</p> <p>「後期」          ・コンペティションの制約条件の確認          ・構造形式のディスカッション、図面化          ・ポスターの作成、橋梁模型製作          ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加</p>																		
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版																
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会																
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、「ものづくり」の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																		
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																		
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

教養科目

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育 通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。</p> <p>コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <p>・大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加</p> <p>「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加</p>																		
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版																
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会																
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めるので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																		
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																		
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p>&lt;寝屋川市における国際交流推進プロジェクト&gt;と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々や調整しながら活動します。</li> <li>・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。</li> <li>(2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。</li> <li>(3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。</li> <li>(4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。</li> <li>(5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。</li> <li>(6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。</li> </ol> </li> </ul> <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントを一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p>&lt;寝屋川市における国際交流推進プロジェクト&gt;と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々や調整しながら活動します。</li> <li>・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。</li> <li>(2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。</li> <li>(3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。</li> <li>(4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。</li> <li>(5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。</li> <li>(6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。</li> </ol> <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントを一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。</li> <li>・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。</li> <li>・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。</li> <li>・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。</li> <li>・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等備考	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。</li> <li>・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。</li> <li>・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。</li> <li>・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。</li> <li>・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度 (40%)、自分の役割に対する貢献 (40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表 (20%)																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

授業概要・目的	摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。 ① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。 ② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。 ③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおりて社会人としてのマナー・ルールを体得する。																
授業方法と留意点	北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ：こども株式会社の設立と経営 内容：経営、マネジメント、経営戦術、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。 経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。 小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。 1. 小学生と友達になろう 2. 株式会社って何だろう 3. 株式会社をつくろう 4. 商売って何だろう。儲けてなんだろう 5. 経営計画をたてよう 6. マーケティングをしよう 7. 商品企画書の作成しよう 8. 銀行にお金を借りよう 9. 実際に販売してみよう 10. 帳簿をつけて決算書をつくろう 11. 税金を納めよう 12. 決算書を作成しよう 13. 経営報告会をしよう 講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。 事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)への参加度(70%)、プレゼンテーション(20%)、レポート課題(10%)により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。																
担当者の研究室等	11号館8階(栢木准教授室、佐井教授室)																
備考	必要に応じ適宜資料を配布します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

授業概要・目的	摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。 ① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。 ② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。 ③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおりて社会人としてのマナー・ルールを体得する。																
授業方法と留意点	北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ：こども株式会社の設立と経営 内容：経営、マネジメント、経営戦術、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。 経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。 小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。 1. 小学生と友達になろう 2. 株式会社って何だろう 3. 株式会社をつくろう 4. 商売って何だろう。儲けてなんだろう 5. 経営計画をたてよう 6. マーケティングをしよう 7. 商品企画書の作成しよう 8. 銀行にお金を借りよう 9. 実際に販売してみよう 10. 帳簿をつけて決算書をつくろう 11. 税金を納めよう 12. 決算書を作成しよう 13. 経営報告会をしよう 講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。 事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業 (イベントを含む) への参加度 (70%)、プレゼンテーション (20%)、レポート課題 (10%) により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。																
担当者の研究室等	11号館8階 (栢木准教授室、佐井教授室)																
備考	必要に応じ適宜資料を配布します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市（企画財政部）や「おりひめ大学（市民大学）」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ①〈交野の産物・そば班〉そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ②〈イベント班〉市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③〈SNS班〉PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p>&lt;共通到達目標&gt; 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p>&lt;プロジェクト到達目標&gt; PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング（面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法）調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法（収集した多量の情報を効率よく整理するための手法）をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者&lt;1次産業従事者&gt;がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工&lt;2次産業&gt;・流通や販売&lt;3次産業&gt;に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法（基準）	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度（回数、活動意欲、結果への貢献度、など）」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本（主）研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行いますが、テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市（企画財政部）や「おりひめ大学（市民大学）」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ①〈交野の産物・そば班〉そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ②〈イベント班〉市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③〈SNS班〉PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p>&lt;共通到達目標&gt; 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p>&lt;プロジェクト到達目標&gt; PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング（面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法）調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法（収集した多量の情報を効率よく整理するための手法）をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者&lt;1次産業従事者&gt;がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工&lt;2次産業&gt;・流通や販売&lt;3次産業&gt;に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法（基準）	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度（回数、活動意欲、結果への貢献度、など）」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本（主）研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行います。テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>マーケティング手法の学習(座学による)</li> <li>連携先との面談</li> <li>連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行)</li> <li>学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>まとめと最終報告会</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>マーケティング手法の学習（座学による）</li> <li>連携先との面談</li> <li>連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行）</li> <li>学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>まとめと最終報告会</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化すると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる																		
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。																		
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化すると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる																		
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。																		
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

授業概要・目的	<p>枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→*運動教室の実施→*反省会→*の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	総合体育館 藤林研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

授業概要・目的	<p>枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→運動教室の実施→反省会→の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	総合体育館 藤林研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>										
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる</li> <li>2. 計画を立て、段取りが組める</li> <li>3. 小売業界の現状を理解する</li> </ol> <p>プロセス</p> <p>学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>										
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・小売業について学ぶ</li> <li>・ロフトについて学ぶ</li> </ul> </li> <li>■5月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロフトでのミーティング</li> <li>・ミーティングを受けて検討会</li> <li>・グループ決め</li> <li>・提言のテーマ・内容の検討</li> </ul> </li> <li>■6月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言内容の作成</li> </ul> </li> <li>■7月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施</li> </ul> </li> <li>■8月～9月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言内容の実施準備</li> <li>・提言内容の実施</li> </ul> </li> <li>■10月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会</li> </ul> </li> <li>■1月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告会</li> </ul> </li> <li>■2月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえり</li> <li>・総括</li> </ul> </li> </ul>										
関連科目											
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>										
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>										
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>										
備考											

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみよう！」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>										
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる</li> <li>2. 計画を立て、段取りが組める</li> <li>3. 小売業界の現状を理解する</li> </ol> <p>プロセス</p> <p>学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>										
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・小売業について学ぶ</li> <li>・ロフトについて学ぶ</li> </ul> </li> <li>■5月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロフトでのミーティング</li> <li>・ミーティングを受けて検討会</li> <li>・グループ決め</li> <li>・提言のテーマ・内容の検討</li> </ul> </li> <li>■6月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言内容の作成</li> </ul> </li> <li>■7月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施</li> </ul> </li> <li>■8月～9月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言内容の実施準備</li> <li>・提言内容の実施</li> </ul> </li> <li>■10月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会</li> </ul> </li> <li>■11月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告会</li> </ul> </li> <li>■12月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえり</li> <li>・総括</li> </ul> </li> </ul>										
関連科目											
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>										
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>										
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>										
備考											

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題についてのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考える。 ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返されられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修：CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニングーセルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通して自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。	・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論：付加価値創造のための基礎実務論 ー 改訂版	全国大学実務教育協会編	紀伊国屋書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。</li> <li>・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			



科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学が姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考える。 ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成する。
	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修：ジェンダー視点に関するレポートを作成する。
	4	日本の近代化	・明治の落とし物	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
	5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
	6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
	7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成する。
	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修：M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
	9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
	10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修：アサーティブに話す練習をする。
	11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
	12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べる。 ・事後学修：男女共同参画社会に関して自分の意見をまとめ、レポートを作成する。
	13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティ・マネジメントに関するレポートを作成する。
	14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるように練習する。 ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるように練習する。
	15	まとめ		・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学 ―明日を共に生きるために―</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学 ―明日を共に生きるために―	石井三恵	泉文堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	共に学ぶ女性学 ―明日を共に生きるために―	石井三恵	泉文堂													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域の課題を理解する。</li> <li>・地域の課題について解決策を提案できる。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第12回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月8日(金)5限	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (荻田・鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4月16日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4月17日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか 4月22日(金)5限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワードを調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 —地域の観光・ブランディング— 5月6日(金)5限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 —空き家の現状と課題— 5月13日(金)5限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (平田・稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 —地域とスポーツ— 5月20日(金)5限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林・内部)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 —地域で健康な生活を送るには?— 5月27日(金)5限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (荻田・田中)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① グループワーク 6月3日(金)5限	5回目～8回目の4分野ごとに分かれ議論をし、グループごとに発表をします。	【事前学習】 これまでの授業の復習をして、ポイントを整理しておく。 【事後学習】 発表をきいて、再度、4分野ごとに要点をまとめておく。
10	事前学習② グループワーク 6月10日(金)5限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。

	11	事前学習③ グループワーク 6月17日(金)5限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。																
	12	体験学習 (和歌山県由良町) 6月25日(土)、7月2日(土) のいずれか	和歌山県由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	13	事後学習① グループワーク 7月8日(金)5限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② グループワーク 7月15日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させる。																
	15	事後学習③ グループワーク 7月22日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。	【事前学習】 14回目に発表したグループの内容をふりかえる。 【事後学習】 最終レポート作成にむけての準備をする。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目:1134教室) 「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中~下旬)に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																		
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中~下旬)に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の進め方</li> <li>・なぜチームが必要なのかを知る</li> <li>・チームビルディングとは何か を理解する</li> </ul>	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介ワーク</li> <li>・チームビルディングの理論を学ぶ</li> <li>・チームビルディングのための技能を知る</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーパータワーワーク (予定)</li> <li>・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する</li> </ul>	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ</li> <li>・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける</li> </ul>	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ</li> </ul>	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム話し合う際の技術を学ぶ</li> </ul>	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える</li> </ul>	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでニッポンの課題の解決策を考える</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の中間おさらい</li> <li>・ヒーローインタビュー</li> <li>・チームでプロジェクトを企画する</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む</li> </ul>	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第●回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目</li> <li>・キャリアデザイン I・II、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論</li> </ul>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	チームでの提出物 25%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 45% で総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野研究室)
----------	-------------------------

備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。
----	---------------------

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今野 泰三

授業概要・目的  
授業の目的は、日本の農村、河川、環境問題、近代産業、ツーリズム、エスニック問題、米軍基地問題、捕鯨問題、パレスチナ問題と幅広い地域や国を取り上げ、それらの地域の社会的・文化的・政治的状況を深く理解することである。

到達目標  
本講義では、地誌学の方法論を習得し、グローバル化における地域社会の諸問題を学び、単なる地誌の把握に終わることなく、相対的なものの方や地理学的想像力の涵養が期待される。

授業方法と留意点  
授業はパワーポイントで行う。毎回、資料を配布する。また、必要に応じて映像資料の活用も行なう。  
講義終了後、毎回、評価対象となる小レポート(リアクション・ペーパー)の提出を求める。  
授業中の私語に対しては、厳しく対処し、退出を命じることもある。

科目学習の効果(資格)  
中学社会・高校地理歴史教育職員免許関係科目

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の目的・方法・進め方	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
2	地誌学とは何か	地理学と地誌	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
3	日本の農村と森林	農村における耕作放棄地の増加や山間地域における林業の衰退	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
4	日本の河川とダム	日本の河川政策の変遷とダム問題	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
5	水俣病ともやい運動	水俣病の発生からもやい運動に至る環境都市みなまたが形成されていくまでのプロセス	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
6	繊維産業の盛衰	女工哀史と東洋の魔女	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
7	産業遺産とまちづくり	近代産業遺産を活用したまちづくりの事例	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
8	場所を消費する	ツーリズムと観光のまなざし	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
9	エスニックコミュニティ	日本各地や世界のエスニックコミュニティの形成	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
10	沖縄と基地問題(1)	冷戦後の沖縄	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
11	沖縄と基地問題(2)	普天間基地の辺野古移設をめぐる問題	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
12	沖縄と基地問題(3)	標的の村-高江の事例	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。



	13	捕鯨問題と日本	日本の食文化と映画『ザ・コーヴ』	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。																
	14	パレスチナ問題とスパシオサイド（空間の扼殺）	イスラエルの対パレスチナ人政策を中心に	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。																
	15	講義のまとめ	講義の総括、および定期試験に関する説明。	全講義の内容を復習しておくこと。																
関連科目	地理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説 21 世紀日本の地域問題</td> <td>伊藤喜栄・藤塚吉浩（編）</td> <td>古今書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 21 世紀日本の地域問題	伊藤喜栄・藤塚吉浩（編）	古今書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	図説 21 世紀日本の地域問題	伊藤喜栄・藤塚吉浩（編）	古今書院																	
2																				
3																				
評価方法 （基準）	定期試験 70%、毎回提出を求める小レポート（リアクション・ペーパー） 30%																			
学生への メッセージ	授業は基本的に講義形式で行ないますが、疑問点や不明な点がある場合は積極的に質問をしてください。 ニュースで扱われる現象や身近な出来事を地理学的視点で見た場合にどのようなことがいえるのか、普段から敏感に考えるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																			
備考	講義の内容および評価方法に変更が生じるときには、講義中に随時連絡する。																			

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則

授業概要・目的 『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な述語の一つである。これは人間生活に影響を及ぼす種々の外的要因の全体を意味する。近年、人間活動にともなってこの環境に著しい変化が生じている。本講義は、環境改変者としての人類が、自然環境をどのように改変してきたかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。

到達目標 地理学は人間に関わる学問であり、学生諸君には、我々人類は最大の環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動が取れるようになってくれることを期待している。

授業方法と留意点 講義形式で行う。参考書に上げた一冊には、地理学 I の 4 回分の講義に関する内容が記されている。もし、後期に地理学 II も履修する予定の人がいるならば、後期はテキストとして使用する予定なので、購入をお勧めする。講義中には適宜プリントを配布していく予定である。

科目学習の効果 (資格) 人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学および自然地理学について	地理学の歴史および自然地理学の分野	高校時代に地理 A、あるいは地理 B を履修した者は、「環境」の項目を、しっかり読んでください。
2	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史 (過去から現在まで)	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
3	様々な地形と生活—その 1—	谷底平野・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
4	様々な地形と生活—その 2—	扇状地・自然堤防帯・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
5	世界の気候 —その 1—	熱帯気候・乾燥気候・高山気候	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
6	世界の気候 —その 2—	温帯気候・冷帯気候・寒帯気候	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
7	世界の植生と土壌	世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
8	都市気候 —その 1—	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
9	都市気候 —その 2—	・都市気候と緑地	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
10	水文環境と生活 —その 1—	・水が我々の生活にいかなる影響を与えているか	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
11	水文環境と生活 —その 2—	・水資源と農業	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
12	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
13	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下 ・日本における海岸浸食の状況	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
14	離島における地下ダムの建設	・宮古島における地下ダムの建設	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。
15	自然地理学の役割を考える	・全体のまとめ	配布プリントに目を通して読んでください。前回の講義内容を各自で確認してください。

関連科目 「環境関連科目」等

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

評価方法 (基準) 定期試験 80%、授業への参加状況 20%とする。なお、参加状況を把握するため、時々、チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。したがって、単なる出席点は付けられないので、真剣に授業に取り組んで欲しい。

学生へのメッセージ 地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。現在の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいられると思われるが、もし高校時代に用いた地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。なお、前述のように参考書は後期の「地理学 II」でもテキストとして使用する予定である。

担当者の研究室等備考 7号館2階 (非常勤講師控室)

教養科目

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原 俊則

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを改変してきた。前期の「地理学Ⅰ」の講義は、自然地理学的内容が中心であったが、後期はこれを受けて、人文地理学的内容を中心に話しを進めていきたいと考えている。自然環境と人文環境は分離して存在するのではなく、表裏一体をなして存在するものである。本講義は、このことを再確認してもらうことを目的としている。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、適宜講義中にプリントを配布していく予定である。
科目学習の効果(資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	都市化の進展と水文環境の変化	都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストに目を通して下さい。
	2	都市化にともなう流出の変化	都市化にともなって流出がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	3	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃していくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	8	日本における干拓の歴史	干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	9	干拓地の自然的特性	干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	10	すみわけられた都市社会空間	・エスニックマイノリティ社会 ・インナーシティ問題	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	14	平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。
	15	伝統工業の地域構成	京都の伝統文化と伝統工業	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認しておいて下さい。

関連科目	「環境関連科目」等
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験80%、授業への参加状況20%とする。なお、参加状況を把握するため、時々チェックシートを配布し、授業内容について記入してもらうことにする。したがって、単なる出席点は付けないので、真剣に授業に取り組んで欲しい。
----------	--

学生へのメッセージ	地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、講義内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいられるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	



科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安部 彰

**授業概要・目的**

本講義では、哲学の主要分野である倫理学（道徳の哲学）について概説する。個人として「私」は、ただ生きるのではなく、できるだけ「よく」生きたい。これは、人間の普遍的な関心だ。他方で、「私」は各々、自分らしく生きることの喜びと同時に制約の源泉でもある他人との関わりのもとで生きるをえない。これは、人間の普遍的な事実だ。倫理学の目的は、そうした切実な関心と厳然たる事実との結びつきにおいて、「よき」生を探究することにある。いいかえれば「我々」の一員でもある個々の「私」にとって「よく」生きるとはどのような生きかたなのか、そして「よく」生きるためにはどうすればいいのかを探究することにある。しかし現代においては、かかる「よき」生の探究は、困難な課題となりつつある。すなわち、高度に複雑化した人間関係や生活環境のもと、他ならぬ我々じしんが、これまで自明視してきた「よき」生の構想はなお妥当なのか、その構想をよりよいものとするにはどうすればよいのかと、真摯に問いなおしは始めている。結論からいえば、倫理学は、そうした問いに明解な答えをあたえるものではない。つまり、その答えはあくまで、我々じしんが探究をつうじて導くしかない。でもあなたは、倫理学を学ぶことで、「よき」生を探究する方法を手に入れることはできる。他者と、相手への関心や想像力を相互に深め、豊かにすることはできる。その意味で、倫理学は希望の学、みずからの居場所はじぶんたちの手でさらによりよくすることができると思える、すべてのひとのための学である。

**到達目標**

(1) 哲学の基本的知識と方法を身につけることができる。  
 (2) 人間の多様なありかたへの想像力や理解力を養うことができる。  
 (3) 現代の倫理問題について理解し考察することができる。

**授業方法と留意点**

配布プリントをもちいた「ノート講義方式」を基本とする。授業時に出す課題（コメントペーパーなど）の提出基準を充たしている者だけを成績評価の対象とする。それゆえ、継続的な授業への出席は、いわば必須である。

**科目学習の効果（資格）**

哲学を真摯に学べば、論理的で批判的な思考と豊かな感性の双方を養うことができる。それらは、さまざまな学問・職業領域において、個人や社会がかかえる問題の分析とその解決に意欲的にとり組んでいくうえで不可欠の素養・姿勢である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	倫理とはなにか（1）	規範と価値の関係 ルールの違いについて	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
3	倫理とはなにか（2）	規範の概念分析	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
4	倫理とはなにか（3）	道徳の理由	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
5	倫理とはなにか（4）	倫理的判断	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
6	倫理とはなにか（5）	倫理的ディレンマ 倫理理論	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
7	哲学プラクティス（1）	対話としての哲学	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
8	哲学プラクティス（2）	思考実験	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
9	倫理理論（1）	功利主義	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
10	倫理理論（2）	義務論	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
11	倫理理論（3）	徳倫理	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
12	現代の倫理問題（1）	生命・医療・技術（1）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
13	現代の倫理問題（2）	生命・医療・技術（2）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
14	現代の倫理問題（3）	生命・医療・技術（3）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。
15	現代の倫理問題（4）	生命・医療・技術（4）	予習：適宜指示する。 復習：講義内容をじぶんのことばでまとめなおすこと。

**関連科目** 哲学 I I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**参考書**

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 100%で評価する。			
学生への メッセージ	履修希望者は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。 本講義で扱うテーマに関心をもつ者の受講をひろく歓迎する。ただし担当者は「私語」をはじめとする他者の受講権を侵害する行為にはかなり厳格に対処するので、履修にあたってはその点くれぐれも留意すること。 本シラバスの内容（とくに授業計画）は、受講生の人数や反応によって適宜改善する場合がある。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室			
備考	参考書等は授業時に適宜紹介する。			

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐

「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれない、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。

この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では、西洋の哲学思想を学ぶことを通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、私たち自身のあり方について考察していく。

到達目標

(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。  
 (2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。  
 (3) 自らの思考を適切に伝える論理的表現力を高めること。

授業形式

授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。  
 受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。

前の回までの授業内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。

授業期間中に適宜、授業の理解度を試す小テストまたは中間レポートを実施する。

科目学習の効果(資格)

現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について 「哲学」することの意義について	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	知の探求(1)	古代ギリシアの諸思想における「知」の可能性について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
3	知の探求(2)	ソクラテスにおける「無知の知」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
4	正しさとは何か(1)	古代哲学における「正しさ」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
5	正しさとは何か(2)	近代の社会契約論における「正しさ」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
6	正しさとは何か(3)	現代正義論における「正しさ」について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
7	他者とは何か(1)	近代のドイツ哲学における他者把握の問題について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
8	他者とは何か(2)	現代フランス思想における他者論について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
9	自由とは何か(1)	カント哲学における自律としての自由について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
10	自由とは何か(2)	ヘーゲル哲学における自由の意義について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
11	社会と幸福(1)	ベンサムと J. S. ミルの功利主義思想について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
12	社会と幸福(2)	「幸福」の追求とはどのようなべきかについて	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
13	反理性と価値の創造(1)	ニーチェの思想におけるニヒリズムの意義について	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
14	反理性と価値の創造(2)	絶対的な「価値」が崩壊した時代をどう生きるべきなのかを考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し 〈復習〉授業後のノート・資料の整理

関連科目

哲学 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)

平常点(受講態度、小テスト、中間レポート)を50%、期末レポート(1600字程度)の成績を50%として総合的に評価する。

学生へのメッセージ

授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。

担当者の

非常勤講師控室

研究室等	授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp
備考	講義資料、参考資料等は授業当日に配布する。参考図書等については授業内で紹介する。



科目名	日常の謎を解く心理学	科目名(英文)	Psychology to Clear Up Everyday Mysteries
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的	「なぜ、占いを信じてしまうのか?」、「急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?」、「なぜ、あの人は第一印象が良いのか?」、「テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?」など日常には、あまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、このような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。日常生活における小さな謎を解くことで、社会科学的な問題解決方法を身につけることと知識を身につけることを目的とする。
到達目標	1)日常の中の謎を理解する。2)その謎を解く方法を見つける。3)実際に、「あるある体験」のメカニズムを解き明かしていく。
授業方法と留意点	パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。第1回授業で授業ルールなどについて説明するので必ず参加すること。毎回プリントをwebにて事前に配布する。
科目学習の効果(資格)	人間の態度および行動を記述・説明するための基本的な方法、理論を修得することで、社会科学的な学習に対する理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・心理学的な考え方	授業内容、授業方法について説明します。 心理学の分析手法	学習内容の復習
	2	人の知覚と認知①	なぜ、占いを信じてしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	3	人間の知覚と認知②	悪口はなぜよく聞こえるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	4	人間の知覚と認知③	急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	5	人間の知覚と認知④	テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	6	心理と人間関係①	なぜ、あの人は第一印象が良いのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	7	心理と人間関係②	偶然を勝手に運命を感じる時	事前資料による予習 授業内容の復習
	8	心理と人間関係③	最初は嫌いだったのに、今は好き	事前資料による予習 授業内容の復習
	9	心理と人間関係④	あばたもえくぼなのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	10	心理と人間関係⑤	落ち込んでいるときこそ、チャンス	事前資料による予習 授業内容の復習
	11	心理と対人行動①	なぜ、あの人の言うことに従ってしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	12	心理と対人行動②	あの商品が欲しくなる理由	事前資料による予習 授業内容の復習
	13	心理と対人行動③	なぜ自分の予言は当たるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
	14	心理と対人行動④	とても会いたいから会いたいのか? 会えないから会いたいのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
		まとめ	心理学的考察のまとめ	授業内容の復習

関連科目 各学部で開講されている「心理学Ⅰ」や「人間力と心理」と関連する。事前に基礎的な心理学を受けておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験(100%)の結果で評価します。60%で合格とする。

学生へのメッセージ 日常生活の中にはあまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、そのような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。

担当者の研究室等 11号館7階 牧野(幸)准教授室

備考 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ・携帯電話の使用など)をすべて禁止します。

教養科目

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題をを通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	日本国憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	2	日本国憲法とは2	日本国憲法の基本原理、民主主義の原理、平和主義の原理(第9条)について説明します。	事前に教科書19頁、217から229頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	3	基本的人権の保障1	人権歴史、人権の分類、人権の限界について説明します。	事前に教科書21頁から27頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	4	基本的人権の保障2	人権の享有主体、人権規定の私人間効力について説明します。	事前に教科書27頁から48頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	5	基本的人権の保障3	幸福追求権と法の下での平等について説明します。	事前に教科書49頁から70頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	6	基本的人権の保障4	信教の自由と政教分離について説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	7	基本的人権の保障5	表現の自由の保障とその限界について説明します。	事前に教科書83頁から94頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	8	基本的人権の保障6	表現活動の規制(検閲と事前抑制)について説明します。	事前に教科書95頁から104頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	9	基本的人権の保障7	職業選択の自由とその規制を中心に経済的自由権について説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	10	基本的人権の保障8	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	11	基本的人権の保障9	刑罰、刑事手続と憲法について説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	12	統治機構1	立法の委任を中心に国会と立法権について説明します。	事前に161頁から172頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	13	統治機構2	議院内閣制、内閣の組織と権能について説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	14	統治機構3	司法権、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
	15	統治機構4	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書207頁から216頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学(第3版)	中村睦男、岩本一郎、大島佳代子、木下和朗、齊藤正彰、佐々木雅寿、寺島壽一	三省堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(60%)、小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
----------	---

学生へのメッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
-----------	---------------------

担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯 智広

授業概要・目的 自国の文化や海外の文化を理解するためには、まず私達たち自身の歴史を知り、文化の起り・移り変わり・成り立ち・特色について考えることが欠かせません。この講義では、そのための歴史の基礎知識を学んでいきます。対象は古代から現代までの全時代です。

到達目標 1. 日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識を身に付ける。  
2. 観光資源としての史跡や、それに関わる歴史についての知識を身に付ける。  
3. 上の2点について、正しく説明できる能力を身に付ける。

授業方法と留意点 板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考図書は講義内で適宜示します。

科目学習の効果(資格) 日本文化の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身に付けることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 歴史と文化の接点	歴史と文化との関わり全般について概観します。	なし
2	飛鳥時代 一仏教伝来一	飛鳥時代の文化について学びます。	予習として、「聖徳太子」という人物について辞書的な経歴を調べる。
3	奈良時代 一仏教興隆一	奈良時代の文化について学びます。	予習として、「鎮護国家」という語について辞書的な意味を調べる。
4	平安時代前期 一仏教再編一	平安時代前期の文化について学びます。	予習として、「密教」という語について辞書的な意味を調べる。
5	平安時代中期 一消化と吸収一	平安時代中期の文化について学びます。	予習として、「念仏」という語について辞書的な意味を調べる。
6	平安時代後期・鎌倉時代前期 一地方への拡大一	平安時代後期・鎌倉時代前期の文化について学びます。	予習として、「武士」という語について辞書的な意味を調べる。
7	鎌倉時代後期 一異端の力一	鎌倉時代後期の文化について学びます。	予習として、「鎌倉新仏教」という語について辞書的な意味を調べる。
8	南北朝時代・室町時代 一京都への回帰一	南北朝時代・室町時代の文化について学びます。	予習として、「南北朝」という語について辞書的な意味を調べる。
9	戦国時代・安土桃山時代 一力と平和一	戦国時代・安土桃山時代の文化について学びます。	予習として、「小京都」という語について辞書的な意味を調べる。
10	江戸時代前期・中期 一天下泰平一	江戸時代前期・中期の文化について学びます。	予習として、「鎖国」という語について辞書的な意味を調べる。
11	江戸時代後期・末期 一世界的激動の中の一	江戸時代後期・末期の文化について学びます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。
12	明治時代 一西洋文明との出会い一	明治時代の文化について学びます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。
13	大正時代・戦前 一植民地時代の光と影一	大正時代・戦前の文化について学びます。	予習として、「モダニズム」という語について辞書的な意味を調べる。
14	戦後 一高度経済成長と現代一	戦後の文化について学びます。	予習として、「高度経済成長」という語について辞書的な意味を調べる。
15	冠婚葬祭にまつわるエトセトラ	冠婚葬祭にまつわる文化について学びます。	予習として、「冠婚葬祭」という語について辞書的な意味を調べる。

関連科目 ありません。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 予習シート30%、定期試験70%

学生へのメッセージ 教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゅうくつな枠組みはありません。ただ過去の歴史を追うのではなく、現在に残る遺跡・遺物・建築・美術工芸品などを紹介したり、歴史を題材にした文学作品・マンガを取り上げたりしながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 教科書はありません。参考書は講義内で適宜紹介します。

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</li> <li>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧みな儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</li> <li>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</li> <li>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</li> <li>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」の刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</li> <li>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被害者」概念について説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の支援制度について理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</li> <li>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・「加害者」の法的責任</li> <li>・「加害者」と「犯罪者」</li> <li>・「被害者」の意義</li> <li>・「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「犯罪者」の刑事責任</li> <li>・刑罰の正当化根拠</li> <li>・厳罰化をめぐる諸問題</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告訴と告発の方法</li> <li>・証拠保全</li> <li>・犯罪被害者に対するメディアスクラム</li> <li>・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット)</li> <li>・被害者連絡制度</li> <li>・被害者側からの問い合わせ</li> <li>・被害者からの事情聴取</li> <li>・警察と検察によるカウンセリング体制</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・示談の意義</li> <li>・示談が与える影響</li> <li>・示談慰謝料の算定</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検察審査会</li> <li>・検察審査員</li> <li>・審査申立手続</li> <li>・検察審査会と被害者</li> <li>・起訴議決制度</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者による裁判傍聴</li> <li>・被害者による記録の閲覧と謄写</li> <li>・被害者の意見陳述</li> <li>・被害者等特定事項の非公開</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象犯罪</li> <li>・被害者に認められる行為</li> <li>・参加の申出と参加時期</li> <li>・公判前整理手続への参加</li> <li>・被害者の証人尋問</li> <li>被告人質問と意見陳述</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	小テスト	第7回目までの理解度確認	事前: 前回までの復習 事後: わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の趣旨</li> <li>・対象犯罪</li> <li>・遺族による申立</li> <li>・請求対象とその範囲</li> <li>・管轄裁判所と申立期間</li> </ul>	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加害者の施設内処遇と社会内処遇</li> <li>・加害者の仮釈放</li> <li>・犯罪被害者への経済支援制度</li> <li>・受給資格</li> <li>・支給要件と支給額</li> <li>・不服申立</li> </ul>	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪被害者救護基金</li> <li>・交通事故犯罪</li> <li>・犯罪による精神被害</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年法と犯罪被害者救済</li> <li>・少年事件における記録閲覧</li> <li>・少年審判の傍聴</li> <li>・少年事件での意見陳述</li> <li>・少年とその親に対する損害賠償</li> <li>・少年法と犯罪被害者救済</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVとは何か</li> <li>・配偶者による犯罪</li> <li>・DV被害者の保護と支援</li> <li>・保護命令</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆる「ストーカー規制法」の概要</li> <li>・ストーカーへの行政処分</li> <li>・ストーカー犯罪の類型</li> <li>・ストーカーへの対応策</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	修復的司法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修復的司法の意義</li> <li>・わが国における修復的司法の展望</li> </ul>	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時までに指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時までに指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時までに指示する																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深めることができる。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深めることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる
	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
	4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる
	5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる
	6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
	7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
	8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
	9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる
	12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
	13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	15	武道論総括（テスト）	1 4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館
	2	武道を知る	田中 守/藤堂 良明/東 憲一/村田 直樹	不昧堂
	3			

評価方法（基準）	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう） 武道論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）
----------	---

学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	総合体育館1F横山講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿を撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学修	事後学修
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義	・事前学修：プレゼンテーションの意味を考える。	・事後学修：初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修：漢字一文字表現を練習する。	・事後学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間の要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。	・事後学修：コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修：プレゼンテーションの基本は何かを考える。	・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修：初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。	・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修：自己紹介プレゼンを修正する。	・事後学修：評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修：評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。	・事後学修：自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修：修正した自己紹介プレゼンをさら練習する。	・事後学修：グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修：評価表作成を行う。	・事後学修：グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修：評価表を完成させる。	・事後学修：フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。	・事後学修：紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。	・事後学修：作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修：紹介プレゼンを完成させる。	・事後学修：個人プレゼンを完成させる。
14	フィードアフォード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修：個人プレゼンを完成させる。	・事後学修：個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレゼンテーションZEN 第2版	ガー・レイノルズ	丸善出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の60%で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有

授業概要・目的  
人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。

到達目標  
・人類学がどのような学問であるかを理解すること。  
・人類学誕生以来の学史的な展開、流れを理解すること。

授業方法と留意点  
講義

科目学習の効果 (資格)  
異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念、方法論について概説する。	特になし
2	人類学の誕生 (1) : 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化論人類学へという変化をおおしていわゆる人類学の誕生をあとづける。	特になし
3	人類学の誕生 (2) : 進化論人類学	タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化論人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
4	機能主義人類学 (1) : マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
5	機能主義人類学 (2) : 有機的全体としての社会	前回の続き	特になし
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1) :	フランツ・ポアズの研究を概説する。	特になし
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き	特になし
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き	特になし
10	構造主義 (1)	モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
11	構造主義 (2)	前回の続き	特になし
12	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
13	解釈人類学 (2)	前回の続き	特になし
14	文化を書く	80年代以降のポストモダン人類学について概説する。	特になし
15	ポスト・ポストモダン人類学と文化の行方	これまでの議論のまとめと総括を行う。	特になし

関連科目  
特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
100%試験によって評価する。  
評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。

学生へのメッセージ  
情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。

担当者の研究室等  
なし

備考

教養科目

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。																																																																		
到達目標	①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	講義方式を採ります。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を随時配付します。																																																																		
科目学習の効果(資格)	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。 また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とは何か</td> <td>法規範と道徳の違い、法源とは何かなど</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法の解釈</td> <td>法令解釈の基本</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国家と法</td> <td>国家と憲法、国民主権、三権分立</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>平和と法</td> <td>平和主義</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人権と法(Ⅰ)</td> <td>基本的人権の保障(自由権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人権と法(Ⅱ)</td> <td>基本的人権の保障(社会権)</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>政治と法</td> <td>統治機構</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国と地方</td> <td>地方自治</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>財産と法</td> <td>所有権の絶対性</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>契約と法(Ⅰ)</td> <td>契約自由の原則</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>契約と法(Ⅱ)</td> <td>契約各論</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>家族と法</td> <td>結婚と離婚、相続</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>犯罪と法</td> <td>罪刑法定主義</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>行政と法</td> <td>行政の仕組みと行政行為</td> <td>随時資料を配付する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>紛争解決と法 まとめ</td> <td>争訟制度 授業全体のまとめ</td> <td>配付資料を復習しておいてください。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する	2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する	3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する	4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する	5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する	6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する	7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する	8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する	9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する	10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する	11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する	12	家族と法	結婚と離婚、相続	随時資料を配付する	13	犯罪と法	罪刑法定主義	随時資料を配付する	14	行政と法	行政の仕組みと行政行為	随時資料を配付する	15	紛争解決と法 まとめ	争訟制度 授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	随時資料を配付する																																																																
2	法の解釈	法令解釈の基本	随時資料を配付する																																																																
3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	随時資料を配付する																																																																
4	平和と法	平和主義	随時資料を配付する																																																																
5	人権と法(Ⅰ)	基本的人権の保障(自由権)	随時資料を配付する																																																																
6	人権と法(Ⅱ)	基本的人権の保障(社会権)	随時資料を配付する																																																																
7	政治と法	統治機構	随時資料を配付する																																																																
8	国と地方	地方自治	随時資料を配付する																																																																
9	財産と法	所有権の絶対性	随時資料を配付する																																																																
10	契約と法(Ⅰ)	契約自由の原則	随時資料を配付する																																																																
11	契約と法(Ⅱ)	契約各論	随時資料を配付する																																																																
12	家族と法	結婚と離婚、相続	随時資料を配付する																																																																
13	犯罪と法	罪刑法定主義	随時資料を配付する																																																																
14	行政と法	行政の仕組みと行政行為	随時資料を配付する																																																																
15	紛争解決と法 まとめ	争訟制度 授業全体のまとめ	配付資料を復習しておいてください。																																																																
関連科目	憲法、民法、刑法など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験の結果で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島研究室																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的  
この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。  
学科の学習・教育目標との対応：[II]

到達目標  
マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。

授業方法と留意点  
講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。

科目学習の効果(資格)  
マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目  
マーケティング論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入体制の変遷—	武居奈緒子	千倉書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ—越後屋から三井財閥—	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法(基準)  
期末テストの成績 70%、授業内課題 30%

学生へのメッセージ  
授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。

担当者の研究室等  
武居教授室

備考

教養科目

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえらると思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考																				

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、2~6回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	開講にあたって<検討中> 4月7日(木)	講義の受け方、報告書やプレゼン等の成果公表の基礎知識、重要性を習得する	開講にあたっての講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
2	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月14日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月21日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
4	企業・製造業・仕事の基本とは③ 5月28日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月12日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月26日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
8	品質教育② 6月2日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	品質教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月9日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6月16日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6月23日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 6月30日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7月7日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育③ 7月14日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7月21日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%とした総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、高岡清			



科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化の中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ばせ、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。2, 3回、スカイプにより現地の人とのコミュニケーションを行う。授業日によっては「ものづくり系」と「サステイナブル(開発・建築・デザイン)系」が分かれて実習を行う。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目: ものづくり海外インターンシップ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本企業が欲しが「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
3	さす!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法(基準): 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ: これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等: 1号館4階 川野教授室  
12号館7階 白鳥准教授室

備考: 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度  
【共同担当者】 諏訪教授, 白鳥准教授, 石田准教授, 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平

教養科目

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。  学科の学習・教育到達目標との対応：[II]																
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップIIの準備 7/9(木) 6限目</li> <li>・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目</li> </ul> <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1~3日目</li> <li>【授業テーマ】 生産革新演習</li> <li>【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと</li> <li>・4~5日目</li> <li>【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習</li> <li>【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計~生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと</li> <li>・6日目</li> <li>【授業テーマ】 工場見学</li> <li>【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場)</li> <li>【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと</li> <li>・7日目</li> <li>【授業テーマ】 研修成果報告会</li> <li>【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位)</li> <li>【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと</li> </ul> <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月3日(土) 1~4限目 プレゼンテーション指導</li> </ul> <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 体験報告書の添削指導</li> <li>・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・4回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・5回目 研修成果報告会(2回目)</li> <li>・6回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑</li> <li>・7回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</li> </ul>																
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習成果40%、研修成果報告会(2回)20%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、実習・授業態度20%とした総合評価を行なう。																
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																

担当者の 研究室等	奥野教授室 (1号館4階)
備考	<p>期間：2016年8月29日(月)～9月2日(金)、9月5日(月)～9月6日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月3日(土)には撰大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p><b>【事前事後学習】</b> レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p><b>【担当者】</b> パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系）、または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																		
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																		
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン2箇所とタイ1箇所（合計3箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門、または建築・デザイン部門。（グループ演習） 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習、または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル</td> <td>内永ゆか子</td> <td>朝日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の英会話伝わるフレーズ集</td> <td>ニック・ウィリアムソン</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版</td> <td>高橋書店編集部</td> <td>高橋書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版																
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社																
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店																
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%）、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2回）15%として評価を行う。																		
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																		
担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室、諏訪教授室 1号館3階 伊藤教授室、石田准教授室 12号館7階 白鳥准教授室																		
備考	【注意事項】研修予定期間：2016年8月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20時間程度 【共同担当者】伊藤教授、石田准教授、諏訪教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員																		

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会では「明日を創っていく」のですから、そこに決まり切った正解はありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかありません。</p> <p>自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資に関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けることです。</p>
到達目標	<p>実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義は、教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。          ② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。          ③ 更に、それらを統合的に活用する能力(=金融インテリジェンス)を、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P4~15> ・私たちの暮らしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P38~49> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~29> ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P147~149・152~159> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト<P74~81・150~152・159~161> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P82~91> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P92~98> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~37・50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P118~129> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品(債券他)」	テキスト<P111~118> ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P99~111> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト<P130~146> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P54~63> ・ライフプランニング

	14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト<P64～73> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題																
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』 ISBN：978-4-907341-00-8 (必須。授業では毎回の教科書を使用しますので、必ず購入してください。)</td> <td></td> <td>金融知力普及協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』 ISBN：978-4-907341-00-8 (必須。授業では毎回の教科書を使用しますので、必ず購入してください。)		金融知力普及協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』 ISBN：978-4-907341-00-8 (必須。授業では毎回の教科書を使用しますので、必ず購入してください。)		金融知力普及協会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験 : 20% (知識の正確性を評価します。)</li> <li>・ 課題レポート : 50% (自分で考え、問題解決する能力を評価します。)</li> <li>・ 平常点 : 30% (全体の受講状況と受講態度、質疑応答などを評価します。「出席点」ではありません。)</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<p>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。</li> <li>② 最終回までに表計算ソフト「エクセル」で出題されるレポートの必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。</li> </ol>																			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。</li> <li>・「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む): 30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する): 30分程度</li> <li>・当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。 私語が多い者、授業の妨げとなる者は容赦なく退席させる。</li> </ul>																			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解

授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
----------	--------------------------------

科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。
-------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
	3	神経生物学(松川)	生命はどのようにして出現したのか、そしてそもそも生命とは何か考えてみよう。	講義後に小論文を課す。
	4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
	7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
	8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関わりについて解説する。	課題レポートを課す。
	10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
	15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学I、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等備考	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員)
------------	-----------------------------





# キャリア形成科目





科目名	インターンシップ基礎	科目名(英文)	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	授業概要：キャリアデザインの授業内容を基礎に、さらに自己理解や社会に対する見識を深めるためのキャリア形成科目です。 目的：企業の仕事現場や仕事に関連するミュージアムなどを見学（取材）することで仕事や社会に対する理解を深める。
到達目標	前期のキャリアデザインで学んだ自己理解をさらに深め、グループワークなどを通じて自ら発信できるコミュニケーション能力を高め、コンセンサスが取れる能力を養う。 先輩のインターンシップ体験について学ぶことで、社会に対する見聞をさらに広め、職業観を養う。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的・自律的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れている。
科目学習の効果(資格)	「ビジネスインターンシップⅡ」の就業体験を有意義に行うための基礎的な考え方や社会の理解を深めるのに役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【9月13日】	・授業ガイダンス ・インターンシップとは	予習：インターンシップの意味を調べてください。 (安久、高尾)
2	SPI 試験対策 【9月20日】	・SPI 模擬試験	予習：SPI 試験の問題集などで事前に対策をしておいてください。 (安久、高尾)
3	目標設定と自己理解 【9月27日】	・前期の振り返りと新たな目標設定、「PDCA」の確認 ・アピールポイントを考えることで自己理解を深める	予習：前期で設定した目標を見直し、新たな目標を考えてください。 (安久、高尾)
4	コミュニケーション① 【10月4日】	・コミュニケーションの目的 ・「傾聴」とは	予習：「傾聴」の意味を調べてください。 (安久、高尾)
5	経営学部で有利な資格等を考える 【10月18日】	・資格の解説と対策講座の紹介 ・SPI 模擬試験結果の解説	予習：自分が興味を持っている分野の仕事に役立つ資格が何があるかを考えてください。 (安久、高尾)
6	コミュニケーション② 【10月25日】	・第一印象について再確認 ・「伝え方」について考える	予習：相手に話をきちんと聞いてもらうためには、どんな点に配慮したらいいかを考えてください。 (安久、高尾)
7	コミュニケーション③ 【11月1日】	・「ロジックシンキング」とは ・「三角ロジック」とは	予習：「ロジックシンキング」の意味と、なぜ大切だと言われるのかを考えてください。 (安久、高尾)
8	コミュニケーション④ 【11月8日】	・グループごとのコンセンサストレーニング	予習：チームでコンセンサス（合意形成）を図るためには、どんなこと配慮しないといけないかを考えてください。 (安久、高尾)
9	社会人基礎力① 【11月15日】	・社会人基礎力診断の実施 ・目標達成意欲度診断の実施	予習：「社会人基礎力」について調べてください。 (安久、高尾)
10	社会人基礎力② 【11月22日】	・社会人基礎力診断の実施 ・目標達成意欲度診断の実施	予習：自分にとって「社会人基礎力」のどの部分が足りないのかを考えてください。 (安久、高尾)
11	自己分析 【11月29日】	・自分自身の振り返り ・心の中にいる5人の私について考える	予習：自分の行動の癖（特性）を一言でいうと、どんなタイプなのかを考えてください。 (安久、高尾)
12	インターンシップ体験をした先輩に学ぶ 【12月6日】	・インターンシップを体験した先輩の報告（予定）	予習：インターンシップで何を学びたいかを考えてください。 (安久、高尾)
13	履歴書の書き方を学ぶ 【12月13日】	・履歴書の書き方のポイントを学ぶ ・自分の履歴書を書いてみる	予習：履歴書を見る立場になって、どんな点を注意してみるか（ポイント3つ）を考えてください。 (安久、高尾)
14	会社や見学（取材）先を探そう① 【12月20日】	・グループや個人で見学（取材）先を探してみよう ・見学（取材）計画を立てよう	予習：「工場見学」（昭文社）などの書籍から自分が見学したい事業所などをリストアップしてください。 (安久、高尾)
15	会社や見学（取材）先を探そう② 【1月10日】	・見学（取材）計画のまとめ ・見学（取材）計画書の提出	予習：電話でのアポの取り方などを考えてください。 (安久、高尾)

キャリア形成科目

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリアデザイン（前期）」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているため、通年受講することが望ましい。</li> <li>・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。</li> <li>・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。</li> </ul>																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>キャリアデザイン</td> <td>安久典宏、羽石寛寿</td> <td>清風出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版	2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	原則、講義レポートの内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、講義レポートや提出物で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。</li> <li>・グループワークを取り入れます積極的に参画し発言してください。</li> <li>・グループ学習などでは、他人に迷惑を（遅刻・欠席）をかけないように。</li> <li>・企業見学等は、授業終了後の補講・特別教育機関の間に実施予定です。</li> <li>・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	11号館8階 安久研究室																			
備考	※補講・特別教育期間中<1月17日（火）～23日（月）>に見学（取材）予定。計画書をもとに、各自行動すること。																			

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment design I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマに沿って本学の教職員から多様な生き方を聴く。大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることを、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかがかわることについて考える契機となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
	2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～「自分スイッチ」をつける チャンスは摂南大学にある ～（担当：地域連携センター 係長 古屋豊吾）	みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義を振り返る
	3	学生生活② 漢字が教えてくれること ～古代人からわたしたちへの メッセージ（担当：外国語 部 教授 中西正樹）	漢字には3000年前の人々の物の見方や宗教、社会、戦争などのありさまが刻み込まれている。漢字の成り立ちを通して現代を生きる私たちに必要不可欠な知恵や教訓を見つけ出す。	・講義を振り返る
	4	学生生活③ 社会に出て働くために（担 当：校方事務室 酒井俊輔）	社会人として働く前にやるべきこと、やっておいて欲しいことはどんなことか？自身の大学時代や一般企業での経験などをもとにお話しします。	・講義を振り返る
	5	学生生活④ 講義の中間まとめ（担当：キ ャリア教育推進室）	・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
	6	学修① 大学生活における学習への 動機づけ（担当：経営学部 准 教授 牧野幸志）	大学での学習における様々な動機づけについて考える 機会を提供する。大学の勉強とは？どこの席に座っている人が成績は良いのか？やる気はあるのか？など。また、どのように学習が大学では効率的かを心理学的に解説する。	・講義を振り返る
	7	学修② チャンスだらけの摂南大学- 学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部 准教授 久保貞也）	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち(事例紹介) (2) チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
	8	学修③ 基礎科学における大学院進 学と研究職への道（担当：理 工学部 准教授 東武大）	本講義では基礎科学分野での大学院での研究の在り方、及びポストク問題（OD問題）等、研究職に就くまでの様々な現実について解説します。	・講義を振り返る
	9	学修④ 講義の中間まとめ（担当 キ ャリア教育推進室）	・第6回から8回までの講義のまとめ ・第1回「学生生活」レポートからの反省と第2回レポートに向けて	・講義を振り返る ・第2回「学修」に関するレポート締切
	10	キャリアパス① 海外駐在員の仕事及び生活 （担当：経済学部 学部長 教授 久保廣正）	観光・短期留学で一時的に滞在する場合と異なり、海外駐在、それも家族を同伴する駐在の場合、数多くの課題に直面します。ある企業の駐在員として5年間、ロンドンに滞在した経験を紹介し、大学での学びを振り返ります。	・講義を振り返る
	11	キャリアパス② 危機感や劣等感を駆動力に 変える（担当：外国語学部 教 授 松田早恵）	自分の“marketability”を上げるために何ができるか考えてみましょう。	・講義を振り返る
	12	キャリアパス③ 会社人生を楽しく生き抜く には？	企業での勤務体験を元に、それぞれの年代で必要となる知識や態度と、それを獲得するために大学で経験しておくべき事等について紹介します。	・講義を振り返る
	13	キャリアパス④ 「私のキャリア」 キャリア アップを考える（担当：経済 学部 教授 持永政人）	企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義を振り返る
14	キャリアパス① 法律とスポーツと将来の職 （担当：法学部 准教授 石 井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくいですが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る	

	15	講義のまとめ (担当: キャリア教育推進室)	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザイン I の振り返り ・まとめのレポート書き方指導	・講義を振り返る ・講義のまとめのレポート
関連科目	キャリアデザイン I ・ キャリアデザイン II ・ エンプロイメントデザイン II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のミニッツペーパー (15%)、グループワーク (15%)、グループ課題 (10%)、レポート 3 回 (60%)、を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活 4 年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 (荻田) 7 号館 5 階 (石井) 7 号館 3 階 (水野)			
備考	教科書: 各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書: 各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment design II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となり、社会人としての真摯な態度での話の聴き方やメモを取り、積極的に質問をする習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(キャリア教育推進室)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・講義の感想を提出
2	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/管理職)	企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします	・講義の感想を提出
3	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・講義の感想を提出
4	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・講義の感想を提出
5	企業人の私が経験した摂大 OB としての歩み方(摂南大学 OB・メーカー/営業管理職)	キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒 OB といえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
6	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVD の上映も行います。	・講義の感想を提出
7	銀行の業務と役割について(銀行員)	銀行の業務とその社会的役割及び銀行員のキャリアについてお話しします	・講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる!?(摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講義の中間まとめ ・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	情報サービス業の現状と展望(IT/人材育成)	仕事や生活のあらゆる場面で利用されている IT。文理問わず募集している理由や仕事内容、また将来に向けた課題をお話しします。	・中間レポートを提出 ・講義の感想を提出
10	これから～自分の将来像について考える～(摂大 OB/警備会社人事)	「どのような人生をどのように歩んでいきたいか」を、就職についての話を踏まえながら、学生のみなさんにも考えてもらいます。	・講義の感想を提出
11	業界の見極め方と就職活動に向けた心構え(商社 人事)	知っている会社と知らない会社の違いを分析し、世の中の仕組みについて考えます。社会の求める人材像を目指し、学生生活で身につけるべきスキルを紹介。就職活動に向けた心構えを伝授します。	・講義の感想を提出
12	高校教師の仕事(高校教師)	高校の教師の仕事についてお話しします。	・講義の感想を提出
13	信用金庫の歴史と社会的使命(金融/人財開発)	信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・講義の感想を提出
14	今求められる公務員像(摂南大学 OB/市役所職員)	安定・厚遇という言葉だけが独り歩きする職業としての公務員。経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・最終レポートを提出

関連科目: キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

キャリア形成科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (70%) を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教務部 キャリア教育推進室 (7号館5階/石井、7号館3階/水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			



科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安久 典宏

授業概要・目的	4年間のキャンパス・ライフを有意義に送るための大学生活導入教育です。充実した大学生活が過ごせるかどうかは、入学当初の勉学態度にかかっています。そのため「キャリアデザイン」は、必修科目となっています。
到達目標	この講義を通して、 ①主体的に行動するための自己理解を深める。 ②コミュニケーションについて、理解を深める。 ③社会(企業)の変革に対して、自分のワーキングスタイルを今後どう考えるかの理解を深める。 ④大学生活およびライフプラン設計ができるようになる。 を講義の到達目標とします。
授業方法と留意点	教師からの一方的な講義ではなく、学生自身による主体的な参画方式の授業のため、レポートや発表を多く取り入れます。
科目学習の効果(資格)	将来の目標を設定するための情報収集や、目標達成に向けた具体的な行動が起らせるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	キャリア関連科目がなぜ大切なのか 【4月19日】	・「キャリアデザイン」がなぜ必修科目なのかを考える ・経営学部で取得可能な資格について学ぶ	大学に進学して、何がしたいかを整理し、300字程度にまとめてきてください  (安久・高尾担当)
3	大学4年間で何をするか① 【4月26日】	・4年間の目標と計画作りの立て方(PDCA) ・講義の到達目標と各自の目標設定	4年間での3大目標を決め、その目標と理由を300字程度にまとめてきてください  (安久・高尾担当)
4	大学4年間で何をするか② 【5月10日】	・4年間の目標と計画作り	学年ごとの目標を具体的に考えてきてください  (安久・高尾担当)
5	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう① 【5月17日】	・行動と気づきの大切さを学ぶ ・目標達成意欲度診断の実施	今までに、やる気があった時とそうでなかった時のことをメモし、持参ください  (安久・高尾担当)
6	「やる気グラフ」から自分を振りかえろう② 【5月24日】	・自分の過去を振りかえり、自分のアピール材料を探す ・自己PRワークをおこなう	アルバムなどを見て、自分の過去の出来事を思い出しておいてください  (安久・高尾担当)
7	自分発見マップ作り① 【5月31日】	・大学生の過ごし方と将来の目標や夢について、グループワークを通じ発見、確認をする	自分の将来の夢や目標について、考えてきてください  (安久・高尾担当)
8	自分発見マップ作り② 【6月7日】	・自分発見マップのレイアウトと内容を整理	カードに書き出した内容以外にもエピソードを考えてきてください  (安久・高尾担当)
9	自分発見マップ作り③ 【6月14日】	・自分の将来像を一枚の絵にまとめる	自分発見マップのワークから見えてきた夢などを整理しながら、一枚の絵を通してどのように表現するかを考えてきてください  (安久・高尾担当)
10	コミュニケーションとは① 【6月21日】	・コミュニケーションについて再考する ・正確に伝え聞くためのコミュニケーションとは	コミュニケーションの意味について考えてきてください  (安久・高尾担当)
11	コミュニケーションとは② 【6月28日】	・コミュニケーションワーク	ノンバーバルスキルの意味を調べてきてください  (安久・高尾担当)
12	SPI試験対策 【7月5日】	・SPI模擬試験	SPI試験の問題などで事前に対策をしておいてください  (安久・高尾担当)
13	ワーキングスタイルについて考える① 【7月12日】	・行動適応診断の実施 ・自己発見リファインシートの作成	周り人から自分はどのような行動の特徴があるかを確認しておいてください  (安久・高尾担当)
14	ワーキングスタイルについて考える② 【7月19日】	・日本企業の雇用形態の変化について ・正社員とフリータ、ニートについて考える ・SPI模擬試験結果の解説	働き方の形態について調べてきてください SPI試験結果を参考に、後期にある2度目の試験に向けて対策をしておいてください。  (安久・高尾担当)
15	振り返りと新たな目標設定 【7月26日】	・モチベーション理論 ・キャリアスタイル診断の実施 ・これまでの振り返りと新たな目標を設定する	最初に設定した目標がどれだけ実現できたか調べてきてください  (安久・高尾担当)

キャリア形成科目

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリアデザイン（前期）」と「インターンシップ基礎（後期）」は通年でカリキュラム構成しているため、2科目履修することが望ましい。</li> <li>・「ベンチャービジネス論」の講義は関連が深く、受講しておくことが社会に対する理解を深めることに役立ちます。</li> <li>・インターンシップの就業体験を希望する者は、「インターンシップ基礎」を履修（合格）しておくことが望ましい。</li> </ul>			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザイン	安久典宏、羽石寛寿	清風出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則、講義レポートおよび提出課題の内容（50%）と定期期末試験結果（50%）で評価します。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、講義レポートや提出物等で授業の習熟度の確認をします。欠席をしないように。</li> <li>・グループ学習などでは、他人に迷惑（遅刻・欠席）をかけないように。</li> <li>・大学生活のスタートとして重要な科目ですので必修となっています。</li> <li>・授業の進捗状況で一部内容や進め方を変更することがあります。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	11号館8階 安久研究室			
備考				

科目名	キャリアプラン	科目名 (英文)	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	本講義は、就職部主催の「就職ガイダンス」と連携した講義になっており、就職活動に関する知識と実践技法も学ぶことができる。学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考える。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	就職部主催の全4回の「就職ガイダンス」と連携した講義であり、全23回の変則的な講義になっているため、実施日に注意を払うこと。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	4月22日 就職ガイダンス①	就職ガイダンス① ①現在の就職状況 ②就活スケジュール ③自己理解の大切さ	ガイダンス配布資料を熟読すること
3	5月13日 自分を知る①	・何故自己理解が必要なかを理解する  ・自分の未来を描く	自分の将来について考えること。
4	5月27日 就職ガイダンス②	就職ガイダンス② ①自己理解の進め方 ②仕事とのマッチング方法 ③適性検査を基にして解説	ガイダンス配布資料を熟読すること。
5	6月10日 自分を知る②	・現時点での自分の長所を知り、卒業後の社会への活かし方を考える	自分の活かし方について考えること。
6	6月17日 就職ガイダンス③	就職ガイダンス③ ①業界・企業研究の方法 ②インターンシップへの促進	ガイダンス配布資料を熟読する事
7	6月24日 社会を知る①	・成長企業のキーワード ・聴き手に共感される志望動機を考える	配布資料を熟読すること。
8	7月1日 社会を知る②	・一般消費者にはとっては知名度が高く ないが活躍している企業があることを知る	興味のある会社を研究すること。
9	7月8日 自分を伝える①	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する ・実際に自己PRを書いてみる	エントリーシート作成のポイントを復習すること。
10	7月15日 自分を伝える②	・学生生活での経験を振り返る ・自分が大事にしている事は何かを考える ・自分の特性を社会にどう活かすかを考える	エントリーシート作成のポイントを復習すること。
11	7月22日 前期の講義の振り返り	・前期の振り返り ・時事問題の大切さを知る。	夏休みの目標を立てること。 新聞の経済・社会面に目を通す習慣をつけること。
12	9月23日 後期のオリエンテーション	・後期のオリエンテーション ・夏休みの振り返り	夏休みを振り返ること。 課題提出（自己PR・学生時代に力を入れたことをそれぞれ400文字で書いて提出、提出先の指示あり）。
13	9月30日 就職ガイダンス④	就職ガイダンス④ ・大学指定履歴書作成方法と宿題渡し	ガイダンス配布資料を熟読すること。
14	10月14日 社会を知る③	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	自分にとっていい会社とは何かを考える。
15	10月21日 自分を知る③	・志望動機を考える  ・自分と仕事を結びつける	現時点での志望企業向けの志望動機を書いてみること。 模擬面接の準備をしておくこと。 自分に合った仕事について考えること。
16	10月28日 グループでのコミュニケーション①	クラスを分割してグループディスカッション① ・GDとは何か、何を見られているか等を知る	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
17	11月4日 グループでのコミュニケーション②	・クラスを分割してグループディスカッション②	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
18	11月11日 グループでのコミュニケーション③	・クラスを分割してグループディスカッション③	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
19	11月18日 面接における対人コミュニケーション①	・面接における対人コミュニケーションについて考える	配布資料を熟読すること。
20	11月25日 面接における対人コミュニケーション②	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。

キャリア形成科目

	21	12月2日 面接における対人コミュニケーション③	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。
	22	12月9日 成果を上げるための行動計画	・行動計画を立案する ・学生の行動事例の紹介 ・講義の振り返り	就職活動までの行動計画を立てること。
	23	12月16日 就職ガイダンス⑤	・就職活動開始に向けた総括と宿題（自己理解、業界・企業研究、SPI 対策等）の指示	ガイダンス配布資料を熟読すること。
関連科目	インターンシップⅠ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、ビジネスマナーⅠ、就職実践基礎、コミュニケーション能力開発			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の講義での提出物(30%)、個別の課題(10%) 期末レポート(40%)、授業への参加度(20%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの将来のことを一緒に考えましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 石井研究室 7号館3階 水野研究室 11号館8階 安久研究室 就職部			
備考	参考文献・書籍などは必要に応じて定義提示する。			

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名(英文)	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠

**授業概要・目的**  
就職活動時の筆記試験対策（言語、一般常識）について学びながら、社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴く4技能は社会に必要なスキルですが、すぐに身に付くことはできません。この授業では毎回、話す、聴く練習をしながら、就職活動に必要な一般常識や言語の知識について学びます。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はありません。講座を通して社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。

**到達目標**

**授業方法と留意点**  
一般常識、言語に関しては小テストで自分の理解を確認しながら、言語の基礎を学びます。  
また、授業を通してコミュニケーションスキルを養います。  
グループワークや読み書きの体験を中心とした実践型の授業ですので、積極的な姿勢で参加してください。

**科目学習の効果(資格)**  
就職活動に必要な言語の知識とコミュニケーション能力を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは？	コミュニケーションとは？ なぜ、コミュニケーションが必要なのか？	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	聞く技術、話す技術について基本的な方法を学びます。	前週に配布する”2語の関係①”をしっかりと復習してきてください。
3	企業について知る(時事)	就職サイトの求人情報を参考に、企業の情報や仕事内容の見方を知り、時事との関連を考えます。	前週に配布する”2語の関係②”をしっかりと復習してきてください。
4	グループディスカッション基礎	グループディスカッションの上手な進め方、役割を知ります。また、実際に体験します。	前週に配布する”語句の用法①”をしっかりと復習してきてください。
5	ビジネスと経済+GD 体験①	企業のお金の流れと、経済の仕組みについて学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
6	ビジネスと法律+GD 体験②	企業活動と法律について学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
7	長文読解と書く技術	ロジカルシンキングや論理的な文章を書ける読解を学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
8	グループディスカッション発展①	就職活動等で頻出される、アイデアを出すタイプのグループディスカッションを体験します。	中間レポートを提出します。 前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
9	グループディスカッション発展②	就職活動等で頻出される、ディベートタイプのグループディスカッションを体験します。	前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
10	プレゼンテーションについて	人前で上手に話す技術や聞き取りやすく分かりやすいプレゼンについて学びます。	前週に配布する”時事”をしっかりと復習してきてください。
11	敬語とマナー①	社会に出るための最低限のマナーや態度について学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
12	敬語とマナー②	メールの書き方、電話対応など基本的なマナーと履歴書の書き方を学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
13	面接演習①	グループ面接を体験します。	面接の準備をしっかりとってきてください。
14	面接演習②	グループ面接を体験します。	レポートを提出があります。
15	講義の振り返り	言語・一般常識確認テスト レポート振り返り	全ての範囲を事前に勉強しておいてください。

**関連科目** キャリアデザインⅡ, 数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

**評価方法(基準)** 平常点4割 授業内レポート&テスト6割(中間と最終レポート)で評価します。

**学生へのメッセージ** 3年生の後半からは始まる進路選択に向けて実践的なコミュニケーションを体験しながら、筆記試験で出される言語分野や一般常識について学びます。

**担当者の研究室等備考**

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣, 山岡 亮太

授業概要・目的  
 中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。

到達目標  
 社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること

授業方法と留意点  
 授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようになっていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。

科目学習の効果(資格)  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目  
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)  
 授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します

学生へのメッセージ  
 算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。

担当者の研究室等  
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようになっていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学②	場合の教	講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

キャリア形成科目



科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠

授業概要・目的  
 中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学がよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。

到達目標  
 社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること

授業方法と留意点  
 授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。

科目学習の効果(資格)  
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目  
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)  
 授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します

学生へのメッセージ  
 算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。

担当者の研究室等  
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室) 3号館2階 (学習支援センター)
----------	---------------------------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	EFG
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	HJK
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大石 真由香

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	EFG
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	1年	クラス	HJK
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大石 真由香

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仁平 章子

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・仕事の基本動作とサイクル ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動	・事前学修：企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修：仕事とは何か、400字でまとめる。
3	目標設定とPDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO ととPDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表作成について振り返り、まとめる (400字以上)。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (1000字以上)。
7	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：実際にメールをうつ。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：慶弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (30%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名(英文)	Business Manners II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力(非言語ならびに言語能力)とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	第一に、社会人として理解し、行動に移さなければならない知識や技能としての実務領域を体得する。 第二に、ロールプレイやワークを取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務能力が身に付く。

キャリア形成科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認	・事前学修: ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。受講していない学生は自身のマナーについて考える。 ・事後学修: オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
	2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修: 自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修: 第一印象の重要性についてレポートを作成する。
	3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修: 日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめる。 ・事後学修: その改善点を考え、記録する。
	4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修: 日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修: 相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
	5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修: テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修: 逆説得をまとめ、レポートを作成する。
	6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察	・事前学修: 「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修: 「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
	7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修: 日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修: ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
	8	処理業務の基本と応用	・来客対応、業務処理、重複業務処理とTPOの関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修: TPO意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修: 処理業務に関するレポートを作成する。
	9	設営の基本	・設營業務の基本	・事前学修: 会議等を開催する手順を考え、工程表を作成する。 ・事後学修: YTT方式を基に工程表を手直しする。
	10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修: 手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修: 企画文書、開催通知を作成する。
	11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修: 自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修: ケーススタディプリント①をする。
	12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修: 実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修: 「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
	13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事後学修: ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
	14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修: キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修: キャリアに関するレポートを作成する。
	15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事後学修: ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ワークプレイス共生論	佐藤啓子、石井三恵、他	嵯峨野書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ワークならびに小テスト (30%)、レポート (30%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っており、それを振り返ることから始まります。まずは、TPOを考え、自分の言動を意識してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			



# 教 職 科 目





科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、意欲と責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果 (資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業 (3)	模擬授業の実践と指導 (3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業 (4)	模擬授業の実践と指導 (4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教職科目

評価方法 (基準)	出席 (全 15 回出席すること。成績評価については少なくとも 80%以上は必要となる。)、レポート (レポート提出の締め切りは厳守すること)、平常点 (授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。



科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育のあり方が問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(主権者教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 (4) 政治教育、主権者教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
	2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
	6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
	7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
	8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もつとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もつとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
	11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
	12	政治教育(主権者教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
	13	政治教育(主権者教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
	14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。	

関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教職科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席 (全 15 回出席すること。成績評価については少なくとも 80% 以上は必要)、課題・レポート (レポート提出の締め切りは厳守すること)、平常点 (授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。			

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上 正英

授業概要・目的 近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が果たすそれぞれの使命と責任を理解する。そのうえで具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。

到達目標 将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。

授業方法と留意点 講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、積極的な発言が望まれる。

科目学習の効果(資格) 中学・高校教員免許(社会科、地歴科)  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。	事後 授業終了時に指示する。
2	学習指導要領について 1	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高等学校学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
3	学習指導要領について 2	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高等学校学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
4	学習指導案の作成と活用を学ぶ 1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
5	学習指導案の作成と活用を学ぶ 2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。	事後 授業終了時に指示する。
6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。	事後 授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。	事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目 社会科・地歴科教育法 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。

学生へのメッセージ 教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。

担当者の 研究室等	11号館 1階 教務課
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上 正英

授業概要・目的  
学習指導要領を元に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。全員が模擬授業を実践し将来の教員として必要な授業技術の向上を目指す。

到達目標  
将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。

授業方法と留意点  
講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。

科目学習の効果(資格)  
中学・高校教員免許(社会科、地歴科)  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
4	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	学習指導案の作成と模擬授業 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	学習指導案の作成と模擬授業 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後	レポート作成、提出

関連科目  
社会科・地歴科教育法Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)  
レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。

学生へのメッセージ  
教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。

担当者の研究室等  
11号館 1階 教務課

備考

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的 (1) 教育実習校における実習 (教育実習ⅡまたはⅢ) に必要な教育実践の基本を理解し、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供する。また、受講者は課題の報告・発表を行う。これらに基づき討議する。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについての理解を深める。

到達目標 教育実習の目的や意義、内容を理解し、十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。

授業方法と留意点 演習形式で行う。

科目学習の効果 (資格) 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義	教育実習の目的と意義、免許制度の概要について	授業時に指示する
2	教育実習の内容と形態等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業と授業研究、評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の方法と技術	学習指導と教材研究について	授業時に指示する
6	学習指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案の作成、板書計画	授業時に指示する
7	学習指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について。授業の評価とその観点	授業時に指示する
8	授業分析	授業分析の意義と方法について	授業時に指示する
9	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障害の種類と配慮事項、障害児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ		

関連科目 これまで学んだすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題の提出状況とその内容、模擬授業、期末レポート等によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ 教育実習は、これまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるように、十分に準備してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考

教職科目

科目名	商業科教育法	科目名(英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	河合 隆廣

授業概要・目的	<p>教育は、その時代の政治や経済に大きく左右される。本講義は『国際経済と我が国教育の変遷』をテーマとして、戦後の我が国の教育と国際社会の変化を歴史的に分析することにより、現行の学習指導要領に際し、どのような教育をめざしていくべきかを考察します。</p> <p>前半は「不易流行」の「流行」の面に重点を置き、後半は「不易」の面に重点を置き、大局的な観点から教育の意義・在り方を追究し、現代社会にどのような教育が必要であるか、教育者としてどのような姿勢で教育に臨むべきかなど、教育の原点について考察します。</p> <p>グローバル化が進む不透明な時代において、時代の変化に対応するとともに、普遍の真理を追究する資質と能力を育成することを目標とします。</p>
到達目標	<p>わが国の学習指導要領は、昭和22年に施行されて以来、8回の改訂のうち実に7回の全面改訂を行ってきました。戦後の国際社会や日本の政治・経済・国民生活等を個々に分析し、それが我が国の教育にどのように関わり、どのような教育を展開してきたかが理解できます。それにより、現代の国際社会の動向を分析する力をつけ、次代を担う教員として今後どのような教育を行うべきかを考察する力を身に付けることができます。</p> <p>特に、現在の高校の歴史教育では、戦後の歴史を学ぶ機会が少ないため、学習指導要領を真に理解することが難しい。そこで、戦後の歴史の流れを知ることにより、現在の国際社会の動向を理解し、教育の方向性を見極める力を身に付けることができます。</p> <p>この授業で習得・向上できる社会で役に立つ能力</p> <p>①人間関係を形成する力、②問題を発見し解決する力、③教育の意義を理解する力などの他、国際問題、経済問題などの時事問題にも強く、必ず教師を目指す自己の新しい発見につながります。</p>
授業方法と留意点	<p>一方的な教授法ではなく、経済、政治、教育などの理解を深めるために丁寧な解説を行い、学生の意見を尊重するとともに学生の疑問に的確に答え、調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行います。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。</p> <p>「商業教育」は、教師と生徒とのかかわりが深く、大学で学んだ専門科目をそのまま活かせる魅力があります。</p> <p>「公民」「地理歴史」の履修者にとっても、次回の学習指導要領が戦後の歴史を重視する方向にあり、現代に至る国際社会や我が国の政治・経済・国民生活などの幅広い知識を身に付けることができます。</p> <p>“複数教科の教職員免許”を取得することは、教員採用を受ける側にとって受験機会が増えるだけでなく、採用する側にも少子化対策として高く評価する要素にもなります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	(1)教育の意義と商業教育の魅力 (2)政治と経済の混乱と民主国家の創造	(1)教育の意義と商業教育の魅力について考察する。 (2)戦後初の学習指導要領の施行と民主主義教育導入の意義を考察する。	教職をめざす理由と心構えについて、レポート作成・発表をさせる。 日本国憲法における民主主義教育の意義について研究させる。
	2	日本初の学習指導要領の教育理念(昭和23年)	デューイの経験主義的教授理論について学習し、「課題解決学習」が学習指導要領に活かされていることを考察する。	【事前学習】アメリカ教育使節団が日本の教育に与えた影響について研究させる。
	3	国際社会の二極化と日本への影響	国際社会の二極化(資本主義と社会主義)が経済の復興をもたらした要因について考察する。	【事前学習】ブレトンウッズ体制とマーシャルプラン、中華人民共和国の樹立について研究させる。
	4	東西冷戦と日本経済の復興	国際社会の二極化が日本の政治、経済、国民生活に及ぼした影響について考察する。	【事前学習】GHQの占領政策転換、朝鮮特需について研究させる。
	5	経済復興期の学習指導要領と商業教育(昭和25年)	経済復興期の学習指導要領と商業教育への期待について考察する。	【事前学習】経済復興期に望まれた教育について研究させる。
	6	日本の独立と高度経済成長	日本の独立と高度経済成長初期(神武景気)に向かう社会的背景について考察する。	【事前学習】高度経済成長初期に望まれた教育について研究させる。
	7	高度経済成長初期の学習指導要領と商業教育(昭和31年)	試案から国家主導の教育に転換した社会的背景について考察する。	【事前学習】教育経験主義的学習と知識重視の教育との違いについて研究させる。
	8	高度経済成長中期の日本経済と社会的背景	高度経済成長中期(岩戸景気)における技術革新と国民生活などの社会的背景について考察する。	【事前学習】高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育について研究させる。
	9	高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育(昭和35年)	高度経済成長中期(昭和35年)の学習指導要領と商業教育について考察する。	【事前学習】高度経済成長中期の学習指導要領と商業教育について研究させる。
	10	高度経済成長後期の日本経済と社会的背景	高度経済成長後期(いざなぎ景気)と教育の現代化に向かう社会的背景について考察する。	【事前学習】教育の現代化に向かう社会的背景について研究させる。
	11	高度経済成長後期の学習指導要領と商業教育(昭和45年)	高度経済成長後期の学習指導要領と商業教育について考察する。	【事前学習】「46答申」の経緯とその影響について研究させる。
	12	国際経済の混乱と日本の高度経済成長の終焉	国際経済の混乱(ブレトン・ウッズ体制の崩壊、オイル・ショック等)と日本の高度経済成長の終焉について考察する。	【事前学習】経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
	13	高度経済成長終焉期と教育の混迷	高度経済成長の歪み(公害、教育現場の混乱)と教育の転換について考察する。	【事前学習】経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
	14	高度経済成長終焉期の学習指導要領と商業教育(昭和53年)	高度経済成長終焉期の学習指導要領と教育の混迷について思考し、どのように教育に転換したかを考察する。	【事前学習】経済成長終焉期と教育の混迷について研究させる。
	15	教育転換期の社会的背景	国際社会が変動為替相場制に移行し、日本経済が混乱に陥る状況を考察する。	【事前学習】変動為替相場制の移行と日本経済の混乱について研究させる。
	16	教育転換期の学習指導要領と商業教育(平成元年)	教育の転換期の学習指導要領と商業教育について考察する。	【事前学習】ゆとり教育が必要とされた要因について研究させる。

	17	社会主義国家の崩壊と国際社会の混乱	国際社会の混乱（社会主義国家の崩壊）と日本国内の混乱について考察する。	〔事前学習〕 国際社会の混乱と日本国内の混乱について研究させる。																
	18	バブル経済の崩壊と新しい教育への転換	バブル経済の崩壊と日本社会の混乱、教育の混迷について考察する。	〔事前学習〕 日本社会の混乱と教育の混迷について研究させる。																
	19	ゆとり教育期の学習指導要領と商業教育（平成11年）	ゆとり教育期の学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕 総合的な学習の時間と商業教育について研究させる。																
	20	新学習指導要領改訂のねらい	新学習指導要領改訂の趣旨と目的について考察する。	〔事前学習〕 新学習指導要領改訂の趣旨と目的について研究させる。																
	21	「確かな学力」育成のための工夫	新学習指導要領改善点と「確かな学力」育成のための工夫について考察する。	〔事前学習〕 新学習指導要領改善点と「確かな学力」育成のための工夫について研究させる。																
	22	新学習指導要領と商業教育（平成21年）	新学習指導要領と商業教育について考察する。	〔事前学習〕 新学習指導要領と商業教育について研究させる。																
	23	「教育の現代的課題の分析	現代の教育的課題を協議させ、問題行動について考察する。	〔事前学習〕 各自の経験に基づいた教育的課題について研究させる。																
	24	人格形成と自立に向けた教育手法	人格形成と自立に向けた教育手法について考察する。	〔事前学習〕 発達段階と自立について研究させる。																
	25	アイデンティティの確立	心理社会的発達理論分析により、教育の大切さを考察する。	〔事前学習〕 学生自身のアイデンティティの確立について研究させる。																
	26	意欲を高めるための学習環境	脳科学による行動分析により、学習環境の大切さを考察する。	〔事前学習〕 よい学習環境をどうつくるのかを研究させる。																
	27	商業教育研究	商業教育研究成果のプレゼンテーションを行う。	〔事前学習〕 インターネットを活用して、商業高校の教育課程や新しい取り組み等を研究させる。																
	28	教材研究	模擬授業を行う科目の教材研究を行う。	〔事前学習〕 模擬授業科目について教材研究させる。																
	29	学習指導案作成	模擬授業の学習指導案を作成する。	〔事前学習〕 模擬授業のための、板書、授業展開について研究させる。																
	30	模擬授業	模擬授業と評価を行う。	模擬授業後に、お互いに評価をさせることにより、授業の取り組み方や教育姿勢について考察させる。																
関連科目	経営学部や経営情報学部の専門科目は、商業科の専門科目として活かす魅力がある。 例えば、簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておこう。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際経済と我が国教育の変遷</td> <td>河合 隆廣</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アイデンティティ</td> <td>河合 隆廣</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際経済と我が国教育の変遷	河合 隆廣		2	アイデンティティ	河合 隆廣		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際経済と我が国教育の変遷	河合 隆廣																		
2	アイデンティティ	河合 隆廣																		
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	小テスト・レポート40%、授業への参加度（学習意欲、発表等）60%とし、総合的に判断して評価します。																			
学生への メッセージ	教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中に取得してください。																			
担当者の 研究室等	連絡があれば、経営学部事務室に申し出てください。																			
備考																				



科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。  講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	本科目のシラバスを熟読すること。
	2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	職業指導に関する資料を熟読すること。
	3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。
	4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	日本の産業史に関する資料を熟読すること。
	5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。
	6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	日本型雇用の見直しについて考えること。
	7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	高卒労働市場に関する資料を熟読すること。
	8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	職業指導の事例を調査すること。
	9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	授業後は自らの労働観を持つようにすること。
	10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	職業指導領域に関する資料を熟読すること。
	11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。
	13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	模擬授業の準備をすること。
	14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	模擬授業の準備をすること。
	15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	レポート提出の準備をすること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。  
また、前期最終時にレポートを実施します。

学生へのメッセージ 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 キャリア教育推進室(水野)

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。  講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明	本科目のシラバスを熟読すること。
	2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
	3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。
	4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	・提示する資料を熟読すること。
	5	フリーター・ニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、発表できるよう準備
	6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	発表の準備をすること。
	7	高校生の就業力について	・新規高卒者に求められる基本的な能力	就業力育成のための企画を考えること。
	8	職業適性とは何か	・職業適性、アセスメントについて	自らの適性の活かし方について考えること。
	9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	配布資料を精読すること。
	10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	配布資料を精読すること。
	11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	・発表の準備をすること。
	12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	・発表の準備をすること。
	13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	配布資料を精読すること。
	14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	配布資料を熟読すること。
	15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	自らの労働観について考えること。

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。
学生へのメッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
備考	

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井 英子

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と相手国（インドネシア・バリ島）の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。</li> <li>・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。</li> <li>・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。</li> <li>・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>研修先として美術館（ホテル、レストラン併設）、PPLH（NPO）、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校、マングローブセンター等を予定しています。</p> <p>研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 4日 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>現地実習 10日（移動日含む） 1日目 移動 2日目 環境学習 マングローブセンター、PPLHにて実習 3日目 各研修先へ移動、ガイダンス 4日目～8日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施 9日目 現地視察 10日目 移動日</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、毎日研修内容の報告書を作成する。</p> <p>事後学習 3日（資料の作成が間に合わない場合は、追加する） 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>実習前の事前学習（10%）、海外現地研修60%（実習記録20%、実習態度50%（研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する）、実習報告書（20%）、全体報告会のプレゼン10%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>11号館8階 佐井研究室 11号館8階 高尾研究室</p>																
備考	共同担当者 高尾教授																

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仁平 章子

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・仕事の基本動作とサイクル ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動	・事前学修：企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修：仕事とは何か、400字でまとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表作成について振り返り、まとめる (400字以上)。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (1000字以上)。
7	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：実際にメールをうつ。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：慶弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (30%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画、かつ、実践し、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくこと。さらに各々の卒業校(中学校、高等学校)の学校概要について情報収集しておくことが望ましい。また本授業用のノートを一冊準備すること。授業でレジュメを配布予定としているが、板書やパワーポイント資料の中の重要キーワードについては口頭で説明することもあるので、そういった内容を記述するためのノートを一冊準備しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について(学生グループによる発表を予定)	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「人権教育/平和教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「シティズンシップ」教育について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	特色のある学校づくり＝高校編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
2	教育課程・方法論—コンピテンシーを育てる授業デザイン	松尾知明	学文社
3	中学校・高等学校学習指導要領解説	文部科学省	ぎょうせい他

評価方法(基準) 出席(8割以上必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること。)

学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一回目の授業は必ず出席すること。</li> <li>2. 欠席・遅刻はしない。</li> <li>3. 私語はしない。</li> <li>4. 授業では何事にも積極的に取り組む。</li> <li>5. 授業内容の復習を怠らないこと。</li> <li>6. 授業内容で分からない点については遠慮せずに質問する。</li> </ol>
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちに与ってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育行政学 改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
2			
3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについても一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱えているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育思想史	眞壁宏幹編	慶應義塾大学出版会
2	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房
3			

評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合があるので、ガイダンス時の指示に従うこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに対応すること
教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出	
教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)	
前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	
教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	
教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出	
教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題	

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれも不十分なものは、単位を認定しない。
----------	--

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																																
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																																
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合があるので、ガイダンス時の指示に従うこと。																																
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育実習特別個人指導(4月)</td> <td>教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。</td> <td>個別の呼び出しに速やかに応じること</td> </tr> <tr> <td>教育実習事前指導(4月～5月)</td> <td>教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論</td> <td>申請書類等の記入・提出</td> </tr> <tr> <td>教育実習個人指導(4月～5月)</td> <td>教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。</td> <td>教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)</td> </tr> <tr> <td>前期教育実習開始(5月～6月)</td> <td>実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。実習中、本学教員による訪問指導を行う。</td> <td>教材研究、学習指導案作成</td> </tr> <tr> <td>教育実習体験発表会(6月～7月)</td> <td>教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。</td> <td>体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出</td> </tr> <tr> <td>後期教育実習開始(9月～10月)</td> <td>後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。</td> <td>教材研究、学習指導案作成</td> </tr> <tr> <td>教育実習体験発表会(10月)</td> <td>後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。</td> <td>体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出</td> </tr> <tr> <td>教育実習総括講義(10月)</td> <td>教育実習のまとめとして、その意義を確認する。</td> <td>教育実習記録の提出</td> </tr> <tr> <td>教育実践指導(1月～3月)</td> <td>教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。</td> <td>指示された課題</td> </tr> </tbody> </table>	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出	教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題		
	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																														
	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること																														
	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出																														
	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)																														
	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成																														
	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出																														
	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成																														
	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出																														
	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出																														
教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題																															
関連科目	教職関連科目全般																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																													
	1																																
	2																																
3																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																													
	1																																
	2																																
3																																	
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。																																
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。																																
担当者の研究室等	7号館3階																																
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																																

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的  
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標  
本講義の到達目標は以下の通りです。  
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。  
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。  
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。  
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点  
講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題について発表し、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み(事前配布かテキスト使用)、それを講義日までに各自要約してきてもらいます(毎回要約を提出してもらうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外します。)  
○準備学習の具体的な方法  
指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい(まとめかたは自由)。※ノートは提出してもらうこともあります。

科目学習の効果(資格)  
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育の基礎理論に関する科目  
各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師-生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考える。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策;海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：教科書の第10章の要約。

関連科目  
「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『(教師教育テキストシリーズ5) 教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業貢献度、試験（毎時間行う小テストと期末試験）、課題（毎時間の要約）・ノートにより総合的に評価する。 ※出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とします（期末試験の受験資格なし）。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは過去に「長期間」にわたり経験したことがある）ことが必須条件です。学校での活動経験のない者については履修期間中、学校で活動することを義務づけることがあります。 また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
	2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
	3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
	4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
	5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
	6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
	7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
	8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
	9	こどもの学び2	様々な学習(2)……道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
	10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
	11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
	12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
	13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
	14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
	15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
----------	-----------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
----------	--------------

備考	
----	--



科目名	教育相談	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

**授業概要・目的**  
教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。

**到達目標**  
教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

**授業方法と留意点**  
講義と演習を組み合わせて行う。

**科目学習の効果 (資格)**  
教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目  
各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

**関連科目**  
教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
グループ発表 50% 期末試験 50%

**学生へのメッセージ**  
これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

**担当者の研究室等備考**  
7号館3階(吉田研究室)

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応し、多角的な教育方法の実践的探究をめざすスタンダードなテキストにもとづいた講義、授業の力量を高めるための基礎的な技術の紹介、授業の対象・目標の決定、教材の研究・作成、発問・指示の具体化等、一連の授業づくりをチームで行うマイクロティーチングの実施により授業を構成する。受け身ではなく能動的な学びを経験することになる。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とするような授業を構想する。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が専門性を向上させるだけでなく、相互に学び合える同僚性を構築すること、教育諸科学研究から新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>

科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目:教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項:教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	子どもは何を学ぶか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座④板書の技術	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	授業をどうデザインするか(計画論) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	教育の道具・素材・環境(教材論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	何をどう評価するか(評価論) チーム授業顔合わせ・自己紹介	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	欧米における授業の歴史 チーム授業①打ち合わせ	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	日本における授業の歴史 チーム授業②第1グループのマイクロ・ティーチング実施	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) チーム授業③第2グループのマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① チーム授業④第3グループのマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
12	ICTを活用した授業をつくる② チーム授業⑤第4グループのマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
13	インクルーシブな授業をつくる 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導 チーム授業⑥マイクロティーチングの振り返り	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	14	授業のユニバーサルデザイン化 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	15	まとめへ学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教育の方法	佐藤学	左右社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考																				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の目的、内容方法についての確認</li> <li>・各自の教育実習後の課題についての確認</li> <li>・3回以降のグループ学習の各課題の確認</li> </ul>	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。 そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。	(事前) 自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。

	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前) 自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。																
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。																
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。																			
担当者の 研究室等 備考	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子																			

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含まれる必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第1章
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第10章
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第4章・第12章
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第3章
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第11章
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第2章・終章
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第5章・第8章
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第7章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第9章

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 教職論—「よい教師」への扉を開く—	佐島群巳・小池俊夫編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的な態度も成績判定の資料とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。  
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井眞治・熊谷信順編著	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。  
授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。



科目名	道德教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的  
この授業では、日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道德教育の歴史、道德教育の内容を構成する諸概念、道德性の発達理論、等）について解説を加えたうえで、実際に学校でどのように道德教育を行えばよいのかを考えていきます。

到達目標  
受講者が日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいと、道德教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。

授業方法と留意点  
授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。

科目学習の効果(資格)  
中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各項目に含める必要事項：道德の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	ガイダンス:道德教育をどのように考えるか	①現在道德教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道德教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道德教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道德教育の歴史①:戦前の道德教育	①明治から昭和初期にかけての道德教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道德教育の歴史②:戦後の道德教育	道德教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道德教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道德教育の歴史③:現代の道德教育	①近年の道德教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道德教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道德教育	①諸外国の道德教育の状況について概観する。 ②諸外国の道德教育を事例として、道德教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道德教育と自分の受けてきた道德教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道德教育の内容①:自我	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道德教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道德教育の内容②:他者	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道德教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道德教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道德教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道德教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道德教育について再考する。
10	道德教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道德性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道德性の発達理論を検討する。 ②道德性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道德の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道德教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道德教育の実践例をもとに、道德教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道德教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道德教育の「要」とされている「道德科」の位置づけについて考える。 ②「道德科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	授業時に指示する。

	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶編</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名(英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	(1) 学級活動(ホームルーム活動)、生徒会活動(児童会活動)、学校行事、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議を行い、発表・交流する。
到達目標	将来、学級担任として、望ましい集団活動を育て、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学級経営や学級づくりを行う必要があることから、その前段階として、学校支援ボランティアの学生の立場で教員と協力・連携しながら学級集団への適切なサポートができるようになる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	特別活動の目的・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動(ホームルーム活動)その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動(ホームルーム活動)その2 ワーク③学級活動(係・班・当番・委員)の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動(児童会活動)・学級行事 ワーク④学校行事(運動会・体育祭・文化祭等)の思い出	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①はじめ(その1)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②はじめ(その2)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③非行	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 グループ討議・発表・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④不登校	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤インクルーシブ教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥進路指導・キャリア教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7・14章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	現行学習指導要領について グループワーク⑦体罰	現行学習指導要領における改定の要点、言語能力・体験活動の重視 グループ討議・発表・交流	教科書第3章及び資料編を読んでおく。学習事項を整理する。
14	特別活動の指導計画・指導案の作成 グループワーク⑧ジェンダー	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるといこと	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したとことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴェア書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				